

国立国会図書館蔵古活字版悉皆調査目録稿

高木 浩明

*キーワード

国立国会図書館・古活字版・漢籍・国書・仏書

はじめに

国立国会図書館は、遡れば明治五（一八七二）年、昌平坂学問所、蕃書調所、和学講談所等の蔵書を受け継ぐ書籍館が設立されたことに始まる（開館は同年九月三日）。

書籍館は、明治八（一八七五）年に東京書籍館と改称され、その後、東京府書籍館・東京図書館・帝国図書館・国立図書館と名称を変え、現在の国立国会図書館に引き継がれて今日に至る。

これまでに引き継がれ、今なお新たに収集され続けている古典籍の中には、日本の書物の歴史を知る上で欠かすことができない貴重な資料が多数所蔵されているが、古活字版もその一つである。

国立国会図書館に所蔵される古活字版については、平成元（一九八九）年、汲古書院からその当時所蔵されていた一九二点の古活字版の詳細な

解題に加え、一点一点の図版が掲載された『国立国会図書館所蔵古活字版図録』が刊行されているが、現在は二八四点の古活字版が所蔵されるに至っている。中にはこれまで存在が知られていなかった新種の古活字版も多く含まれている。今後この数は増え続けるだろうし、むしろそれを期待したいが、ここであらためて悉皆調査を行い、国立国会図書館が所蔵する古活字版の全体像を明らかにすべく、調査の報告を行うものである。

凡例

一、本稿では、令和四（二〇二二）年二月一六日に貴重書に指定された『水鏡』（三卷三冊）と、『ますか、み』（六冊）までの古活字版、二八四余点についての悉皆調査の成果を報告する。

一、各資料は、漢籍・国書・仏書に分け、その順番は基本、五十音順に

配列し、漢籍については四庫分類に従い、『内閣文庫漢籍分類目録』の配列を参考にして記載した。

一、標題は原則として巻頭書名により記載し、標題を欠くものは□印で困んで明示した。

一、標題の上に記した算用数字は、収録した資料の通し番号である。さらにその上に※が付いている資料は、川瀬一馬著『増補古活字版の研究』(ABAJ、一九六七年)に未載の資料、もしくは版種である。

一、書誌項目は、請求番号・体裁・表紙・題簽・内題・尾題・本文・匡郭・版心・丁数・刊記・印記・備考の一三項目についてできるだけ詳細に記述した。

一、備考欄には調査で知り得た情報を記載したが、「川瀬」とあるのは、川瀬一馬著『増補古活字版の研究』(ABAJ、一九六七年)における分類ならびに見解である。川瀬の見解に誤認があるものや、疑義のあるものについては稿者の見解を併せて記した。

一、本稿で用いた文字は、原則、常用漢字に統一したが、印記の文字については、印記そのままに記載した。

一、本稿は、稿者が古活字版を所蔵する機関ごとに継続して行っている悉皆調査の成果を報告するものの一つである。これまで、「古活字版悉皆調査目録稿(一〜九)」、(鈴木俊幸編『書籍文化史』第一〜一九集(二〇一〇〜二〇一八年))、「国文学研究資料館蔵古活字版悉皆調査目録稿―附、国立国語研究所・研医会図書館蔵本」(『調査研究報告』第三九号、国文学研究資料館、二〇一九年)、「大東急記念文庫蔵古活

字版悉皆調査目録稿」(『調査研究報告』第四〇号、国文学研究資料館、二〇二〇年)を公刊した。

【漢籍】

経部一易類周易

1 周易六卷(魏)王弼注

〔請求番号〕WA七―

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補薄墨色表紙。二八・〇×一九・三糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補書題簽(第一冊上部破損、第二冊、二〇・四×四・

〇糶)、「易経古註 乾(坤)」。題簽の右肩に「圓光寺本」と朱

書。

〔内題〕「周易上経乾伝(―下経豊伝) 第一(一六) / 王弼注」。

〔尾題〕「周易卷第一(卷之二・卷第三一六) 終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(二一・三×一五・四糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「周易卷一(一六) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七八丁(上経乾伝第一・三二丁、上経泰伝第二・二二

丁、上経噬嗑伝第三・二四丁)、第二冊、八一丁(下経咸伝第

四・二八丁、下経夬伝第五・三〇丁、下経豊伝第六・二三丁)。

〔刊記〕欠。巻末に慶長十年、西笑承兌の跋文一丁を補写。文末に「右

跋一葉就屋代弘賢藏本謄写／文化十二年乙亥秋日市野光彦（朱印、光／彦）」と朱書。

〔印記〕「江戸市野光／彦藏書記」（朱長方印）、「光／彦」（朱方印）、「迷／菴」（朱方印）、「林下／一人」（朱方印、陰刻、以上四印、市野光彦、一七六五—一八二六、考証学者）、「大正／15・3・29／購求」印。

〔備考〕伏見版。第一冊の巻首八丁分に藍筆で句読点が施されているのみ。

経部二書類

2 尚書 十三卷（漢）孔安国伝

〔請求番号〕WA七—一二四

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補水色表紙の上に、覆表紙（「帝／國／圖／書／館」の型押のある薄茶色布目地渋刷毛目文様表紙）。二八・六×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕覆表紙には、左肩に双边刷枿の書題簽（一九・六×三・八糎）、

「活字板尚書 一（二止）」。

「活字尚書 天（地）」と打付書。

〔内題〕「尚書序」、「尚書目録」、「尚書卷第一（一十三）」。

〔尾題〕「尚書卷第一（一十三）」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（序、二二・〇×一六・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「尚書序（目録・録目・一—十三） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八五丁（序・三丁、目録・二丁、卷第一・一一丁、卷第二・一三丁、卷第三・一四丁、卷第四・一四丁、卷第五・一七丁、卷第六・一一丁）、第二冊、九八丁（卷第七・一八丁、卷第八・一八丁、卷第九・一三丁、卷第十・一七丁、卷第十一・一三丁、卷第十二・一三丁、卷第十三・六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「讀杜／艸堂」（寺田望南、朱方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）、「明治二四・三・一〇・購求」（朱丸印）。

〔備考〕上欄と下欄に朱墨による書入有。本文に施された訓点は、黄色墨や白色墨で塗抹されている。川瀬、三七二・八一五頁、（一）第一種、九行十七字双边有界。

経部三書類

3 詩経 二卷

〔請求番号〕WA七—一八三

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕縹色表紙（押八双はあるが、後補か）。二七・五×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補金銀箔散らし香色書題簽（二六・八×三・五糎）、

「毛詩 一（二）」。

〔内題〕「詩経」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉七行×一七字。WA七―一九四と同一の版式、同種の大型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双边（詩伝序、二一・七×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「詩序（詩目錄・詩経） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八三丁（詩伝序、淳熙四年丁酉冬十月戊子新安朱熹書・四丁、詩目錄・九丁、詩経・七〇丁）、第二冊、一一一丁（小雅二）、丁附七十一〜百八十二）。他、各冊とも前後に遊紙各二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「冷泉府書」（藤原惺窩、朱長方印）、「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、墨長方印）、「月明荘」（反町茂雄、朱小印）、「冬宗」（巻末、朱長方印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、「書」（昭和）51・1・30／国会図（朱印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施されている。川瀬、三七二・八一五頁、毛詩（三）無注本（詩経）。「下村生蔵刊孟子・三注（蒙求・胡曾詩・千字文）の無注本等の大型活字と同種活字を用ひてゐる」（八一六頁）。

経部三詩類

4 毛詩 二十卷（漢）毛亨伝

〔請求番号〕WA七―二五四

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕茶色渋引き表紙（押八双はあるが後補）。二六・〇×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「毛詩卷第一（一二十）」。

〔尾題〕「毛詩卷第一（一二十）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（二〇・四×一六・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「毛詩一國風（一二十商頌） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁（卷第一・二四丁、卷第二・二二丁）、第二冊、四五丁（卷第三・二二丁、卷第四・二四丁）、第三冊、三五丁（卷第五・一六丁、卷第六・一九丁）、第四冊、二五丁（卷第七・一三丁、卷第八・一二丁）、第五冊、三〇丁（卷第九・一六丁、卷第十・一四丁）、第六冊、三八丁（卷第十一・一二丁、卷第十二・二六丁）、第七冊、三三丁（卷第十三・一七丁、卷第十四・一六丁）、第八冊、四〇丁（卷第十五・一八丁、卷第十六・二二丁）、第九冊、五七丁（卷第十七・二三丁、卷第十八・三四丁、卷首丁欠）、第一〇冊、四三丁（卷第十九・二三丁、卷第二十・二〇丁、卷尾丁補写）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「春翠／文庫」（中島仁之助、朱方印）、「小汀文庫」（小汀利得、朱長方印）、「小汀氏蔵書」（第一〇冊の巻末のみ）、「田淵／中和」

〔朱方印〕、「宮子／誠印」(第二・五・七・一〇冊の巻末のみ、朱方印、陰刻)、「(平成) 15・7・1」受人印。

〔備考〕

朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。巻第二十の巻末に識語、「庚申之冬関市得茲書／繙之有旧訓點存焉雖／未知其是否為初学之／資乎／武陵苦李齋主／宮城長隱誌」。桐箱入(「慶長活板／毛詩鄭氏箋」と箱書)。

川瀬、三七四・八一五頁。本書は、川瀬の言う(二)慶長中刊(叡山版なる可し)(口)に該当する。本書には元和二年刊の叡山版の『止観義例随釈』に用いられている欠損活字と同一の活字を用いていることから、叡山版であることが確認された(『国立国会図書館月報』六八七・六八八号、二〇一八年七月・八月、上田由紀美「無刊記古活字版『毛詩』『春秋経伝集解』が叡山版であること―有刊記叡山古活字版『科註妙法蓮華経』『止観義例随釈』との活字・組版手法の共通性から(『調査研究報告』第四三号、国文学研究資料館、二〇二三年)。川瀬は、(二)慶長中刊(叡山版なる可し)を(イ)版と(口)版に分類して異植字版と見ているが、(イ)版と(口)版は異なる活字を用いていることから、異植字版ではなく異版とすべき関係にある。

経部 四 礼類 礼記之属

5 礼記 二十卷 (漢) 鄭玄註

〔請求番号〕WA七―二六〇

〔体裁〕 大本、九冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二七・九×二〇・八糎。四針袋綴。後表紙に「長濱氏」と墨書。

〔題簽〕 左肩に「礼記」と打付書。第二・三・六・七・八・九冊には目録書題簽が貼付されている。

〔内題〕 「礼記卷第一(一二十)」。

〔尾題〕 「礼記卷第一(一二十)」。

〔本文〕 每半葉八行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・五×一六・七糎)、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「礼記卷之一(一二十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六五丁(卷第一・三六丁、卷第二・二九丁)、第二冊、五二丁(卷第三・二七丁、卷第四・二五丁)、第三冊、六七丁(卷第五・三六丁、卷第六・三一丁)、第四冊、六六丁(卷第七・二九丁、卷第八・三七丁)、第五冊、五一丁(卷第九・二五丁、卷第十・二六丁)、第六冊、六三丁(卷第十一・三三丁、卷第十二・三〇丁)、第七冊、五五丁(卷第十三・二〇丁、卷第十四・三五丁)、第八冊、四九丁(卷第十五・二九丁、卷第十六・二〇丁)、第九冊、八六丁(卷第十七・二三丁、卷第十八・二〇丁)、卷第十九・一九丁、卷第二十・二四丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「水雲洞」(朱長方印、陰刻)、「(平成) 17・2・28」受人印(朱)。

〔備考〕全丁裏打修補。朱句読点、朱墨による書き入れ（多くは「正義云」が施されている。後表紙見返しに識語、「長濱氏／此本九冊之内／文化壬申歳改之」（第一冊）、「此本九冊之内／長濱氏／文化九壬申秋七改之」（第二冊）、「此本九冊之内／長濱氏」（第三冊）、「此本九冊之内／長濱姓／文化九壬申年改之」（第四冊）、「此本九冊之内／長濱氏／文化九壬申歳改之」（第七冊）、「長濱氏／此本九冊之内／文化九壬申歳改之」（第八冊）。

川瀬、三七五・八一六頁、慶長元和中刊無刊記本。（一）八行十八字（双辺／有界）本、（イ）第一種。

経部五春秋類 春秋左氏伝之属

6 春秋経

〔請求番号〕WA七―一九四

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕『詩経』（WA七―一八三）と同一の縹色表紙。二七・四×一九・七糎。四針袋綴。

一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補金銀箔散らし香色書題簽（『詩経』（WA七―一八三）と同一の題簽、一六・八×三・五糎）、「春秋 全」。

〔内題〕「春秋経」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉七行×一七字。WA七―一八三と同一の版式、同種の大型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（二一・七×一五・六糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「春秋年表（春秋序・春秋） 丁附」。

〔丁数〕一四一丁（春秋年表・一丁）、（春秋胡氏伝序・四丁）、春秋経・

一三六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「冷泉府書」（藤原惺窩、朱長方印）、「寶玲文庫」（フランク・

ホーレー、墨長方印）、「小汀文庫」（小汀利得、朱長方印）、「を

／ば／ま」（小汀利得、朱印、巻末）、「冬宗」（巻末、朱長方印）、

「國立國會圖書館」（朱長方印）、「書」（昭和）54・1・26／国

会図」（朱印）。

〔備考〕春秋時代の魯の隠公元年（前七二二）から哀公十四年（前四八一）までの十二代、二四二年間の編年体の歴史書。儒教の重要な經典「五経」の一つ。朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施され、上欄には朱筆で誤植や誤脱等を正している。十四丁裏（丁附十三）の三行目に切貼訂正（癸巳）あり。川瀬、三七六・八一七頁、春秋経伝集解（三）無注本（春秋経）。八一七頁に著録する小汀文庫蔵本が本書。図録篇・八一八図に本書の図版を収む。『詩経』（WA七―一八三）と同一の唐花唐草文様の映入り。帙題簽は森銚三筆（春秋（慶長中刊古活字版／藤原惺窩手澤本）。

經部 五春秋類 春秋左氏傳之屬

7 春秋經伝集解 三十卷 (晉) 杜預撰

〔請求番号〕 WA七―四九

〔体裁〕 大本、一五冊。

〔表紙〕 新補の丹表紙。二六・九×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「春秋左氏伝序」、「春秋經伝集解隠公第一(―哀下第三十)」。

〔尾題〕 「春秋經伝集解隠公第一(―哀下第三十)」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(序、二〇・二×一六・三糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「左氏序(二―三十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七六丁(序・六丁、隠公第一・三六丁、桓公第二・三四丁)、第二冊、五三丁(莊公第三・四二丁、閔公第四・一一丁)、第三冊、七六丁(僖上第五・四二丁、僖中第六・三五丁)、

第四冊、六三丁(僖下第七・三二丁、文上第八・三三丁)、第五冊、五六丁(文下第九・三〇丁、宣上第十・二六丁)、第六冊、七三丁(宣下第十一・三一丁、成上第十二・四二丁)、第七冊、八三丁(成下第十三・四六丁、襄元第十四・三七丁)、第八冊、七〇丁(襄二第十五・三七丁、襄三第十六・三三丁)、第九冊、七〇丁(襄四第十七・三〇丁、襄五第十八・四〇丁)、第一〇冊、七〇丁(襄六第十九・三四丁、昭元第二十・三六丁)、第一一冊、七二丁(昭二第二十一・四二丁、昭三第二十二・三〇丁)、第

一二冊、七四丁(昭四第二十三・三八丁、昭五第二十四・三六丁)、第一三冊、六五丁(昭六第二十五・三三丁、昭七第二十六・三二丁)、第一四冊、五五丁(定上第二十七・二七丁、定下第二十八・二八丁)、第一五冊、八七丁(哀上第二十九・四八丁、哀下第三十・三九丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「高木家蔵」(高木利太、朱長方印)、「國立／圖書／館蔵」(朱方印)、「國立圖書館／昭23・3・17／購求」(紫丸印)。

〔備考〕 『春秋』の注釈書一つ、『春秋左氏伝』に中国・西晋の学者杜預がさらに注解を加えたもの。無書入。帙に「横山重用」の原稿用紙に記された横山重氏の本が貼付されている。川瀬三七五・八一六頁、(二)慶長中刊(ハ)高木文庫蔵本に該当なお本書に、『毛詩』第二種本(ロ)版と同じ欠損活字があることが判明、叡山版であることが確認された(WA七―二五四、『毛詩』の〔備考〕欄参照。

經部 六孝經類

8 古文孝經 (漢) 孔安国伝

〔請求番号〕 WA七―七

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二九・〇×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「孝經 慶長板」と打付書。右肩に「原本／売事無

用」と墨書。

〔内題〕「古文孝經序（七格空）孔安国」、「古文孝經（八格空）孔氏伝」。

〔尾題〕「古文孝經終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕天地单边、左右双边（序、二五・一×一六・一糎）、有界。

〔版心〕大黒口黒魚尾（下向き一、上向き二）、中縫、「孝經序（孝經）」、

「丁附」。

〔丁数〕一三丁（序・四丁、本文・九丁）。

〔刊記〕前表紙見返しに双边枠（二四・八×九・三糎）「希経慶長／己亥

刊行」（慶長四年）と刻す。

〔印記〕「藤原／肅印」（朱方印）、「淡川家蔵」（朱長方印）、「帝國圖書館

（朱長方印）、「明治四二・四・三二購求」（朱丸印）。

〔備考〕無書入。慶長勅版。「慶長四年春には、日本書紀神代卷（二卷一

冊）・古文孝經（一卷一冊）・四書（大学一冊・中庸一冊・論語

一冊・孟子二冊）・職原鈔（二卷二冊）の諸本が摺刷せられた」

（川瀬・一八〇頁）。図録篇九図に国会本の図版を収む。

経部一〇小学類字書之属

9 〔纂図附音増広〕古注千字文 三卷（梁）周興嗣撰、（五代）李暹注

〔請求番号〕WA七―五二

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二七・七×一八・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二五・〇×三・三糎）、「註千字文 全」。

〔内題〕「註千字文序（六格空）梁大夫内司馬李暹」、「纂図附音増広古注

千字文上（中・下）」。

〔尾題〕「纂図附音集註千字文之上終」、「纂図附音集註千字文中終」、「千

字文下之終」。

〔本文〕每半葉九行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（序、二二・四×一四・六糎）、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「注千字文序（上・中・下）丁附」。

〔丁数〕四六丁（序・二丁、上・一五丁、中・一六丁、下・一三丁）。

〔刊記〕「四格低」元和三（二格空）丁巳 曆二月辰日」。

〔印記〕「信州／伊奈／麻屋／飯嶋」（朱長方印）、「高木家蔵」（朱長方印、

高木利太）、「國立／圖書／館蔵」（朱方印）。「國立圖書館／昭

23・3・17／購入」。

〔備考〕序、朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名。上、朱引、

朱句読点、若干の返点、振仮名、送仮名。中・下、若干の墨書

入。

経部一〇小学類字書之属

10 龍龕手鑑 八卷（遼）釋行均撰

〔請求番号〕WA七―一一〇

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕丹空押工字繋ぎ・雷文繋ぎ・七宝の菱繋ぎ文様表紙（押八双有）。

二八・〇×二〇・一糶。五針袋綴。「帝／國／圖／書／館／蔵」型押のある赤茶色覆表紙附。

〔題簽〕 無。左肩に「龍龕手鑑 一（一八止）」と打付書。覆表紙には左肩に双边刷枠の書題簽（一七・八×三・五糶）、「龍龕手鑑 一（一八畢）」を貼付。

〔内題〕 「龍龕手鑑序」（低六格） 燕台惻忠寺沙門智光撰、「龍龕手鑑目錄」、「龍龕手鑑卷第一（一八）」（卷第六は、増広龍龕手鑑卷第六）。

〔尾題〕 「龍龕手鑑目錄終」、「龍龕手鑑卷第一（一八）」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一六字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周单边（二三・三×一七・二糶）、有界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「龍龕卷序（目錄・卷一八） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七八丁（序、統和十五年丁酉七月一日癸亥序・二丁、目錄・七丁、卷第一、金部第一〜心部第四・六九丁）、第二冊、七五丁（卷第二、山部第五〜斤部第二十三）、第三冊、九二丁（卷第三、中部第二十四〜知部第九十七）、第四冊、九二丁（卷第四、手部第一〜口部第七）、第五冊、一〇三丁（卷第五、女部第八〜果部第六十）、第六冊、二三丁（卷第六、見部第一〜句部第二十六）、第七冊、七六丁（卷第七、木部第一〜邑部第十二）、第八冊、九八丁（卷第八、足部第十三〜雜部第六十）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「白河文庫」（白河藩松平家、朱長方印）、「立教館／圖書印」（桑

名藩校、朱長方印）、「桑名文庫」（桑名藩松平家、朱長方印）、「TOKIO LIBRARY／東京書籍館／明治五年／文部省創立／FOUNDED BY MOMBUSHO 1672」（朱丸印）、「明治十年購求」（朱長方印）。小野則秋著『日本藏書印考』は、「白河」「白河文庫」は松平定信、「桑名」「桑名文庫」は松平家、「立教館圖書印」は桑名藩校の藏書印としている。他、巻首丁右上に未勘の朱方印。

〔備考〕 無書入。巻第一の三丁裏の五行目、「鍊」の注に切貼訂正「趙疑聞日―鏞車轄」。以下、巻第五の二五丁裏の三行目、巻第六の一四丁裏の五行目、巻第七の九丁裏の九行目、一七丁裏の一行目、四一丁裏の四行目、五三丁裏の六行目、巻第八の一丁表の一〇行目、二八丁裏の五行目、三二丁表の四行目、四三丁表の二行目、四五丁裏の二行目、四六丁裏の六・七行目、四八丁裏の二・三・六行目、五七丁裏の三・四行目、七四丁裏の一〇行目に切貼訂正が施されている。

川瀬、三七九・八二四頁、「元和中刊と認む。朝鮮本贋印」。

経部一〇 小学類字書之属

11 龍龕手鑑 八卷（遼） 釈行均撰

〔請求番号〕 WA七―一一一

〔体裁〕 大本、七冊。

〔表紙〕 後補縹色表紙。二八・六×二〇・五糶。五針袋綴。「帝／國／圖

／書／館／蔵」の型押のある薄茶色覆表紙附。

〔題簽〕左肩に、双辺刷粋書題簽（一九・六×三・七糶、覆表紙）、「龍龕手鑑 一（一七止）」、後補の書題簽（一八・一×三・四糶、縹色表紙）、「龍龕手鑑 一（一八止）」。

〔内題〕「龍龕手鑑序／（低六格）燕台憫忠寺沙門智光撰」、「龍龕手鑑目錄」、「龍龕手鑑卷第一（一八）」（卷第六は、増広龍龕手鑑卷第六）。

〔尾題〕「龍龕手鑑目錄終」、「龍龕手鑑卷第一（一八）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一六字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（二三・三×一七・三糶）、有界。

〔版心〕上下に大黒魚尾、中縫、「龍龕卷序（目錄・卷一一八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七八丁（序、統和十五年丁酉七月一日癸亥序・二丁、目錄・七丁、卷第一、金部第一〜心部第四・六九丁）、第二冊、七五丁（卷第二、山部第五〜斤部第二十三）、第三冊、九二丁（卷第三、巾部第二十四〜知部第九十七）、第四冊、九二丁（卷第四、手部第一〜口部第七）、第五冊、一〇三丁（卷第五、女部第八〜果部第六十）、第六冊、九八丁（卷第六、見部第一〜句部第二十六・二三丁、卷第七、木部第一〜邑部第十二・七五丁。一二丁欠）、第七冊、九八丁（卷第八、足部第十三〜雜部第六十）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「濱田侯少／府之圖書」。（浜田藩松平家、朱長方印、「増訂新編

藏書印譜」によれば、石見、松平斉厚・武揚所用カ。天保七年（明治四年）、「柰原家蔵」（朱長方印）、「故柰原芳埜納本（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕第一冊前表紙見返しに、山川正宣の自筆識語、「小引／・是書遼聖宗時僧行均所著而其統和十五年者宋至道／三年也／・是書專依佛書且輯唐代俗通之字故我 邦古記録中／所用迂僻字体者搜索之則如指掌焉／・是書第七卷首加増広之二字於龍龕上者即注所謂今／増之義歟而其卷尾及他卷再不□焉恐衍文耳／・是書原本蓋宋版也而今不見翻刻年月日按其為体幾／乎三百年矣／是書余自弱冠至今止閱三部故察其希珍擲金贖之不／可敢□闕外者云／天保七年秋九月靜一山川正宣識于卷端（朱方印）正／宣（朱方印、陰刻）静一／居士」を記した紙片が貼付されている。山川は江戸時代後期、摂津池田の酒造業者で、清水浜臣の弟子。序にのみ朱引、朱返点、振仮名、送仮名、上欄に墨筆で若干の書き入れが施されている。切貼訂正は施されていない。

経部一〇 小学類 字書之属

12 龍龕手鑑 八卷（遼） 积行均撰

〔請求番号〕WA七一一四七

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕茶色（裏打ち改装）表紙に、紺色覆表紙附。二九・四×

二〇・六糶。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷杵書題簽（一九・六×三・八糶、覆表紙）、「龍龜手鑑」一（一八）、書題簽（一九・四×四・一糶、茶色表紙）、

「龍龜手鑑」一（一八）。題簽右には目録を墨書した紙片を貼付。

〔内題〕「龍龜手鑑序」／（低六格）燕台惻忠寺沙門智光撰、「龍龜手鑑目錄」、「龍龜手鑑卷第一（一八）」（卷第六は、増広龍龜手鑑卷第六）。

〔尾題〕「龍龜手鑑目錄終」、「龍龜手鑑卷第一（一八）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一六字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周単辺（二三・三×一七・二糶）、有界。

〔版心〕上下に大黒魚尾、中縫、「龍龜卷序（目錄・卷一一八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七八丁（序、統和十五年丁酉七月一日癸亥序・二丁、目錄・七丁、卷第一、金部第一〜心部第四・六九丁）、第二冊、七五丁（卷第二、山部第五〜斤部第二十三）、第三冊、九二丁（卷第三、中部第二十四〜知部第九十七）、第四冊、九二丁（卷第四、手部第一〜口部第七）、第五冊、一〇三丁（卷第五、女部第八〜果部第六十）、第六冊、二三丁（卷第六、見部第一〜句部第二十六）、第七冊、七五丁（卷第七、木部第一〜邑部第十二、一一丁欠）、第八冊、九八丁（卷第八、足部第十三〜雜部第六十）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「京都／中學」（朱方印）、「□□／之證」（朱方印）、「明治十年六

月四日文部省交付」（朱印）、「教育博／物館印」（朱方印）、「教育博物館圖書掛／明十三／九月改」（朱丸印）、「豊前／森山／教覺寺」（朱方印）。

〔備考〕第一冊、卷首六丁の上部破損、裏打修補。全冊裏打修補。序にのみ朱引、朱句読点が施されているのみ。第八冊の卷末に、鶴飼徹定自筆識語、「此書世所罕觀也戊辰仲夏西游／講得之于浪華書肆裝釘以／于文庫（朱方印）古經／堂」（朱方印、陰刻）徹定／之印」。切貼訂正は施されていない。

史部一 正史類 分刻之属

13 後漢書 一二〇卷（劉宋）范曄撰・（唐）李賢注・志・（晉）司馬彪撰

〔請求番号〕WA七―二六一

〔体裁〕特大本、三三冊。

〔表紙〕丹表紙（押八双有）。三三・三×二三・三糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「後漢書注補志序」「後漢書目錄」「光武帝紀第一上 范曄 後漢書一上／（九格低）唐章懷太子賢註」／「烏桓鮮卑列伝第八十／（低八格）范曄 後漢書九十」。

〔尾題〕「光武帝紀第一上」／「烏桓鮮卑列伝第八十／（十二格低）雙校

正／（低三格）前進士儒学録充経師張景校正」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（一上、二一・九・×一六・五種）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「後漢志序（後漢序・後漢目錄・後漢記一上）十下・後漢志一（三十・後漢傳一（八十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇三丁（後漢書注補志序・三丁、序・二丁、目錄・

二八丁、光武帝紀第一上・三六丁、光武帝紀第一下・三四丁）、

第二冊、八七丁（明帝紀第二・二九丁、章帝紀第三・二九丁、

和帝紀第四・二九丁）、第三冊、八五丁（安帝紀第五・三一

丁、順沖質帝紀第六・二九丁、桓帝紀第七・二五丁）、第四冊、

一〇六丁（靈帝紀第八・二三丁、獻帝紀第八・一九丁、皇后紀

第十上・三七丁、皇后紀第十下・二七丁）、第五冊、九七丁（志

第一・二一丁、志第二・二八丁、志第三・三七丁、志第四・

一二丁）、第六冊、九〇丁（志第五・一六丁、志第六・一五丁、

志第七・一七丁、志第八・一二丁、志第九・一六丁、志第十・

一四丁）、第七冊、九六丁（志第十一・二二丁、志第十二・一一

丁、志第十三・二四丁、志第十四・二三丁、志第十五・一四丁、

志第十六・二二丁）、第八冊、一一五丁（志第十七・一三丁、志

第十八・一八丁、志第十九・一八丁、志第二十・一四丁、第

二十一・一二丁、志第二十二・一六丁、志第二十三・二四丁）、

第九冊、一〇〇丁（志第二十四・一二丁、志第二十五・一三丁、

志第二十六・一三丁、志第二十七・一〇丁、志第二十八・一八

丁、志第二十九・一五丁、志第三十・二〇丁）、第一〇冊、九七

丁（劉玄劉盆子列伝第一・二三丁、王劉張李彭盧列伝第二・

二〇丁、隗囂公孫述列伝第三・三三丁、宗室四王三侯列伝第

四・二二丁）、第一一冊、九一丁（李王鄧來列伝第五・二二

丁、鄧寇列伝第六・三七丁、馮岑賈列伝第七・三二丁）、第二

冊、一一一丁（吳蓋陳臧列伝第八・二五丁、耿弇列伝第九・

二六丁、姚期王霸祭遵列伝第十・一九丁、任李萬邳劉耿列伝第

十一・一七丁、朱景王杜馬劉傅堅馬列伝寶融列伝第十二・二四

丁）、第一三冊、八六丁（寶融列伝第十三・二九丁、馬援列伝

第十四・三七丁、卓魯魏劉列伝第十五・二〇丁）、第一四冊、

一〇三丁（伏侯宋蔡馮趙牟韋列伝第十六・三一丁、宣張二王杜

郭呉承鄭趙列伝第十七・二四丁、桓譚馮衍列伝第十八上・二四

丁、馮衍列伝第十八下・二四丁）、第一五冊、九七丁（申屠剛鮑

永鄧襄楷列伝第二十下・三四丁、郭杜孔張廉王蘇羊賈陸列伝第

二十一・二七丁）、第一六冊、八五丁（樊陰列伝第二十二・一四

丁（十一・十四丁欠）、朱馮虞鄭周列伝第二十三・二四丁、梁統

列伝第二十四・二四丁（十二丁欠）、張曹鄭列伝第二十五・二三

丁）、第一七冊、九六丁（鄭范陳賈張列伝第二十六・三〇

丁、桓榮丁鴻列伝第二十七・二二丁、張法滕馮度楊列伝第

二十八・一七丁、劉趙淳于江劉周趙列伝第二十九・二七丁）、第

一八冊、八六丁（班彪列伝第三十上・三〇丁、班固列伝第三十

下・二九丁、第五鍾離宗宋寒列伝第三十一・二七丁）、第一九

冊、八六丁（光武十王列伝第三十二・三三丁、朱棨何列伝第

三十三・三四丁、鄧張徐張胡列傳第三十四・一九丁）、第二〇冊、一〇八丁（袁張韓周列傳第三十五・二五丁、郭陳列傳第三十六・二六丁、班梁列傳第三十七・二八丁、楊李翟応霍爰徐列傳第三十八・二九丁）、第二二冊、九八丁（王充王符仲長統列傳第三十九・三七丁、孝明八王列傳第四十・一四丁、李陳龐陳橋列傳第四十一・一八丁、崔駰列傳第四十二・二九丁）、第二二冊、八九丁（周黃徐姜申屠列傳第四十三・一五丁、楊震列傳第四十四・三四丁、章帝八王列傳第四十五・一六丁、張王種陳列傳第四十六・二四丁）、第二三冊、九八丁（杜欒劉李劉謝列傳第四十七・二五丁、虞傅蓋臧列傳第四十八・三一丁、張衡列傳第四十九・四二丁）、第二四冊、八九丁（馬融列傳第五十上・二一丁、蔡邕列傳第五十下・三三丁、左雄周舉黃瓊列傳第五十一・三五丁）、第二五冊、一〇四丁（荀韓鍾陳列傳第五十二・二二丁、李固杜喬列傳第五十三・二五丁、吳延史盧趙列傳第五十四・二七丁、皇甫張段列傳第五十五・三〇丁）、第二六冊、九一丁（陳蕃王允列傳第五十六・二四丁、党錮列傳第五十七・三七丁、郭太符融許劭列傳第五十八・一二丁、竇武何進列傳第五十九・一八丁）、第二七冊、一〇四丁（鄭太孔融荀彧列傳第六十・三六丁、皇甫嵩朱雋列傳第六十一・二〇丁、董卓列傳第六十二・三〇丁、劉虞公孫瓚陶謙列傳第六十三・一八丁）、第二八冊、一〇六丁（袁紹列傳第六十四上・三四丁、袁紹劉表列傳第六十四下・二〇丁、劉袁呂列傳第六十五・二四

丁、循吏列傳第六十六・二八丁）、第二九冊、一〇〇丁（酷吏列傳第六十七・一八丁、宦者列傳第六十八・三五丁、儒林列傳第六十九上・二三丁、儒林列傳第六十九下・二四丁）、第三〇冊、九二丁（文苑列傳第七十上・二六丁、文苑列傳第七十下・三〇丁、独行列傳第七十一・三六丁）、第三一冊、九七丁（方術列傳第七十二上・二四丁、方術列傳第七十二下・二五丁、逸民列傳第七十三・二三丁、列女列傳第七十四・二五丁）、第三二冊、九七丁（東夷列傳第七十五・一八丁（十二丁欠）、南蛮西南夷列傳第七十六・三八丁、西羌列傳第七十七・四二丁）、第三三冊、八九丁（西域列傳第七十八・三二丁、南匈奴列傳第七十九・三八丁、烏桓鮮卑列傳第八十・二〇丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「尾／之／繪見寺」（朱長方印）、「小汀文庫」（朱長方印、小汀利得）。（平成）16・3・19受入印。

〔備考〕無書入。第二一冊、列傳四十二・二十四丁裏（デジタルライブラリー95コマ）に幼児の足跡（十二糶）。刊行年は寛永元年以後。高木浩明「古活字版調査余録（二）『後漢書』の刊行年時を考える」（『汲古』第五九号、二〇一一年、『中近世移行期の文化と古活字版』第三章第七章、勉誠出版、二〇二〇年所収）。

史部一 正史類 分刻之属

14 史記 百三十卷（漢）司馬遷撰

〔請求番号〕WA七―二五九

〔体裁〕大本五〇冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）丹空押雷文繫ぎ（小ぶりの雷文）に桐唐草文

様表紙。三〇・二×二一・二種。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「史記素隱序／（低三格）〈朝散大夫国子博士弘文／館学士河内

司馬貞撰〉」、「史記素隱後序」、「史記正義序／（低三格）〈諸王

侍読宣議郎守右清／道率府長史張守節上〉」、「議序」切貼訂正、

「補史記序（七格空）小司馬氏」、「史記集解序」、「史記正義論例

謚法解（低二格）〈諸王侍読宣議郎守右清／道率府長史張守節

上〉」、「史記目錄」、「三皇本紀（五格空）補史記〈小司馬氏／撰

并注〉」）、「太史公自序第七十（二格空）史記一百三十」。

〔尾題〕「史記素隱序」、「史記素隱後序終」、「史記正義序終」、「史記補史

序」、「史記集解序」、「史記正義論例謚法解」、「史記目錄終」、「三

皇本紀（七格空）補史記」）、「太史公自序第七十（三格空）史

記一百三十」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（三皇本紀、二二・九×一七・〇種）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（史記例二・史記録一・史

記紀一（十二）・表一（十）書一（八）家一（三十）伝一（

七十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五八丁（史記素隱序・二丁、史記素隱後序・二丁半、

史記正義序・一丁半、補史記序・三丁、史記集解序・六丁、史

記正義論例謚法解・二二丁、史記目錄・二二丁）、第二冊、五五

丁（三皇本紀・六丁、五帝本紀第一・四九丁）、第三冊、六〇丁

（夏本紀第二・四〇丁、殷本紀第三・二〇丁）、第四冊、五六丁

（周本紀第四）、第五冊、四三丁（秦本紀第五）、第六冊、六七

丁（秦始皇本紀第六）、第七冊、五二丁（項羽本紀第七）、第八

冊、五七丁（高祖本紀第八）、第九冊、五二丁（呂太后本紀第

九・二一丁、孝文本紀第十・三〇丁）、第一〇冊、四八丁（孝

景本紀第十一・一〇丁・孝武本紀第十二・三八丁）、第一一冊、

八六丁（三代世表第一・一〇丁、十二諸侯年表第二・四七丁半、

六国年表第三・二八丁半）、第二二冊、五八丁（秦楚之際月表第

四・二〇丁、漢興以來諸侯年表第五・三八丁）、第一三冊、七二

丁（高祖功臣侯者年表第六、五〇丁欠）、第一四冊、九二丁（惠

景間侯者年表第七・一八丁、建元以來侯者年表第八・三〇丁、

建元以來王子年表第九・二四丁、漢興以來將相名臣年表第十・

二〇丁）、第一五冊、七八丁（礼書第一・一八丁・樂書第二・

六〇丁）、第一六冊、四四丁（律書第三・一六丁半、曆書第四・

二七丁半）、第一七冊、六四丁（天官書第五）、第一八冊、五六

丁（封禪書第六）、第一九冊、四〇丁（河渠書第七・一一丁、平

準書第八・二九丁）、第二〇冊、六七丁（吳太伯世家第一・二九

丁半、齊太公世家第二・三七丁半）、第二一冊、七二丁（魯周

公世家第三・三二丁、燕召公世家第四・一四丁、管蔡世家第

五·一二丁半、陳杞世家第六·一三三丁半)、第二二冊、四二丁(衛康叔世家第七·一七丁半、宋微子世家第八·二四丁半)、第二三冊、五六丁(晋世家第九)、第二四冊、五三丁(楚世家第十)、第二五冊、四四丁(越王勾踐世家第十一·二二丁、鄭世家第十二·二三丁)、第二六冊、六〇丁(趙世家第十三)、第二七冊、七五丁(魏世家第十四·三一丁、韓世家第十五·一五丁、田敬仲完世家第十六·二九丁)、第二八冊、六二丁(孔子世家第十七·四四丁、陳涉世家第十八·一八丁)、第二九冊、五七丁(外戚世家第十九·二二丁、楚元王世家第二十·四丁半、荊燕世家第二十一·六丁半、齊悼惠王世家第二十二·一五丁半、蕭相國世家第二十三·八丁半)、第三〇冊、六五丁(曹相國世家第二十四·一二丁、留侯世家第二十五·二〇丁、陳丞相世家第二十六·一六丁、絳侯周勃世家第二十七·一七丁)、第三一冊、四七丁(梁孝王世家第二十八·一五丁、五宗世家第二十九·一二丁半、三王世家第三十·一九丁半)、第三二冊、九九丁(老子伯夷列傳第一·一六丁、管晏列傳第二·七丁、申不害韓非列傳第三·一一丁半、司馬穰苴列傳第四·四丁半、孫子吳起列傳第五·一一丁、伍子胥列傳第六·一五丁)、第三三冊、九〇丁(仲尼弟子列傳第七·三四丁·商君列傳第八·一五丁、蘇秦列傳第九·四一丁)、第三四冊、七一丁(張儀列傳第十·三一丁半、樗里子甘茂列傳第十一·一六丁半、穰侯列傳第十二·九丁、白起王翦列傳第十三·一四丁)、第三五冊、六七

丁(孟子荀卿列傳第十四·九丁半、孟嘗君列傳第十五·一六丁半、平原君虞卿列傳第十六·一五丁、信陵君列傳第十七·一一丁半、春申君列傳第十八·一四丁半)、第三六冊、六八丁(范雎蔡澤列傳第十九·三三丁半、樂毅列傳第二十·一二丁、廉頗藺相如列傳第二十一·一七丁、田單列傳第二十二·六丁半)、第三七冊、五五丁(魯仲連鄒陽列傳第二十三·二三丁、屈原賈生列傳第二十四·二二丁半、呂不韋列傳第二十五·一〇丁半)、第三八冊、六九丁(刺客列傳第二十六·二八丁半、李斯列傳第二十七·三三丁半·蒙恬列傳第二十八·八丁)、第三九冊、六七丁(張耳陳余列傳第二十九·二〇丁、魏豹彭越列傳第三十·七丁半、黥布列傳第三十一·一三丁、淮陰侯列傳第三十二·二六丁半。二二丁補寫)、第四〇冊、六二丁(韓信盧縮列傳第三十三·一二丁半·田儻列傳第三十四·八丁、樊鄴滕灌列傳第三十五·二四丁半、張丞相列傳第三十六·一七丁)、第四一冊、六一丁(酈生陸賈列傳第三十七·一八丁半、傅靳蒯成列傳第三十八·六丁半、劉敬叔孫通列傳第三十九·一四丁半、季布欒布列傳第四十·八丁、袁盎鼂錯列傳第四十一·一三丁半)、第四二冊、七七丁(張釋之馮唐列傳第四十二·一一丁半、萬石君張叔列傳第四十三·一二丁半、田叔列傳第四十四·一〇丁半、扁鵲倉公列傳第四十五·四二丁半)、第四三冊、六五丁(吳王濞列傳第四十六·二二丁、魏其武安侯列傳第四十七·二〇丁、韓長孺列傳第四十八·一〇丁、李將軍列傳第四十九·一四

丁)、第四四冊、七六丁(匈奴列伝第五十・四六丁半、衛將軍
驃騎列伝第五十一・二九丁半)、第四五冊、五六丁(平津侯主
父列伝第五十二・二二丁、南越列伝第五十三・一三丁、東越
列伝第五十四・七丁、朝鮮列伝第五十五・六丁、西南夷列伝第
五十六・八丁)、第四六冊、六九丁(司馬相如列伝第五十七)、
第四七冊、六五丁(淮南衡山列伝第五十八・三一丁、循吏列
伝第五十九・五丁、汲鄭列伝第六十・一二丁、儒林列伝第
六十一・一七丁)、第四八冊、六八丁(酷吏列伝第六十二・二八
丁、大宛列伝第六十三・三〇丁、游侠列伝第六十四・一〇
丁)、第四九冊、七五丁(佞幸列伝第六十五・五丁半、滑稽
列伝第六十六・二二丁半、日者列伝第六十七・九丁半、龜策
列伝第六十八・三七丁半)、第五〇冊、七五丁(貨殖列伝第
六十九・三〇丁、太史公自序伝第七十・四五丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「白雲書庫」(各冊とも巻末、野間三竹(一六〇八一―一六七六)、
「躋壽／館記」(多紀家、朱方印)、「向黄邨／珍藏印」(向山黄村、
朱長方印、陰刻)、「竹添／光鴻／之章」(竹添井々、朱方印、陰
刻)、「松方／文庫」(松方正義、朱方印)、「書／(平成) 17・
3・1／国会図」印。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に異本(嘉
靖板・嘉靖評林板・汲古閣本等)との校合、書き入れが施され
ている。第二冊の巻首丁に、「寛政戊午十仲夏既日於(二格空)

対読」とあるが、この筆跡は他の書き入れと同筆である。第一
種本。

周知の資料で少し時代が下がる資料ではあるが、嵯峨の地で、
はやくに角倉素庵が出版を行ったことを記載する資料を挙げる。
『羅山林先生集』所収「羅山先生年譜」の慶長四年(一五九九)
の記事である。

先生十七歳 頃年借^ニ文選六臣註^ヲ於永雄^ニ、毎日読^ニム一卷^ヲ、
六句^ニシテ而畢^ル、又^タ借^ル前後漢書^ヲ於永雄^ニ、数月^一ニ周覽^ス之^レヲ、
其^ノ後吉田玄之新^ニ刻^ニム史記^ヲ於嵯峨^ニ、先生求^ニメテ一部^ヲ而僦^ツテ
旧点本^ヲ於東福寺ノ僧^ニ手^ラ自^ラ写^ス之^レヲ、彼僧深^ク秘^シテ之^レヲ不^レ
許^ニサ^シク借^レレ之^レヲ、先^ツ附^ニ一冊^ヲ乃^シ点^シテ返^ス之^レヲ、其^ノ
次遂^テ卷^ヲ亦^タ然^リ、奚奴来往数十回^ニ而期月終^レ功^ヲ、(此ノ本
罹^ル丁酉ノ之災^ニ)

吉田玄之、すなわち角倉素庵が嵯峨の地で『史記』を新刻した
ことが記される。ここに記される『史記』は、古活字版の『史
記』であろう。「此ノ本罹^ル丁酉ノ之災^ニ」とあることから林羅
山によって加訓されたこの記事に見える『史記』は「丁酉ノ之
災」、すなわち明暦三年の江戸大火で焼失してしまったようであ
る。今、国立公文書館の内閣文庫(以下、内閣文庫)には林羅
山旧蔵の古活字第一種本の『史記』(請求番号、二七九一一八)
が一本伝わるが、羅山のものには複数の『史記』の古活字版が
あったのだろう。

ところで、現在知られる古活字版の『史記』には、八行有界本の第一種本、八行無界本の第二種本、九行無界本の第三種本の三種があるが、このうち第一種本が最も先行する本である。刊行年時については、これまで右の記事を一つの拠り所にして推定がなされ、記事中の「其ノ後」の解釈によって、慶長四年説と慶長九年説の二説がある。さらにもう一つ、石川武美記念図書館成實堂文庫に所蔵されている本に記された識語に拠る慶長十一年以前説があるが、小秋元段〔増補太平記と古活字版の時代〕、新典社、二〇一八年、初版二〇〇六年〕は全く新しい資料を提示して、古活字版『史記』の刊行年を特定した。すなわち、『言経卿記』の慶長八年十一月二十日条にはこうある。

一、内蔵頭史記全五十冊取寄了、嵯峨二有之云々、残而四冊出来次第可送之由申了、良子^百五十文渡了、

内蔵頭、山科言緒（言経の息）はこの日、五十冊の『史記』を嵯峨より取り寄せたが、残り四冊は出来次第送るように入れたという。「嵯峨二有之」と記されることや、五十冊とされることから（原装の古活字版『史記』は五十冊仕立てである）、これが古活字版の『史記』であったことは間違いない」と、小秋元が言う通りであろう。この記事を素直に読めば、この時点ではまだ全てが刷り上がっていないかったことになる。もっとも「全五十冊取寄了」とあるからすでに刷り上がってはいたものの、四冊分の不足があったのかもしれない。いずれにせよ、不足分

の四冊が刷り上がるまでにそれほど時間はかからなかったであろう。慶長八年十一月二十日、これが古活字版『史記』刊行の一つの目安になる。

史部一正史類分刻之属

15 史記 存卷六・八一六十九・七十四―百十一・百十七―百三十三

〔漢〕司馬遷撰

〔請求番号〕WA七一九八

〔体裁〕大本、四三冊。存卷六・八一六十九・七十四―百十一・百十七

―百三十三。

〔表紙〕後補香色表紙。二八・六×二〇・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補双辺刷粹書題簽（一九・八×三・九糎）、「史記」。

〔内題〕史記索隱序／（低三格）〈朝散大夫国子博士弘文／館学士河内司

馬貞撰〉、「史記索隱後序」、「史記正義序／（低三格）〈諸王侍

読宣議郎守右清／道率府長史張守節上〉、「補史記序（七格空）

小司馬氏」、「史記集解序」、「史記目錄」、「史記正義論例諡法解」、

「秦始皇本紀第六（四格空） 史記六」―「太史公自序伝第七十史

記一百三十三」。

〔尾題〕「史記索隱序」、「史記索隱後序終」、「史記正義序終」、「史記補史

序」、「史記集解序（一格空）終」、「史記目錄（一格空）終」、「史

記正義論例諡法解」、「秦始皇本紀第六（一格空）終（低三格）

史記六」―「太史公自序第七十（三格空） 史記一百三十三」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・八×一六・五種）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（録一・例二・紀（記）六一
十二・表一—十・書一—八・家一—三十・伝一—七十）」。

〔丁数〕 第一冊、五三丁（史記索隱序・二丁、史記索隱後序・二丁、史記正義序・二丁、補史記序・三丁、史記集解序・五丁、史記目錄・一九丁、史記正義論例諡法解・二〇丁）、第二冊、六〇丁（秦始皇本紀第六）、第三冊、五二丁（高祖本紀第八）、第四冊、四六丁（呂太后本紀第九・一九丁、孝文本紀第十・二七丁）、第五冊、四三丁（孝景本紀第十一・九丁、孝武本紀第十二・三四丁）、第六冊、八六丁（三代世表第一・一〇丁、十二諸侯年表第二・四七丁半、六國年表第三・二八丁半）、第七冊、五八丁（秦楚之際月表第四・二〇丁、漢興以來諸侯年表第五・三八丁）、第八冊、七三丁（高祖功臣侯者年表第六）、第九冊、九二丁（惠景間侯者年表第七・一八丁、建元以來侯者年表第八・三〇丁、建元以來王子年表第九・二四丁、漢興以來將相名臣年表第十・二〇丁）、第一〇冊、七〇丁（礼書第一・一六丁。四丁欠、補写紙片補綴、樂書第二・五四丁）、第一一冊、四〇丁（律書第三・一五丁、曆書第四・二五丁）、第一二冊、五七丁（天官書第五）、第一三冊、五〇丁（封禪書第六）、第一四冊、三六丁（河渠書第七・一〇丁、平準書第八・二六丁）、第一五冊、六〇丁（吳太伯世家第一・二七丁、齊太公世家第二・

三三丁）、第一六冊、六六丁（魯周公世家第三・二九丁、燕召公世家第四・一三丁、管蔡世家第五・一二丁、陳杞世家第六・一二丁）、第一七冊、三八丁（衛康叔世家第七・一六丁、宋微子世家第八・二三丁）、第一八冊、五〇丁（晋世家第九）、第一九冊、四七丁（楚世家第十）、第二〇冊、三九丁（越王勾踐世家第十一・一九丁、鄭世家第十二・二〇丁）、第二一冊、五四丁（趙世家第十三）、第二二冊、六七丁（魏世家第十四・二八丁、韓世家第十五・一三丁、田敬仲完世家第十六・二六丁）、第二三冊、五五丁（孔子世家第十七・三九丁、陳涉世家第十八・一六丁）、第二四冊、五三丁（外戚世家第十九・二〇丁、楚元王世家第二十・五丁、荆燕世家第二十一・六丁、齊悼惠王世家第二十二・一四丁、蕭相國世家第二十三・八丁）、第二五冊、五九丁（曹相國世家第二十四・一一丁、留侯世家第二十五・一八丁、陳丞相世家第二十六・一四丁、絳侯周勃世家第二十七・一六丁）、第二六冊、四三丁（梁孝王世家第二十八・一四丁、五宗世家第二十九・一二丁、三王世家第三十・一七丁）、第二七冊、六〇丁（老子伯夷列傳第一・一五丁、管晏列傳第二・七丁、申不害韓非列傳第三・一〇丁、司馬穰苴列傳第四・四丁、孫子吳起列傳第五・一〇丁、伍子胥列傳第六・一四丁）、第二八冊、七九丁（仲尼弟子列傳第七・二九丁。一四丁欠、補写紙片補綴、商君列傳第八・一三丁、蘇秦列傳第九・三七丁）、第二九冊、六一丁（孟子荀卿列傳第十四・九丁、孟嘗君列傳第十五・一五丁、平

原君虞卿列伝第十六・一四丁、信陵君列伝第十七・一〇丁、春申君列伝第十八・一三丁)、第三〇冊、六〇丁(范雎蔡澤列伝第十九・二九丁、樂毅列伝第二十・一二丁、廉頗藺相如列伝第二十一・一五丁、田单列伝第二十二・五丁)、第三一冊、五〇丁(魯仲連鄒陽列伝第二十三・二〇丁。五丁欠、補写紙片補綴、屈原賈生列伝第二十四・二〇丁、呂不韋列伝第二十五・一〇丁)、第三三冊、六二丁(刺客列伝第二十六・二六丁、李斯列伝第二十七・二九丁・蒙恬列伝第二十八・七丁)、第三三冊、五九丁(張耳陳余列伝第二十九・一六丁。一六・一七丁欠、補写二丁補綴、魏豹彭越列伝第三十・七丁、黥布列伝第三十一・一二丁、淮陰侯列伝第三十二・二四丁)、第三四冊、五八丁(韓信盧縮列伝第三十三・一二丁・田儋列伝第三十四・八丁、樊鄴滕灌列伝第三十五・二二丁、張丞相列伝第三十六・一六丁)、第三五冊、五六丁(酈生陸賈列伝第三十七・一七丁、傅靳蒯成列伝第三十八・六丁、劉敬叔孫通列伝第三十九・一三丁、季布欒布列伝第四十・七丁、袁盎鼂錯列伝第四十一・一三丁)、第三六冊、六八丁(張釋之馮唐列伝第四十二・一〇丁、萬石君張叔列伝第四十三・一一丁、田叔列伝第四十四・九丁、扁鵲倉公列伝第四十五・三八丁)、第三七冊、五八丁(吳王濞列伝第四十六・一八丁、魏其武安侯列伝第四十七・一八丁、韓長孺列伝第四十八・九丁。四丁表最終行下に「此処落行」と墨書、李將軍列伝第四十九・一三丁)、第三八冊、六八丁(匈奴列伝第

五十・四二丁、衛將軍驃騎列伝第五十一・二六丁)、第三九冊、六二丁(司馬相如列伝第五十七)、第四〇冊、五六丁(淮南衡山列伝第五十八・二七丁、循吏列伝第五十九・五丁、汲鄭列伝第六十・一〇丁、儒林列伝第六十一・一四丁。三丁欠、後補の補写)、第四一冊、六〇丁(酷吏列伝第六十二・二五丁、大宛列伝第六十三・二六丁、游侠列伝第六十四・九丁)、第四二冊、六七丁(佞幸列伝第六十五・五丁、滑稽列伝第六十六・二〇丁、日者列伝第六十七・九丁、龜策列伝第六十八・三三丁)、第四三冊、六六丁(貨殖列伝第六十九・二六丁、太史公自序傳第七十・四〇丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「晉原／為徳」(朱方印、陰刻)、「寅風坊」(朱長方印)、「梶原家藏」(榊原芳野(一八三二―一八八二)、朱長方印)、「故梶原芳楚納本」(朱長方印)、「東京／圖書／館藏」(朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に「正義云―」、朱墨書入。第三種本。但し、第三〇冊の伝二十、九丁のみ双辺無界、八行×一七字(第二種本)。

史部四別史類

16 (古今歴代標題註釈) 十九史略通考 八卷 (元) 曾先之撰 (元)

余進補

〔請求番号〕WA七―八七

〔体裁〕 大本、一四冊。

〔表紙〕 丹空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙（原表紙か。但し見返しは改装）。二九・〇×二一・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。表紙中央に「太古 三皇／五帝 夏／殷 周」（第一冊）「元」（第一四冊）と墨書。

〔内題〕 「十九史略通考序」、「十九史略通考目録」、「古今歴代十九史略通考総括」、「十九史略通考凡例」、「古今歴代標題註釈十九史略通考卷一之上／（低三格）前進士廬陵 曾 先 之 編次／（低三格）松塙門人番陽竹窩余進宗海通考」→「古今歴代標題註釈十九史略通考卷之八／（低三格）松塙門人番陽竹窩余進宗海通考」。

〔尾題〕 「史略叙」、「十九史略通考目録畢」、「十九史略通考凡例畢」、「古今歴代標題註釈十九史略通考卷一之上（一巻之八）」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。注小字双行。上欄に標目植版（小字）。

〔匡郭〕 上下双边、左右单边（序、二二・五×一六・三糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「史畧序（総括・凡例・一上―八） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四六丁（序、大徳丁西嘉平月望予章周天驥書・二丁、目録・二丁、総括・七丁、凡例・一丁、卷一之上・三四丁）、第二冊、六二丁（卷一之下）、第三冊、五八丁（卷二之上）、第四冊、四九丁（卷二之下）、第五冊、五九丁（卷三之上）、第六冊、三二丁（卷三之下）、第七冊、三三丁（卷四之上）、第八冊、

四九丁（卷四之下）、第九冊、五九丁（卷五之上）、第一〇冊、

四八丁（卷下之五）、第一一冊、五三丁（卷六之上）、第二二冊、

五一丁（卷六之下）、第一三冊、五二丁（卷之七）、第一四冊、

二六丁（卷之八・二五丁、（跋）（低二格）萬曆九年秋七月／殿

下御経筵謂左右曰十九史略一書（中略）（低二格）萬曆十年九月

庚申通善郎行弘文館副／（低二格）校理知製 教兼 経筵侍読

官春秋館／（低二格）記注官漢学教授^臣金粹奉／敬識・一丁）。

他、各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕 欠。

〔印記〕 「淺艸文庫」（板坂卜齋、朱長方印）、「後藤／家藏」（朱方印）、

「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「大正／14・2・2／購求」印。

〔備考〕 朱引、朱句説点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上・

下欄、行間等に朱墨による書入（……ソ、……ナリ）が施され

ている。本書は刊記を欠くが、守藤集雲が、元和二（一六一六）

年に京都東福寺において木活字で印行したもので、万曆十二

（二五八二）年朝鮮弘文館刊本の翻印本。巻末に依拠本の跋を刻

す。川瀬、三六〇・三八二・七二四・八二五頁。

史部 五雜史類

17 貞觀政要 存卷第二十五（唐）呉兢撰

〔請求番号〕 WA七―三三二

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。三三・四×二一・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「貞觀政要 一（一五）」と打付書。

〔内題〕 「貞觀政要卷第二（一五）（四格空） 戈直集論」。

〔尾題〕 「貞觀政要卷第二（一五）」（巻第五の尾題は捺印）。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（巻第二、二一・八×一五・六糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀二（一五） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一一丁（巻一、「君道第二」の途中までの一〇丁分を写

本で補配、その首に西笑承兌の跋文の写しが一丁が補記されて

いる）、第二冊、一〇〇丁（巻第二）、第三冊、六五丁（巻第三）、

第四冊、五八丁（巻第四）、第五冊、六一丁（巻第五、六一八丁

欠）。他、各冊とも前遊紙一丁（新補）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「明治三九・六・二一・購求」

印。

〔備考〕 無書入。慶長五年刊、伏見版。円光寺旧蔵書。

史部五雜史類

18 貞觀政要 十卷（唐）呉兢撰

〔請求番号〕 WA七―七五

〔体裁〕 大本、一〇冊。

〔表紙〕 後補茶色表紙（裏打改装）。二九・四×二一・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「貞觀政要 甲（一癸）」と打付書。

〔内題〕 「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序／（低一

格）唐衛尉少卿兼脩国史修文館学士呉兢／（低一格）撰」、「貞

觀政要（六格空） 戈直集論」、「貞觀政要卷第一（一十）」。

〔尾題〕 「貞觀政要卷第一（一十終）」。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・八×一五・一糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀一（一十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六五丁（御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・

五丁、貞觀政要序・二丁、目錄・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、

貞觀政要・一丁、巻第一・四九丁）、第二冊、一〇〇丁（巻第

二）、第三冊、六五丁（巻第三）、第四冊、五八丁（巻第四）、第

五冊、六三丁（巻第五、四八丁欠）、第六冊、五六丁（巻第六）、

第七冊、四三丁（巻第七）、第八冊、四二丁（巻第八）、第九冊、

四二丁（巻第九）、第一〇冊、四〇丁（巻第十）。

〔刊記〕 「（低一格）元和九癸初冬吉辰（一格空）〈三條白壁町／忠田吉兵

衛開板〉」。

〔印記〕 「堀田文庫」（朱長方印）、「鈴木庄司」（墨長方印）、「東京／圖書

／館藏」（朱方印）、「明治十年納付」（朱長方印）。

〔備考〕 各冊巻首に「東京府士族／東京書籍館雇／増田長寛」と墨書。

第一冊の前遊紙には増田長寛の自筆識語あり。第一・二冊には

朱引と朱句読点が施されている。

19 貞觀政要 十卷 (唐) 吳兢撰

〔請求番号〕WA七―二六八

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・五×一九・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補水色書題簽(一九・四×三・七糎)、「貞觀政要 二 (―九十止)」。第一冊の題簽は表面剥落。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序 / (低一格) 唐衛尉少卿兼脩國史修文館學士吳兢 / (低一格) 撰」、「貞觀政要 (六格空) 戈直集論」、「貞觀政要卷第一 (―十)」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一 (―十終)」(卷第五の尾題なし)。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(序、二一・八×一五・六糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀序(目録・姓氏・一―十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁(御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・

五丁、貞觀政要序・二丁、目録・四丁、集論諸儒姓氏・一丁、

貞觀政要・二丁、卷第一・四九丁)、第二冊、一〇〇丁(卷第

二)、第三冊、六五丁(卷第三、三一・三三二丁、四三・四四丁、

四六・四七丁乱丁)、第四冊、五八丁(卷第四)、第五冊、六四

丁(卷第五)、第六冊、五六丁(卷第六)、第七冊、八五丁(卷

第七・四三丁、卷第八・四二丁)、第八冊、八三丁(卷第九・

四二丁、卷第十・四〇丁、跋・一丁)。

〔刊記〕跋末に「慶長五年星輯庚子花朝節 / 前龍山見鹿承兌謹誌」、その後「慈眼久徳刊之」。

〔印記〕「松本氏 / 圖書記」(朱長方印、第一冊、卷首右下のみ)、「不忍

文庫」(屋代弘賢、朱長方印)、「高木家藏(高木利太、朱長方印)、卷第一の卷末に「敬 / 復 / 齋」(閑室元侖、屋形印)、「書

/ (平成・6・6 / 国会図」(朱印)。

〔備考〕伏見版。円光寺、閑室元侖旧蔵。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。桐箱(蓋、「不忍文庫」と墨書、側面に「伏見板貞觀政要八冊」のラベルを貼付)入。第一冊の表紙右下には安田文庫(二代目安田善次郎)のラベル(「古

活86)が貼付されている。川瀬、二二三・六九四頁。高木文庫蔵本(不忍文庫旧蔵)とある本が本書。図録篇19図、安田文庫蔵本とあるのも本書。図版に見られる振仮名は、本書では白墨で塗抹。

史部八伝記類 姓名年齒之属

20 (新編排韻増広事類) 氏族大全 十卷 元闕名撰

〔請求番号〕WA七―一二二

〔体裁〕大本、九冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二八・二×一八・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「排韻氏族一(―九終)」と打付書。各冊右肩に「騰」、

その右側に「東・冬・江・支・微・魚・虞」(第一冊)のように

内容見出しを小字で墨書。

〔内題〕「新編排韻増広事類氏族大全（七格空）〔甲集 陰刻）（一（癸集））。

〔尾題〕甲集終（―新編排韻増広事類氏族大全終）。

〔本文〕每半葉一三行×二四字。小型の活字を用いて、注はさらに小字の双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・五×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「排韻卷一（一十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七三丁（卷一、甲集）、第二冊、六七丁（卷二、乙集。四五丁と四六丁の間に六五丁誤綴）、第三冊、五七丁（卷三、丙集）、第四冊、七〇丁（卷四、丁集）、第五冊、六九丁（卷五、戊集）、第六冊、五六丁（卷六、己集）、第七冊、五二丁（卷七、庚集）、第八冊、七四丁（卷八、辛集）、第九冊、七三丁（卷九、壬集・五二丁、卷十、癸集・二二丁）。

〔刊記〕「低三格」元和五年九月日」。

〔印記〕「多福文庫」（篠屋宗禰、朱長方印、小陰刻）、「撰巖圓光／禪寺藏書」（伏見円光寺、朱長方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「圖／明治三九・七・七・購求」印。篠屋宗禰ならびに多福文庫については、長坂成行『篠屋宗禰とその周縁 近世初頭・京洛の儒生』（汲古書院、二〇一七年）に詳しい。

〔備考〕各冊ともに前遊紙裏丁に識語、「圓光寺／開福庵藏」。朱引、朱句読点、ごくわずかに朱書入が施されている。川瀬、

三六一・三八九・八三三頁。国会本は未録。

史部八伝記類名人

21 朱子行状一卷（宋）黄翰撰、（朝鮮）李滉輯注

〔請求番号〕WA八一一九

〔体裁〕特大本、一冊。

〔表紙〕「帝／國／圖／書／館」の型押のある香色表紙。三一・九×二一・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補双辺刷梓書題簽（一九・五×三・八糎）、「朱子行状 完」。

〔内題〕「朱子行状（七格空） 退溪李先生輯注」。

〔尾題〕「朱子行状終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺（二二・二×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「朱子行状 丁附」。

〔丁数〕五五丁、他、新補の前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「讀杜／艸堂」（寺田望南、朱方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）、「明治二四・三・一〇・購求」印。

〔備考〕切貼訂正（二四丁表の八行目「割」「私」、二四丁裏の九行目「禁」「鋼」）あり。墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

卷末に識語、「慶安四年辛卯秋七月朔／閏齋柯（朱方印）（花押）

／伊藤勝重剛」。川瀬、八二七頁、「本書の活字は象山先生全集・太上感應篇経伝もしくは正保三年刊政経等と同種である」。

子部一 儒家類 性理之属

22 晦菴先生語録類要 十八卷 (宋) 葉士龍編

〔請求番号〕WA八―四

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕丹空押唐花十字文釋文様表紙。二八・七×二〇・〇糎。四針袋綴。右上に「取致 帙入」(朱長方印、高木文庫)。

〔題簽〕無。左肩に「語録類要 一之四 (一十五之八)」と打付書。右から目録題を墨書。

〔内題〕「新編晦菴先生語録類要目録／(低八格) 後学括蒼葉 士龍編次」、「晦菴先生語録類要卷第一 (一十八)／(低四格) 勉齋黃先生門人括蒼葉士龍編次」。

〔尾題〕「晦菴先生語録類要目録」、「晦菴先生語録類要卷第一 (一十八終)」。

〔本文〕序・語録姓氏・後序、每半葉八行×一七字、大型活字。目録・本文、每半葉一三行×一九字、小型活字。

〔匡郭〕四周双边 (序一、二二・四×一五・五糎)、無界。

〔版心〕序・語録姓氏・後序、黒口双黒魚尾、中縫、「語録序一 (序二・姓氏・後序) 丁附」、目録・本文、黒口双花口魚尾、中縫、「語録卷目 (卷一―十八) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八四丁 (序、嘉熙戊戌仲秋新安朱安謹識・一丁、朱

子語録格言序、淳祐甲辰季春下濬粵易遂書・二丁、語録答問弟子姓氏・二丁、目録・二丁、卷第一・五丁、卷第二・三七丁、卷第三・二〇丁、卷第四・一五丁)、第二冊、六三丁 (卷第五・一三丁、卷第六・一六丁、卷第七・一二丁、卷第八・二五丁、卷第九・一七丁)、第三冊、八二丁 (卷第十・一六丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・二二丁、卷第十三・一一丁、卷第十四・二二丁)、第四冊、九〇丁 (卷第十五・一九丁、卷第十六・三四丁、卷第十七・一五丁、卷第十八・二〇丁、後序、大徳壬寅二月朔後学武夷詹天祥君履書・二丁)。

〔刊記〕欠。

〔印記〕「卷 州／文庫」(朱長方印)、「高木家藏」(高木利太、朱長方印)、「國立／圖書／館藏」(朱方印)、「國立圖書館／昭23・3・17和／購求」。

〔備考〕序に若干朱書入があるのみ。他、白墨、墨書による訂正が施された箇所が若干ある。八冊を四冊に合冊。第四冊の卷末に原稿用紙 (大阪今橋四泉川印行) を綴じ、「家藏本朱子語録類要ハ近年志那ヨリ婦来ルモノナリ／京都谷村氏藏八冊ト同版也後序ト刊記アル此一張を失ス／昭和五年七月廿八日識」と墨書した後に、後序と正保三年の刊記を補写する。

子部一 儒家類 性理之属

23 近思録 十四卷 (宋) 朱熹・呂祖謙 (他) 撰

〔請求番号〕 WA七―一四〇

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二八・〇×一九・四糎。五針袋綴。右上に

〔^{注取}取入〕 (朱長方印、高木文庫)。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽 (一九・二×三・九糎)、「近思録 一 (十三 (虫損))」。

〔内題〕 「近思録卷之一 (一十四)」。

〔尾題〕 「近思録卷之一 (一十四)」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺 (二二・八×一六・八糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「近思録序 (表・一―一十四) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三二丁 (進近思録表・一丁半、集解目錄・半丁、近思

録集解序・二丁、近思録・三丁、卷之一・二四丁)、第二冊、

九四丁 (卷之二・四四丁、卷之三・二九丁、卷之四・二二丁)、

第三冊、三九丁 (卷之五・一五丁、卷之六・九丁、卷之七・

一五丁)、第四冊、六五丁 (卷之八・一四丁、卷之九・一五丁、

卷之十・二〇丁、卷之十一・八丁、卷之十二・八丁)、第五冊、

二三丁 (卷之十三・九丁、卷之十四・一三三丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「橋本氏／圖書記」 (朱長方印)、「高木家蔵」 (高木利太、朱長方

印)、「國立／圖書／館蔵」 (朱方印)、「國立圖書館／昭23・3・17／購入」。

〔備考〕 卷一に朱墨による書入、卷二に墨書による書入が多数施されているが、以下の冊は墨筆で、返点、振仮名、送仮名が施されているのみ。川瀬三八四・八二七頁、寛永中刊。「活字の様式は寛永中のものなるも或は正保項、朱子語類等と共時の摺刷かと思はる」 (三八四頁)、「本書の活字は寛永中の新彫活字を交じへてゐるが、古い慶長年間伝嵯峨本史記類のそれを多く用ひてゐることは注意を要する」 (八二七項)。著録する高木文庫蔵本が本書。

子部一 儒家類

24 (標題句解) 孔子家語 三卷 附 新刊素王事紀 一卷 聖朝通制孔子廟

祀一卷 (元) 王廣 謀句解

〔請求番号〕 WA七―一八六

〔体裁〕 大本、四冊。

〔表紙〕 後補黄椽色表紙 (第三冊、薄茶色表紙)。二七・二×一八・四糎。

四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補書題簽 (一八・三×三・三糎)、「元本家語 上 (中下)」。

〔内題〕 「新刊標題句解孔子家語目錄／ (低六格) 猷 堂 王 広 謀 景

猷 (小字)」、「標題句解孔子家語卷上／ (低五格) 猷 堂 王 広 謀

〔小字〕景猷 句解、「標題句解孔子家語卷中(下)」、「新刊素王事紀目錄」、「新刊素王事紀」、「聖朝通制孔子廟祀」。

〔尾題〕「新刊標題句解孔子家語目錄終」、「標題句解孔子家語卷上(中)」、「標題句解孔子家語卷之下」、「目錄^畢」、「新刊素王事紀卷終」、「標題句解孔子家語卷下終」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(二二・一×一五・六糶)、有界。

〔版心〕黑口双花口魚尾、中縫、「目錄(家語上(中・下)・家語後序・事紀目錄・事紀・孔子廟式・家語)」。

〔丁数〕第一冊、六一丁(目錄・三丁、卷上・五八丁)、第二冊、五三丁(卷中)、第三冊、三五丁(卷下)、第四冊、五七丁(後序・七丁、新刊素王事紀目錄・二丁、新刊素王事紀・二二丁、聖朝通制孔子廟祀・二六丁、跋刊・一丁)。

〔刊記〕「(低一格) 世際季運而學校教將廢也維時/内府家康公于文于武得其名故興廢繼絕/(低一格) 為後學刻文字數十万而賜予退為謝/公之恩惠初開家語此書是聖人與義治世/(低一格) 要文寔非小補也刊字列盤中則明本家/(低一格) 語以數本考正焉或板行有訛謬或文字/(低一格) 有顛倒以亡加之以余刪之雖如此有帝/(低一格) 虎鶴鶴誤者必矣只願待博雅君子改制/(低一格) 焉也謹跋/慶長第四龍集巳亥仲夏吉辰/(低二格) 前學校三要野納於城南伏見里書焉/(低十三格) 慈眼刊之」。

〔印記〕「國立國/會圖書/館藏書(朱方印)」。

〔備考〕無書入。慶長四年刊伏見版。

子部 一 儒家類

25 孔子家語 存卷第一—四・七—十 (魏)王肅註

〔請求番号〕WA七—二七〇

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕茶色裏打改装表紙。二七・七×一九・七糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「孔子家語壹(一五)」と打付書。

〔内題〕「孔子家語序/(低六格) 王(三格空) 肅(三格空) 註」、「孔子家語卷第一(一四・七—十)」。

〔尾題〕「孔子家語卷第一(一四・七—十)」。

〔本文〕每半葉九行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(序、二〇・九×一五・四糶、卷第一、二〇・九×一五・八糶)、有界。

〔版心〕黑口双花口魚尾、中縫、「家語(家語一—四・七—十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五二丁(序・四丁、卷第一・二六丁、卷第二・二二丁)、第二冊、三九丁(卷第三・二〇丁、卷第四・一九丁)、第三冊、三八丁(卷第七・二〇丁、卷第八・一八丁)、第四冊、五五丁(卷第九・二八丁、卷第十・二七丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「八尾/三德」(墨長方印)、「殘花書屋」(朱棊円印)、「賓/南」(朱方印、以上二印、戸川浜男)、「昏魚菴藏書」(佐藤峻吉、朱

長方印)、「月明／莊」(反町茂雄、朱方印)、「書／(平成) 20
4. 28／国会図」(朱印)。

〔備考〕全丁裏打修補。墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他書入有。
川瀬三八四・八〇三頁、元和寛永中刊。国立公文書館内閣文庫
蔵本(請求番号、二九八―一六)には、元和七年一月に、外
題を角倉素菴が記したことを示す墨書による識語、「辛酉仲冬西
山子元外題加焉」(第五冊卷末、辛酉、元和七年、西山子元は、
角倉素菴の字)が記されている他、各冊卷末には、元和八年に
石川文山によって記された墨書による識語があることから、本
書の刊行は、元和七年以前と特定できる。この識語は、本書の
刊行年時を知る手がかりになる他、当時の交遊関係や、古活字
版の享受の実際を知る上でも興味深いものがある(高木浩明『中
近世移行期の文化と古活字版』、勉誠出版、二〇二〇年、五九四
頁参照)。ちなみにワシントン大学に所蔵される元和四年に刊行
された叡山版『天台名目類聚鈔』の表紙の裏張りに本書(異植
字版か)の刷り反古が用いられていることが判明した(佐々木
孝浩氏教示)。これも本書の刊行年時を知る手がかりの一つとし
て注意しておきたい。

子部一 儒家類 礼教之属

26 小学集説 存卷二一六 (明) 程愈撰

〔請求番号〕WA七―一八

〔体裁〕特大本、四冊。

〔表紙〕栗皮表紙(原表紙か。第四冊は後補の薄茶色表紙)。三一・〇×
二一・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「小学集説卷之二(一六)」と打付書。

〔内題〕「小学集説卷之二(一四・六)」、「小学集説卷之五／(低八格)
後学淳安程(一格空) 愈(一格空) 編／(低十格) 濟寧李(一
格空) 鑑／(低十二格) 李承祖同編」。

〔尾題〕「小学集説卷之二(一六終)」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。朝鮮本活字に近似した大型の活字を使
用。

〔匡郭〕四周双边(卷之二、二三・四×一六・七糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「小学集説二(一六) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五六丁(卷之二)、第二冊、五五丁(卷之三・二三丁、
卷之四・三二丁)、第三冊、七二丁(卷之五)、第四冊、六二丁
(卷之六)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「林氏／蔵書」(林述齋、朱方印)、「尚古／齋／所蔵」(佐藤硯湖、
朱方印)、「大學／蔵書」(朱方印)、「東京小學」(朱長方印)、「平
生／精力」(朱方印)、「昌平坂／學問所」(墨長方印)、「帝國圖
書館」(朱長方印)、「明治／44・12・16／購求」(紫、第一―三
冊)、「大正／12・10・27／購求」(紫、第四冊)。

〔備考〕林羅山筆の朱引、朱句読点、墨筆による振仮名、送仮名、上欄

には誤植訂正等が施され、各冊末には、元和四（一六四八）年の朱識語、「羅浮氏附殊」（第一冊）、「戊午閏三月道春氏點朱」（第二冊）、「羅浮道春子考」（第三冊）、「羅浮洞道春甫考之」（第四冊）がある。卷之一を欠くが、これは大東急記念文庫に現蔵される。参考までに大東急記念文庫蔵本の書誌を以下に記しておく。

▼大東急記念文庫蔵本

〔請求番号〕 22 / 42 / 58

〔体裁〕 特大本一冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。三一・〇×二一・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「小学集説二」と打付書。

〔内題〕 「（低一格）小学集説序」、「小学集説卷之一」（低七格）後学淳

安程（二格空）愈（二格空）編／（低九格）濟寧李（二格空）

鑑／（低十三格）李承祖同編。

〔尾題〕 「小学集説卷之一」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕 四周双边（序、二三・三×一六・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「小学序（凡例・篇目・総論・書題・題

辭・小学集説二） 丁附」。

〔丁数〕 三〇丁（序、文公小学之書学者立身之本也）成化二十二年丙午

春正月既望後学淳安／程愈序・一丁、小学集説凡例・一丁、小

学篇目・一丁、小学集説総論・五丁、小学書題・二丁、小学題

辭・五丁、小学集説卷之一・一五丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「江雲渭樹」（林羅山、朱陰陽刻長方印）、「林氏／藏書」（林述齋朱方印）、「尚古／齋／所藏」（佐藤硯湖、朱方印）、「平生／精刀」（朱方印、陰刻）、「大學／藏書」（朱方印）、「東京小學」（朱長方印）、「昌平坂／學問所」（墨長方印）。

〔備考〕 卷末尾題下に朱識語、「戊午閏三月道春氏朱句焉」（戊午〳元和四年）。他、羅山による朱引、朱句説点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄には朱墨による書き入れが施されている。卷第二〳六は、国立国会図書館に所蔵されている（WA七―一八）。川瀬・三六一・三八四・八二七頁。「活字の様式麗しく、よく朝鮮銅活の面影を伝ふ。林羅山の元和四年朱識語ある一本（中略）に據りて、刊行年時を限定せらるゝも、其の版心上慶長中の印行と推定せらる」（三八四頁）。図録篇二〇六図に大東急本の図版を収む。

子部二兵家類

27 黄石公三略 三卷（漢）黄石公撰

〔請求番号〕 WA七―三二

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 「帝／國／圖／書／館／藏」の型押がある後補の丹表紙。

二五・二×一七・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の双边刷梓書題簽（二六・八×三・四糎）、「黄石公三略 全」。

〔内題〕「黄石公三略卷之上（中・下）」。

〔尾題〕「黄石公三略卷之上（中・下）終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕四周双边（二一・五×一五・六糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「三畧（略）上（中・下）丁附」。

〔丁数〕一六丁（卷之上・八丁、卷之中・三丁、卷之下・五丁）。

〔刊記〕「（低一格）右三略依 征夷大將軍家康公命刻梓／焉板行誤以講直兩部改正者也／（一行空）／于時慶長九龍集甲辰仲冬吉辰／前龍山元倍叟於伏見城下書焉」。

〔印記〕「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「明治三一・八・一五・購求」（朱方印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。伏見版の三略は慶長四年・五年・九年に刊行されている。本書は、慶長九年刊。川瀬、六九五・九五二頁。凶録篇・六一九凶に本書の凶版を収む。

子部二兵家類

28 黄石公三略 三卷（漢）黄石公撰

〔請求番号〕WA七―一一九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二五・七×一八・四糎。四針袋綴。右上に「注取帙入」（朱長方印、高木文庫）

〔題簽〕無。

〔内題〕「黄石公三略卷之上（中・下）」。

〔尾題〕「黄石公三略卷之上（中）終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双边（一九・〇×一四・五糎）、有界。

〔版心〕上下双黒魚尾、中縫、「三畧上（中・下）丁附」。

〔丁数〕一五丁（卷之上・八丁、卷之中・三丁、卷之下・四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「高木家藏」（高木利太、朱長方印）、「國立／圖書／館藏」（朱方印）、「國立圖書館／昭23・3・19和／購入」印。

〔備考〕帙内に「高木氏目錄一四四番」。朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。川瀬、三八五・八二八頁、（二）慶長元和中刊、「伏見版七書中の翻印なる可く、単行か否か未詳なるも、或は三略は多く行はれたれば、単行もある可し」。高木文庫蔵とあるのが本書。

子部二兵家類

29 残儀兵的 一卷（宋）蘇軾撰

〔請求番号〕WA七―一九七

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕新補香色表紙。二七・八×一九・一。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の双辺刷柘書題簽（一九・七×三・九）、「残儀兵の完」。

〔内題〕「残儀兵の并序（九格空）蘇子瞻」。

〔尾題〕「残儀兵的終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。小型活字。

〔匡郭〕四周单边（一九・三×一五・二）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「兵的 丁附」。

〔丁数〕一三丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「滿漢精舍」（大学頭・林復斎（一八〇〇―一八五九）、朱長方印）、「柘原家藏」（柘原芳野（一八三二―一八八二）、朱長方印）、「故柘原芳埜納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、豎点、異本注記、上欄に若干の墨書入が施されている。川瀬三八六・八〇一・八二九頁、（三）。「三」は（二）よりもや、

大型の活字で寛永頃に多く見られるものである。寛永中刊。伝本、他に内閣文庫蔵。

子部二兵家類

30 施氏七書講義 四十二卷（金）施子美撰

〔請求番号〕WA七―一九二

〔体裁〕大本、一八冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。二七・三×一九・〇。裏打修補、見返し改装。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の丹色双辺刷柘書題簽、銀箔散らし（一七・五×三・二）、「施氏七書講義（孫子／詩僊堂遺本）（太宗／嘉永己酉秋漱芳閣新収／第十八）」。

〔内題〕「武学上舎施氏七書講義目錄」、「施氏七書講義卷一（卷第二十一）」（卷第十一、「講義」を「義講」とする）、「施氏孫子講義卷第四」、「施氏呉子講義卷第十二（一十六）」、「施氏司馬法講義卷第十七（一二十二）」（卷第二十、「講義」を「解義」とする）、「施氏尉繚子解義卷第二十二（一二十九・卷第三十七）」、「施氏三略講義卷第三十一（一三十三）」、「施氏六韜講義卷第三十四（一三十九）」（卷第三十七、「講義」を「講議」とする）、「施氏問对講義卷第四十（一四十二）」。

〔尾題〕「（低一格）武学上舎施氏七書講義目錄終」、「施氏孫子講義卷第一（一三）終」、「施氏七書講義卷第四（一十一）終」、「施氏呉子講義卷第十二（一十六）終」、「施氏司馬法講義卷第十七（一二十一）終」、「施氏尉繚子解義卷第二十二（一三十一）終」、「施氏三略講義卷第三十一（一三十三）終」、「施氏六韜講義卷第三十四（一三十九）終」、「施氏問对講義卷第四十（一四十二）終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・七×一四・六糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「孫子（吳子・司馬・尉繚・三略・六韜・太宗）七書講義（二・卷二十四十二） 丁附」。

〔丁数〕 第二冊、四八丁（序・一丁、目録・七丁、卷一・二三丁、卷第二・一七丁）、第二冊、六五丁（卷第三・二五丁、卷第四・二五丁、卷第五・一五丁）、第三冊、六〇丁（卷第六・二五丁、卷第七・一九丁、卷第八・一六丁）、第四冊、六二丁（卷第九・三四丁、卷第十・一二丁、卷第十一・一六丁）、第五冊、四五丁（卷第十二・二七丁、卷第十三・一八丁）、第六冊、五七丁（卷第十四・二〇丁、卷第十五・一五丁、卷第十六・二二丁）、第七冊、六二丁（卷第十七・三二丁、卷第十八・二九丁）、第八冊、八二丁（卷第十九・三七丁、卷第二十・三五丁、卷第二十一・一〇丁。卷第十九、三二丁表に「自此以後至十九終六七張講義文段前後相睽背暇日書改之可也」と墨書）、第九冊、五八丁（卷第二十二・一八丁、卷第二十三・二〇丁、卷第二十四・二〇丁）、第一〇冊、七二丁（卷第二十五・二〇丁、卷第二十六・二九丁、卷第二十七・二三丁）、第一一冊、五八丁（卷第二十八・一八丁、卷第二十九・一八丁、卷第三十・二二丁）、第一二冊、五五丁（卷第三十一）、第一三冊、四八丁（卷第三十二・二三丁、卷第三十三・二五丁）、第一四冊、一〇二丁（卷第三十四・四九丁、卷第三十五・五三丁）、第一五冊、六五丁（卷第三十六）、第二六冊、七三丁（卷第三十七・三二丁、卷第三十八・一八丁、

卷第三十九・二四丁）、第一七冊、四八丁（卷第四十）、第一八冊、七六丁（卷第四十一・四二丁、卷第四十二・三四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「詩仙堂」（石川丈山、朱長方印）、「淺野源氏／五萬卷樓／圖書之記」（朱方印）、「錢長祚／珍賞印」（朱長方印、第一冊の卷末のみ）、「漱芳閣」（朱長方印、陰刻、第九冊の巻首のみ）、「錢胤卿／賞識」（第一八冊の巻末のみ、以上四印、淺野梅堂）、「竹添／光鴻／之章」（竹添井々、朱方印、陰刻）、「松方／文庫」（松方正義、朱方印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、「書／54・1・19／国会図」印。

〔備考〕

桐箱入り。桐箱の蓋に「詩仙堂遺書／施氏七書講義／共十八冊」と墨書。十八冊のうち、二・六・七・十五冊を除いた冊の巻首丁右下に、「詩仙堂」の蔵書印が押されている他、複数の巻の巻末に、元和六（一六二〇）年から七（一六二一）年にかけての石川丈山自筆の識語が記されていることから、石川丈山旧蔵の手沢本であったことが知られる。石川丈山（一五八三—一六七二）は、三河国碧海郡泉郷に生まれた。江戸時代を代表する漢詩人である。名は重之、また凹、字は丈山、通称嘉右衛門、号は東溪・六六山人・四明山人・南浦烏鱗布子・山木・山材・詩仙堂などと号した。慶長三（一五九八）年、十六歳で父の死により徳川家康に仕えたが、元和元（一六一五）年五月に勃発した大阪夏の陣では軍令違反によって家康の勘気を蒙り、

蟄居を余儀なくされたという。元和三（一六一七）年頃には、林羅山・堀杏庵・菅得庵・角倉素庵・戸田為春といった当時を代表する知識人との交遊も始まり、また羅山を介して藤原惺窩に師事して儒学を学んだ。

（第一冊、巻第二巻末）

南浦烏鱗布子（双辺枠に鳥文様の小朱印）

元和六歳在庚渚灘夏五月予主高虎公在南勢之邸舍而以雒之玄東生之本手親点之

（第三冊、巻第八巻末）

此乙冊武陵客中鳥氏為友生始成浪士而与余入雒而志乎学之皆朱於茲矣

惟元和辛酉之歲也

烏鱗書乎茲

（第五冊、巻第十三巻末）

元和六歳在庚申夏五月上章三冀迅笔而以此乙冊始乎巳之首卒乎酉之尾朱墨已成乎

南浦烏鱗布子（双辺枠に鳥文様の小朱印）

（第八冊、後見返し）

予暇皆隠几涉毫而朱以分句墨以加点也殷

乎此皆蠅集筆端駮去後來而管々擾々而覬鱗

隙而禍於吾矣乱人之性妨人之行者莫甚於爾也若以尔成紂之民罪之当陷塗炭者歟永

叔王思深憎爾允有以哉嗟呼嫉而尚有
余而已

圮氏重之戲書之（双辺枠に鳥文様の小墨印）

（第九冊、巻第二十四巻末）

此乙本以元和六庚申孟秋望日点焉竟

南浦烏鱗布子（双辺枠

に鳥文様の小朱印）

（第一〇冊、巻第二十七巻末）

元和六庚申夷則中章涉不律而点之

畢矣皆溽暑屢退微涼徐來而

作得牙意而已

南浦散人烏鱗布子（双辺枠に鳥文様の小朱印）

（第一一冊、巻第三十巻末）

庚申之歳夷則之月手毫於南州之邸舍而竟朱

墨訓点之功者乎余自少而志于学而徐迨於三

紀雖不可廢而謗陋而叵下其理難曉其儀矣

「嗟呼余篤怯乎文學而感慨係之而已」（白墨墨書訂正）圮氏重

之志之（双辺枠に鳥文様の小朱印）

（第二二冊、巻第三十一巻末）

圮左近重之（双辺枠に鳥文様の小朱印）

元和第六此一冊飯蒲田玄東之本於勢陽点之右前五六張者西來
寺之僧宗哲涉

予之笔点焉故不知其可否而已

(第一三冊、卷第三十三卷末)

圯近重之(双辺枠に鳥文様の小朱印)

元和商横濱灘麦秋下五黄手毫於勢陽之旅店以朱焉墨焉于岿霖雨

漏漏而頭痛無聊因訓点呻々而已

(第一五冊、卷第三十六卷末)

此一本元和四年戊午四月晦日点畢矣無有余本至不可弁字画

甚多俟後哲而正之如余孤豈其誇於於勉駿猛乎為家弟子倭訓焉一

笑

番易蒲田菅氏玄同子徳謹書

(第一六冊、卷第三十九卷末)

南浦烏鱗布子(双辺枠に鳥文様の小朱印)

元和六庚申蕤賓暇日隠几涉聿而始乎辰卒乎未者也因不論其可不

者歟

(第一七冊、卷第四十卷末)

圯氏重之(双辺枠に鳥文様の小朱印)

此一冊元蘇庚申秋七月「什又」九日「紙筆加墨」而訓点之功則

竟(「白墨墨書訂正」)

(第一八冊、卷第四十二卷末)

庚申歲予在於南浦邸舍陵暇肯而功点焉

鳥文様の小朱印)

(第一八冊、後表紙見返し)

門外不出

子部二兵家類

31 七書 (宋) 闕名撰

〔請求番号〕WA七―七八

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 後補薄茶色渋引格子刷文様表紙。二五・九×一八・五糎。四針

袋綴。

〔題簽〕 左肩に、後補薄桃色砂子散らしの書題簽(二八・八×四・六糎)、

「七書 日(月・星)」。第三冊のみ、「七書」の左下に「鍊齋題

籤」と墨書。

〔内題〕 「(低二格)七書序」、「孫子卷上(中・下)」、「呉子卷上(下)」、

「司馬法卷上(中・下)」、「三略」(補写)、「六韜」(補写)、「尉

繚子卷第一(一五)」、「唐太宗李衛公問对卷上(中・下)」。

〔尾題〕 「上終」、「孫子卷中(下)終」、「呉子卷上(下)終」、「司馬法卷

上(中・下)終」、「三略終」(補写)、「六韜終」(補写)、「尉繚

子卷第一(一五)終」、「唐太宗李衛公問对卷上(中・下)終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・五×一五・四糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「七書（孫子上（中・下）・呉子上（下）・

司馬上（中・下）・尉繚一（一五）・太宗上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五七丁（序・一丁、孫子、卷上・七丁、卷中・五丁。

二―四丁欠、卷下・一〇丁、呉子、卷上・一二丁、卷下・八丁、

司馬法、卷上・七丁、卷中・四丁、卷下・四丁）、第二冊、八三

丁（三略・一五丁、六韜・六八丁、全丁補写）、第三冊、七九丁

（尉繚子、卷第一・九丁。二丁、九丁補写、卷第二・一〇丁、卷

第三・七丁、卷第四・五丁、卷第五・八丁、唐太宗李衛公問对、

卷上・一五丁、卷中・一三丁、卷下・一二丁）。

〔刊記〕 無。跋末に「（低二格）慶長十一龍集丙午初秋念又一日／（低八

格）紫陽閑室元佶叟書焉」。

〔印記〕 「二尊院」（墨長方印）、「尚古／斎匣／藏記」（佐藤硯湖（一八三二

―一八九〇）、朱方印、陰刻）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、

「明治四二・六・四・購求」印。

〔備考〕 朱句読点、墨筆で返点と送仮名、上欄に朱墨で異本との校合が

施されている。第二冊は写本で補配され、第三冊「尉繚子巻第

一」の第二丁および第九丁も第二冊と同筆で補写されているが、

第三冊題簽の「鏡斎題籤」と墨書署名と同筆であることから、

富岡鉄斎によるものか。

伏見版。川瀬、二一七・三八六・六九六頁。「この七書には、同

種活字を以て殆ど同時に再度の印行が行はれた」、すなわち異植

字版が二種あるが、本書は川瀬のいう第一種本。

子部二兵家類

32 孫子 三卷

〔請求番号〕 WA七―二三三五

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色空押丸竜に牡丹唐草文様表紙。二八・四×一九・六

糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「孫子」と打付書。

〔内題〕 「（低二格）七書序」、「孫子巻上（中・下）」。

〔尾題〕 「上終」、「孫子巻中（下）終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・二×一五・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「七書 序」、「孫子上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 二六丁（江伯虎序・一丁、卷上・七丁、卷中・八丁、卷下・

一〇丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と、「（平成）12・2・9」受入印が押され

ているのみ。

〔備考〕 前表紙の見返しに識語、「正徳五^{乙未}年求之七冊 良起」。朱引、

朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、異本との校合が施さ

れている（識語の筆跡に近似）。

川瀬、六九七頁。伏見版七書を覆刻した古活字本、異版二種あり。図録篇六二二図（斯道文庫本）と同版。慶長元和中刊別版。

子部三法家類

33 祥刑要覽 存上卷（明）呉訥撰

〔請求番号〕WA七―二二三

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕茶色表紙（押八双はあるが、後補か）。二八・九×二〇・八糎。

五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「祥刑要覽序」、「祥刑要覽卷上」（低九格）都台致政海虞呉訥。

〔尾題〕「祥刑要覽卷上終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・〇×一六・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「祥刑 丁附」。

〔丁数〕三九丁（序、正統壬戌秋八月朔嘉議大夫都察院左副都銜史致仕

海虞呉訥謹序・一丁、「棠陰比事」の後序、景泰辛未夏海虞大耄

翁識・二丁、祥刑要覽卷上・三六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「岡田眞／之藏書」（岡田眞、朱長方印）、「月明莊」（反町茂雄、

朱長方印、大）、「國立國會圖書館藏書」（朱長方印）、「書／（昭

和）61・3・13／国会図」（朱印）。

〔備考〕巻頭に「祥刑要覽卷上」、巻末に「祥刑要覽卷上終」とあり、末尾に「下巻者即棠陰比事也」とあるので、両書合して印行されたとみられるが、下巻にあたるものの現所在は不明。無書入。川瀬、三八七・八三〇頁、（一）元和中刊。『弘文莊古活字版目録』三四二頁に掲載の書。

子部三法家類

34 棠陰比事 三卷（宋）桂万榮撰

〔請求番号〕WA七―一六九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕原装（押八双有）薄茶色表紙。二九・二×二〇・八糎。五針袋

綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（二〇・〇×四・〇糎）、「棠陰比事 全」。

〔内題〕「棠陰比事（毗至／切）事序」、「棠陰比事目録／（低三格）四明

桂（一格空）^{万榮}編集／（低三格）居延田（一格空）^澤（一格空）

校正、「棠陰比事卷上（中・下）」。

〔尾題〕「棠陰比事目録終」、「棠陰比事卷上（中）」、「棠陰比事卷下終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。大型活字、注小字双行。上欄に本文と

同じ大型活字で標目を植字する。

〔匡郭〕四周双辺（二三・四×一七・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「棠陰比事序（棠陰目録・棠陰比事上

（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 九七丁（序、至大元年孟冬吉日承事郎澧州路総管府推官居延田

澤謹序・二丁、序、歳在重光協洽閏月望日四明桂^{舊榮}序・二丁、

目錄・四丁、卷上・二八丁、卷中・二七丁、卷下・三四丁）。他、

前遊紙一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「有仁館／藏書印」（朱長方印）、「寶玲文庫」（フランク・ホー

レー、墨長方印）、「月明荘」（反町茂雄、朱長方印、大）、「國立

國會圖／書館藏書印」（朱長方印）、「書」（昭和）50・3・12／

国会図」（朱印）。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施されている。川瀬、

三八七・八三〇頁、「寛永中刊。寛永元年刊祥刑要覽等と同種の

活字を用ふ」。『弘文荘古活字版目録』、四〇二―四〇三頁に掲載

の書。帙題簽、森銃三筆（棠陰比事〈寛永中刊／古活字版〉）。

子部 五 医家類

35 新鍔雲林神穀 四卷（明）龔廷賢撰

〔請求番号〕 WA七―七七

〔体裁〕 大本、四冊。

〔表紙〕 新補焦茶色表紙。二六・七×一八・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「雲林神穀序」、「新鍔雲林医穀目錄」、「新鍔雲林神穀卷之一（一

四）／（低四格）太医院医官金谿雲林龔廷賢子才編著／（低

十五格）男懋陞／（十一格低）門生同邑吳濟民／全校／（低十一格）金陵書林周曰校刊行」。

〔尾題〕 「雲林神穀卷之一（一三）終」、「新鍔雲林神穀卷之四終」。

〔本文〕 每半葉一行×二一字。梅寿刊行書共通の梢小型の活字、注小

字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（二〇・六×一五・一糎）、無界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「雲林神（雲林神一―四）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二九丁（序、万曆辛卯春月上吉婦安鹿門山人茅坤譔・

一丁、序、大明万曆十九年歳次辛卯仲春之吉金谿龔廷賢譔・一

丁、目錄・三丁、卷之一・二四丁）、第二冊、三四丁（卷之二）、

第三冊、三八丁（卷之三）、第四冊、三八丁（卷之四）。

〔刊記〕 第一冊の扉（本来は前表紙の見返し）に、「太医院龔先／生雲林

神穀（大字）／対証用方実回生之扁鵲／万曆庚寅歳秋月吉旦周

対峰刊行／立言垂訓乃医国之雲林（小字）」の木記、第四冊の

卷末に、「万曆辛卯歳書／林周対峰鐫行」の木記があり、次いで

本版の刊記、「（低一格）元和六年歳舍庚申仲冬良日於二條梅寿

重刊」がある。

〔印記〕 「金澤學校」（朱長方印）、「TOKIO LIBRARY／東京書

籍館／明治五年／文部省創立／FOUNDED MONBUSHO

1872」（朱丸印）、「明治九年文部省交付」（朱長方印）。

〔備考〕 明代の初学者向けの医術書。中風から眼病まで、一五〇項余の

疾患の治療法を記す。無書入。川瀬、三三三頁。

子部 五医家類

36 新刊古今医鑑 八卷 (明) 龔信編、(明) 龔廷賢統編

〔請求番号〕WA七―二一六

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙 (二種)。二六・九×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の綠色書題簽 (一九・九×四・一糎、第三冊)、「古今医鑑 卷之三 (卷之七)」。

今医鑑 卷之三 (卷之七)」。第三・七冊以外は同様の題簽を貼付するが、無題。

〔内題〕 「新刊古今医鑑序」、「(低二格) 古今医鑑叙」、「(低一格) 叙古今医鑑弁首」、「新刊古今医鑑目錄」、「新刊古今医鑑發明凡例」、「新刊古今医鑑卷之一 (一八) (六格空) 金集 (一木集) (陰刻) / (低八格) 太医院医官金谿龔信編 / (低十二格) 男 (一格空) 廷賢統編 / (低八格) 姑蘇文台沈公重參校正」。

〔尾題〕 「目錄畢」、「凡例畢」、「古今医鑑卷之一 (四・五・六・七) 終」、「新刊古今医鑑卷之二 (八) 終」、「古今医鑑卷三之終」。

〔本文〕 每半葉一五行×一八字、小型活字、見出しに陰刻活字 (序、八行×一八字、大型活字)。

〔匡郭〕 四周双辺 (序、二二・四×一六・三糎)、有界。

〔版心〕 上中下段に魚尾と黒口とが結合した体裁の黒口があり、「医鑑序 (目錄・卷一―八)」、「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七二丁 (序・三丁、叙・三丁、叙古今医鑑弁首・二丁、目錄・二丁、凡例・二丁、卷之一・五九丁)、第二冊、七二丁

(卷之二)、第三冊、五七丁 (卷之三)、第四冊、六三丁 (卷之

四)、第五冊、六八丁 (卷之五)、第六冊、四六丁 (卷之六)、第七冊、七二丁 (卷之七)、第八冊、六二丁 (卷之八)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「石 / 參」(朱方印)、「津嶋氏 / 圖書信」(朱長方印)、「帝國 / 圖書 / 館藏」(朱方印)、「明治・三八・三・三〇購求」(朱丸印)。

〔備考〕 川瀬三三六・七五八頁。武田科学振興財団杏雨書屋蔵本 (貴二三一) の第八冊、後表紙見返しに慶長十六年の墨書識語 (慶長十六年辛亥五月三日南都笠坊宗信買得之) があることから、およその刊行年時を特定することができる。

子部 五医家類

37 新刊素問入式運氣論奥 三卷 (宋) 劉温舒撰

〔請求番号〕WA七―二四六

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 栗皮裏打改装表紙。二八・七×二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽 (一七・八×三・三糎)、「運氣論 全」。

〔内題〕 「素問入式運氣論奥序」(低六格) 朝散郎大医学司業劉温舒撰、「素問入式運氣論奥目錄」、「新刊素問入式運氣論奥卷上」、「素問入式運氣論奥卷中 (下)」。

〔尾題〕 「目錄畢」、「素問入式運氣論奥卷上 (中・下終)」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。梅寿刊行書共通の稍小型の活字。挿絵

図有。

〔匡郭〕 四周双辺（序、一七・六×一五・九糎、巻上、一七・五×一五・六糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「運氣（運氣中・運氣下） 丁附」。

〔丁数〕 七〇丁（序、元符己卯歲丁丑月望日序・一丁、巻末に「鼈峰種徳書堂重刻」と墨書、目録・一丁、五運六氣枢要之図・六十年紀運図・十千起運訣・十二支司天訣・二丁、巻上・二二丁、巻中・一五丁、巻下・二九丁）。

〔刊記〕 「〔低三格〕慶長十六年辛亥初冬吉辰梅寿重刊」。

〔印記〕 国会図書館の印と受入印（書／（平成）15. 2. 17／国会図）のみ。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬三三二頁、図書寮蔵本・京都帝大図書館蔵本・久原文庫蔵本・東洋文庫蔵本が著録されるが、久原文庫蔵（現、大東急記念文庫蔵）本・東洋文庫蔵本は、国会本と同じ双辺有界本（他、天理大学附属天理図書館にもあり）だが、図書寮蔵（現、宮内庁書陵部蔵）本は、双辺無界本で別版（川瀬未載）。京都帝大図書館蔵本は、現在京都大学には所蔵を確認できない。誤認か。

子部五 医家類

38 新刊黄帝明堂灸経 三卷 (元) 竇桂芳校

〔請求番号〕 WA七―一―一五

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 黄土色裏打改装表紙。二七・七×二〇・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「旧活字版／明堂灸経」と打付書。

〔内題〕 「新刊黄帝明堂灸経序」、「新刊黄帝明堂灸経巻上（中・下）」。

〔尾題〕 「新刊黄帝明堂灸経巻上（中）」、「明堂灸経巻第下終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・三×一七・二糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾（一部、黒口双花口魚尾）、中縫、「明堂灸経 丁附」。

〔丁数〕 五五丁（序、至大辛亥春月燕山活濟堂刊・一丁、巻上・二七丁半、巻中・一六丁半、巻下・一〇丁）。

〔刊記〕 下巻首に「燕山活濟堂刊／建安竇桂芳校正時刊」の原刊記があるのみ。

〔印記〕 「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治・三三・一・二六購求」（朱丸印）。

〔備考〕 灸療法の専著。元の至大四年（一三一）燕山（北京）活濟堂竇桂芳刊本の翻印本。朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄と行間に朱墨による書入が施されている。川瀬七七頁、慶長十三年刊本の後印、異植字版。図録篇七一七図（研医学会図書館蔵本）と同版。

子部 五医家類

39 黄帝内经素問註証發微 存卷一—五・七・八・九 (明)馬蒔撰

〔請求番号〕WA七—二五

〔体裁〕大本、九冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙(第一冊のみ後補薄茶色表紙)。

二八・〇×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕中央やや上に双辺枠、原刷目録題簽(二三・五×一一・六糎)。

〔内題〕〔低一格〕黄帝内经素問註証發微序、「黄帝内经素問註証發微

篇目」、「黄帝内经素問註証發微卷之一／大明太医院正文(一格空) 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証／(低八格) 兄举人梅梁子馬

蘊仲易素校」(「黄帝内经素問註証發微卷之九／大明太医院正

文(一格空) 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証／(低八格) 姪庠生

馬(行遠／文斗) 孫庠生馬存順世伝」。

〔尾題〕「黄帝内经素問註証發微篇目終」、「黄帝内经素問註証發微卷之一

(二・三・五) 終」、「四卷終」、卷之七、尾題なし、「黄帝内经素

問註証發微八(九) 卷終」。

〔本文〕序、每半葉九行×一九字。卷之一以下、每半葉一〇行×二二字、

上欄標目。梅寿刊行書共通の稍小型の活字、注小字双行。

〔匡郭〕序、四周双辺(序、二二・四×一五・九糎)、無界。目録以下、

四周双辺(卷之一、二二・四×一五・九糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「素問序(目録・卷一一九) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一二七丁(前表紙見返し)、「内経一書原分素問／靈樞二

経誠万古医／学宗祖也唐王太僕／曾註曾問章節不分／前後混淆

凡疑難大／象及五運六氣南北／政等項皆缺而不解／殊為遺憾吾

師分章／悉解凶註相參世当／珍之靈樞自古無註／今已註就通等

先梓／素問四方君子須認／宝命堂原板為記／(低一格) 門人石

(二格空) 通謹識(上欄)／刻馬玄台先生内／経素問註証發微

(大字)／闡五千年神聖之秘旨／万曆丙戌仲春宝命堂記／開億万

載医学之群疑」(整版)・序、万曆丙戌秋日華亭林下人馮行可書

于不染齋・二丁、序、大明万曆十四年冬十月吉旦／賜進士第嘉

議大夫／南京兵部右侍郎前奉／勅總理糧儲提督軍務巡撫応天等

府地方都察／(低一格) 院右副都御史山陰古林王元敬書・二丁、

素問誤字本書未審不記之(整版)・一丁、篇目・三丁、卷之一・

一一九丁)、第二冊、七七丁(卷之二)、第三冊、八二丁(卷之

三、七八丁ウ・一〇、「散」上下転倒)、第四冊、六六丁(卷之

四)、第五冊、六六丁(卷之五)、第六冊、八八丁(卷之七)、第

七冊、八七丁(卷之八、丁附一(八十七)、第八冊、九〇丁(卷

之八、丁附百五十一(二百四十)、第九冊、一〇四丁(卷之九、

四三丁の丁附「又四十二」、以下丁附にずれあり)。

〔刊記〕「(低七格) 慶長十三年十二月日梅寿重刊」。

〔印記〕「高木家藏」(高木利太、朱長方印)、「國立／圖書／館藏」(朱方

印)、購入印(昭和23、3、17)。

〔備考〕朱引、朱句読点(。)、墨筆で返点、振仮名、送仮名、他に朱墨

度。『高木文庫古活字版目録』一九〇番。川瀬三三一・七五二頁、再版。

子部五医家類

40 黄帝内经素問註証發微 九卷補遺一卷 (明) 馬蒔撰

〔請求番号〕WA七—一九〇

〔体裁〕大本、一二冊。

〔表紙〕薄縹色裏打改装表紙。二七・八×一九・八種。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽(二〇・五×三・一種)、「黄帝内经素問註証發微(二一九・補遺)」。他、目錄題簽(一三・一×

一一・六種)。

〔内題〕〔低一格〕黄帝内经素問註証發微序、「黄帝内经素問註証發微篇目」、「黄帝内经素問註証發微卷之一／大明太医院正文(一格空) 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証／(低八格) 兄举人梅梁子馬蘊仲易素校」(「黄帝内经素問註証發微卷之九／大明太医院正文(一格空) 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証／(低八格) 姪庠生馬(行遠／文斗) 孫庠生馬存順世伝」。

〔尾題〕「黄帝内经素問註証發微篇目終」、「黄帝内经素問註証發微卷之二

(三・五・六) 終」、「四卷終」、「黄帝内经素問註証發微七(八・

九) 卷終」、「黄帝内经素問註証發微附補遺終」。

〔本文〕序、每半葉九行×一九字。卷之一以下、每半葉一〇行×二二字、上欄標目。梅寿刊行書共通の稍小型の活字、注小字双行。

〔匡郭〕序、四周双辺(序、二一・四×一五・五種)、無界。目錄以下、

四周双辺(卷之一、二一・四×一五・七種)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「素問序(目錄・卷一九) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一二七丁(扉(本来は見返しにあるもの)、「内経一書

原分素問／靈樞二経誠万古医／学宗祖也唐王太僕／曾註曾問章節不分／前後混淆凡疑難大／象及五運六氣南北／政等項皆缺而不解／殊為遺憾吾師分章／悉解因註相參世当／珍之靈樞自古無註／今已註就通等先梓／素問四方君子須認／宝命堂原板為記／(低一格) 門人石(二格空) 通謹識(上欄)／刻馬玄台先生内／

經素問註証發微(大字)／闡五千年神聖之秘旨／万曆丙戌仲春宝命堂記／開億万載医学之群疑(整版)・一丁、序、万曆丙戌秋日華亭林下人馮行可書于不染齋・二丁、序、大明万曆十四年冬十月吉日／賜進士第嘉議大夫／南京兵部右侍郎前奉／勅總理糧儲提督軍務巡撫応天等府地方都察／(低一格) 院右副都御史山陰古林王元敬書・二丁、篇目・三丁、卷之一・一一九丁、第二冊、七七丁(卷之二)、第三冊、八二丁(卷之三)、第四冊、六六丁(卷之四)、第五冊、六六丁(卷之五)、第六冊、五三丁(卷之六)、第七冊、八八丁(卷之七)、第八冊、八七丁(卷之八)、第九冊、六三丁(卷之八、丁附八十八丁(百五十)、第一〇冊、九〇丁(卷之八、丁附百五十一(二百四十)、第一一冊、一〇四丁(卷之九、四二丁の丁附「又四十一」、以下丁附にずれあり)。第二二冊、四二丁(補遺)。

〔刊記〕「(低八格) 慶長十三年十二月日梅寿刊」。

〔印記〕「成親」(墨方印)、「國立國會圖書館」(朱長方印)、「書」(昭和)

52. 11. 11 / 国会図 (朱印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、他に朱墨による書人有。川瀬三三一・七五二頁、初版。昭和五二(一九七七)年に、旧新発田藩医長谷川家より寄贈。

子部 五 医家類

41 黄帝内经靈枢註証發微 九卷 (明) 馬蒔撰

〔請求番号〕WA七—一九一

〔体裁〕大本、六冊。

〔表紙〕薄縹色裏打改装表紙。二七・八×一九・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽(二〇・四×三・六糎)、「黄帝内经靈枢註証發微(二三之四)・(七七之八)」。

第二冊(卷之二)・第四冊(卷之五六)・第六冊(卷之九)は剥落。他、目録刷題簽(一三・三×一一・六糎)。

〔内題〕「註靈枢経序」、「黄帝内经靈枢註証發微篇目」、「刻馬玄台先生内经靈枢註証發微引」、「黄帝内经靈枢註証發微卷之一 / 大明太医院正文(一格空) 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証 / (低十格) 庠生孫又玄子馬存順校正」

「黄帝内经靈枢註証發微卷之九 / 大明太医院正文会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証 / (低七格) 山陰拳人味水子諸葛一鳴校」。

〔尾題〕「黄帝内经靈枢註証發微一卷(二卷・卷之三・卷之四・五卷・卷之六・七卷・卷之八・卷之九)終」。

〔本文〕序、每半葉九行×一九字。篇目・一〇行、引、卷之一以下、每半葉一〇行×二二字。上欄標目、梅寿刊行書共通の稍小型の活字、注小字双行。

〔匡郭〕序、四周双辺(二一・四×一五・七糎)、無界。篇目、四周双辺(二一・四×一五・七糎)、有界、引、四周双辺(二一・四×一五・六糎)、無界。卷之一、四周双辺(卷之一、二一・四×一五・八糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「靈枢序(靈枢・靈枢引・靈枢一—九) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇八丁(扉(本来は見返しにあるもの)、「内经一書 原分素問 / 靈枢両経誠万古医 / 学宗祖也唐王太僕 / 曾註素問謬 盤居多 / 靈枢自古無註凡経 / 絡宮衛脉体病証後 / 学鮮知大義吾 師註 / 成両経皆名曰註証 / 發微昔兵部古林王 / 公命工先梓素問 今 / 礼部康洲羅公命梓 / 靈枢以全内经一書 / 四方君子認宝命堂 / 原板為記柳宗模識(上欄) / 刻馬玄台先生内 / 经靈枢註証發 微(大字) / 〇靈枢自古無明註 / 万曆戊子孟春宝命堂梓 / 〇後 学于令有指南(整版)・一丁、註靈枢経序・二丁、篇目・三丁、 引・五丁、卷之一・九七丁)、第二冊、二二六丁(卷之二)、第 三冊、八六丁(卷之三・五九丁、卷之四・二七丁)、第四冊、 八四丁(卷之五・三八丁、卷之六・四六丁、三丁目整版)、第五

冊、八五丁（卷之七・三二丁、卷之八・五四丁）、第六冊、七九丁（卷之九。五二丁の丁附「又五十」、以下丁附にずれあり）。

〔刊記〕「（低九格）慶長十四^西年六月朔梅寿刊」。

〔印記〕「成親」（墨方印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、「書」（昭和）

52. 11. 11 / 国会図」（朱印）。

〔備考〕朱引、朱墨による書入多数有。天部化粧裁ち。昭和五二（一九七七）年に、旧新発田藩医長谷川家より寄贈。川瀬三三二頁。

子部一〇雑家類雜纂

42 群書治要 卷一―三・五―十二・十四―十九・二十一―五十（唐）

魏徵等奉救撰

〔請求番号〕WA七―一六

〔体裁〕大本、四七冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二六・二×一九・三種。四針袋綴。

〔題簽〕無。表紙中央に東京圖書館の蔵書票を貼付するのみ。

〔内題〕「群書治要序」（低三格）秘書監鉅鹿男臣魏徵等奉 勅撰、「群書治要目錄」、「群書治要卷第一」、「群書治要卷第二（一―五十）

／（低三格）秘書監鉅鹿男臣魏徵等奉 勅撰」。

〔尾題〕「群書治要卷第一（一―五十終）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。銅活字。

〔匡郭〕四周双辺（序、二一・〇×一五・五種）、有界。

〔版心〕上下に花口大黒魚尾、中縫、「群書治要序（一―五十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁（序・三丁、目錄・四丁、卷第一・二四丁）、

第二冊、三八丁（卷第二）、第三冊、三六丁（卷第三）、第四

冊、三五丁（卷第五）、五冊、三五丁（卷第六）、第六冊、三八

丁（卷第七）、第七冊、三四丁（卷第八）、第八冊、三二丁（卷

第九）、第九冊、三六丁（卷第十）、第一〇冊、三四丁（卷第

十一）、第一一冊、三四丁（卷第十二）、第一二冊、三一丁（卷

第十四）、第一三冊、三一丁（卷第十五）、第一四冊、三四丁（卷

第十六）、第一五冊、三七丁（卷第十七）、第一六冊、二九丁（卷

第十八）、第一七冊、三〇丁（卷第十九）、第一八冊、三三丁（卷

第二十一）、第一九冊、三六丁（卷第二十二）、第二〇冊、三五

丁（卷第二十三）、第二一冊、三六丁（卷第二十四）、第二二

冊、三八丁（卷第二十五）、第二三冊、三八丁（卷第二十六）、

第二四冊、二八丁（卷第二十七）、第二五冊、二九丁（卷第

二十八）、第二六冊、三四丁（卷第二十九）、第二七冊、三六丁

（卷第三十）、第二八冊、三〇丁（卷第三十一）、第二九冊、三三

丁（卷第三十二）、第三〇冊、三三丁（卷第三十三）、第三一

冊、三七丁（卷第三十四）、第三二冊、三四丁（卷第三十五）、

第三三冊、三二丁（卷第三十六）、第三四冊、三七丁（卷第

三十七）、第三五冊、三三丁（卷第三十八）、第三六冊、三五丁

（卷第三十九）、第三七冊、三八丁（卷第四十）、第三八冊、三一

丁（卷第四十一）、第三九冊、三三丁（卷第四十二）、第四〇

冊、二五丁（卷第四十三）、第四一冊、三二丁（卷第四十四）、第四二冊、三三丁（卷第四十五）、第四三冊、三六丁（卷第四十六）、第四四冊、三六丁（卷第四十七）、第四五冊、三三丁（卷第四十八）、第四六冊、三五丁（卷第四十九）、第四七冊、三七丁（卷第五十）。各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕無書入。卷第一、十三―二十四丁、焼損部分を切り取り修補の上、

補筆。

駿河版、元和二年刊。第一冊の巻首に「群書治要 昭和三十八年十二月帙作成」の付箋を挟む。

子部 一二類書類

43 蒙求 一卷附胡曾詠史詩 一卷

〔請求番号〕WA七―四

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕新補水色表紙。二六・六×一八・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（一六・八×二・三糎）、「蒙求・胡曾詠史詩」。

〔内題〕「蒙求」、「胡曾詠史詩」。

〔尾題〕無。

〔本文〕蒙求、七行×四字四段。四字（一句）毎に半字の間隔を置く。

胡曾詠史詩、毎半葉七行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕蒙求、胡曾詠史詩とも、四周双辺（二一・六×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「蒙求（胡曾詩） 丁附」。

〔丁数〕四四丁（蒙求・一一丁、胡曾詠史詩・三三丁）

〔刊記〕無。

〔印記〕「森／氏」（森枳園（立之）、朱方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治二八・三・九・購求」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている

（蒙求は朱引のみ）。川瀬、三八八・八三一頁、（四）慶長元和中刊本。無注（千字文・胡曾詠史詩合刻）。図録篇・二二四図に国会本の図版を収む。本書は、「千字文」を欠くが、三種揃ったものが大東急記念文庫に蔵される。

子部 一〇雑書類 雜纂

44 標題徐狀元補注蒙求 三卷（唐）李瀚撰、（宋）徐子光注

〔請求番号〕WA七―九〇

〔体裁〕特大本、三冊。

〔表紙〕後補小豆色表紙。三〇・〇×二一・一糎。五針袋綴。デジタル画像撮影時に綴じ糸をやや右にずらす。

〔題簽〕無。左肩に大きく「蒙求 上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「蒙求序」、「標題徐狀元補注蒙求卷上（下）」、「新刊徐狀元補注

蒙求卷中」。

〔尾題〕「新刊徐状元補注蒙求卷上終」、「新刊徐状元補注蒙求卷中」、「新刊徐状元補註蒙求卷下」。

〔本文〕 每半葉一四行×二〇字。本文は二行分の大型活字を用い、注は稍小型の整った活字を用いる。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・四×一六・六糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「蒙求卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六四丁（目録・二丁、薦蒙求表、天宝五年八月一日饒州刺史李良上表・一丁、蒙求序、巳酉仲冬之月辛卯吉日徐子光序・一丁、卷上・六〇丁）、第二冊、六〇丁（目録・二丁、卷中・五八丁）、第三冊、六一丁（目録・二丁、卷下・五九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「慈照寺」（朱長方印）、「子孫永保」（朱長方印、陰刻）、「菅原／長親」（朱方印、陰刻）、「衆芳」（朱長方印）、「清岡／藏書／記」（朱方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「大正／9・6・14／購求」（紫楯印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、朱墨による書き入れが多数施されている。

各巻末に公家の菅原長親による識語（寛政六（一七九四）年、文化十四（一八一七）年）が記されている。

〔墨書〕 寛政八年九月二十日從巳剋至午剋、同月三十日從未半剋至酉剋、十月一日從辰半剋至未剋、与平重慶対読一過、從四位下行式部権大輔兼大内記菅原長親／同十年四月三日与平貞兼

対読、起去月十九日至今、于時從四位上去内記」（卷上卷末）。

〔墨書〕 寛政八年十月八日自辰牌至午剋、自申牌至戌牌、与平重慶対読一過、于時從四位下行式部権大輔兼大内記菅原長親／（朱書）同十年自四月三日到同月廿六日、与吉田貞謙対読、于時叙從四位上去内記」（卷中卷末）。「墨書）寛政六年十月念五日与孝則対読三遍、正五位下行大内記菅原長親／同八年九月十二日自巳牌至子牌、与平重慶対読一過、于時從四位下行式部権大輔兼大内記／此行校正頗多／（朱書）同十年四月廿六日到五月六日、与吉田貞謙対読竟、于時叙從四位上去大内記／（墨書）文化十四年八月九日授正五位下藤原寿房了、于時正三位式部大輔」（卷下卷末）。川瀬、三八八・八三一頁、（三）元和寛永中刊本。

子部一二類書類

45 韻府群玉 三十八卷（元）陰時夫輯、（元）陰中夫註、（明）包瑜

統輯

〔請求番号〕 WA七―八二

〔体裁〕 大本、三十八冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）縹色（藍色）空押雷文襷に雨竜文様表紙。二九・一×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺枠原刷題簽（一九・二×三・九糎）、「増統韻府（上平／一（―入声／三十八）」。

〔内題〕 「増統会通韻府群玉卷之一／（低五格）晚学 陰 時夫 勁弦

編輯／(低五格) 新吳 陰 中夫 復春 編註／(低五格) 青田 包 瑜 (二格空) 希賢 統編」(―増続会通韻府群玉卷之三十八 (二格空) 入声 (陰刻))。

〔尾題〕「増続会通韻府群玉卷之一 (―卷之三十八終 (二格空) 大尾)」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。大型活字、注小字双行。標目、本文中に用いる大型活字を用いて上欄に植字。

〔匡郭〕 四周双辺 (二二・〇×一六・二糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「群玉一 (―三十八) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五四丁 (卷之一)、第二冊、三九丁 (卷之二)、第三冊、九四丁 (卷之三)、第四冊、五八丁 (卷之四)、第五冊、七二丁 (卷之五)、第六冊、六九丁 (卷之六)、第七冊、四九丁 (卷之七)、第八冊、六一丁 (卷之八)、第九冊、五三丁 (卷之九)、第一〇冊、五三丁 (卷之十)、第一一冊、五五丁 (卷之十一)、第一二冊、六〇丁 (卷之十二)、第一三冊、九五丁 (卷之十三)、第一四冊、七〇丁 (卷之十四)、第一五冊、三〇丁 (卷之十五)、第一六冊、二五丁 (卷之十六)、第一七冊、七四丁 (卷之十七)、第一八冊、六〇丁 (卷之十八)、第一九冊、九九丁 (卷之十九)、第二〇冊、八五丁 (卷之二十)、第二一冊、五五丁 (卷之二十一)、第二二冊、五八丁 (卷之二十二)、第二三冊、六三丁 (卷之二十三)、第二四冊、四一丁 (卷之二十四)、第二五冊、六四丁 (卷之二十五)、第二六冊、六九丁 (卷之二十六)、第二七冊、五一丁 (卷之二十七)、第二八冊、四七丁 (卷之

二十八)、第二九冊、八一丁 (卷之二十九)、第三〇冊、五九丁 (卷之三十)、第三一冊、七〇丁 (卷之三十一)、第三二冊、四六丁 (卷之三十二)、第三三冊、七七丁 (卷之三十三)、第三四冊、六一丁 (卷之三十四)、第三五冊、四〇丁 (卷之三十五)、第三六冊、六八丁 (卷之三十六)、第三七冊、六四丁 (卷之三十七)、第三八冊、七八丁 (卷之三十八)。

〔刊記〕「(低二格) 寛永二年^卯初春吉日／(低四格) 洛陽玉屋町田中長左衛門開刊」。

〔印記〕「TOKIO LIBRARY／東京書籍館／明治五年／文部省創立／FOUNDED BY MOMBUSHO 1872」(朱丸印)、「明治九年文部省交付」(朱長方印)。

〔備考〕 無書入。

子部一二類書類

46 韻府群玉 三十八卷 (元) 陰時夫輯、(元) 陰中夫註、(明) 包瑜統輯

〔請求番号〕 WA七―二八〇

〔体裁〕 大本、三十八冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二九・六×二〇・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽 (二〇・三×三・八糎)、「増続会通韻府二 (―卅六)」(題簽剥落の冊多し)。

〔内題〕「増続会通韻府群玉卷之一／(低五格) 晚学 陰 時夫 勁弦編

輯／（低五格）新呉 陰 中夫 復春 編註／（低五格）青田
包 瑜（二格空）希賢 続編」（増続会通韻府群玉卷之三十八
（二格空）入声（陰刻）。

〔尾題〕「増続会通韻府群玉卷之一（―卷之三十八終（二格空）大尾）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。大型活字、注小字双行。標目、本文中
に用いる大型活字を用いて上欄に植字。

〔匡郭〕四周双边（二二・〇×一六・二種）、有界。

〔版心〕黒口及花口魚尾、中縫、「群玉一（一三十八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五四丁（卷之一）、第二冊、三九丁（卷之二）、第三
冊、九四丁（卷之三）、第四冊、五八丁（卷之四）、第五冊、
七二丁（卷之五）、第六冊、六九丁（卷之六）、第七冊、四九
丁（卷之七）、第八冊、六二丁（卷之八）、第九冊、五三丁（卷
之九）、第一〇冊、五三丁（卷之十）、第一一冊、五五丁（卷之
十一）、第一二冊、六〇丁（卷之十二）、第一三冊、九五丁（卷
之十三）、第一四冊、七〇丁（卷之十四）、第一五冊、三〇丁（卷
之十五）、第一六冊、二五丁（卷之十六）、第一七冊、七四丁（卷
之十七）、第一八冊、六〇丁（卷之十八）、第一九冊、九九丁（卷
之十九）、第二〇冊、八五丁（卷之二十）、第二一冊、五五丁（卷
之二十一）、第二二冊、五八丁（卷之二十二）、第二三冊、六三
丁（卷之二十三）、第二四冊、四一丁（卷之二十四）、第二五
冊、六四丁（卷之二十五）、第二六冊、六九丁（卷之二十六）、
第二七冊、五一丁（卷之二十七）、第二八冊、四七丁（卷之

二十八）、第二九冊、八一丁（卷之二十九）、第三〇冊、五九丁
（卷之三十）、第三一冊、七〇丁（卷之三十一）、第三二冊、四六
丁（卷之三十二）、第三三冊、七七丁（卷之三十三）、第三四
冊、六一丁（卷之三十四）、第三五冊、四〇丁（卷之三十五）、
第三六冊、六八丁（卷之三十六）、第三七冊、六四丁（卷之
三十七）、第三八冊、七八丁（卷之三十八）。

〔刊記〕「（低二格）寛永二年^{壬辰}初春吉日／（低四格）洛陽玉屋町田中長左
衛門開刊」。

〔印記〕「國立國會／（平成）6・9・21／圖書館藏書」（朱丸印、第一
冊前表紙見返しのみ）。

〔備考〕無書入。第一冊のみ映入り。その理由は以下の経緯による。本
書は東京図書館時代には全三十八冊で閲覧に供されていたが、
帝國図書館時代には複本の山に捨て置かれ、閲覧に供されるこ
とはなかった。そのうちに第一冊とそれ以下の冊がばらばらに
なって、平成六年から第一冊のみが閲覧に供されるようになった。
近年、第一冊以外の存在が明らかになり、全三十八冊で貴
重書に登録され、元通り全三十八冊で閲覧に供されるようになった。

子部一二類書類 彙考之属

47 新雕皇朝類苑 七十八卷 目一卷（宋）江少虞撰
〔請求番号〕WA七―一五

〔体裁〕 大本、一五冊。

〔表紙〕 後補香色表紙。二八・六×二二・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一八・三×三・七糎）、「皇朝類苑（序／目録（一七十三之／八終）」。

〔内題〕 「皇宋事宝類苑序／（低一格）左朝請大夫権発遣吉州軍州事江少虞撰」、「皇宋事宝類苑後序」、「麻沙新雕 皇朝類苑卷第目錄二」（—新雕 皇朝類苑卷第目錄十四）、「新雕 皇朝類苑卷第一（一七十八）」。

〔尾題〕 「新雕 皇朝類苑卷第目錄二」（—十四終）、「新雕 皇朝類苑卷第一（一七十八終）」。

〔本文〕 序（跋）、每半葉八行×二二字。本文、每半葉一三行×二〇字。

〔匡郭〕 序、四周双边（二二・五×一六・七糎）、有界。目録、四周双边（二二・三×一六・六糎）、無界。本文、四周双边（二二・二×一六・六糎）、無界。

〔版心〕 序、目録、跋、黒口双花口魚尾、中縫、「皇朝類苑序（皇朝卷目録・皇朝類苑跋） 丁附」。本文、黒口双黒魚尾、中縫、「皇朝卷一（一七十八） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四九丁（序、紹興十五年五月十七日謹序・三丁、後序・二丁、総目・二丁、目録・四二丁）、第二冊、六六丁（卷第一・一二丁、卷第二・一三丁、卷第三・九丁、卷第四・一一丁、卷第五・一〇丁、卷第六・一一丁）、第三冊、六四丁（卷第七・一〇丁、卷第八・一三丁、卷第九・一一丁、卷第十・一一

丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・八丁）、第四冊、五八丁（卷第十三・一二丁、卷第十四・一三丁、卷第十五・一三丁、卷第十六・一〇丁、卷第十七・一〇丁）、第五冊、五七丁（卷第十八・一一丁、卷第十九・一一丁、卷第二十・一一丁、卷第二十一・一一丁、卷第二十二・一三丁）、第六冊、六〇丁（卷第二十三・一二丁、卷第二十四・一二丁、卷第二十五・一二丁、卷第二十六・一二丁、卷第二十七・一二丁）第七冊、六三丁（卷第二十八・一一丁、卷第二十九・一二丁、卷第三十・一〇丁、卷第三十一・一〇丁、卷第三十二・一〇丁、卷第三十三・一〇丁）、第八冊、六二丁（卷第三十四・一二丁、卷第三十五・一四丁、卷第三十六・一二丁、卷第三十七・一二丁、卷第三十八・一二丁）、第九冊、六二丁（卷第三十九・一二丁、卷第四十・一五丁、卷第四十一・一二丁、卷第四十二・一二丁、卷第四十三・一二丁）、第一〇冊、六六丁（卷第四十四・一三丁、卷第四十五・一二丁、卷第四十六・一二丁、卷第四十七・八丁、卷第四十八・一一丁、卷第四十九・一〇丁）、第一一冊、六五四丁（卷第五十・九丁、卷第五十一・九丁、卷第五十二・一二丁、卷第五十三・一一丁、卷第五十四・一二丁、卷第五十五・一三丁）、第一二冊、六二丁（卷第五十六・一三丁、卷第五十七・一〇丁、卷第五十八・一二丁、卷第五十九・一三丁、卷第六十・一三丁）、第一三冊、六六丁（卷第六十一・一三丁、卷第六十二・一一丁、卷第六十三・一〇丁、卷第六十四・一一丁、卷第

六十五・一二丁、卷第六十六・一〇丁）、第一四冊、六七丁（卷第六十七・一二丁、卷第六十八・一三丁、卷第六十九・一三丁、卷第七十・一〇丁、卷第七十一・一〇丁、卷第七十二・一〇丁）、第一五冊、六三丁（卷第七十三・一〇丁、卷第七十四・一〇丁、卷第七十五・一〇丁、卷第七十六・一〇丁、卷第七十七・一一丁、卷第七十八・八丁、跋刊・四丁）。各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕「元和七年重光作臘六月晦日／前南禅臣僧瑞保謹書」。

〔印記〕「東京／圖書／館藏」（朱方印）、明治十九年二月廿五日購求

（朱）。

〔備考〕朱引、朱句読点、上下欄に墨筆で誤植等の訂正、その他、朱墨による書入が若干施されている。第一冊の巻首に「皇朝類苑昭和三十八年十二月帙作製」の付箋を挟む。元和勅版。銅活字とするは誤り。

子部 一二類書類彙考之属

48 新雕皇朝類苑 七十八卷目一卷（宋）江少虞撰

〔請求番号〕WA七―三九

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・七×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。表紙中央に東京圖書館の蔵書票を貼付するのみ。

〔内題〕「皇宋事宝類苑序／（低一格）左朝請大夫權發遣吉州軍州事江

少虞撰」、「皇宋事宝類苑後序」、「麻沙新雕 皇朝類苑卷第目錄一」（―新雕 皇朝類苑卷第目錄十四）、「新雕 皇朝類苑卷第一（―七十八）」。

〔尾題〕「新雕 皇朝類苑卷第目錄一」（―十四終）、「新雕 皇朝類苑卷第一（―七十八終）」。

〔本文〕序（跋）、每半葉八行×二二字。本文、每半葉二三行×二〇字。

〔匡郭〕序、四周双辺（二二・五×一六・七糎）、有界。目錄、四周双辺

（二二・三×一六・六糎）、無界。本文、四周双辺（二二・二×一六・六糎）、無界。

〔版心〕序、目錄、跋、黒口双花口魚尾、中縫、「皇朝類苑序（皇朝卷目

録・皇朝類苑跋）丁附」。本文、黒口双黒魚尾、中縫、「皇朝卷一（―七十八）丁附」。

〔丁数〕第一冊、八三丁（序、紹興十五年五月十七日謹序・三丁、後序・

二丁、総目・二丁、目錄・四二丁、卷第一・一二丁、卷第二・一三丁、卷第三・九丁）、第二冊、九六丁（卷第四・一二丁、卷第五・一〇丁、卷第六・一一丁、卷第七・一〇丁、卷第八・一三丁、卷第九・一一丁、卷第十・一二丁、卷第十一・一一丁、卷第十二・八丁）、第三冊、八〇丁（卷第十三・一二丁、卷第十四・一三丁、卷第十五・一三丁、卷第十六・一〇丁、卷第十七・一〇丁、卷第十八・一二丁、卷第十九・一二丁）、第四冊、九五丁（卷第二十・一二丁、卷第二十一・一二丁、卷第二十二・一三丁、卷第二十三・一二丁、卷第二十四・一二

丁、卷第二十五・一二丁、卷第二十六・一二丁、卷第二十七・一二丁）、第五冊、一〇一丁（卷第二十八・一二丁、卷第二十九・一二丁、卷第三十・一〇丁、卷第三十一・一〇丁、卷第三十二・一〇丁、卷第三十三・一〇丁、卷第三十四・一二丁、卷第三十五・一四丁、卷第三十六・一二丁）、第六冊、八六丁（卷第三十七・一二丁、卷第三十八・一二丁、卷第三十九・一二丁、卷第四十・一五丁、卷第四十一・一二丁、卷第四十二・一二丁、卷第四十三・一二丁）、第七冊、九七丁（卷第四十四・一三丁、卷第四十五・一二丁、卷第四十六・一二丁、卷第四十七・八丁、卷第四十八・一一丁、卷第四十九・一〇丁、卷第五十・九丁、卷第五十一・一〇丁（四丁重複）、卷第五十二・一二丁）、第八冊、九六丁（卷第五十三・一一丁、卷第五十四・一一丁、卷第五十五・一三丁、卷第五十六・一三丁、卷第五十七・一〇丁（卷第五十七の十丁と卷第五十八の一丁乱丁）、卷第五十八・一二丁、卷第五十九・一三丁、卷第六十・一三丁）、第九冊、一一四丁（卷第六十一・一三丁、卷第六十二・一一丁、卷第六十三・一〇丁、卷第六十四・一一丁、卷第六十五・一一丁、卷第六十六・一〇丁、卷第六十七・一一丁、卷第六十八・一三丁、卷第六十九・一三丁）、第一〇冊、九三丁（卷第七十・一〇丁、卷第七十一・一〇丁、卷七十二・一〇丁、卷第七十三・一〇丁、卷第七十四・一〇丁、卷第七十五・一〇丁、卷第七十六・一〇丁、卷第七十七・一一

丁、卷第七十八・八丁、跋刊・四丁）。

〔刊記〕「元和七年重光作噩六月晦日／前南禪臣僧瑞保護書」。

〔印記〕「藤原／明遠／之印」（朱方印）、「TOKIO LIBRARY

／東京書籍館／明治五年／文部省創立／FOUNDED BY MOMBUSHO 1872」（朱丸印）、「明治八年文部省交付」

（朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱傍点、藍で句読点が施されている他、上欄に藍書入若

干。第一〇冊の卷末に、以下の文章を刻した一紙（双辺有界、九行、版心、盈進齋藏）を綴じる。「此書ハ藤原明遠カ家ニ蔵ムル者ナリ其永／久ニ伝リ後・世君・子ノ覽・閱ニ備リテ其一、助／トモナリナンコトヲ冀フテ茲ニ蔵ム／アマタノ書籍ヲ残シ置トテ／書書コトニ哀哀レトモ見ン後後ノ世ニ／我ヲ忍フルルシ有セハ／姓ハ藤原名ハ明遠字ハ深藏別号ハ蘭林江／戸ノ人ナリ其先キニ・條家ノ別レ富、小・路藤／原ノ俊通ヨリ出テ世／徳川將軍家ニ仕フ明遠／家重公時^キ字・士ノ職ヲ以テ近・署ニ直ス／宝曆十一年辛巳己九月 日／印^ニ学士 印^ニ藤原明遠」（宝曆十一）「辛巳己九」は墨書。元和勅版。銅活字とするは誤り。

子部一二類書類

49 新編古今事文類聚 一三二卷（宋）祝穆撰、（元）富大用〔補〕編

〔請求番号〕WA七―二九四

〔体裁〕 大本八三冊。

〔表紙〕 茶色渋引き表紙（押八双はあるが、後補）。二六・五×二〇・〇種。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一八・二×三・六種）、「事文類聚」（破損）共八十三冊（藍筆）／都四十四冊）催、「事文類聚 催」。破損、剥落の冊多し。第一冊、右下に「目録七冊」（墨書）、第八冊から表紙に目録題を墨書。

〔内題〕 「新編古今事文類聚総目」、「新編古今事文類聚目録一」（低八格）建安 祝 穆和父編」（「新編古今事文類聚目録六」）、「新編古今事文類聚卷之二」（低八格）建安 祝 穆和父編」（「新編古今事文類聚卷之二〇二一」（低六格）南 江 富 大 用 時可編）。

〔尾題〕 「新編古今事文類聚総目終」、「新編古今事文類聚目録一」（一六終）、「新編古今事文類聚卷之二」（卷之二〇二一）。

〔本文〕 每半葉二行×一九字。序は每半葉九行×一五字。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・五×一六・一種）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「事文序（事文序終・事文総目・事文目録一）六・事文一」（二百二十二） 丁附）。

〔丁数〕 第一冊、二八丁（序、淳祐丙午臘月望日晚進祝^釋伯和父謹識・三丁、総目・二五丁）、第二冊、六二丁（目録一、卷之一（二十七）、第三冊、一二四丁（目録二、卷之二十八（八十二）、第四冊、一〇八丁（目録三、卷之八十三（一百二十四）、第五

冊、一二二丁（目録四、卷之二百二十五（一百七十）、第六冊、九〇丁（目録五、卷之一百七十一（二百六、卷尾丁欠）、第七冊、五二丁（目録六、卷之二百七（二百二十一）、第八冊、六九丁（卷之一・二二丁、卷之二・三〇丁、卷之三・一八丁、一七丁欠）、第九冊、六〇丁（卷之四・二九丁、卷之五・三一丁）、第一〇冊、八五丁（卷之六・二二丁、卷之七・二二丁、卷之八・二二丁、卷之九・二二丁）、第一一冊、六八丁（卷之十・二三丁、卷之十一・一八丁、卷之十二・二七丁）、第一二冊、七三丁（卷之十三・二九丁、卷之十四・二七丁、一九・二〇丁乱丁、卷之十五・一七丁）、第一三冊、六五丁（卷之十六・一九丁、卷之十七・二八丁、卷之十八・一八丁）、第一四冊、八二丁（卷之十九・一九丁、卷之二十・二二丁、卷之二十一・二四丁、卷之二十二・一八丁）、第一五冊、五七丁（卷之二十三・二五丁、卷之二十四・三三丁）、第一六冊、八〇丁（卷之二十五・二二丁、卷之二十六・一九丁、卷之二十七・二四丁、卷之二十八・二五丁、一九・二〇丁乱丁）、第一七冊、七七丁（卷之二十九・三三丁、卷之三十・二四丁、卷之三十一・二二丁）、第一八冊、五一丁（卷之三十二・二四丁、卷之三十三・二七丁）、第一九冊、七二丁（卷之三十四・三三丁、卷之三十五・三九丁）、第二〇冊、四九丁（卷之三十六・二二丁、卷之三十七・二七丁）、第二一冊、六四丁（卷之三十八・一八丁、卷之三十九・二七丁、卷之四十・一九丁）、第二三冊、六二冊（卷之四十一・一九丁、卷之

四十二·二六丁、卷之四十三·一七丁)、第三三册、六一丁(卷之四十四·二二丁、卷之四十五·一八丁、卷之四十六·二二丁)、第二四册、四二丁(卷之四十七·二六丁、卷之四十八·二六丁)、第二五册、六八丁(卷之四十九·二九丁、卷之五十·一七丁、卷之五十一·二二丁)、第二六册、六四丁(卷之五十二·一九丁、卷之五十三·六丁、卷之五十四·九丁、卷之五十五·一七丁、卷之五十六·一三丁)、第二七册、五四丁(卷之五十七·九丁、卷之五十八·一九丁、卷之五十九·八丁、卷之六十·一八丁)、第二八册、六五丁(卷之六十一·二二丁、卷之六十二·二三丁、卷之六十三·二二丁、第二九册、六六丁(卷之六十四·二二丁、卷之六十五·二二丁、卷之六十六·二三丁)、第三〇册、六三丁(卷之六十七·二二丁、卷之六十八·二二丁、卷之六十九·二〇丁)、第三一册、八九丁(卷之七十·二〇丁、卷之七十一·二二丁、卷之七十二·一九丁、卷之七十三·二九丁)、第三二册、七三丁(卷之七十四·二五丁、卷之七十五·二七丁、卷之七十六·二二丁)、第三三册、六九丁(卷之七十七·一八丁、卷之七十八·二四丁、卷之七十九·二七丁)、第三四册、五二丁(卷之八十·二六丁、卷之八十一·二六丁)、第三五册、七八丁(卷之八十二·三二丁、卷之八十三·二七丁、卷之八十四·一九丁)、第三六册、六一丁(卷之八十五·二六丁、卷之八十六·一八丁、卷之八十七·一七丁)、第三七册、六〇丁(卷之八十八·一九丁、卷之八十九·一八丁、卷之

九十·二三丁)、第三八册、四四丁(卷之九十一·二二丁、卷之九十二·二三丁)、第三九册、六三丁(卷之九十三·一四丁、一一·一二丁乱丁、卷之九十四·二二丁、卷之九十五·二八丁)、第四〇册、五六丁(卷之九十六·三〇丁、卷之九十七·二六丁)、第四一册、六八丁(卷之九十八·二〇丁、卷之九十九·二二丁、卷之一百·一六丁、卷之一百一·一一丁)、第四二册、七二丁(卷之一百二·二四丁、二二·二三丁乱丁、卷之一百三·二五丁、卷之一百四·二三丁)、第四三册、六七丁(卷之一百五·二五丁、卷之一百六·二三丁、卷之一百七·一九丁)、第四四册、五九丁(卷之一百八·一九丁、卷之一百九·二〇丁、卷之一百十·二〇丁)、第四五册、七六丁(卷之一百十一·三六丁、卷之一百十二·四〇丁)、第四六册、七四丁(卷之一百十三·一九丁、一一·一三丁乱丁、卷之一百十四·二三丁、卷之一百十五·三二丁)、第四七册、九四丁(卷之一百十六·四三丁、卷之一百十七·二五丁、卷之一百十八·二六丁)、第四八册、八〇丁(卷之一百十九·三〇丁、卷之一百二十·二九丁、卷之一百二十一·二二丁、一三丁欠)、第四九册、五八丁(卷之一百二十二·三五丁、卷之一百二十三·二三丁)、第五〇册、五八丁(卷之一百二十四·二六丁、卷之一百二十五·三二丁)、第五一册、七四丁(卷之一百二十六·二五丁、卷之一百二十七·一八丁、卷之一百二十八·三一丁、一〇·一一丁乱丁)、第五二册、四八丁(卷之一百二十九·一四

丁、卷之一百三十·一七丁、卷之一百三十一·一七丁)、第五三冊、七三丁(卷之一百三十二·二七丁、卷之一百三十三·二六丁、卷之一百三十四·二〇丁)、第五四冊、四五丁(卷之一百三十五·二三丁、卷之一百三十六·二二丁)、第五五冊、五二丁(卷之一百三十七·三一丁、卷之一百三十八·二二丁)、第五六冊、七八丁(卷之一百三十九·一九丁、卷之一百四十·一九丁、卷之一百四十一·二三丁、卷之一百四十二·一七丁)、第五七冊、八七丁(卷之一百四十三·三六丁、卷之一百四十四·二九丁、卷之一百四十五·二二丁)、第五八冊、八〇丁(卷之一百四十六·二一丁、卷之一百四十七·一六丁、卷之一百四十八·二六丁、卷之一百四十九·一七丁)、第五九冊、六〇丁(卷之一百五十·三二丁、卷之一百五十一·二八丁)、第六〇冊、四四丁(卷之一百五十二·二九丁、卷之一百五十三·一五丁)、第六一冊、六五丁(卷之一百五十四·二二丁、卷之一百五十五·二二丁、卷之一百五十六·二二丁)、第六二冊、七一丁(卷之一百五十七·一七丁、卷之一百五十八·三五丁、卷之一百五十九·一九丁)、第六三冊、四四丁(卷之一百六十·二四丁、卷之一百六十一·二〇丁)、第六四冊、七五丁(卷之一百六十二·一九丁、卷之一百六十三·二九丁、卷之一百六十四·二七丁)、第六五冊、

七三丁(卷之一百六十五·二四丁、卷之一百六十六·二一丁、卷之一百六十七·二八丁)、第六六冊、六三丁(卷之一百六十八·二二丁、卷之一百六十九·一八丁、卷之一百七十·二三丁)、第六七冊、六四丁(卷之一百七十一·一四丁、卷之一百七十二·一九丁、卷之一百七十三·三一丁)、第六八冊、九〇丁(卷之一百七十四·一五丁、卷之一百七十五·一六丁、卷之一百七十六·二一丁、卷之一百七十七·三八丁)、第六九冊、五六丁(卷之一百七十八·二七丁、卷之一百七十九·七丁、卷之一百八十·三二丁)、第七〇冊、八三丁(卷之一百八十一·四九丁、卷之一百八十二·三四丁)、第七一冊、五〇丁(卷之一百八十三·二七丁、九·一〇丁乱丁、卷之一百八十四·二三丁)、第七二冊、五九丁(卷之一百八十五·一六丁、卷之一百八十六·一〇丁、卷之一百八十七·三三丁)、第七三冊、一〇〇丁(卷之一百八十八·七九丁、卷之一百八十九·二二丁)、第七四冊、五八丁(卷之一百九十)、第七五冊、九三丁(卷之一百九十一·四二丁、卷之一百九十二·一三丁、卷之一百九十三·二二丁、卷之一百九十四·九丁、卷之一百九十五·七丁)、第七六冊、六六丁(卷之一百九十六·三五丁、卷之一百九十七·二三丁、卷之一百九十八·八丁)、第七七冊、五六丁(卷之一百九十九·三七丁、卷之二百·一九丁)、第七八冊、一〇二丁(卷之二百一〇二百四と卷二百五·六、乱丁)。

卷之二百五・二四丁、卷之二百六・七丁、卷之二百一・四〇丁、
卷之二百二・一四丁、卷之二百三・一二丁、卷之二百四・五丁）、
第七九冊、九二丁（卷之二百七・一七丁、卷之二百八・一七丁、
卷之二百九・六丁、卷之二百十・七丁、卷之二百十一・一九
丁、卷之二百十二・二六丁、卷尾丁欠）、第八〇冊、九〇
丁（卷之二百十三・三六丁、卷之二百十四・三二丁、卷之
二百十五・二三丁）、第八一冊、八七丁（卷之二百十六・六三
丁、卷之二百十七・二四丁）、第八二冊、八四丁（卷之
二百十八・四二丁、卷之二百十九・四二丁）、第八三冊、一一六
丁（卷之二百二十・六八丁、卷之二百二十一・四八丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「盛嵐ノ之印」（朱方印）、「圓融藏」（朱長方印、以上二印、梶井
宮家、三千院、宮門跡）、「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、朱
長方印）、「国会図書館」印と受入印「書／2018・12・20／
国会図」。

〔備考〕 無書入。紺色紙入（題簽、古今事文類聚（元和寛永中刊古活字
版／大原三千院旧藏）、森銑三筆）。川瀬、三八九・八三二頁、
元和中刊本。「本書の活字は元和勅版の活字を襲用してゐる部
分があると認められるので、内閣文庫蔵本には元和七年の識語
も見え、かたがた元和年間の印行と考へられる」（八三二頁）。
内閣文庫には二点の所蔵があり、そのうちの一点（請求番号、
365・33）には巻末に、元和七年十月から寛永元年六月六

日までの墨識語が施されている。これにより刊行年時も元和七
年十月以前と特定できる。

子部一四道家類

50 句解南華真經（莊子虞齋口義） 十卷 附新添莊子十論（宋）林希逸

撰、附（宋）李士表撰

〔請求番号〕 WA七七八八

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補茶色渋引表紙に、「帝／國／圖／書／館／蔵」の型押のあ
る覆表紙（薄茶色布目地縦刷毛目文様表紙） 附。二八・九×
二〇・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕 茶色渋引表紙、左肩に後補双辺刷棹書題簽（二〇・〇×四・八
糎）、「莊子虞齋口義 一（一十止）」。覆表紙、左肩に後補双辺
刷棹書題簽（一八・一×三・八糎）、「莊子口義 一（一五止）」。

〔内題〕 「句解南華真經發題／（低五格）虞 齋 林 希逸」、「句解南華
真經目錄」、「句解南華真經卷之一（一十）／（低八格）虞 齋
林 希逸」、「莊子後序」、「新添莊子十論／（低六格）教 授
李 士表 述」。

〔尾題〕 「句解南華真經卷之一（一十卷之十 終）」、「新添莊子十論卷終」。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・九×一五・一糎）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「莊子序（穆陵宸翰・莊子目錄・莊子一

〔一十〕・莊子後序・莊子跋・新添莊子論」 丁附〕。

〔丁数〕 第一冊、一〇八丁（序、景定辛酉季夏望日石塘林同謹書・二丁、発題・三丁、穆陵宸翰・一丁、目録・一丁、卷之一・四九丁、卷之二・五二丁）、第二冊、一一六丁（卷之三・五五丁、卷之四・六一丁）、第三冊、一一七丁（卷之五・五一丁、卷之六・六六丁）、第四冊、一二五丁（卷之七・六二丁、卷之八・六三丁）、第五冊、一三〇丁（卷之九・四七丁、卷之十・四九丁、莊子後序・三丁半、跋・一丁半、新添莊子十論・二九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「参春／文庫」（三春藩、朱方印）、「TOKIO LIBRARY Y／東京書籍館／明治五年／文部省創立／FOUNDED BY MOMBUSHO 1872」（朱丸印）、「明治九年文部省交付」（朱長方印）。

〔備考〕 無書入。川瀬三九一・八三三頁、(-)慶長中刊。二卷ずつ各巻表紙とも合冊。

子部 一四道家類

51 太上感應篇経伝 (宋) 李昌齡編

〔請求番号〕 WA七―二〇七

〔体裁〕 大本、一冊。唐本仕立て。

〔表紙〕 後補縹色表紙。二七・四×一六・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「太上感應真経 全」と打付書。

〔内題〕 「太上感應真経序」、「太上感應経」、「太上感應篇経伝」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉八行×一五字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二〇・八×一三・二糎)、無界。

〔版心〕 卷首序一丁のみ、黒口双花口魚尾、中縫、「序 丁附」。以下、白口下向き花口魚尾、中縫、「序(感應篇序・感應篇) 丁附」(七丁〜十九丁は丁附を刻するのみ)。

〔丁数〕 七二丁（序、萬曆壬寅歲臘月穀旦／賜同進士出身前／欽差提督南畿學校陝西道御史年治／生柯挺頓首拜撰・四丁、太上感應経・二丁（以上版心、序）、太上感應篇経伝・一三丁（以上、通し丁附一〜十九）、太上感應篇経伝・五三丁（序・二丁、本文・五一丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と、「昭和」60・7・26」受入印が押さえているのみ。

〔備考〕 無書入。料紙は薄手の「竹紙に似せた打紙」。川瀬三九二・八三四頁、寛永正保中刊。

子部 一四道家類

52 列子膚齋口義 二卷 (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕 WA七―一一七

〔体裁〕 大本、四冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・三×一八・五糎。五針袋綴。右肩に「注取 取意 映入」(朱長方印、高木文庫)

〔題簽〕無。左肩に「列子 一(一四)」と打付書。

〔内題〕「列子虜齋口義卷上(下) / (低七格) 虜(一格空) 齋(一格空) 林(三格空) 希逸」。

〔尾題〕「列子虜齋口義卷上(下)」。

〔本文〕每半葉九行×一九字。稍小型の活字を用いる。注低一格。

〔匡郭〕四周双辺(二〇・五×一四・六糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「列子上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四八丁(卷上、列子序・天瑞第一・黄帝第二)、第二冊、五八丁(黄帝第二の続き、四九丁)・周穆王第三・仲尼第四)、第三冊、四六丁(卷下、湯問第五・力命第六)、第四冊、四九丁(力命第六の続き、四七丁)・楊朱第七・節符第八)。他、各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「守/閑」(判読不明、朱陰刻印)、「白石」(朱瓢筆型印)、「高木家蔵」(高木利太、朱長方印)、「國立/圖書/館蔵」(朱方印)、「國立圖書館/昭23・3・17和/購入」(紫楷田印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄等に朱墨による書き入れが若干施されている。料紙の繊維が粗く残る。川瀬、三九〇・八三三頁、慶長元和中刊。高木文庫蔵とあるのが本書。

子部一四道家類

53 老子虜齋口義 二卷 (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕WA七―五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙(裏打改装)。二六・九×一八・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「低一格」老子虜齋口義発題 / (低六格) 虜 齋 林(二格空) 希逸、「老子虜齋口義上(下) / (低七格) 虜 齋 林(二格空) 希逸」。

〔尾題〕「低一格」老子虜齋口義発題、「老子虜齋口義上(下)」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺(上、二〇・六×一四・五糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「老子口義上(下) 丁附(通し丁附)」。

〔丁数〕九三丁(発題・三丁、上・四二丁、下・四八丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「東京/圖書/館蔵」(朱方印)。

〔備考〕墨・藍墨による書入れ、朱・墨による訓点が施されている。巻下の十六丁を欠き、その箇所にも巻上の十六丁を錯入するが、錯入丁は九行×一八字の異版である。巻上の十六丁裏の九行目には「之蓄之言造化之間生養萬物也造物何嘗視之以為」(載菅暉章第十注文)の二一字が脱落しているが、錯入された異版には脱落がない。すなわち脱文を補訂し、同じ丁内に字数を収めるた

め、字詰を九行×一八字にしたのだろう。同版がベルリン国立図書館（川瀬のいう大島雅太郎蔵本、以下、ベルリン本）と小平市中央図書館平櫛田中文庫（存下巻、以下、小平本）にあるが、両書には国会本の巻下の第十六丁に見られる異版の錯入はなく、本来の巻下の十六丁が入っている。国会本は巻上の十六丁の補訂丁を誤って下巻の十六丁に入れてしまったのだろう（その版心部分に「老子口義下 十六」とあるのは不審）。参考までに、国会本が欠く下巻の十六丁を、ベルリン本と小平本の本文で挙げておく。「（低一格）入於軍旅之中而不被兵甲惟其無心則／（低一格）物不能傷之兜所以不能觸虎所以不能／（低一格）害兵所以不能傷惟其無心故也莊子曰／（低一格）入水不濡入火不熱亦是此意夫何故又／（低一格）發一問言物之所以不能傷者以我能虛／（低一格）能損能無而無所謂死地也此章凡下兩／（低一格）箇夫何故其意甚鄭重乃老子受用之妙／（低一格）處所以如此申言之昔有某寺前一池惡／（低一格）蛟處之人皆不敢近一僧自遠來初不之」（16オ）／（低一格）知行至池邊遂解衣而浴見者告之曰此／（低一格）中有蛟甚惡不可浴也僧曰我無害物之／（低一格）心物無傷人之意遂浴而出老子之説似／（低一格）於虚言以此而觀則其言亦不虛矣／（低一格）道生之章第五十一／道生之德畜之物形之勢成之是以萬物莫／不尊道而貴德道之尊德之貴夫莫之命而／常自然故道生之畜之長之育之成熟之養／之覆之生而不有爲而不恃長而不宰是謂（16ウ）。さらに国会

本・ベルリン本・小平本の三本を比べると、ベルリン本で脱文のある巻下の十九丁と二十丁が国会本と小平本では脱文が補訂された異版（同種の活字を用いているので異植字版と言うべきか）に差し替えられている。いずれもベルリン本にある脱文を補訂をしている例である。十九丁表、使我介然章第五十三の本文、「厭飲食資材有餘」の「厭」を、ベルリン国立図書館本は脱落し、国会本と小平本ではこれを補訂している（但し、「使我介然章第五十三」の「使」を国会本は「便」と誤る）。十九丁裏の注文、「大道甚平人之求道不知適正好行科徑之路譬如有」の二字がベルリン本では脱落しているが、国会本と小平本はこれを補訂している。二十丁表、善建不拔章第五十四の本文、「其徳之長修之國其徳乃豊」の七字、「長修之國其徳乃」を、ベルリン本は脱落し、国会本と小平本ではこれを補訂している。川瀬三九一・八三三頁、（一）慶長中刊。図録篇・二三七図に本書の図版を収む。本書に刊記はないが、巻首発題の前に補綴されている元和四年（一六一八）の林羅山（一五八三〜一六五七、号道春）による藍筆識語（本朝古来、読老莊列者、老則用河上公、莊／則用郭象、列則用張堪、而未嘗有及希逸／口義者、近代、南禪寺沙門、岩惟肖、嘗聞莊／子于耕雲老人明魏、而后、惟肖、始説莊子／希逸口義、爾来、比々皆然、雖然未及老子／希逸口義、至於今、人皆依河上、余、嘗見道／書全書、載老子數家註、又有老子翼、有老（子）朱補入）／通、且又、有林兆恩所解者、

不逞枚数、希逸、／祝諸家、最為優、今、余隨見、隨点、而附
 倭訓／于旁、他日、雖有風葉之可校、而又、吾家之／敝帚在于
 茲歟。／元和戊午孟春吉日辰令 道春子」(本朝古來、老莊列
 を読む者、老は則ち河上公を用ひ、莊は則ち郭象を用ゆ、列は
 則ち張堪を用ゆ、而れども未だ嘗て希逸が口義に及ぶ者有らず、
 近代、南禪寺の沙門、岩惟肖、嘗て莊子を耕雲老人明魏に聞く、
 而して后、惟肖、始めて莊子希逸口義を読む、爾來、比々皆然
 り、然りと雖も未だ老子希逸口義に及ばず、今に至りて、人皆
 河上に依る、余、嘗て道書全書を見るに、老子數家の註を載す、
 又老子翼有り、老(子)朱補入)／通有り、且つ又、林兆恩が
 解する所の者有り、枚く數ふに違あらず、希逸、諸家に視ふれ
 ば、最も優れりと為す、今、余見るに隨ひ、隨ひて点じて、倭
 訓も旁に附く、／他日、風葉の校ぶべき有りと雖も、而れども
 又、吾が家の／敝帚茲に在るか。／元和戊午孟春吉日辰令 道
 春子)の存在は、我が国における『老子』受容の経緯を知るこ
 とができるだけでなく、本書の刊行年時を知る手がかりとなる。
 高木浩明「林羅山と古活字版―元和四年刊『老子虜齋口義』を
 中心として―」(高田宗平編『日本漢籍受容史―日本文化の基層
 ―』、八木書店、二〇二二年) 参照。

集部二別集類 唐五代之属

54 五百家註音弁昌黎先生文集 四十卷 (唐) 韓愈撰、(宋) 魏仲莘編

注

〔請求番号〕WA七―二二一

〔体裁〕大本、一五冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・九×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に、「昌黎文集 初壹(―自三十七―至四十)」と打付
 書。

〔内題〕「五百家註音弁昌黎先生文集卷第一(三一六・八・十二―
 四十)」、「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第二(七・九―
 十一)」。

〔尾題〕「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第一(九―十一)」、「五百
 家註音弁昌黎先生文集卷第二(十四・十九・二十・三十五・
 三十七・四十)」、「昌黎先生文集卷第三」、「韓文第
 四(二十五・三十三)」、「昌黎文集卷第五」、「昌黎文集
 第六(二十三・二十四)」、「五百家註昌黎先生文集第
 七」、「新刊五百家註昌黎先生聯句集卷第八」、「昌黎先生文
 集第十二(十五)」、「五百家韓文第十三」、「五百家註昌黎
 文集卷第十六」、「韓文集卷十七」、「五百家註韓文第十八
 (二十七・三十六・三十八・三十九)」、「五百家註(注)昌黎文
 集卷第二十一(二十二)」、「昌黎先生集第二十六」、「五百家註韓
 文卷第三十(三十一・三十二・三十四)」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（卷第一・二二・一×一七・四種）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「韓文二（一四十）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁（卷第一）、第二冊、五五丁（卷第二）、第三冊、七二丁（卷第三・三〇丁、卷第四・四二丁）、第四冊、八五丁（卷第五・五九丁、卷第六・二六丁）、第五冊、八八丁（卷第七・三一丁、卷第八・五七丁）、第六冊、七一丁（卷第九・三三丁、卷第十・三八丁）、第七冊、八四丁（卷第十一・二八丁、一〇丁補写、卷第十二・二五丁、卷第十三・三二丁）、第八冊、六一丁（卷第十四・四五丁、卷第十五・一六丁）、第九冊、五三丁（卷第十六・三〇丁、卷第十七・二三丁）第九冊、二二丁（卷第十八）、第一〇冊、七九丁（卷第十九・二六丁、卷第二十・二二丁、卷第二十一・三二丁）、第一一冊、六五丁（卷第二十二・二二丁、卷第二十三・二六丁、卷第二十四・一八丁）、第一二冊、八〇丁（卷第二十五・三二丁、卷第二十六・三二丁、卷第二十七・一九丁、卷第二十八・一七丁）、第一三冊、九二丁（卷第二十九・一五丁、卷第三十・二九丁、卷第三十一・二五丁、卷第三十二・二三丁）、第一四冊、五四丁（卷第三十三・一八丁、卷第三十四・一六丁、卷第三十五・七丁、卷第三十六・二三丁）、第一五冊、八八丁（卷第三十七・二四丁、卷第三十八・一四丁、卷第三十九・二六丁、卷第四十・二四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「青谿／書屋」（大島雅太郎、朱方印）、「碧□／禪菴」（墨方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に若干の墨書入が施されている。第一冊、三四丁表の一行目「深」の字切貼訂正（活字）。川瀬、三九二・八三五頁。三九二頁に著録されている大島雅太郎氏蔵本が本書。

集部二別集類

55 白氏文集 七十二卷目二卷（唐）白居易撰、那波道圓校刊

〔請求番号〕 WA七―七六

〔体裁〕 大本、一五冊。

〔表紙〕 新補香色表紙。二八・〇×一九・八種。四針袋綴。

〔題簽〕 無。東京図書館の蔵書票を貼付するのみ。

〔内題〕 「白氏長慶集序／（低二格）浙東觀察使元（二格空）積（二格空）字微之述」、「白氏文集卷第一（一七十一）」、「龍門重修白樂天影堂記／（低九格）陶（二格空）穀（一格空）述」、「（低二格）白氏文集後序」。

〔尾題〕 「白氏文集卷第一（一七十一）」、「十終」、「卷尾」（卷第十四）、「白集六十六」。

〔本文〕 每半葉九行×一六字。大型活字。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二三・〇×一六・三種）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「白集序（一七十一・後序）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一三三丁（序、長慶四年冬十二月十日微之序・八丁、

卷第一・三一丁、卷第二・三二丁、卷第三・二〇丁、卷第四・二二丁、卷第五・二二丁)、第二冊、一二九丁(卷第六・二三丁、卷第七・二二丁、卷第八・二二丁、卷第九・一八丁、卷第十・二六丁、卷第十一・二〇丁)、第三冊、一〇三丁(卷第十二・二六丁、卷第十三・二五丁、卷第十四・二四丁、卷第十五・二八丁)、第四冊、一〇五丁(卷第十六・二八丁、卷第十七・二九丁、卷第十八・二二丁、卷第十九・二六丁)、第五冊、九七丁(卷第二十・二五丁、卷第二十一・二三丁、卷第二十二・一三丁、卷第二十三・一七丁、卷第二十四・一九丁)、第六冊、一二〇丁(卷第二十五・一七丁、卷第二十六・一八丁、卷第二十七・二〇丁、卷第二十八・二三丁、卷第二十九・一六丁、卷第三十・二六丁)、第七冊、一一六丁(卷第三十一・一九丁、卷第三十二・二二丁、卷第三十三・二二丁、卷第三十四・二九丁、卷第三十五・二四丁)、第八冊、一一二丁(卷第三十六・二二丁、卷第三十七・二五丁、卷第三十八・二四丁、卷第三十九・四〇丁、三四丁重複)、第九冊、一一九丁(卷第四十・三九丁、卷第四十一・二二丁、卷第四十二・二七丁、卷第四十三・一六丁、卷第四十四・一六丁)、第一〇冊、一二八丁(卷第四十五・三三丁、卷第四十六・三三丁、卷第四十七・二九丁、卷第四十八・三四丁)、第一一冊、一一〇丁(卷第四十九・二八丁。一九・二〇丁乱丁、卷第五十・二七丁。二五丁・二六丁乱丁、卷第五十一・二六丁、卷第五十二・二九丁)、

第二二冊、一〇四丁(卷第五十三・二六丁、卷第五十四・二八丁。二二丁表二行目「羅」、白墨訂正して上から「羅」の活字を捺印、卷第五十五・二四丁、卷第五十六・二六丁)、第二三冊、一〇二丁(卷第五十七・二四丁、卷第五十八・二四丁、卷第五十九・二九丁、卷第六十・二五丁)、第一四冊、一二三丁(卷第六十一・三五丁、卷第六十二・二二丁。一七丁表二行目「夜」、白墨墨書訂正、卷第六十三・二〇丁、卷第六十四・二六丁。一一丁と一二丁の間に一六丁を誤綴、卷第六十五・二〇丁)、第一五冊、一四六丁(卷第六十六・二六丁、卷第六十七・二二丁、卷第六十八・二四丁、卷第六十九・三二丁、卷第七十・一八丁、卷第七十一・一八丁、龍門重修白樂天影堂記・三丁、後序、戊午秋七月丁亥朔那波道円書于洛中遠望台・三丁、戊午〓元和四(一六一八)年)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「故榎原芳桢納本」(朱長方印)、「東京／圖書／館藏」(朱方印)。

〔備考〕卷第一の二〇丁表まで朱句読点が施されているのみ。卷第三十一・一〇丁表の六〓七行目、「佇入吾耳可使持節衢州刺史散官勲如／故」以下、一四丁表の八行目、「淮之要三者皆名郡而委之三吏得不思」の間、本文空白、界線があるのみ(伝本共通)。

集部三 総集類 通代之属

56 魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 十卷 (元) 黄堅編

〔請求番号〕 WA 七―六三

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 新補濃紺色表紙。二八・二×二〇・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「(低二格) 古文真宝叙」、「諸儒箋解古文真宝後集目錄」、「魁本

大字諸儒箋解古文真宝卷之一(一十) 後集」。

〔尾題〕 「諸儒箋解古文真宝後集目錄^畢」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷

之一(一十) 後集」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。大型活字、注小字双行。陰刻活字を含む。

〔匡郭〕 四周双辺(卷之一、二・二・〇×一六・七糶)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「古文后序(古文目錄・古文后一十)

丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六四丁(叙、至正丙午孟夏于江後学鄭本土文叙・一丁、

目錄・三丁、卷之一・一七丁、卷之二・一三三丁、卷之三・一二

丁、卷之四・一八丁)、第二冊、六六丁(卷之五・一六丁、卷之

六・一〇丁、卷之七・九丁、卷之八・九丁、卷之九・一二丁、

卷之十・一〇丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「乾徳」(墨長方印、双辺)、「國立國會圖書館」(朱長方印)。

〔備考〕 卷末に識語、「乾徳寺」。桐箱(右肩に「鸚」詩文 一〇六四)の

ラベルを貼付)入、表紙の右肩に「鸚」詩文 一〇六四)のラ

ベルを貼付。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名(卷之一

の巻首八丁は、白墨で塗抹)、送仮名が施されている。川瀬、

三九五・八三八頁、(七)元和寛永中刊本。八三八頁に本書

(鸚軒文庫蔵本、二冊、乾徳寺旧蔵)を著録。次項、WA 七―

一三一本は同版。

集部三 総集類 通代之属

57 魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 十卷 (元) 黄堅編

〔請求番号〕 WA 七―一三二

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 後補丹色空押雷文繋ぎ表紙(裏打修補)。二七・七×一九・六糶。

四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に題簽(一七・五×三・六糶)、第一冊「物語一」、第二冊

「五」とかすかに残る外題からすると表紙は別本のを流用し

たものとわかる。

〔内題〕 「(低二格) 古文真宝叙」、「諸儒箋解古文真宝後集目錄」、「魁本

大字諸儒箋解古文真宝卷之一(一十) 後集」。

〔尾題〕 「諸儒箋解古文真宝後集目錄^畢」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷

之一(一十) 後集」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。大型活字、注小字双行。陰刻活字を含む。

〔匡郭〕 四周双辺(卷之一、二・二・〇×一六・六糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「古文后序（古文目録・古文后一一）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六四丁（叙、至正丙午孟夏于江後学鄭本土文叙・一丁、目録・三丁、卷之一・一七丁、卷之二・一三三丁、卷之三・一二丁、卷之四・一八丁）、第二冊、六六丁（卷之五・一六丁、卷之六・一〇丁、卷之七・九丁、卷之八・九丁、卷之九・一二丁、卷之十・一〇丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「高木家蔵」（朱長方印）、「國立／圖書／館蔵」（朱方印）、「國立圖書館／昭23・3・29和／購入」印。

〔備考〕各冊とも巻末に「香川養竹堂」と墨書。卷之五の巻首五丁（八行・九行）、卷之十の四丁目以下破損のため裏打修補、補写。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に若干の墨書き入れが施されている。川瀬、三九五・八三八頁（七）元和寛永中刊本。三九五頁に著録する高木文庫蔵本（図録篇八六五図に図版を収む）が本書。前項、WA七―六三本は同版。

集部三総集類 通代之属

58 魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 十卷 (二) 黄堅編

〔請求番号〕WA七―九九

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕第一冊、丹表紙（裏打改装、新補）。二八・七×二〇・八糎。五

針袋綴。第二冊、薄茶色表紙（裏打改装、新補）。二八・三×二〇・六糎。四針袋綴。東京図書館の蔵書票貼付。

〔題簽〕第一冊、左肩に後補の書題簽、「古文後集 慶長活字板 乾」、第二冊、左肩に「古文後集 慶長活字板 坤」と朱打書。

〔内題〕「(低二格) 古文真宝叙」、「諸儒箋解古文真宝後集目録」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之一 (十一) 後集」。

〔尾題〕「諸儒箋解古文真宝後集目録^畢」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之一 (十一) 後集」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。本文横幅広の特徴のある大型活字、注小字双行。陰刻活字を含む。

〔匡郭〕四周双辺（卷之一、二二・八×一七・一糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「古文后序（古文后目録・古文后一一）丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁（叙、至正丙午孟夏于江後学鄭本土文叙・二丁、目録・三丁、卷之一・二〇丁。一四丁補写、卷之二・一四丁、卷之三・一三丁。六丁補写、七丁表・3、一字切貼訂正、卷之四・二〇丁。巻末裏丁欠、補写）、第二冊、七四丁（卷之五・一八丁、卷之六・一二丁、卷之七・一〇丁、卷之八・一〇丁、卷之九・一四丁、卷之十・一〇丁、以下欠）。

〔刊記〕巻末刊記「慶長十四^酉年陽月下旬（室町通近衛町／本屋新七刊行）」のある丁を欠く。

〔印記〕「新宮城書蔵」（水野忠央、朱長方印）、「淺野源氏／五萬巻樓／

圖書之記」(浅野梅堂、朱方印)、「漱芳閣／新収記」(浅野梅堂、

朱長方印、陰刻、第二冊の巻末のみ)、「東京／圖書／館蔵」(朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、他、朱墨による書き入れ(梅云、松云、等)が夥しく施されている。

集部三総集類通代之属

59 文選 六十卷 目一卷 (梁)蕭統撰、(唐)李善等注

〔請求番号〕WA七―一七

〔体裁〕特大本、三二冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押疋繫ぎ唐花唐草文様表紙(裏打修補)。三一・三二・一・五種。茶色覆表紙附。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一八・八×三・六種)、「文選 序(廿七之八・廿九之三十・三十一之二・三十五之六・三十七之八・四十五之六・四十七之八)」。題簽はあっても無題の冊多し。題簽下に「二(墨)片山(朱)」「片山／三十一(墨)」(第三冊―三十一冊)。

〔内題〕「文選序／(低五格)」梁昭明太子撰(銑曰梁姓肅氏梁典云武帝／子名統字德施諡曰昭明)、「増補六臣註文選目錄／(低五格)」梁昭明太子蕭(二格空)統(一格空)撰／(低五格)唐(李善(一格空)呂延濟(一格空)劉良／張銑(一格空)李周翰(一格空)呂向)(一格空)註／(低六格)茶陵前進士陳_{七子}校補、

「文選卷第一(一六十)／(低九格)梁昭明太子撰／(低十一格)五臣并李善注」。

〔尾題〕「六臣註文選目錄終」、「文選卷第一(一六十)」。

〔本文〕每半葉一〇行×二三字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(表、二四・九×一六・八種、卷第一、二五・〇×一六・四種)、有界。

〔版心〕上中下黒口、上下に双花口魚尾、中縫、「文選一(一六十)」、「丁附」。

〔丁数〕第一冊、四〇丁(李善上文選注表……顯慶三年九月十七日文林郎守太子右内率府録事・一丁、參軍崇賢館直学士_臣李善上表／進集注文選表(七格空)五臣……開元六年九月十日工部侍郎臣呂廷祚上表・二丁、文選序・五丁、目錄・三二丁)、第二冊、七八丁(卷第一・四一丁、丁附を「九」から始める。これは本来、李善上文選注表・參軍崇賢館直学士_臣李善上表(一一三)・文選序(四一八)・卷第一(九一四十九)の順に通し丁附で綴じられているためである。卷第二・三七丁)、第三冊、七七丁(卷第三・四三丁、卷第四・三四丁)、第四冊、七九丁(卷第五・三七丁、卷第六・四二丁)、第五冊、六四丁(卷第七・三二丁、卷第八・三二丁)、第六冊、六六丁(卷第九・二八丁、卷第十・三八丁)、第七冊、七六丁(卷第十一・四七丁、卷第十二・二九丁)、第八冊、六一丁(卷第十三・三四丁、卷第十四・二七丁)、第九冊、六七丁(卷第十五・二七丁、卷第十六・四〇丁)、第一〇

冊、七一丁（卷第十七・三一丁、卷第十八・四〇丁）、第一一冊、七九丁（卷第十九・三三丁、卷第二十・四六丁）、第二二冊、六七丁（卷第二十一・三五丁、卷第二十二・三三丁）、第二三冊、八二丁（卷第二十三・四三丁、卷第二十四・三九丁）、第一四冊、七九丁（卷第二十五・三七丁、卷第二十六・四二丁）、第二五冊、七二丁（卷第二十七・三三丁、卷第二十八・三九丁）、第二六冊、九〇丁（卷第二十九・四三丁、卷第三十・四七丁）、第二七冊、七二丁（卷第三十一・四〇丁、卷第三十二・三二丁）、第二八冊、六二丁（卷第三十三・三〇丁、卷第三十四・三二丁）、第二九冊、六五丁（卷第三十五・三七丁、卷第三十六・二八丁）、第二〇冊、七三丁（卷第三十七・三八丁、卷第三十八・三五丁）、第二一冊、六九丁（卷第三十九・三二丁、卷第四十・三七丁）、第二二冊、七八丁（卷第四十一・四二丁、卷第四十二・三六丁）、第二三冊、七五丁（卷第四十三・三九丁、卷第四十四・三六丁）、第二四冊、八一丁（卷第四十五・四〇丁、卷第四十六・四一丁）、第二五冊、八〇丁（卷第四十七・四九丁、卷第四十八・三一丁）、第二六冊、五七丁（卷第四十九・三一丁、卷第五十・二六丁）、第二七冊、四七丁（卷第五十一・二三丁、卷第五十二・二四丁）、第二八冊、七〇丁（卷第五十三・四〇丁、卷第五十四・三〇丁）、第二九冊、七七丁（卷第五十五・三六丁、卷第五十六・四一丁）、第三〇冊、七一丁（卷第五十七・三五丁、卷第五十八・三六丁）、第三一冊、七八丁（卷第五十九・四一丁、卷第六十・三七丁）。

〔刊記〕

卷第六十尾題の後に、「〔低一格〕右文選板歳久漫滅殆甚紹興二十八年冬十月／（低二格）直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加／（低二格）修正字画為之一新傳學者開卷免魯魚三豕之訛／（低二格）且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼／（低二格）監盧欽謹書／（一行空）／（低一格）慶長丁未沽洗上句八葉（三格空）板行畢」。

〔印記〕

「片山藏書」（卷第三のみ、朱長方印、小）、「帝國圖書館藏」（朱長方印）、「大正2・3・24購求」（紫色楕円印）。

〔備考〕

慶長十二年刊・直江版。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に朱墨による書き入れが施されている。卷三十五の三三丁裏と三四丁表の間に、「天命ト云ノ下ヨリ読入ベシ、一丁半付紙ノ分落ル也、又此落丁ノ分末ニアリ、学校本唐ノ印本ニハ如此」と朱書し、一丁半分の本文を補写した紙を補綴。三四丁表の四行目「明保朕躬奉蒼天命」の下に、「上付紙一丁半落也、此間エ読入ベシ」と朱書。三六丁裏の二行目「用終爾顯德」の「德」の右傍らに、「（アイジルシ）一句末ニアリ、学校本唐ノ印本如此」、「德」の下に、「肅將朕命ト云マテ上ノ落ニアリ」と朱書。三七丁裏の七行目「対揚我高祖之休命」の「対」の右傍らに、「（アイジルシ）上ノアイジルシニ読ベシ」と朱書。卷四十の九丁（丁附「八二」表の上欄に、「此一枚唐本ニ無シ」と朱書。

集部三総集類通代之属

60 文選 六十卷 目一卷 (梁)蕭統撰、(唐)李善等注

〔請求番号〕WA七―八〇

〔体裁〕特大本、三二冊。

〔表紙〕丹空押菱繋ぎに唐花唐草文様表紙。押八双があり、見返し紙と本文料紙にも違いはないことから、原表紙と見てもおかしくないが、綴じ直し痕があり、改装の可能性がある。二九・九×二二・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。東京図書館の蔵書票のみ貼付。

〔内題〕「増補六臣註文選目録／(低五格) 梁昭明太子蕭(二格空) 統(一格空) 撰／(低五格) 唐(李善(一格空) 呂延濟(一格空) 劉良／張銑(二格空) 李周翰(一格空) 呂向)註／(低六格) 茶陵前進士陳_七校補」、「文選序／(低五格) 梁昭明太子撰(銑曰梁姓肅氏梁典云武帝／子名統字德施諡曰昭明)」、「文選卷第一(一六十)／(低八格) 梁昭明太子撰／(低十格) 五臣并李善注」。

〔尾題〕「六臣註文選目録(一格空) 終」、「文選卷第一(一六十)(二格空) 終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二二字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(表、二三・三×一六・七糶、卷第一、二三・一×一六・七糶)、無界(目録は有界)。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「文選卷一(一六十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁(目録)、第二冊、八六丁(李善上文選注表……

顯慶三年九月十七日文林郎守太子右内率府録事・一丁、參軍崇賢館直學士_臣李善上表／進集注文選表(七格空) 五臣……開元六年九月十日工部侍郎臣呂延祚上表・二丁、文選序・五丁、卷第一・四一丁、卷第二・三七丁)、第三冊、七七丁(卷第三・四三丁、卷第四・三四丁)、第四冊、七九丁(卷第五・三七丁、卷第六・四二丁)、第五冊、六四丁(卷第七・三二丁、卷第八・三二丁)、第六冊、六六丁(卷第九・二八丁、卷第十・三八丁)、第七冊、七三丁(卷第十一・四四丁。四三―四五丁、欠、卷第十二・二九丁)、第八冊、六一丁(卷第十三・三四丁、卷第十四・二七丁)、第九冊、六七丁(卷第十五・二七丁、卷第十六・四〇丁)、第一〇冊、七一丁(卷第十七・三一丁、卷第十八・四〇丁)、第一一冊、七九丁(卷第十九・三三丁、卷第二十・四六丁)、第一二冊、六七丁(卷第二十一・三五丁、卷第二十二・三三丁)、第一三冊、八二丁(卷第二十三・四三丁、卷第二十四・三九丁)、第一四冊、七九丁(卷第二十五・三七丁、卷第二十六・四二丁)、第一五冊、七二丁(卷第二十七・三三丁、卷第二十八・三九丁)、第一六冊、九〇丁(卷第二十九・四三丁、卷第三十・四七丁)、第一七冊、七二丁(卷第三十一・四〇丁、卷第三十二・三二丁)、第一八冊、六二丁(卷第三十三・三〇丁、卷第三十四・三二丁)、第一九冊、六五丁(卷第三十五・三七丁、卷第三十六・二八丁)、第二〇冊、七三丁(卷第三十七・三八丁、

卷第三十八・三五丁)、第二一冊、六九丁(卷第三十九・三二丁、
 卷第四十・三七丁)、第二二冊、七八丁(卷第四十一・四二丁、
 卷第四十二・三六丁)、第二三冊、七五丁(卷第四十三・三九丁、
 卷第四十四・三六丁)、第二四冊、八一丁(卷第四十五・四〇丁、
 卷第四十六・四二丁)、第二五冊、八〇丁(卷第四十七・四九丁、
 卷第四十八・三二丁)、第二六冊、五七丁(卷第四十九・三一丁、
 卷第五十・二六丁)、第二七冊、四七丁(卷第五十一・二三丁、
 卷第五十二・二四丁)、第二八冊、七〇丁(卷第五十三・四〇丁、
 卷第五十四・三〇丁)、第二九冊、七七丁(卷第五十五・三六丁、
 卷第五十六・四二丁)、第三〇冊、七一丁(卷第五十七・三五丁、
 卷第五十八・三六丁)、第三一冊、七八丁(卷第五十九・四二丁、
 卷第六十・三七丁)。

〔刊記〕 卷第六十尾題の後に慶長十二年刊・直江版の原刊記、「(低一格) 右文選板歳久漫滅殆甚紹興二十八年冬十月 / (低二格) 直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加 / (低二格) 修正字画為之一新俾學者開卷免魯魚三豕之訛 / (低二格) 且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼 / (低二格) 監蘆欽謹書 / (一行空) / (低一格) 慶長丁未活洗上旬八葉(四格空) 板行畢、その後「(低一格) 寛永二乙丑孟夏上旬日(四格空) 板行畢」。

〔印記〕 「賜蘆文庫」(新見正路、朱長方印)、「東京 / 圖書 / 館藏」(朱方印)。

〔備考〕 慶長十二(一六〇七)年、直江兼続が京都の要法寺の活字で印

刷させた、いわゆる直江版文選の翻印本。寛永二年刊。

朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に朱墨による書き入れが施されている。卷四十五の二四丁と二五丁の間に補写一丁を補綴。二四丁の丁附を「二十四上」(上は墨書)、補写丁の丁附を「二十四下」とする。刊記の後、校合本の本奥書、「本云 / 此文選六十卷以菅相公章長卿家本手自写加朱墨点今日終其功者也 / 永正辛未重陽前日 諫議羽林郎」を墨書。

〔国書〕

61 ※〔間の本〕存卷上

〔請求番号〕WA七―二〇三

〔体裁〕中本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二〇・八×一四・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一七字。漢字平仮名交。振仮名附真名活字を混す。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一八・二糎。

〔版心〕「上 丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕四五丁(目録・一丁、高さ) (目録、たかさこ)・二オ〜四オ・

7、うのは(目録、鶉の羽)・四オ・8〜八オ・6、難波・八

62 秋の夜長物語

〔請求番号〕WA七―一六一

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕栗皮裏打改装表紙。二七・七×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二八・七×三・〇糎）、「秋の夜長ものか

たり 全」。

〔内題〕〔低四格〕秋の夜長物語」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・二糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕二九丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「惺々居士」（朱長方印、陰刻）、「小汀氏藏書」（小汀利得、朱長

方印）、「西田氏／圖書印」（朱方印）、表紙題簽の下部に「戊巳

四番」および〇印の朱印を捺す。「國立國會圖書館」（朱長方印）、

「書／48・12・5／国会図」（朱印、昭和四八年二月五日）。

〔備考〕川瀬、五九三・九三一頁、（二）平仮名交り印本、元和頃の印行

と認められる。伝本、高木文庫藏本と国分高胤氏藏本の二本を

著録するのみ。高木文庫藏本は、現、龍門文庫藏本。国分氏藏

本は、その後「小汀文庫へ移る」（九三一頁）とある。国会本が

それに該当するものと思われる。

オ・7〜一〇ウ・1、白楽天（目録、はくらく天）・一〇ウ・2

〜一四オ・1、ゆみやはた・一四オ・2〜一六ウ・1、ししづ

か（目録、吉野静）・一六ウ・2〜一八ウ・2、老松・一八ウ・

3〜二三オ・1、ちくふ嶋（目録、ちくふしま）・二三オ・2〜

二四ウ・1、かすかりうしん（目録、春日りう神）・二四ウ・

2〜二六ウ・1、玉嶋河（目録、ちくふしま）・二六ウ・2、ひむろ・

二八オ・3〜二九ウ・3、やうらう・二九ウ・4〜三一ウ・1、

あらし山・三一ウ・2〜三三オ・7、くれは・三三オ・8〜

三四ウ・6、しか・三四ウ・7〜三六オ・1、かんたん・三六

オ・2〜三七オ・6、矢立賀茂・三七オ・7〜三八ウ・5、田

うた（目録になし）・三八ウ・6〜四〇オ・7、をしほ（目録、

小塩）・四〇オ・8〜四二オ・1、たうせん（目録、唐船）・

四二オ・2〜四二ウ・7、あま・四二ウ・8〜四四ウ・8）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國立國會圖書館／館藏書」（朱方印）、「57・1・25」（昭和五七

年一月二五日）。

〔備考〕能の間狂言の詞章を二二番収録する。川瀬九二二頁、「元和中の

刊行と認むべき」（一）八行十七字本、「寛永中の印行と思はれ

る」（二）八行十八字本、「龍門文庫藏寛永三年刊叡山版要法文

（二冊）の原表紙裏張りから出た」（三）八行十六字本の三種を

著録する。国会本は以上のいずれでもない。無書入、虫損裏打

修補。

63 新刊吾妻鏡 五二卷（卷第四十五原欠）

〔請求番号〕WA七—一〇〇

〔体裁〕 大本、二五冊。

〔表紙〕 栗皮表紙。「帝」「國」「圖」「書」「館」「藏」の型押のある薄茶色横刷毛目文様の覆表紙附。二八・九×二〇・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に、双边枰原刷題簽（一七・九×三・九糎）、「東鑑 一」（五十二終）、「双边枰書題簽（覆表紙、一九・九×三・九糎）」「東鑑 壹（一五十一、五十二止）」。

〔内題〕 「新刊吾妻鏡目錄」、「新刊吾妻鏡卷第一（一五十二）」。

〔尾題〕 「新刊吾妻鏡卷第一（一五十二終）」。

〔本文〕 每半葉二二行×二二字。文書等、一部漢字平仮名交。

〔匡郭〕 四周双边（目錄、二一・八×一六・七糎、卷第一、二二・一×一六・八糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「東鏡目錄（一—五十二・東鑑跋）」。

〔丁数〕 第一冊、五二丁（目錄・七丁、卷第一・四四丁）、第二冊、七八丁（卷第二・三七丁、卷第三・四一丁）、第三冊、六八丁（卷第四・四三丁、卷第五・二五丁）、第四冊、六〇丁（卷第六、第五冊、六八丁（卷第七・三六丁、卷第八・三二丁）、第六冊、五六丁（卷第九）、第七冊、五三丁（卷第十）、第八冊、五二丁（卷第十一・二九丁、卷第十二・二三丁）、第九冊、四五丁（卷第十三・二四丁、卷第十四・二二丁）、第一〇冊、六二丁（卷第十五・三〇丁、卷第十六・三二丁）、第一一冊、六七丁（卷第

十七・二九丁、卷第十八・三八丁）、第一二冊、七七丁（卷第十九・三一丁、卷第二十・一一丁、卷第二十一・三五丁）、第一三冊、五三丁（卷第二十二・二二丁、卷第二十三・一八丁、卷第二十四・一四丁）、第一四冊、五三丁（卷第二十五・三二丁、卷第二十六・二二丁）、第一五冊、五八丁（卷第二十七・二五丁、卷第二十八・一八丁、卷第二十九・一五丁）、第一六冊、五五四丁（卷第三十・二四丁、卷第三十一・三一丁）、第一七冊、五四丁（卷第三十二・三〇丁、卷第三十三・二四丁）、第一八冊、五三丁（卷第三十四・二四丁、卷第三十五・二九丁）、第一九冊、四六丁（卷第三十六・三一丁、卷第三十七・一五丁）、第二〇冊、七九丁（卷第三十八・三〇丁、卷第三十九・一六丁、卷第四十・三三丁）、第二一冊、七三丁（卷第四十一・三二丁、卷第四十二・四二丁）、第二二冊、六六丁（卷第四十三・一九丁、卷第四十四・一九丁、卷第四十六・二八丁）、第二三冊、六三丁（卷第四十七・三〇丁、卷第四十八・三三丁）、第二四冊、七五丁（卷第四十九・三八丁、卷第五十・三七丁）、第二五冊、六一丁（卷第五十一・三六丁、卷第五十二・二三丁、原跋・二丁）。

〔刊記〕 無。慶長十年刊行の伏見版の原跋を有するのみ。

〔印記〕 「思貽堂／圖書記」（朱長方印）、「稽古／堂記」（朱長方印）、「柶原家藏」（朱長方印）、「故柶原芳桢納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕 第一冊の目錄末には、「羅浮本云／私云、東鑑一部、五十有一卷、

……三十四卷以後者、其文多畧、且有重複誤出者焉」と林羅山の考証を移写する。本文には朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施される他、上欄には朱墨による書き入れが若干見受けられる。川瀬、二二一・六九八頁、其の(二)。「無界なるの他、配字等は全く同一であるが、其の活字の筆画と版式の整備とより、慶長末年か、或は少しく降つて元和初年の開雕と推定せられる」。

64 新刊吾妻鏡 存卷第二十五・二十八・二十九・三十六・三十七

〔請求番号〕 八三九一六

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 後補薄縹色表紙。二六・四×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の双辺枠刷題簽(二七・八×四・三糎)、「東鑑

(二十五／式十六／二十七)(墨書)」。

〔内題〕 「新刊吾妻鏡卷第二十五(二十八・二十九・三十六・三十七)」。

〔尾題〕 「新刊吾妻鏡卷第二十五(二十八・二十九・三十六・三十七)」。

〔本文〕 每半葉二行×二二字。

〔匡郭〕 四周双辺(卷第二十五、二一・〇×一七・二糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「東鏡廿五(廿八・廿九・卅六・卅七)

丁附」。

〔丁数〕 第一二冊、三二丁(卷第二十五)。卷第二十六・二十七は整

版補配)、第一三冊、三三丁(卷第二十八・一八丁、卷第

二十九・一五丁。卷第三十・三十一は補写)、第一五冊、四六丁(卷第三十六・三一丁、卷第三十七・一五丁。卷第三十八・三十九は整版補配)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「鳥崎文庫」(朱長方印)、「青山文庫」(朱長方印)、「根岸信輔氏寄贈」(朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「帝國／昭

和八・八・一〇・寄贈」(朱丸印)。

〔備考〕 整版(寛文元年(辛／丑)年極月吉辰／烏丸通下立売下町／野田庄右衛門板行)に古活字版が補配されている。川瀬、(二)慶長末元和初刊本。『吾妻鏡』の古活字版と整版の関係については、小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』(新典社、二〇一八年、第九章『吾妻鏡』刊本小考)に詳しい。

65 あこき・卒都婆小町・三井寺

〔請求番号〕 WA七―三三一

〔体裁〕 半紙本、三帖。

〔表紙〕 原裝白色雲母刷文様(あこき、獅子丸蔓牡丹文(甲)・三井寺、

斜鴛からみ鶯)表紙、原裝薄紅色雲母刷文様(卒都婆小町、松

林に波(乙)表紙。二四・〇×一八・〇糎。綴葉装。

〔題簽〕 左肩に薄茶色唐紙原刷題簽(二一・五×三・一糎)、「あこき(卒

都婆小町・三井寺)」。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉七行×一三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一九・〇糎（あこぎ）、一八・五糎（卒都婆小町・三井寺）。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 あこぎ、一〇丁、卒都婆小町、一四丁（巻尾白丁）、三井寺、一六丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国会図書館の受入印（書／11. 4. 1／国会図）のみ。

〔備考〕 特製本（表紙と料紙に雲母刷文様のある本）。厚手の料紙（楮紙二枚を貼り合わせたもの）を用いる。あこぎ、緑色の料紙に雲母刷文様（メヒシバ（甲）・梅の立枝（丙）・波（甲）、卒都婆小町、白色の料紙に雲母刷文様（波・メヒシバ・梅の立枝（丙）、三井寺、薄紅色の料紙に雲母刷文様（メヒシバ・波・梅の立枝（丙））が施されている。牡丹唐草文様のある絹地金色の帙入り。弘文荘扱か。

〔備考〕 薄紅色雲母刷文様（飛び交う鶴・甲イ）表紙（あこぎ、二三・八×一七・八糎、糸Ⅱ茶）、香色雲母刷文様（メヒシバ）

〔体裁〕 半紙本、四帖。

〔請求番号〕 WA七―三五

66 あこぎ・むめがえ・善界・班女

〔表紙〕 薄紅色雲母刷文様（飛び交う鶴・甲イ）表紙（あこぎ、二三・八×一七・八糎、糸Ⅱ茶）、香色雲母刷文様（メヒシバ）

〔備考〕 具引き、一部削去、活字を押捺して訂正を施す箇所（あこぎ、一〇オ6、善界、六オ・4、焔）あり。Ⅱ墨書。

川瀬、第三種・第四種（実は同種の本を誤認して別種に立てた

表紙（むめがえ、二三・八×一七・九糎、糸Ⅱ紫）、水色雲母刷文様（萍）表紙（善界、二三・七×一七・八糎、糸Ⅱ茶）、薄緑色雲母刷文様（メヒシバ）表紙（班女、二三・七×一七・九糎、糸Ⅱ茶）。綴葉装。

〔題簽〕 左肩に薄茶色唐紙の長形原刷題簽、「安古木」（一一・〇×二・九糎）、「むめがえ」（一一・〇×三・〇糎）、「善界」（一一・〇×三・〇糎）、「班女」（一一・〇×二・九糎）。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉七行×一三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一八・八糎（あこぎ・むめがえ）、一八・九糎（善界・班女）。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 あこぎ・一〇丁（三紙五丁）、むめがえ・一〇丁（三紙五丁）、三紙五丁、三紙五丁、善界・一〇丁（三紙五丁）、三紙五丁、班女・一三丁（三紙五丁、四紙八丁、巻尾丁後表紙に貼付）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「大正／14・2・5／購求」（紫棗田印）、「あこぎ」のみ巻首右下に「□隻／圖書」（朱方印）。

もの)、表章、上製本(帖装本で表紙のみに雲母模様があり、料紙に有色紙を混用していない本)。

67 ありとほし(蟻通)

〔請求番号〕WA七―二三六

〔体裁〕半紙本、一帖。

〔表紙〕原裝銀鼠色雲母刷文様(水辺の山)表紙。二三・八×一七・九
糶。綴葉装。

〔題簽〕左肩に薄茶色唐紙原刷題簽(二〇・九×三・一糶)、「ありとほし」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉七行×一三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一八・六糶。

〔版心〕無。

〔丁数〕一〇丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕国会図書館の受入印「書／12. 8. 11／国会図」(朱印)のみ。

〔備考〕色替り本。臨川書店扱。

68 鴉鷺合戦物語 三卷

〔請求番号〕WA七―一五七

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄標色表紙。二六・六×一八・五糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「(低二格)鴉鷺合戦物語目録上」、「(低二格)鴉鷺物語中(下)」。

〔尾題〕「(低二格)鴉鷺物語上(下)終」、「中終」。

〔本文〕每半葉二二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・一糶。

〔版心〕「アロ上(中・下) 丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、三四丁(目録・半丁、上・三三丁半)、第二冊、三六丁(中)、第三冊、二四丁(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「小汀文庫」(小汀利得、朱長方印)、「田鶴／稱蓮」(墨長方印)、「國立國會圖書館」(朱長方印)、受入印「書／(昭和) 49. 2.

8／国会図」(朱印)。

〔備考〕無書入。中巻見返しに「持主灵(靈)通」と墨書識語。川瀬五九四・九五六頁、寛永中刊本。

69 鴉鷺合戦物語 四卷

〔請求番号〕WA八―五

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕薄縹色空押卍繋ぎ唐花文様表紙（原表紙か）。二七・七×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺粹原刷題簽（一七・〇×三・五糎）、「ある物語 二

（一四）」。

〔内題〕「（低二格）鴉鷺合戦物語目録卷一（一四）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×一九字。漢字平仮名交。片仮名（目録）、平仮名による附訓・濁点附活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三七丁（卷一、目録・半丁、本文・三六丁半、巻尾丁、後表紙見返しに貼付）、第二冊、三一丁（卷二）、第三冊、三四丁（卷三、巻尾丁、後表紙見返しに貼付）、第四冊、二五丁（卷四、巻尾丁、後表紙見返しに貼付）。

〔刊記〕「（低一格）慶安二年正月吉日（二格空）荒木利兵衛開板」。

〔印記〕「柀原家蔵」（朱長方印）、「故柀原芳塾納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、第四冊の巻末、刊記下に「（三）（墨丸印）」。

〔備考〕無書入。川瀬五九四・九五六頁。

70 医学指南篇（十五指南篇） 三卷 曲直瀬道三著
〔請求番号〕WA七―五〇

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕縹色表紙（押八双はあるが後補か）。二六・二×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に題簽（一七・二×三・七糎）。但し表面剥落。

〔内題〕「（低二格）十五指南篇目録」、「（低一格）医学指南篇」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（目録、一八・二×一七・一糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「医工指南篇上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕（十五指南篇目録・一丁、上、二四丁（医学指南篇一・六丁、医法指南篇二・四丁、診切指南篇三・四丁、立方指南篇四・五丁、用薬指南篇五・五丁）、中・三七丁（用薬指南篇六・七丁、弁剂指南篇七・一三丁、弁治指南篇八・六丁、治療指南篇九・五丁、治例指南篇十・六丁）、下・三三丁（治法指南篇十一・一三丁、脾胃指南篇十二・四丁、戒慎指南篇十三・五丁、療養指南篇十四・五丁、撰養指南篇十五・六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「高木家蔵」（高木利太、朱長方印）、「國立圖書館／昭23・3・17和／購入」印。

〔備考〕朱書書人多数。川瀬三三五・七五八頁。七五八頁に研医学会図書館蔵本を著録するが、国会本とは異版。さらにもう一つ異版が、杏雨書屋に所蔵されている。

71 いさよひの日記 阿仏尼著

〔請求番号〕WA七―二四一

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮表紙。二七・八×一八・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽、「（破損）夜日記 全」。右肩に「土^{九百六十五}」

全二冊、「右下に「字」と墨書のある紙片を貼付。

〔内題〕「（低四格）いさよひの日記」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・〇糎。

〔版心〕無。ノドに丁附を刻するのみ。

〔丁数〕三四丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「雨山／珍藏」（朱長方印、陰刻）、「萬□／枝栖／仙禽」（墨方

印）、「開卷／有益」（墨方印、陰刻）、国立国会図書館の印と受

入印「書／14・10・29／国会図」（平成一四年一〇月二九日、朱

印）のみ。

〔備考〕朱句読点、墨書入有。川瀬五二七・八九四頁、「阿仏尼の十六夜

日記は、元和か寛永の初め頃に活字開版せられた」。

72 伊勢物語 二卷

〔請求番号〕WA七―二三八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原裝藤色雲母刷文様（信夫草、藤色退色、雲母刷文様剥落）表

紙。二七・二×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕中央に香色原刷題簽（一七・一×三・三糎）、「伊勢物語 上

（下）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一八字。漢字平仮名交。挿絵（整版）、上卷に二五

図、下卷に二四図。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五一丁（上卷）、第二冊、六四丁（下卷）。他、各冊と

も前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕「伊勢物語新刊就余需勘校抑京極黄／門一本之奥書云此物語之根

源古人之説々／不同^{云々}如今以天福年所被与孫女本正之／然而猶

恐有訂校之遺欠也更図画卷中／之趣分以為上下是雖不足動好女

人情／聊為令悅稚童眼目而已／慶長戊申仲夏上浣／也足叟（花

押）（整版、花押は自署）。

〔印記〕「国立国会図書館」（朱長方印）、「書／15・2・10／国会図」の

受入印（朱印）のみ。

〔備考〕川瀬、嵯峨本、第一種本（高木、慶長十三年初刊本）。料紙は楮

紙、色替りの料紙を交え、具引きが施されている。『玉英堂稀

観本書目』第二六四号（百周年記念目録、二〇〇二年一〇月、六六頁）掲載の本。ジャヴェル旧蔵。高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』（勉誠出版、二〇二〇年）第二部第二章「嵯峨本『伊勢物語』書誌考証」、第三章「古活字版『伊勢物語』書誌解題稿」参照。

73 伊勢物語 二卷

〔請求番号〕WA七―二七

〔体裁〕 大本、一冊（上下巻合冊）。袋綴。

〔表紙〕 後補水色表紙（二七・四×一九・二糎）。

〔題簽〕 無。左肩に後筆で「長嘯子勝俊書入／伊勢物語／光悦本」と打付書。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉九行、十八字。漢字平仮名交。挿絵（整版）、上巻に二十五図、下巻に二十四図。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高二・〇糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 一一五丁（上巻、五十一丁、下巻、六十四丁）、他、後遊紙一丁。

〔刊記〕 「（破損）極黄門一本之奥書云此物語／之根源古人之説々不同云々故去慶／長戊申仲夏之比中院也足軒素然／以天福年所被与孫女

本正之并加画／図巻中之趣分以為上下行于世矣／今亦以其印本正

之再令流布世而已／慶長庚戌孟夏日」。

〔印記〕 「竹葭山莊／所蔵之印」（朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治／四五・四・二四／購求」（紫丸印）。

〔備考〕 嵯峨本。料紙は楮紙、具引きあり。全巻に墨書による書き入れ多数あり。表紙には「長嘯子勝俊書入」とあるが定かではない。

川瀬、第四種本（口）版（高木、慶長十五年刊種本）。川瀬は

「WA七―二七」本と「WA七―二八」本をいずれも第四種本

（口）版とするが、二本は同版ではなく、異版。

74 伊勢物語 二卷

〔請求番号〕WA七―二八

〔体裁〕 大本、二冊。袋綴。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙（二七・一×一九・二糎）。

〔題簽〕 中央部に表紙と同系色の書題簽（一八・四×三・八糎）、「伊勢物語 上（下）」。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉九行、十八字。漢字平仮名交。挿絵（整版）、上巻に二十五図、下巻に二十四図。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高二・〇糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、五十一丁（上巻）、第二冊、六十四丁（下巻）。

〔刊記〕「抑京極黃門一本之奥書云此物語之根源古人之説々不同^{云々}故去

慶／長戊申夏之比中院也足軒素然／以天福年所被与孫女本正之并加画／図卷中之趣分以為上下行于世^矣／今亦以其印本正之再令流布世而已／慶長庚戌孟夏日。

〔印記〕「中川氏藏」（中川德基、丸印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、

「明治／三八・二・一四／購求」（紫丸印）。

〔備考〕嵯峨本。料紙は楮紙、一部に具引きあり。江戸時代の国学者、

村田春海（一七四六—一八一二）ほかによる朱墨書入、貼紙が全卷に多数見受けられる。朱の書き入れは主に塗籠本、真名本との校異を記したものであり、墨書による書き入れは契沖の『勢語臆断』、賀茂真淵の『伊勢物語古意』、本居宣長の『玉勝間』といった伊勢物語の古註釈からのものが最も多く、他、藤原清輔の『奥義抄』、北村季吟の『伊勢物語拾穂抄』といった古註釈からの書き入れも見受けられる。また、活字の上から白墨で塗抹、墨書訂正をしている（書き入れを修正する際に用いている白墨と同じものを使用。このことから、いずれかの段階でこの本の旧蔵者が誤りと考える文字を訂正した、比較的新しいものと考えられる）箇所も多数見受けられ、数次にわたるこの本の旧蔵者によってかなり深く読み込まれた跡の残る本である。川瀬、第四種本（口）版（高木、慶長十五年刊甲種本）。

75 伊勢物語聞書（肖聞抄） 三卷 宗祇講・肖柏聞書

〔請求番号〕WA七―二九

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕原装薄藤色雲母刷文様（信夫草）表紙。二五・六×一八・九糎。

四針袋綴。右肩に蔵書票、「国書部／第 号／共参冊／慶長活字本／吉野文庫記」を貼付。

〔題簽〕中央に黄土色原刷題簽（一六・一×三・〇糎）、「肖聞抄 上

（中・下）」。

〔内題〕「（低二格）伊勢物語聞書」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行、一行字数不等。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、六七丁（上）、第二冊、四〇丁（中）、一昔あかたへゆく人に 有恒とみゆゝ、第三冊、四七丁（下）、一昔左のおとゝ、刊記）。他、各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕「此一冊可書進之由蒙 勅定之時子／細看之談宗祇法師所之令

添削畢／夢庵子／右抄者肖柏老人所伝之作也仍号之／肖聞然依後土御門院仰手自書／進之^{云々}爾降世皆弄之猶元凱注左／氏也彼翁者予祖之余流庶弟也今為／校讎亦有故者乎 新刊之時三第了／慶長己酉季春上浣／也足叟素然（素然、墨書）（墨陰刻印、自得）」。

〔印記〕「須賀迺／舎之章」（朱方印）、「松／舎印」（朱方印）、「吉野弘隆蔵書」（朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治三九・三・二七・購求」（朱丸印）。

〔備考〕伊勢物語聞書（肖聞章）は、連歌師宗祇（一四二二～一五〇二）の講義を弟子の肖柏（一四四三～一五二七）がまとめたもの。文明九（一四七七）年成立の初稿本のほかに、文明一二年本、延徳三（一四九二）年本があり、嵯峨本は文明九年本による。

川瀬は和田維四郎の分類（異植字版になっている上巻の四六丁「けさうして」で始まる丁のみで二版に分類する）を踏襲して、第一種本と第二種本に分類するが、伝本ごとに全丁を比較すれば、嵯峨本の伊勢物語同様、部分的に活字を差し替えた部分異植字が見受けられる丁（他、伝本共通の切貼墨書訂正や上書訂正も施されている）があるものの、いずれの伝本も同一の版であることがわかる。違いは中院通勝の刊語の末尾に、通勝が「素然」（通勝の号）の二字を自署し、「自得」の墨印が捺されているか否かだけなので、分類の必要は無い。あえて分類するならば、「通勝記名捺印本」と「無記名無捺印本」。

国会本は、色替り料紙を交えず、素紙摺。通勝記名捺印本。第二冊後表紙裏に、古活字版『元亨釈書』（慶長十年下村生蔵刊）の刷り反古が用いられている（大東急記念文庫蔵本も同様）。高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』（勉誠出版、二〇二〇年）第二部第一章「嵯峨本」再見―現存伝本調査報告―参照。

76 伊勢物語聞書（肖聞抄） 存上・中巻 宗祇講・肖柏聞書

〔請求番号〕WA七―三〇

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装薄藤色雲母刷文様（信夫草）表紙。二五・九×一九・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕中央の題簽剥落、「伊勢物語聞書」と打付書。

〔内題〕「（低二格）伊勢物語聞書」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行、一行字数不等。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五六丁（上、九・一七・三三・三七・三八・四一・四五・四八・五三・五九・六〇丁欠）、第二冊、三三丁（中、一昔あかたへゆく人に 有恒とみゆく、一〇・二二・二六・三〇・三三・三四・三八丁欠）。他、各冊とも前遊紙二丁。具引き・色替り料紙を交える。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治三九・四・一三・購求」（朱丸印）。

〔備考〕上巻前表紙見返しと前遊紙表に、「此本何方へ参候／共一覽二而 早々／御返進頼入候」、「三井利安／泰賢（花押）」と墨書識語。中巻後表紙裏に、『伊勢物語聞書』（嵯峨本、下巻三六丁裏）の

刷り反古を使用。

77 伊勢物語闕疑抄 五卷 細川幽齋著

〔請求番号〕WA七―四五

〔体裁〕大本、五冊。

〔表紙〕栗皮表紙（原裝、押八双有）。「帝／國／圖／書／館／蔵」と

型押しのある薄茶色縦横刷毛目文様覆表紙附。二八・六×

二〇・二種。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽（一五・九×三・六種）、「闕疑抄」

五、左肩に後補の双辺枠書題簽（一九・九×三・九種）、「闕

疑抄一（一五止）」（覆表紙）。

〔内題〕「闕疑抄卷第一（一五）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・九種。

〔版心〕無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、四〇丁（卷第一）、第二冊、三九丁（卷第二）、第三冊、

四一丁（卷第三）、第四冊、三七丁（卷第四）、第五冊、四五丁

（卷第五・三七丁、天福本之奥書、系図・六丁、文祿五年細川幽

齋原跋、慶長二年中院通勝の跋刊・一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「根岸信輔氏寄贈」（朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、

「圖／昭和九・六・二七・寄贈」（朱丸印）。

〔備考〕ごくわずかに墨筆による書入が施されているのみ。全丁に間紙
を入れ、綴じ直し。川瀬五〇八頁、寛永中刊（無刊記）本（口

種）。

78 伊勢物語闕疑抄 五卷 細川幽齋著

〔請求番号〕WA七―一九八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕栗皮表紙（押八双有、二冊に改裝するが、原表紙か）。二八・三

×二〇・一種。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「闕疑抄卷第一（一五）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・一種。

〔版心〕無。ノドに巻数と丁附（〇ノ〇）を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、七九丁（卷第一・四〇丁、卷第二・三九丁）、第二冊、

一一八丁（卷第四・三七丁、卷第三・四一丁、卷第五・三七丁、

天福本之奥書・三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治四〇・一〇・二九・

購求」（朱丸印）。

〔備考〕朱墨で振仮名、訓点等が施されている。各巻末に朱書識語（巻

三末は抹消）、「時延宝五年（丁／巳）夏於京都居住之刻求之九州日向清武生所武陰忍莊谷之江／空巖」（巻一末）、「于時延宝五年（丁／巳）夏於京都居住之刻求之九州日向清武生所武陰忍之

莊谷之江／空巖」（巻二末・巻四末）、「皆延宝五年（丁／巳）於京都求之九州日向清武生所武州崎玉郡忍莊谷之江空巖」（第二冊後見返し）。巻一、一〇八丁、巻二、二八〇三九丁、裏打修補。川瀬五〇八頁、寛永中刊（無刊記）本（八）種。

79 伊曾保物語 三巻

〔請求番号〕WA七―三二

〔体裁〕大本、一冊（三巻前後とも表紙存、合冊）。

〔表紙〕後補薄縹色空押雷文繋ぎ桐唐花文様表紙。「帝／國／圖／書／館／蔵」と型押しのある薄茶色縦横刷毛目文様覆表紙附。

二七・六×二〇・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「伊曾保物語 上（中・下）」と朱打付書。覆表紙、左肩に後補の双辺枠書題簽（二二〇・〇×三・九糎）、「伊曾保物語（上、中、下合本／全）」。

〔内題〕「伊曾保物語上（中・下）目録」、「伊曾保物語上（中・下）」。

〔尾題〕「伊曾保物語上（下）終」、「伊曾保物語中」。

〔本文〕每半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕「イソホ 上（中・下）丁附」。

〔丁数〕一一二丁（上目録・一丁、上・二八丁、中目録・二丁、中・三九丁、下目録・二丁、下・四〇丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「尾府内／庫圖書」（尾張藩徳川家、朱長方印、下目録にのみ「拂」の墨丸印）、「中川氏蔵」（中川徳基、朱丸印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治三七・九・二九・購求」（朱丸印）。

〔備考〕中巻にのみ墨筆で振仮名を施すのみ。川瀬六〇四・九三四頁、

（一）慶長元和中刊本、国字本中最古刻本。「本書と同種活字印本に大和物語（十一行本）等あり」と記すが、大和物語（十一行本）の実際の刊年は、寛永元年以後のことであり（高木浩明「古活字版『大和物語』の刊行年時を考える」、『中近世移行期の文化と古活字版』、勉強出版、二〇二〇年所収）、仮に川瀬の見立て通り、本書が大和物語（十一行本）と同種活字を用いた本だとするならば、本書（伊曾保物語）の刊行年時も再考する余地が出てくる。

80 ※一休水鏡 一休宗純

〔請求番号〕WA七―八六

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補丹空押花文二重亀甲繋ぎに竜の文様表紙。二五・六×

一七・七種。四針袋綴。

〔題簽〕 上部に横長の香色紙（八・〇×一二・六種）を貼付し、「水鑑／二人比／丘尼／一休和尚」と墨書。

〔内題〕 「（低三格）水か、み」、「（低三格）二人ひくに」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二〇・七種。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 二〇丁（君のちとせをへん事も、三丁、水か、み、四オ、六ウ・5、二人ひくに、六ウ・7、二〇オ）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「椀原家蔵」（朱長方印）、「故椀原芳埜納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕 一休宗純（二三九四―一四八二）の作とされる仮名法語。三ウ、七オにのみ朱墨による書き入れが施されている。

川瀬は、本書を第二種本（ロ）に分類するが、『増補古活字版之研究』に掲載するいずれの図版とも異なる、別版。慶長頃の刊行か。

81 ※一休水鏡 一休宗純

〔請求番号〕 WA七―二〇六

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙（原表紙裏打改装）。

二八・二×一九・六種。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「（低三格）水鏡」、「（低三格）二人比丘尼」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。大ぶりの古拙な活字、漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・一種。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 一九丁（君のちとせをへんことも、三丁、水鏡、四オ、六ウ・5、二人比丘尼、六ウ・7、一九ウ）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「アカキ」（横山重、朱小印）、「月明莊」（朱小印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、「60・7・31」（昭和六〇年七月三十一日）受

入印。

〔備考〕 後表紙に墨識語、「萬福寺／乘慶」。虫損多く、裏打修補。

川瀬、『増補古活字版之研究』には五種の版を著録するが、いずれの版とも別版。前掲「WA七―八六」本とも別版。

82 謡本（嵯峨本・観世流謡本）

〔請求番号〕 WA七―二五六

〔体裁〕 半紙本、一〇一帖。

〔表紙〕 原装色替りの雲母刷文様表紙。あふひの上（紫鼠色、乱れ

藤・甲、二三・八×一七・九糎)、あこき(白色、麻の葉模様、二三・九×一八・〇糎)、朝顔(白色、乱れ藤・乙に近い別種、二三・八×一八・〇糎)、安宅(緑色、高波・口、二三・八×一八・〇糎)、安達原(緑色、乱れ藤・乙、二三・八×一七・九糎)、海士(紫鼠色、薄に虫・イ、二三・七×一七・九糎)、ありとほし(銀色、竹藪、二三・八×一八・〇糎)、井筒(鼠茶色、楨と松・イ、二三・七×一七・九糎)、鶉飼(水色、立薄・甲、二三・九×一八・〇糎)、うきふね(緑色、楓(表該当なし)、二三・七×一七・九糎)、うとふ(水色、松林に波・甲、二三・九×一八・〇糎)、采女(桃色、藤水巴文・甲、二三・八×一七・九糎)、鷗鷗羽(桃色、梅ヶ枝(表、該当なし)、二三・八×一八・〇糎)、むめかえ(橙色、三本大竹、二三・八×一八・〇糎)、江口(白色、乱れ藤・丙イ、二三・八×一八・〇糎)、老松(薄茶色、藤水巴文・甲、二三・八×一七・九糎)、鸚鵡小町(桃色、藤水巴文・乙、二三・八×一七・九糎)、をしほ(白色、大葛、二三・九×一七・九糎)、をは棄(白色、籬の花、二三・八×一八・〇糎)、女郎華(水色、大葛、二三・八×一八・〇糎)、杜若(桃色、大葛、二三・八×一八・〇糎)、春日龍神(橙色、楨と松・イ、二三・八×一八・〇糎)、かつらき(橙色、竹藪、二三・八×一八・〇糎)、兼平(橙色、水辺の山、二三・八×一八・〇糎)、通小町(桃色、乱れ藤と藤蔓、二三・九×一七・九糎)、

邯鄲(桃色、大葛、二三・八×一七・九糎)、清経(薄茶色、楓(表、該当なし)、二三・八×一七・九糎)、鞍馬天狗(香色、梅が枝・甲口、二三・八×一七・九糎)、くれは(茶紫色、唐草十字印襷文・甲、二四・〇×一八・〇糎)、項羽(香色、藤巴文・乙、二三・八×一七・九糎)、西行桜(緑色、メヒシバ・甲、二三・七×一七・九糎)、桜川(緑色、高波・イ、二三・八×一八・〇糎)、実盛(水色、波模様、二三・八×一八・〇糎)、志賀(白色、麻の葉模様、二三・八×一七・九糎)、春栄(銀鼠色、枝つき桐、二三・七×一八・〇糎)、俊寛(茶鼠色、枝曲り梅・甲、二三・七×一七・九糎)、鍾馗(白色、水草・甲、二三・七×一八・〇糎)、昭君(白色、山帰来、二三・八×一七・九糎)、猩々(薄茶色、蝶にメヒシバ・甲、二四・〇×一八・〇糎)、角田川(薄桃色、水草・甲、二三・七×一七・九糎)、誓願寺(水色、藤六房、二三・八×一七・九糎)、善界(白色、大葛、二三・七×一七・九糎)、殺生石(香色、立梅と藤房、二三・八×一八・〇糎)、摂待(薄茶色、薄に虫・イ、二三・七×一七・九糎)、卒都婆小町(銀鼠色、籬の花、二三・七×一七・九糎)、大会(橙色、蛇籠に波・甲、二三・七×一八・〇糎)、当麻(橙色、別種松林、二三・八×一八・〇糎)、高砂(緑色、紫陽花・甲、二三・九×一八・〇糎)、忠度(水色、高波・イ、二三・八×一八・〇糎)、竜田(橙色、楓・乙、二三・八×一八・〇糎)、玉かつら(桃色、群鹿に草花、

二三・七×一八・〇糶)、玉の井(水色、紫陽花・甲、二三・八×一八・〇糶)、田村(水色、藤巴文・乙、二三・八×一八・〇糶)、定家(緑色、メヒシバ・甲、二三・八×一七・九糶)、天鼓(香色、麻の葉模様、二三・八×一七・九糶)、東岸居士(香色、薄に虫・イ、二三・七×一八・〇糶)、道成寺(香色、三本大竹、二三・八×一八・〇糶)、とほる(水色、梅が枝・甲口、二三・八×一七・九糶)、朝長(薄紫色、楓・乙、二三・八×一七・九糶)、難波(水色、枝曲り梅・甲、二三・八×一七・九糶)、錦木(水色、メヒシバ・甲、二四・〇×一八・〇糶)、鶴(桃色、大葛、二三・八×一八・〇糶)、軒端梅(薄茶色、籬の花、二三・八×一七・九糶)、野の宮(水色、唐草十字印襷文・甲、二三・八×一七・九糶)、白楽天(白色、乱れ藤・乙、二三・八×一七・九糶)、はせを(水色、大葛、二三・八×一七・九糶)、華かたみ(緑色、高波・イ、二三・七×一七・九糶)、班女(香色、唐草米字印襷文・甲、二三・八×一七・九糶)、ひかき(水色、松林に波・甲、二四・〇×一八・〇糶)、水室(香色、高松と藤、二三・八×一八・〇糶)、百萬(緑色、藤水巴文・乙、二三・七×一七・九糶)、富士太鼓(水色、波模様、二三・八×一七・九糶)、藤戸(白色、笹、二三・八×一八・〇糶)、二人静(白色、メヒシバ・丁、二三・八×一七・九糶)、舟橋(白色、群鹿に草花、二三・八×一七・九糶)、舟弁慶(桃色、水辺の山、二三・七×一七・九糶)、放生

川(水色、乱れ藤(表、該当なし)、二三・九×一七・九糶)、佛原(桃色、乱れ藤・丙イ、二三・八×一八・〇糶)、三井寺(水色、梅が枝・乙、二三・八×一八・〇糶)、通盛(水色、藤巴文(表、該当なし)、二三・九×一七・八糶)、三輪(水色、メヒシバ・丁、二三・八×一八・〇糶)、紅葉狩(薄桃色、楓・甲、二三・八×一八・〇糶)、盛久(水色、メヒシバ(表、該当なし)、二四・〇×一八・〇糶)、八嶋(黄色、大葛、二三・六×一七・八糶)、矢卓鴨(水色、大葛、二三・七×一七・九糶)、山うは(薄桃色、竹藪、二三・七×一七・八糶)、夕かほ(黄色、乱れ藤・丙イ、二三・七×一七・八糶)、湯谷(黄色、立薄・甲、二三・七×一七・八糶)、楊貴妃(薄桃色、水草・甲、二三・七×一七・八糶)、籠太鼓(黄色、水草・甲、二三・七×一八・〇糶)。

〔題簽〕左肩に薄茶色唐紙原刷題簽(一〇・八×三・一糶、あふひの上)。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉七行×一三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一九・〇糶(あふひの上)。

〔版心〕無。

〔丁数〕あふひの上・一〇丁、あこき・一〇丁、朝顔・一〇丁、安宅・

二二丁、安達原・一二丁、海士・一六丁、ありとほし・一〇丁、井筒・一〇丁、鶴飼・一二丁(巻尾白丁)、うきふね・一〇

丁、うとふ・一二丁、采女・一四丁（巻尾白丁）、鸕鷀羽・一〇丁、むめかえ・一〇丁、江口・一二丁、老松・八丁、鸚鵡小町・一二丁、をしほ・一二丁（巻尾白丁）、をは葉・一二丁（巻尾白丁）、女郎華・一四丁、杜若・一二丁、春日龍神・一〇丁、かつらき・一二丁（巻尾白丁）、兼平・一四丁、通小町・一〇丁、邯鄲・一〇丁、清経・一六丁（巻尾白丁）、鞍馬天狗・一二丁（後表紙見返しに二行入る）、くれは・一二丁、項羽・一〇丁（巻尾白丁）、西行桜・一二丁、桜川・一八丁（巻尾白丁）、実盛・一六丁、志賀・一〇丁、春榮・二二丁、俊寛・一二丁（巻尾白丁）、鍾馗・八丁（巻尾白丁）、昭君・一二丁、狸々・四丁、角田川・一六丁、誓願寺・一二丁、善界・一〇丁、殺生石・一二丁、撰待・二〇丁、卒都婆小町・一四丁（巻尾白丁）、大会・八丁（巻尾白丁）、当麻・一二丁、高砂・一二丁、忠度・一四丁（巻尾白丁）、龍田・一二丁、玉かつら・一〇丁、玉の井・一二丁、田村・一四丁（巻尾白丁）、定家・一四丁、天鼓・一四丁、東岸居士・八丁、道成寺・一二丁（巻尾白丁）、とほる・一四丁、朝長・一六丁、難波・一二丁、錦木・一四丁（後表紙見返しに一行入る）、鶴・一二丁、軒端梅・一〇丁、野の宮・一二丁、白楽天・一〇丁、はせを・一二丁、華かたみ・一六丁（後表紙見返しに二行入る）、班女・一二丁（後表紙見返しに三行入る）、ひかき・一二丁（巻尾白丁）、氷室・一二丁（後表紙見返しに三行入る）、百萬・一二丁（巻尾白丁）、富士太鼓・一〇丁、

藤戸・一二丁、二人静・一〇丁（後表紙見返しに二行入る）、舟橋・一二丁、舟弁慶・一六丁（巻尾白丁）、放生川・一二丁、佛原・一〇丁、三井寺・一六丁、通盛・一二丁、三輪・一〇丁、紅葉狩・一〇丁、盛久・一六丁、八嶋・一六丁、矢卓鴨・一二丁、山うは・一六丁、夕かほ・一〇丁（巻尾白丁）、湯谷・一六丁（巻尾白丁）、楊貴妃・一二丁、籠太鼓・一二丁（巻尾丁後表紙見返しに貼付）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「国立国会図書館」（朱長方印）、「書／17. 10. 6／国会図」の受人印（朱印）のみ。

〔備考〕

嵯峨本。川瀬四五二頁、第二種本（ここに著録する中島仁之助氏蔵本が本書）、表章（『図説光悦謡本 解説編』、有秀堂、一九七〇年。ここに著録する若林正治氏蔵本が本書）、色替り本色替り本とは、表紙のみに雲母模様があり、一冊中の料紙に各種の有色紙を混用している本。揃本には、帖装本で表紙のみに雲母模様があり、料紙に有色紙を混用していない上製本と同じ装幀の本（上製同装本）をまじえるのが常であるという。

色替り本は、緑青を使用した緑色表紙が多いのが特徴だが、そのため緑青が割れて損傷の激しいものが多い。国会本の場合、景清（緑色、萍、一八丁）、柏崎（緑色、乱れ藤・乙、一六丁）、源氏供養（緑色、蛇籠に波・乙、一一丁）、自然居士（緑色、藤水巴文・甲、一八丁）、関寺小町（緑色、メヒシバ・甲、一四

丁)、千手重衡(緑色、籬の花、一三丁)、道明寺(緑色、蛇籠に波・乙、一三丁)、松かせ村雨(緑色、藤水巴文・乙、一六丁)、遊行柳(緑色、メヒシバ(表、該当なし)、一二丁)、頼政(緑色、紫陽花・甲、一三丁)の十番は損傷が激しく、現在閲覧が停止されている(以上のデータは、デジタルコレクションの画像によって確認した)。国会本の内訳は、八八番が色替り本。くれは・狸々・高砂・ひかき・盛久の五番が「上製本」で、これは旧蔵者が百番にするため後年に補ったものだという。鍾馗・昭君・玉の井・丹後物狂の四番が「上製同装本」の追加本をしほ・通小町・定家・錦木の四番が「上製同装本」の補充本。上製本と同じ装幀の本を上製同装本と称し、これをさらに追加本と補充本に分ける表の分類はいささか煩雑で分かりづらい。色替り本と上製本とを別版としている点も含めて再度分類を検討し直す必要がある。

83 謡注甲集(謡抄) 有節周保他編

〔請求番号〕WA七―三四

〔体裁〕大本、二〇冊。

〔表紙〕原裝(押八双有) 薄茶色空押雷文繫ぎに蓮華(大) 唐草文様表紙。二八・九×二〇・二種。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽、「謡注甲集(高砂 志賀 難波/玉井 呉服) 一(鞍馬天狗 是界 大会/殺生石 山婆) 九」。

〔内題〕「謡注甲集上(下)」。

〔尾題〕曲目によって巻末に「終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二二・八×一六・二種)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「曲名 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四四丁(高砂^マ・六丁、志賀・九丁、難波・一四丁、玉井・一〇丁、呉服・五丁)、第二冊、四二丁(老松・六丁、白楽

天(版心、白楽)・七丁、放生川(版心、放生)・一二丁、弓八幡(版心、弓)・一〇丁、養老・七丁)、第三冊、三四丁(鷗鷺

羽(版心、鷗鷺)・三三丁、矢卓鴨(版心、矢卓)・六丁)、右近・八丁、邯鄲(版心、邯)・八丁、皇帝・九丁)、第四冊、四五丁

(八嶋・九丁、短冊忠度(版心、忠度)・七丁、頼政・七丁、真盛・一二丁・兼平・一〇丁)、第五冊、六二丁(羽衣・九丁、杜

若・七丁、檣・七丁、誓願寺(版心、誓願)・一三丁、当麻(版心、当)・一二丁、蟹・二三丁)、第六冊、四二丁(江口・一三

丁、夕顔・七丁、野宮・五丁、芭蕉・九丁、定家・八丁)、第七

冊、三八丁(熊谷・一〇丁、松風・七丁、源氏供養(版心、源氏)・七丁、井筒・六丁、佛原・八丁)、第八冊、五三丁(軒端

梅(版心、軒端)・一二丁、采女・一五丁、千手重衡(版心、千手)・一〇丁、楊貴妃(版心、貴妃)・一三丁、二人静(四丁)、

第九冊、四六丁(関寺小町(版心、関寺)・九丁、檜垣・七丁、娘棄・九丁、鸚鵡小町(版心、鸚鵡)・八丁、大原御幸(版心、

大原)・一三丁)、第一〇冊、三〇丁(三輪・六丁、龍田・五丁、小塩・六丁、雲林院(版心、雲林)・六丁、葛城・七丁)、第一一冊、四五丁(卒都婆小町(版心、卒)・一六丁、班女・六丁、花筐・八丁、籠太鼓(版心、籠)・四丁、浮舟・四丁、玉鬘・七丁、第二二冊、四七丁(桜川・六丁、百萬(版心、百万)・一四丁、柏崎・一一丁、角田川・七丁、三井寺・九丁)、第一三冊、四四丁(道明寺(版心、道明)・一一丁、西行桜(版心、西行)・七丁、遊行柳(版心、遊)・一四丁、梅枝・九丁、富士天鼓(版心、富士)・三丁)、第一四冊、三四丁(融・七丁、女郎花・八丁、小督・六丁、張良・七丁、蟻通・六丁)、第一五冊、五六丁(木曾・一〇丁、景清・九丁、安宅・一七丁、盛久・一三丁、俊寛・七丁)、第一六冊、三六丁(道成寺・六丁、葵上・九丁、鐵輪(版心、鉄輪)・六丁、安達原(版心、安達)・八丁、紅葉狩(版心、紅葉)・七丁)、第一七冊、五〇丁(阿漕・五丁、天鼓(版心、天)・八丁、藤戸・九丁、自然居士(版心、自然)・一四丁、東岸居士(版心、東岸)・一四丁)、第一八冊、四五丁(ウトウ・九丁、錦木・九丁、松蟲(版心、松虫)・七丁、通小町(版心、通小)・九丁、船橋・一二丁)、第一九冊、四四丁(昭君・一〇丁、項羽・八丁、鶴・八丁、鷓鴣・五丁、春日龍神(版心、春)・一三丁)、第二〇冊、四七丁(鞍馬天狗(版心、鞍馬)・七丁、セカイ・九丁、大会・八丁、殺生石(版心、殺生)・一〇丁、山婆・一三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中邑氏藏書」(朱長方印)、「木田」(朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「明治三九・七・一八・購求」、「詩膽／如天」(朱方印、卷末)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、(五)慶長中刊双辺十行本。

84 謠抄 有節周保他編

〔請求番号〕WA七―二〇八

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙(押八双有、原表紙か)。二七・一×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕各冊とも曲名を墨書した後補の題簽を貼付。

〔内題〕「高砂」(第一冊)以下、曲ごとに冒頭曲名を刻す。

〔尾題〕終(弓八幡・誓願寺・檜垣・采女・東岸居士)。

〔本文〕每半葉一行×二二字。漢字平仮名、並びに片仮名交。草書体の平仮名活字と楷書体の片仮名活字を併用。平仮名活字は「美しい種類のもの」(川瀬一馬)。

〔匡郭〕四周双辺(二一・三×一六・七糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「曲名 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九三丁(高砂・六丁、老松・六丁、難波・一五丁、放生川・一三丁、呉服・六丁、金札・八丁、御裳濯・九丁、養老・

七丁、白楽天・七丁、矢卓鴨・六丁、弓八幡・一〇丁）、第二冊、八八丁（鷗鷺羽・三丁、葛城・八丁、槿・七丁、誓願寺・一二丁、龍田・六丁、羽衣・九丁、杜若・九丁、三輪・七丁、当麻・一三丁、蟹・一四丁）、第三冊、九四丁（短冊忠度（版心、忠度）・八丁、朝長・一〇丁、真盛・一二丁、八嶋・一〇丁、田村・一二丁、兼平・一〇丁、清経・八丁、通盛・七丁、頼政・八丁、藤戸・九丁）、第四冊、八五丁（湯谷・一〇丁、松風・七丁、井筒・六丁、源氏供養・六丁、浮舟・五丁、玉蔓・七丁、姨棄・一〇丁、関寺小町・一〇丁、檜垣・七丁、率都婆小町（版心、卒都婆小町）・一七丁）、第五冊、一〇〇丁（江口・一三丁、野宮・六丁、定家・九丁、軒端梅・一一丁、芭蕉・九丁、二人静・五丁、楊貴妃・一三丁、采女・一五丁、千手重衡（版心、千手）・一〇丁、夕顔・九丁）、第六冊、八九丁（錦木・一二丁、舟橋・一二丁、松虫・七丁、烏頭・九丁、女郎花・九丁、天鼓・八丁、通小町・九丁、邯鄲・九丁、阿漕・六丁、鶴・九丁）、第七冊、九三丁（籠太鼓・四丁、花筐・九丁、班女・七丁、東岸居士・一三丁、栢崎・一一丁、富士太鼓・四丁、三井寺・九丁、自然居士・一五丁、百萬（版心、百万）・一四丁、隅田川・七丁）、第八冊、九七丁（道明寺・一二丁、西行桜・八丁、遊行柳・一五丁、融・七丁、小塩・七丁、小督・七丁、盛久・一四丁、俊寛・七丁、石橋・七丁、大原御幸・一四丁）、第九冊、一三五丁（項羽・八丁、山婆・一五丁、春日龍神・一四丁、張

良・六丁、殺生石・一一丁、皇帝・一〇丁、昭君・一一丁、安宅・一八丁、蟻通・八丁、三咲・一二丁、歌占・二三丁）、第一〇冊、七六丁（紅葉狩・七丁、船弁慶・九丁、セカイ・一〇丁、鞍馬天狗・七丁、大会・八丁、道成寺・六丁、鵜飼・六丁、あふひのうへ・九丁、安達原・八丁、金輪・六丁）。

〔刊記〕第八冊「大原御幸」の卷末に「守清梓刊」。

〔印記〕卷首に未勘の墨印一印。

〔備考〕無書入。川瀬・五六五・九一三頁、(一) 守清刊本。「慶長後半期早々」の刊。

85 謡抄 有節周保他編

〔請求番号〕WA七―二五二

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）薄縹色表紙。二八・〇×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕各冊とも曲目を墨書した題簽を貼付。

〔内題〕「錦木」（第一冊）以下、曲ごとに冒頭曲名を刻す。

〔尾題〕終（女郎花・班女・東岸居士）。

〔本文〕每半葉二行×二一字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二二・八×一七・七糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾（黒魚尾の場合あり）、中縫、「曲名 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七六丁（錦木・九丁、弓八幡・九丁、松虫・六丁、烏

頭（版心、ウタフ）・八丁、女郎花・七丁、天鼓・八丁、通小町・八丁、邯鄲（版心、カンタン）・八丁、阿漕（版心、アコキ）・五丁、鶴・八丁）、第二冊、八二丁（籠太鼓・四丁、花筐・八丁、班女・五丁、東岸居士（版心、トウカン居士・東岸居士）・一二丁、柏崎・一〇丁、富士太鼓・三丁、三井寺・八丁、自然居士・一三丁、百萬（版心、百万）・一二丁、隅田川・六丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 竜文朱印「古寺黒□」、国会図書館受入印、「書／（平成）16

3. 23／国会図」。

〔備考〕 朱引、朱墨書入有。川瀬五六五頁、（二）慶長元和中刊単辺十二行本。完本は蓬左文庫蔵本のみ。他、両足院に一冊を欠く九冊本がある。

86 謡抄 有節周保他編

〔請求番号〕 WA七―二九三

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・四×二〇・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に題簽（二一・九×四・六糎）を貼付するが、無題。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉九行×一行字数不等。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・四糎（湯谷）。

〔版心〕 「湯一（湯終）」、「檜一（檜八）」、「卒一（卒十七）」（二〇丁「卒九」、以下、丁附にずれ）、「玉一（玉終）」、「浮一（浮終）」、「松一（松終）」、「井一（井終）」、「関一（□、虫損）」、「源一（源終）」、「姨一（姨十）」。

〔丁数〕 八九丁（湯谷・一二丁、檜垣・八丁、卒都婆小町・一八丁。六丁補写、玉鬘・七丁、浮舟・五丁、松風・七丁、井筒・六丁、関寺小町・一〇丁、源氏供養・七丁、姨棄・一〇丁、最終丁欠）。

〔刊記〕 「台林刊行」（浮舟の卷末）。

〔印記〕 「国立国会図書館」（朱長方印）、「書／2017. 7. 13／国会図」の受入印（朱印）のみ。

〔備考〕 台林刊本。朱引、朱句読点、墨筆で、返点、振仮名、送仮名が施されている。虫損、裏打修補。

87 謡抄（謡抄）

〔請求番号〕 WA七―二三一

〔体裁〕 大本、一〇冊。

〔表紙〕 原装香色雲母刷文様（メヒシバ）表紙。二四・五×一九・七糎。

四針袋綴（第九冊）。他冊の表紙は、水色もしくは香色、雲母刷文様は、藤巴文（第一冊、第三冊）、梅が枝（第二冊、第六冊）、メヒシバ（第四冊）、唐草米字印禪文（第七冊、第八冊、第一〇冊）。

〔題簽〕 表紙上部に後補の書題簽（八・七×一八・一種）、「うの羽 九

／た、のり／采女／あたか／源氏供養／舟橋／かしはき／雲林院／うか井ミケケチひ／たえま」（第九冊）。

〔内題〕 各冊巻首目録丁オモテに、「諷抄 一（一九）」と墨書。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行、字数不等。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一八・八種。

〔版心〕 ノドに曲名と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、一〇二丁（目録・一丁、高砂・七丁、八鳥・一一丁、

江口・一四丁、盛久・一五丁、熊谷・一三丁、天鼓・一〇丁、

桜川・七丁、三輪・七丁、鞍馬天狗・八丁、融・八丁）、第二冊、

一三三丁（目録・一丁、難波・一七丁、田村・一三三丁、軒端梅・

一三丁、景清・一〇丁、松風（目録、松風村雨）・八丁、藤戸・

一〇丁、百万・一七丁、小塩・七丁、セカイ・一一丁、蟹・

一六丁）、第三冊、九五丁（目録・一丁、老松・七丁、朝長・

一二丁、楊貴妃・一五丁、紅葉狩・八丁、姨棄・一一丁、通小

町・一〇丁、三井寺・一〇丁、蟻通・七丁、西行桜・八丁、矢

卓嶋・六丁）、第四冊、一二二丁（目録・一丁、白楽天・八丁、

兼平・一一丁、定家・一〇丁、山婆・一六丁、夕顔・九丁、籠

太鼓・五丁、遊行柳・一七丁、女郎花・一〇丁、葛城・九丁、

春日龍神・一六丁）、第六冊、九二丁（目録・二丁、志賀・一一

丁、清経・九丁、芭蕉・一一丁、安達原・九丁、檜垣・八丁、

松蟲・八丁、班女・七丁、富士太鼓・四丁、誓願寺・一五丁、

張良・八丁）、第七冊、九五丁（目録・一丁、玉井・一一丁、頼

政・八丁、野宮・六丁、道成寺・七丁、鸚鵡小町・一〇丁、錦

木・一一丁、花筐・一〇丁、權（目録、朝顔）・八丁、鐵輪・七

丁、東岸居士・一六丁）、第八冊、九六丁（目録・一丁、呉服・

六丁、実盛・一三丁、関寺小町・一二丁、俊寛・八丁、千手重

衡・一一丁、阿漕・六丁、葵上・一〇丁、杜若・八丁、昭君・

一二丁、羽衣・一〇丁）、第九冊、一二三丁（目録・一丁、鸚鷯

羽・四丁、短冊忠度（目録、忠度）・八丁、采女・一八丁、安

宅・二〇丁、源氏供養・八丁、船橋・一三丁、柏崎・一三丁、

雲林院・七丁、鸚鯛・六丁、当麻・一五丁、第一〇冊、九五丁

（目録・二丁、放生川・一三丁、井筒・六丁、率メ都婆小町・一九

丁、鶴・九丁、佛原・一〇丁、小督・七丁、浮舟・五丁、梅枝・

一〇丁、項羽・九丁、龍田・六丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「松緑楓／紅軒清／玩之印」（朱方印）、「書／（平成）9. 1.

14／国会図」（朱印）。

〔備考〕 第五冊欠。第九冊以外は虫損が甚だしく、閲覧停止。第九冊以

外は、「国会図書館デジタルコレクション」で確認した。川瀬

五六五・九一三頁、（四）慶長中刊無辺十行本、「具引き色替り

の料紙を用ひ、活字の様式は慶長十四年以前刊宝物集と同種で

あらうと思はれる」。伊藤正義「謡抄考（中）」、甲種Ⅱ具引き色

替り料紙、乙種Ⅱ普通紙。

冊)、森銚三筆。

88 うつほものがたり 二巻

〔請求番号〕WA七―二二六

〔体裁〕 大本、上下二冊、合一冊。

〔表紙〕 後補丹空押雷文繋ぎ牡丹(小) 唐草文様表紙。二六・五×

一七・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(一七・〇×三・六糎)、「□□ほものかた

り」。右肩に「Utsubo Monogatari」(タイプライター印字、フランク・ホーレーの蔵書)の紙片が貼付されている。

〔内題〕 「(低二格) うつほものかたり上」、「(低二格) うつほ物語下」。

〔尾題〕 「(低五格) 上巻終」、「(低二格) うつほ物語巻下終」。

〔本文〕 每半葉一行×二二字。漢字平仮名交、附訓活字を交える。

〔匡郭〕 無辺、無界、字高、二二・六糎。

〔版心〕 「うつ上(下) 丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕 八〇丁(上・四六丁、下・三四丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「寶玲文庫」(朱長方印、フランク・ホーレー)、「月明莊」(反町

茂雄、巻末、朱小印、帙には「弘文莊」の朱小印)。受人印(平成) 1・9・8)。

〔備考〕 無書入。川瀬、五一・八八六頁、第二種本。帙(金糸、牡丹

唐草文様) 題簽(うつほ物語(元和寛永中刊/古活字版) 合一

89 尉繚子 五巻

〔請求番号〕WA七―二三三四

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二七・八×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 題簽剥落、左肩に剥落痕(二七・五×三・五糎)あり。

〔内題〕 「尉繚子巻第一(一五)」。

〔尾題〕 「尉繚子巻第一(一五)終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・四×一五・六糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「尉繚子(一五) 丁附」。

〔丁数〕 三九丁(巻第一・九丁、巻第二・一〇丁、巻第三・七丁、巻第

四・五丁、巻第五・八丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「国立国会図書館」印と受人印(平成) 12・2・9)のみ。

〔備考〕 無書入。慶長十一年刊伏見版七書のうちの一。帙題簽(伏見版

尉繚子(慶長十一年刊/古活字版)、森銚三筆。本には「月明莊」の印はないが、帙からするとかつては反町弘文莊が扱った本と知れる。

90 ※〔馬医書〕

〔請求番号〕WA七―一八一

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕縹色空押麻の葉繋ぎ文様表紙（押八双有）。二七・八×一九・三
 種。四針袋綴。

〔題簽〕左肩、題簽剥落（一五・二×三・一種）。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二二行×二四字。漢字平仮名交。濁点・附訓（平仮名・
 片仮名併用）活字を混す。挿絵有。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・八種。

〔版心〕「世キ」「世人」（第二冊）、「世ソ」（第二冊）、「世カ」（第三冊）。

〔丁数〕第一冊、五八丁（目録・四丁、はれものの類ひ條々・二二六丁、
 目録・四丁、けつ馬の次第・二四丁）、第二冊、三〇丁（目
 録・三丁、しよ病らうやくの次第・二七丁）、第三冊、二六丁
 （目録・二丁、内らの次第條々もくろく付り内その事・二四
 丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引等が施されるのみ。添付のカードに、「（書名）馬医書
 四種（著者解説）ないらの次第條々／しよ病らうやくの次
 第／はれものるひ條／けつ馬の次第（冊数）大三（値段）

七五〇、〇〇〇」。さらに「寛永頃刊 古活字版。「けつ馬の次第」

以外は新出版。『古活字版之研究』未載。甚々稀。四卷三冊。保
 存概ね良」と記されている。川瀬、四八三頁に「けつ馬の次第」
 を著録。「けつ馬の次第 一卷一冊、高木文庫蔵 十二行平仮名
 交り。毎行二十四字。（中略）濁点振仮名附活字を混ぜり。振仮
 名に片仮名平仮名を併用せるは注意す。寛永中の印行と認む可
 し。版心に「世人（丁数）」とあるので或は全書中の欠冊ではあ
 るまいか。（中略）六十八項に亘つて馬の療法を説いてゐる」。

91 ※うをのうた合・けだ物の歌合

〔請求番号〕WA七―一七五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕新補藍色改装表紙。二八・一×一九・五種。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷粋無題の題簽を貼付するのみ。

〔内題〕「低五格」うをのうた合、「（低二格）けだ物の哥合たいぐ三は
 んしやししくわう」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二四字。漢字平仮名交。小型活字、附訓・濁点
 附活字を用いる。うをのうた合、二ウ「左おめてたいゑもん、
 右きみをこひのすけ」他、本文下段に魚貝の挿絵を対で刻す（四
 オ・五ウ・六オ・七オ・八ウ・一〇オ・一一ウ・一二ウ・一三
 ウ・一四ウ・一五ウ・一六ウ・一七ウ・一八ウ）。けだ物の歌合、

二オ「かわうその水ゑもん、右ぶたのほうしどろほう」他、本文下段に獣の挿絵を対で刻す（三ウ・五オ・六ウ・八ウ・一〇オ・一二オ・一三ウ・一四ウ・一五ウ）。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・四糎。

〔版心〕 版心上部に「世土」と刻す。

〔丁数〕 三八丁（うをのうた合・二二丁、けだ物の歌合・一七丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「中川氏蔵」（中川德基、一八三三〜一九一五、朱丸印）、「帝國

／圖書／館印」（朱方印）、「明治三二・八・四・購求」（朱丸印）。

〔備考〕 もと鳥と虫を含めて「四生の歌合」として作られたもの。伝木

下長嘯子（一五六九〜一六四九）作。無書入。川瀬未載。

92 栄花物語 四十卷

〔請求番号〕 WA七―一〇六

〔体裁〕 大本、一〇冊。

〔表紙〕 後補の紺色表紙に薄茶色、「帝／國／圖／書／館／蔵」の型押しのある布目地覆表紙附。二七・〇×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 紺色表紙中央に後補の書題簽（一六・六×三・五糎）、「栄花物語（一月宴／二花山）一（―廿七煙の後／卅八松のしつえ）

十九」、覆表紙左肩には双辺刷柄書題簽（一六・七×三・四糎）、

「栄花物語 一、二（―十九、二十止）」。

〔内題〕 「栄花物語／一月宴／二花山（―卅九ぬのひき瀧／四十むらさき

野）。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×二一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二〇・九糎。

〔版心〕 無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、一五四丁（目録・一丁、月宴・五〇丁、花山・三七丁、

目録・一丁、さま／＼のよろこひ・二八丁、見はてぬゆめ（目

録、見はてぬ夢）・三七丁）、第二冊、一六五丁（目録・一丁、

うら／＼のわかれ・四五丁、か、やくふちつほ（目録、か、や

く藤つほ）・一五丁、目録・一丁、とりへ野・二九丁、はつ花・

七四丁）、第三冊、一〇〇丁（目録・一丁、石蔭・二〇丁、日か

けのかつら・二六丁、目録・一丁、つほみ花・一九丁、玉村菊・

三三丁）、第四冊、一一八丁（目録・一丁、木綿四手・二七丁、

朝緑（目録、あさみとり）・二三丁、目録・一丁、疑・二三丁、

弟子大日本国……三丁、本のしつく・四〇丁）、第五冊、七一

丁（目録・一丁、をんかく（目録、音楽）・二三丁、玉台・一八

丁、目録・一丁、御着裳・一九丁、御賀・九丁）、第六冊、五八

丁（目録・一丁、後悔大将・一六丁、とりのまひ（目録、鳥

舞）・九丁、目録・一丁、こまくらへ・一四丁、わか枝（目録、

若枝）・一七丁）、第七冊、一一八丁（目録・一丁、みねの月（目

録、嶺月）・二三丁、楚王の夢（目録、楚王夢）・三三丁、目録・

一丁、衣珠・四四丁、わかみつ（目録、若水）・一七丁）、第八

冊、一〇五丁（目録・一丁、玉のかさり・二八丁、つるのはやし（目録、鶴林）・二五丁、目録・一丁、殿上花見・二六丁、哥合・二四丁）、第九冊、九三丁（目録・一丁、きるはわひしと歎女房・一六丁、晩待星・二二丁、目録・一丁、蜘蛛のふるまひ・五丁、ねあはせ（目録、根あはせ）・四八丁）、第一〇冊、八七丁（目録・一丁、煙後・一五丁、松のしつえ・二七丁、目録・一丁、布ひきのたき（目録、ぬのひき瀧）・三〇丁、むらさき野・一三丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「幽遠窟／蔵書記」（朱長方印、入江昌喜）、「梶原家蔵」（双辺、墨長方印）、「故梶原芳塾納本」（双辺、朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕 卷首に「江田氏収蔵之古写本」の目録を補写。「はつ花」三五ウ七行目く三七ウ七行目、本文切り貼り、補写。イ本との校合は「鶴林」まで。他、朱墨書入有。第一冊の前表紙見返しに識語、「栄花物語ハ赤染衛門（大隅守時用女／実平兼盛女）作也自宇多帝至後朱／雀帝々王中宮撰家之事ヲ載タリ殊御堂関白道長／公威勢栄花之事ヲ委記セル故栄花物語ト号此書文／詞余惜ノミニ非ス以実記之故一ツノ国史也源氏物語ノ／類ニアラス季吟カ古今序注ニモ国史ノ正文ニハ非サレトモ／世継物語ハ赤染衛門カ古書タル物ナレハ空コトト云ヘカラス云々／世継物語トハ栄花物語也／以江田氏収蔵之古写本一校了但古写本者鶴ノ林ノ卷二終

（印）（印）。WA七―一四八と比較、欠丁なし。

93 栄花物語 四十卷

〔請求番号〕 WA七―一二五

〔体裁〕 大本、二〇冊。

〔表紙〕 後補黄色布目地表紙。二六・六×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一八・八×三・六糎）、「栄花物語（一月のゑん／二花山）（―廿九布引瀧／四十紫野）」。

〔内題〕 「栄花物語／一月宴／二花山（―廿九ぬのひき瀧／四十むらさき野）」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・〇糎（さま／＼のよるこひ）。

〔版心〕 無。ノド丁附不明。

〔丁数〕 第一冊（一月宴・二花山）、全丁補写、第二冊、六六丁（目録・一丁、三さま／＼のよるこひ・二八丁、見はてぬゆめ（目録、見はてぬ夢）・三七丁）、第三冊（五うら／＼のわかれ・六か、やく藤つほ）、全丁補写、第四冊（七とりへ野・八はつ花）、全丁補写、第五冊、四七丁（目録・一丁、石蔭・二〇丁、日かけのかつら・二六丁）、第六冊、五三丁（目録・一丁、つほみ花・一九丁、玉村菊・三三丁）、第七冊、五二丁（目録・一丁、木綿四手・二八丁、一四丁重複、朝緑（目録、あさみとり）・二三

丁)、第八冊、六七丁(目録・一丁、疑・二三丁、弟子大日本国
……・三丁、本のしづく・四〇丁)、第九冊、四二丁(目録・一
丁、をんかく(目録、音楽)・二三丁、玉台・一八丁)、第一〇
冊、二九丁(目録・一丁、御着裳・一九丁、御賀・九丁)、第
一一冊、二六丁(目録・一丁、後悔大将・一六丁、とりのま
ひ(目録、鳥舞)・九丁)、第一二冊、三三丁(目録・一丁、こ
まくらへ・一四丁、わか枝(目録、若枝)・一七丁)、第一三冊、
五六丁(目録・一丁、みねの月(目録、嶺月)・二三丁、楚王の
夢(目録、楚王夢)・三三丁)、第一四冊、六二丁(目録・一丁、
衣珠・四四丁、わかみつ(目録、若水)・一七丁)、第一五冊、
五四丁(目録・一丁、玉のかさり・二八丁、つるのはやし(目
録、鶴林)・二五丁)、第一六冊、五二丁(目録・一丁、殿上花
見・二六丁、哥合・二四丁)、第一七冊、三九丁(目録・一丁、
きるはわひしと歎女房・一六丁、晩待星・二二丁)、第一八冊、
五四丁(目録・一丁、蛛のふるまひ・五丁、ねあはせ(目録、
根あはせ)・四八丁)、第一九冊、四三丁(目録・一丁、煙後・
一五丁、松のしつえ・二七丁)、第二〇冊、四四丁(目録・一丁、
布ひきのたき(目録、ぬのひき瀧)・三〇丁、むらさき野・一三
丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「青木／印」(朱方印、青木信寅)、「佐度萩／埜邊之／圖書記」
(朱方印、萩野由之)、「帝國／圖書／館蔵」(朱方印)、「明治

四〇・二・二三・購求」印。

〔備考〕朱引、朱丸傍点、イ本注記、他、朱墨書入多数有。

94 栄花物語 四十卷

〔請求番号〕WA七―一二六

〔体裁〕大本、二〇冊。

〔表紙〕栗皮色渋引き表紙(押八双有、改装はしているが、表紙自体は
原表紙か)。二七・一×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「栄花物語／一月宴／二花山(一冊九ぬのひき瀧／四十むらさき
野)。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、八八丁(目録・一丁、月宴・五〇丁、花山・三七丁)、
第二冊、六六丁(目録・一丁、さま／＼のよろこひ・二八丁、
見はてぬゆめ(目録、見はてぬ夢)・三七丁)、第三冊、六一
丁(目録・一丁、うら／＼のわかれ・四五丁、か、やくふちつ
ほ(目録、か、やく藤つほ)・一五丁)、第四冊、一〇四丁(目
録・一丁、とりへ野・二九丁、はつ花・七四丁)、第五冊、四七
丁(目録・一丁、石蔭・二〇丁、日かけのかつら・二六丁)、第

六冊、五三丁（目録・一丁、つほみ花・一九丁、玉村菊・三三丁）、第七冊、五一丁（目録・一丁、木綿四手・二七丁、朝録（目録、あさみとり）・二三丁）、第八冊、六七丁（目録・一丁、疑・二三丁、弟子大日本国……・三三丁、本のしつく・四〇丁）、第九冊、四二丁（目録・一丁、をんかく（目録、音楽）・二三丁、玉台・一八丁）、第一〇冊、二九丁（目録・一丁、御着裳・一九丁、六・七丁乱丁、御賀・九丁）第一一冊、二六丁（目録・一丁、後悔大将・一六丁、とりのまひ（目録、鳥舞）・九丁）、第一二冊、三三丁（目録・一丁、こまくらへ・一四丁、わか枝（目録、若枝）・一七丁）、第一三冊、五六丁（目録・一丁、みねの月（目録、嶺月）・二三丁、楚王の夢（目録、楚王夢）・三三丁）、第一四冊、六二丁（目録・一丁、衣珠・四四丁、わかみつ（目録、若水）・一七丁）、第一五冊、五四丁（目録・一丁、玉のかさり・二八丁、つるのはやし（目録、鶴林）・二五丁）、第一六冊、五一丁（目録・一丁、殿上花見・二六丁、哥合・二四丁）、第一七冊、三九丁（目録・一丁、きるはわひしと歎女房・一六丁、晚待星・二三丁）、第一八冊、五四丁（目録・一丁、蛛のふるまひ・五丁、ねあはせ（目録、根あはせ）・四八丁）、第一九冊、四三丁（目録・一丁、煙後・一五丁、松のしつえ・二七丁）、第二〇冊、四四丁（目録・一丁、布ひきのたき（目録、ぬのひき瀧）・三〇丁、むらさき野・一三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「今出／河／蔵書」（朱方印、今出川（菊亭）家）、「杉園蔵」（朱长方形、小杉楹邨）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「大正3・10・2・購求」印。

〔備考〕各冊巻末に小杉楹邨による朱識語（宮内庁書陵部蔵の谷森善臣手校本（谷・三〇六）にもこれと全く同文の識語が記されている）、「慶応四年六月十日就三條西殿古本校畢」（第一冊）、「就古写本加校畢」（第二冊）、「慶応四年七月九日就古本校合畢」（第三冊）、「慶応四年七月廿九日就三條西殿古本校畢」（第四冊）、「慶応四年九月五日就古本校畢」（第六冊）、「明治元年九月廿八日就古本校畢」（第七冊）、「明治元年（戊／辰）十二月二日就三條西殿古写本校畢」（第八冊）、「明治元年十二月七日就三條西殿文庫之本校合訖／此第廿一卷以下至四十卷合冊七帖者別本小双紙也標／紙題識云世繼」（第一一冊、目録丁に「三條西殿御本此卷以下小本也／目録標題等如活字本但標紙題云世繼」、廿二鳥舞の下に「写補葉紙」）、「明治元年十二月九日校了」（第二冊）、「明治元年十二月十三日校畢」（第一三冊）、「明治元年（戊／辰）十二月十六日雪窓燈下校畢」（第一四冊）、「明治二年二月九日就三條西殿御本校合畢」（第一五冊）、「明治二年二月十四日校了」（第一六冊）、「明治二年二月十七日校畢」（第一七冊）、「明治二年二月廿日雨窓燈下校畢」（第一八冊）、「明治二年二月廿六日校了」（第一九冊）、「明治二年二月廿七日夜窓燈下就三條西殿御本一校畢」（第二〇冊）。朱墨藍緑等の筆（小杉楹邨筆）でおびた

だしく書き入れが施されている。

95 栄花物語 四十卷

〔請求番号〕WA七―一四八

〔体裁〕 大本、二〇冊。

〔表紙〕 縹（藍）色空押雷文襷小菊文様表紙。押八双あり、原表紙か。

二八・〇×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 中央に銀泥下絵のある書題簽（白・丹・水・黄・薄紅色、

一八・三×三・四糎）、「栄花物語（二月の宴／二花山中納言」

（一）（卅九布引の滝／四十紫野）」。

〔内題〕 「栄花物語／一月宴／二花山（一）卅九ぬのひき瀧／四十むらさき

野）。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕 無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、八八丁（目録・一丁、月宴・五〇丁、花山・三七丁）、

第二冊、六六丁（目録・一丁、さま／＼のよろこひ・二八丁、

見はてぬゆめ（目録、見はてぬ夢）・三七丁）、第三冊、六一

丁（目録・一丁、うら／＼のわかれ・四五丁、か、やくふちつ

ほ（目録、か、やく藤つほ）・一五丁）、第四冊、一〇四丁（目

録・一丁、とりへ野・二九丁、はつ花・七四丁）、第五冊、四七

丁（目録・一丁、石蔭・二〇丁、日かけのかつら・二六丁）、第

六冊、五三丁（目録・一丁、つほみ花・一九丁、玉村菊・三三

丁）、第七冊、五一丁（目録・一丁、木綿四手・二七丁、朝緑

（目録、あさみとり）・二三丁）、第八冊、六七丁（目録・一丁、

疑・二三丁、弟子大日本国……三丁、本のしつく・四〇丁）、

第九冊、四二丁（目録・一丁、をんかく（目録、音楽）・二三丁、

玉台・一八丁）、第一〇冊、二九丁（目録・一丁、御着裳・一九

丁、六・七丁乱丁、御賀・九丁）第一一冊、二六丁（目録・一

丁、後悔大将・一六丁、とりのまひ（目録、鳥舞）・九丁）、第

一二冊、三二丁（目録・一丁、こまくらへ・一四丁、わか枝（目

録、若枝）・一七丁）、第二三冊、五六丁（目録・一丁、みねの

月（目録、嶺月）・二三丁、楚王の夢（目録、楚王夢）・三二丁）、

第一四冊、六二丁（目録・一丁、衣珠・四四丁、わかみつ（目

録、若水）・一七丁）、第二五冊、五四丁（目録・一丁、玉のか

さり・二八丁、つるのはやし（目録、鶴林）・二五丁）、第二六

冊、五一丁（目録・一丁、殿上花見・二六丁、哥合・二四丁）、

第二七冊、三九丁（目録・一丁、きるはわひしと歎女房・一六

丁、晩待星・二二丁）、第二八冊、五四丁（目録・一丁、蛛のふ

るまひ・五丁、ねあはせ（目録、根あはせ）・四八丁）、第一九

冊、四三丁（目録・一丁、煙後・一五丁、松のしつえ・二七丁）、

第二〇冊、四四丁（目録・一丁、布ひきのたき（目録、ぬのひ

き瀧）・三〇丁、むらさき野・一三丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「文部省／圖書記」（朱長方印）に重ねて「文部省／書庫消／印之證」（朱方印）を捺す。他、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕 無書入。

96 栄花物語 四十卷

〔請求番号〕 WA七―二八三

〔体裁〕 大本、二〇冊。

〔表紙〕 後補薄茶色横刷毛目文様表紙。二六・一×一九・六糎。五針袋

綴（糸切れの冊多し）。

〔題簽〕 左肩に後補双边刷粹書題簽（一八・五×三・九糎）、「栄華（花

物語 〈二月宴／二花山〉（―卅九ぬのひき瀧／四十むらさき

野）。

〔内題〕 「栄花物語／一月宴／二花山（―卅九ぬのひき瀧／四十むらさき

野）。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕 無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、八八丁（目録・一丁、月宴・五〇丁、花山・三七丁、

二二・二三丁乱丁）、第二冊、六六丁（目録・一丁、さま／＼の

よろこひ・二八丁、見はてぬゆめ（目録、見はてぬ夢）・三七

丁）、第三冊、六一丁（目録・一丁、うら／＼のわかれ・四五

丁、か、やくふちつほ（目録、か、やく藤つほ）・一五丁）、第

四冊、全丁補写（七とりへ野・八はつ花）、第五冊、全丁補写

（九石蔭・十日かけのかつら）、第六冊、五二丁（目録欠、つほ

み花・一九丁、玉村菊・三三丁）、第七冊、五一丁（目録・一丁、

木綿四手・二七丁、朝緑（目録、あさみとり）・二三丁）、第八

冊、六七丁（目録・一丁、疑・二三丁、弟子大日本国……三

丁、本のしつく・四〇丁）、第九冊、四二丁（目録・一丁、をん

かく（目録、音楽）・二三丁、玉台・一八丁）、第一〇冊、二九

丁（目録・一丁、御着裳・一九丁、六・七丁乱丁、御賀・九丁）

第一一冊、二六丁（目録・一丁、後悔大将・一六丁、とりのま

ひ（目録、鳥舞）・九丁）、第二二冊、三三丁（目録・一丁、こ

まくらへ・一四丁、わか枝（目録、若枝）・一七丁）、第二三冊、

五六丁（目録・一丁、みねの月（目録、嶺月）・二三丁、楚王

の夢（目録、楚王夢）・三三丁）、第一四冊、六二丁（目録・一

丁、衣珠・四四丁、わかみつ（目録、若水）・一七丁）、第一五

冊、五四丁（目録・一丁、玉のかさり・二八丁、つるのはやし

（目録、鶴林）・二五丁）、第一六冊、五二丁（目録・一丁、殿上

花見・二六丁、哥合・二四丁）、第一七冊、三九丁（目録・一

丁、きるはわひしと歎女房・一六丁、晩待星・三二丁）、第一八

冊、全丁補写（卅五蜘蛛のふるまひ・卅六根あはせ）・四八丁）、

第一九冊、四三丁（目録・一丁、煙後・一五丁、松のしつえ・

二七丁)、第二〇冊、目錄・一丁、布ひきのたき(目錄、ぬのひき瀧)・三〇丁、「四十むらさき野」のみ全丁補写。

〔刊記〕無。

〔印記〕「教育博／物館印」(朱方印)、「明治十三年七月廿一日購求」印、

「教育博物館圖書掛／明十三／九月改」(朱丸印)。

〔備考〕無書入、裏打修補。

97 延寿撮要 曲直瀬玄朔著

〔請求番号〕WA七―二四〇

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二六・四×一六・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(下部破損)、「延寿撮要」。

〔内題〕「延寿撮要総目録」、「延寿撮要」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一九字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・四糎。

〔版心〕無。ノドに丁附のみ刻す。

〔丁数〕四四丁(総目録・二丁、本文・四二丁、跋、刊記・一丁)。

〔刊記〕「此書者^僕在関左之日偏州下邑之者不知養生之道／不幸而致夭横故愛憐之心最深仍檢延寿之数快聚／枢要之語名之以延寿撮要為便見聞以倭字書之施／洛之後此一巻忝歷／觀覽何幸加焉伏希広頒華夷普授士民人人長保仙／寿規祝不淺也謹以記歲月云爾／慶

長己亥立夏之節 法印玄朔(四四才)、「意齋道啓刊行」(四四ウ)。

〔印記〕「国立国会図書館」印と受人印(・・)のみ。

〔備考〕養生之総論に朱引の他、朱墨で訓点を施すのみ。川瀬三三〇・七五〇頁、第三種本。「元和中の翻印と覚しき」意齋道啓刊行」の刊記ある一本(三三〇頁)。伝本の一つ、天理図書館蔵本の後表紙見返しには、「門下生意齋道啓刊行之／慶長十三年孟春吉辰／延寿院玄朔(花押)」の墨書識語あり。

98 大鏡

〔請求番号〕WA七―二〇五

〔体裁〕大本、六冊。

〔表紙〕原装(押八双有) 黒色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。

二八・四×二〇・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕中央に後補の書題簽(一八・四×三・七糎)、「大鏡 一(三)」、

「お、か、み二(六終)」、「大か、み四(五)」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交、注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・三糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五〇丁(目錄・一丁、本文・四九丁)、第二冊、五六

丁（目録・半丁、本文・五二丁半、関白次第・一丁、世継名・二丁）、第三冊、五二丁（目録・一丁、本文・五一丁）、第四冊、二六丁（目録・一丁、本文・二五丁）、第五冊、四九丁（目録なし、本文・四九丁）、第六冊、三九丁（目録なし、本文・三九丁）。各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「水松亭／松室氏／藏書印」（朱長方印）、「鳥野藏」（朱長方印、鳥野幸次）。

〔備考〕 「御本」との朱校合有。本書は画家松室重剛から鳥野幸次に贈られたもので、その経緯を記したメモが添付されている。「松室重剛大人は元学習院に於ける同僚中の先輩にして相交／ること今に三十二年大人先に居を鶴沼に移し余も其の後大磯に／転じ更に今の処に移りしかば常に往復談笑して楽みとせり／今年七月大人病篤きに当り其の再び起□（た）ざるを知る者の／如く一日往訪の余に本書を贈りて其の遺愛を継がし／めむとせらる余辞するに言なく即ち受けて帰り愛蔵し／て以て聊か其の高志を副はむことを期す／昭和四年八月十六日其の初七日忌日悵然として之を記す／幸次」を添付。さらに鳥野幸次に宛てた山岸徳平の書簡も添付されている。「拝復益々御健勝に亘らせられ候／趣大慶至極に奉存候／却説御大切なる御本長らく／拝借仕り御蔭様にて木活／本大鏡大体相わかり申候段厚／く御礼申上候／この御本完本に御座候木活字／本は六冊にて整版八冊と同一／

に候事左の如くに候申すま／ても無之候へとも一寸記し申候／（木活・流布本（整版）古本（六卷本・三卷本）の対照表を記す）

／◎整版本ハ木活字ヲ底本トナシタルモノナルベシ／岩瀬文庫本六卷写本ハ木活本ノ写シ也／直接御持参可仕候へとも失礼なが／ら小包便にて御送り申上候間／御查收下されたく願上候／何れ拝芝の上にて万々御礼申／上度く取りあへす右御案内／かた／御礼の言葉までに申／上候右要用のみ申述候勿々／十月九日 山岸徳平／鳥野先生／文几。

川瀬五二九・八九四頁、「増鏡水鏡の両書と同種活字で、慶元（慶長元和）中共時に刊行せられたものと認められる」。鳥野幸次氏蔵と著録される本が本書。

99 大坂物語 存上巻

〔請求番号〕 WA七―三八

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（押八双有、裏打修補、見返しも改装されているが、表紙自体は原表紙か）。「帝／國／圖／書／館／藏」と型押のある薄茶色覆表紙（二八・七×二〇・一）附。四針袋綴。

〔題籤〕 左肩に「大坂物語 上下」と打付書、覆表紙の左肩には後補の双辺粹書題籤（一九・八×三・九）、「大坂物語 全」が貼付されている。

〔内題〕「(低二格) 大坂物語」。

〔尾題〕無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一九字。漢字平仮名交。大型、横に幅広の特徴のある活字を用いる。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二四・三糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 三八丁。他、前遊紙(もと見返し紙か)一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「吉氏／家蔵」(朱陰刻方印、吉田意菴)「詞華／堂」(細井貞雄、

安永元々文政六年、朱方印)、「高麗蔵」(朱長方印、高麗環)、

「此ぬし／いもしげ／○やき」(箱看板型朱印、奥村残跡庵、名

繁次郎、別号化曼、通称芋繁。大正八(一九一九)年没。御徒

町に焼芋屋を営む傍ら古書に通じ、セドリからやがて売文を業

とするに至る)、「青山文庫」(朱長方印、根岸武香)、「根岸信輔

氏寄贈」印、「昭和八・八・一〇寄贈／帝國」。

〔備考〕 全丁裏打修補。ごくわずかに朱筆で濁点を施す箇所はあるけれど、無書人に等しい。川瀬六〇九・九四四頁、第一種本。「巻頭

には「大坂物語」とあつて全一冊、冬陣を描いたこの物語上巻の部分に相当し、其の行文から見ても一巻を以て完結の体をな

してゐる。本書は、慶長中期以前から平家物語・保元平治物語・徒然草十行本・枕草子十行本等の先行刻本に使用された大型の

ものを用ひ、版式上からも各種本中、最古刻と認め可きもので

ある。然らば「銀子請取日記」等の考証に拠つて、元和元年正

月以前、冬陣和議成立の直後、出版せられた一本に相当するも

のであらう。管見に入つた伝本は帝國図書館所蔵青山文庫根岸

信輔氏旧蔵の一本のみで、「吉氏家蔵」「高麗蔵」「詞華堂」(細井貞雄)「此ぬし／いもしげ／○やき」等の印記がある。巻頭の本文が古活字印本第三種以下の諸本と著しく異つてゐる」(六一八頁)。図録篇・五八三図に国会本の図版を収む。

100 応仁記 二卷

〔請求番号〕 WA七―二〇九

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 原装(押八双有) 焦げ茶色表紙。二八・六×一九・五糎。四針

袋綴。

〔題簽〕 題簽剥落、左肩に大きく「応仁記卷之上(下)」と打付書。

〔内題〕 「応仁記目録(卷之上・下)」。

〔尾題〕 「応仁記卷之上(下)」。

〔本文〕 每半葉一二行×二二字。漢字片仮名交、小型活字。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・二×一五・九糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「応仁記上(下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二八丁(目録、序・一丁、卷之上・二七丁)、第二冊、二六丁(卷之下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「青谿／書屋」（朱方印、大島雅太郎）、「寶冷文庫」（墨長方印、フランク・ホーレー）、「小汀文庫」（朱長方印、やや小、小汀利得）、「月明莊」（朱印小、反町茂雄）。

〔備考〕無書入。森銑三筆の題簽付映入。川瀬・五八七頁、（一）元和寛永中刊本。伝本、他に西尾市岩瀬文庫蔵本。

101 小笠原百箇条

〔請求番号〕WA七―一七一

〔体裁〕枳形小本、一冊。

〔表紙〕焦げ茶色表紙。一三・二×一四・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低一格）小笠原百箇条卷第一」。

〔尾題〕「（低一格）小笠原百箇条終」。

〔本文〕每半葉八行×一二字。漢字片仮名交、附訓。

〔匡郭〕上下双边、左右单边（一〇・六×一二・二糎）、無界。

〔版心〕上黒口上花口魚尾に丁附を刻す。

〔丁数〕二〇丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「好徳堂／圖書印」（朱長方印）、「小汀文庫」（朱長方印、小汀利得）、「47・11・20」（昭和四七年二月二〇日）印。

〔備考〕無書入。川瀬・八七三頁、寛永中刊。川瀬が唯一著録する小汀文庫蔵の一本が本書。図録篇・九〇六図に図版を収む。

102 解紛記 三卷

〔請求番号〕WA七―一二二

〔体裁〕中本、三冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（裏打修補、押八又有、原表紙か）。二一・二×一四・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「解紛記上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「解紛記卷上（中・下）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一四字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕四周双边（一七・二×一二・一糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「解紛卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四三丁（目録・一丁、卷上・四二丁）、第二冊、三四丁（目録・一丁、卷中・三三丁）、第三冊、三三丁（目録・一丁、

卷下・三二丁）。目録は各冊とも見返しに貼付。

〔刊記〕各冊卷末に「慶長十二（丁曆）三月日 黒庵（印）」（卷上・中）、「慶長十二（丁未）三月日 黒庵（印）」（卷下）。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治三五・五・一八購求」。

〔備考〕無書入。川瀬・四〇三・八四九頁、刀劍鑑定の書、再版。図録篇・二七七図に国会本の図版を収む。

103 「花鳥風月」

〔請求番号〕WA七―五六

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 新補藍色表紙。二六・六×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の双辺刷梓書題簽（一七・九×三・六糎）、〔花鳥風月〕。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一九字。漢字平仮名交。挿絵一〇図。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・九糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 三〇丁。他、前後に新補の遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「阿波國文庫」（朱長方印、徳島藩蜂須賀家）、「不忍文庫」（朱長方印、屋代弘賢）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「明治二二・二・二〇購求」。

〔備考〕 無書入。川瀬・五九一頁、慶長中の刊行に係る挿画本。「(一) 浄瑠璃物語と同種活字印本、(二) と全く書風を異にし、活字は大型であるが書体は長細めである」。図録篇・五三二図に国会本の図版を収む。

104 寛永行幸記 存中・下巻

〔請求番号〕 WA七―一五四

〔体裁〕 卷子本、二軸。

〔表紙〕 黄緑色唐花竜鳥文様絹布表紙、見返しは金紙に金箔散らし。第一軸、二七・五×三〇・五糎、第二軸、二七・二×二七・二糎。

〔題簽〕 左肩に金紙書題簽（一四・一×二・八糎）、〔寛永／三年〕御上洛行列之図 一（二止）。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 行、字数不等。附訓真名活字混用。絵入。

〔匡郭〕 無辺、無界。

〔版心〕 紙の継ぎ目に巻と紙数を刻す。

〔丁数〕 第一軸、二二紙（下巻、禁中様へ 將軍公御むかいにさんたいなされ／則御ほうれんの御供の第次）、第一紙、二七・五×三五・〇糎、第二紙、松平／城山守、第三紙、織田／後丹守、白塗 抹、活字捺印）、第二軸、一三紙（下巻四紙、中巻九紙、しゆつのふ豊後守）、第一紙前余白一・〇糎、二七・五×四三・〇糎）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「圖／明治四一・三・二六・購求」。

〔備考〕 全卷金箔散らし斐紙で裏打修補。「寛永／三年／御上洛行列之図」と墨書のある題簽を貼付した桐箱入り。間島由美子（『寛永行幸記』絵巻について―4種類の古活字版とその覆列整版と写本―）、『参考書誌研究』第五五号、国立国会図書館専門資料部、

二〇〇一年、以下、間島由美子)、第一種本、国会A本。

105 寛永行幸記 二卷 金地院崇伝著

〔請求番号〕WA七―一八四

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装(押八双有) 丹空押雷文襷に小菊文様表紙。二九・一×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽(二八・四×三・八糎)、「寛永行幸記 上(下)」。上巻右に「廿九/全二」、各冊とも題簽下に「坤」と墨書。

〔内題〕〔低二格〕寛永行幸記并序。

〔尾題〕〔上(下) 巻終〕。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺(二一・八×一五・九糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「行幸序(上・下) 丁附」(下巻三三丁「三十三四」、三四丁「三十五」、以下丁附にずれあり)。

〔丁数〕第一冊、九八丁(序、寛永三歳在丙寅菊月如意珠日/前南禪天下僧録特 賜圓照本光国師以心叟崇伝記之・三丁、上・九五丁)、第二冊、四五丁(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「時習館/圖書/之印記」(朱方印)、「齋藤/文庫」(朱長方印)、国立国会図書館の印と受入印「書/51. 1. 30/国会図」(昭和

五一年一月三〇日、朱印)。

〔備考〕上下巻とも切貼訂正多数。無書入。川瀬・六二三・九四五頁、真名活字二巻本。月明荘の印はないが、帙(題簽「寛永行幸記(金地院崇伝著/寛永三年頃古活字版)二冊」、森銚三筆)からすると、反町茂雄扱いの本だということがわかる。

106 寛永行幸記 存上・中巻

〔請求番号〕WA七―三二九

〔体裁〕卷子本、二軸。

〔表紙〕打曇紙表紙。八双、軸木欠。第一軸、二六・〇×二三・四糎、第二軸、二五・九×二六・三糎。

〔題簽〕無。左肩に「寛永三年/二條城行幸^上」、「寛永三/二條城行幸^下」と打付書。

〔内題〕〔低三格〕御行幸の次第目録(上)、「(低二格) 御行幸の次第目録」(中)。

〔尾題〕無。

〔本文〕行、字数不等。附訓真名活字混用。絵入。

〔匡郭〕無辺、無界。

〔版心〕紙の継ぎ目に巻と紙数を刻す。

〔丁数〕第一軸(上巻)、二九紙(御行幸の次第目録/一御車の先へ女中方長えにて御供之事/一御公家衆前後行列之次第之事、寛永三年九月六日/御行幸 二条亭への事)、第一紙、二六・一×

四三・五糎)、第二軸(中卷)、一八紙(御行幸の次第目録／一
樂の事／一御哥のくはいの事 同座はいの事／一御馬の事／一
御能の事／一御進物の事 同御引出もの、事／一御公家衆へ被
進太刀の事／一ていしゆかたうけ給ふる衆の事／一御こんたて
の事)、第二紙、二六・五×四三・五糎)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國立國會圖書館藏書」(朱長方印)、「59. 5. 25」(昭和五九年
五月二五日)。

〔備考〕問島由美子、第二種本口本、国会C本。「寛永三年／二條城行幸
／木活」と箱書のある桐箱入り。

107 寛永行幸記 存上巻

〔請求番号〕WA七―二三〇

〔体裁〕卷子本、一軸。

〔表紙〕灰色絹布の改装表紙。二五・六×二一・六糎。

〔題簽〕左肩に銀箔散らしの紙題簽(二七・四×一・八糎)、「寛永行幸
図全」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕行、字数不等。附訓真名活字混用。絵入。

〔匡郭〕無辺、無界。

〔版心〕紙の継ぎ目に紙数を刻す。

〔丁数〕三二紙(寛永三年九月六日／御行幸 二条ていへの事)、第一
紙、二五・八×三六・三糎、一七紙、「非藏人^{ひくらうと}三騎」一切貼訂正)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「特許局／圖書印」(朱方印)、「大正12年9月1日／第906號
／特許局圖書館」(朱楯円印、二印とも「消」印)、国立国会圖
書館の印と受入印「書／10. 11. 26／国会図」(平成一〇年二一
月二六日、朱印)。

〔備考〕天地裁断。問島由美子、第一種本、国会B本。

108 寛永行幸記 三巻

〔請求番号〕WA七―二五七

〔体裁〕卷子本、三軸。

〔表紙〕茶色龍雲文様絹布表紙。二六・一×二四・六糎。見返し金箔散
らし。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕行、字数不等。附訓真名活字混用。絵入。

〔匡郭〕無辺、無界。

〔版心〕紙の継ぎ目に巻、紙数を刻す。

〔丁数〕第一軸(上巻)、二九紙(御行幸の次第目録／一御車の先へ女
中方長えにて御供之事／一御公家衆前後行列之次第之事／一御

車九両の次第之事)、第二軸(中巻)、一五紙(御行幸の次第
／一楽の事／一御歌のくわいの事 同座はいの事／一御馬の事
／一御能の事／一御進物の事 同御引出も(の、事、破損)／
一御公家衆へしんせらるゝ太(刀の事、破損)／一ていしゆか
たうけ給ふる衆の事／一御こんたての事)、第三軸(下巻)、
二二紙(御行幸の次第目録／一將軍様御むかひに御参内なされ
則御ほうれんのさ(さへ御供の、破損)事／(一諸大名衆御供
の、破損)事／一御公家衆御とももの事／一御鳳輦の事／一関白
殿御供の事)

〔刊記〕 卷末に「あいのまち通高田町」と刻す。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受入印「書／16. 3. 19／国会図」(平成
一六年三月一九日、朱印)。

〔備考〕 一部破損、補筆、全巻裏打修補。間島由美子、別種本(間島論
文発表後の収書)。「後水尾／天皇二條／城行幸／絵巻(三巻)
／寛永三年」と墨書のある紙片が貼付された桐箱入り。

109 寛永行幸記 三巻

〔請求番号〕 WA七―二六四

〔体裁〕 卷子本、二軸。

〔表紙〕 黄色唐花唐草文様刷(金)表紙。二九・七×四二・〇糎。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(一五・七×三・一糎)、「御上洛絵草紙
二巻之内」。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 行数、字数不等。漢字平仮名交。附訓活字交ゆ。

〔匡郭〕 無辺、無界。

〔版心〕 一紙ごとに左端上部、もしくは右端下部に紙数を刻す。

〔丁数〕 一軸(上巻、公家行列)、三〇紙。表紙の後、一紙(二九・五×

三九・一糎)を挟んで本文(本文第一紙、二九・六×四三・三
糎)に入る。二軸(下巻、幕府側行列、中巻、供応次第)、三三

紙。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「書／(平成) 19. 2. 28／国会図」(朱印)。

〔備考〕 第二種本。間島由美子論文未載。

110 寛永行幸記 存上・下巻

〔請求番号〕 WA七―二六五

〔体裁〕 折帖仕立て(改装)、二帖。

〔表紙〕 後補薄茶色横刷毛目文様表紙。二八・二×二一・二糎。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 行、字数不等。附訓真名活字混用。絵入。

〔匡郭〕 無辺、無界。

〔版心〕 紙面の右または左下に巻、紙数を刻す。

〔丁数〕 第一帖、二四紙（上巻、二〇二五紙、第一紙、二五・五×四三・〇糶）、第二帖、二四紙（下巻、二〇二二紙、上巻、二六〇二九紙）、乱丁は改装時に生じたものか。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受人印「書／18・1・11／国会図」（平成一八年一月一日、朱印）。

〔備考〕 間島由美子、第二種（口）本（間島論文発表後の収書）。

III ※錦繍段

〔請求番号〕 WA七―三

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補丹空押雷文襷に雨竜文様表紙。二六・二×一九・六糶。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「錦繍段」と打付書。

〔内題〕 「錦繍段」。

〔尾題〕 「錦繍段之終」。

〔本文〕 每半葉九行。稍小型の活字を用いる。唐から明に至る詩人の七言絶句三二八首を天文、地理以下十八門に分類して収録。一面三首。

〔匡郭〕 四周双辺（二八・一×一五・六糶）、有界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「錦繍段 丁附」。

〔丁数〕 五六丁。他、巻首に「錦繍段序」（文明十五年龍澤の序文）を補写、二丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治二五・二・二九購求」。

〔備考〕 朱引、朱墨による訓点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬・五七四頁、「錦繍段には早く慶長二年の勅版がある他に、慶長中刊行の大字の一本がある。其の覆刻整版本（無刊記）に元和初年の墨書識語を書入れた一本（高野山親王院蔵）がある点から言つても慶長中の印行たるは疑ひないと思ふ。川瀬が著録する本（大東急記念文庫蔵本ほか）は、四周双辺「無界本」。ここに本書（帝國図書館蔵本）も著録するが、異版。

II2 驛駒全書 七卷

〔請求番号〕 WA七―九四

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 後補茶色表紙（裏打修補）。二八・三×一九・七糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「驛駒全書 乾（坤）」と打付書。

〔内題〕 「驛駒全書卷第一序」（低三格） 目錄之次第、「（低三格） 目錄之次第」（卷第二）、「驛駒全書卷第三」（一七）／（低三格） 目錄之次第、「驛駒全書卷第一」（一七）」。

〔尾題〕 「驛駒全書卷第一（一七）之終」。

〔本文〕 每半葉二二行×二二字。漢字平仮名交。稍小型の活字を用いる。

挿絵入。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、序、二二・二種、本文、二二・〇種。

〔版心〕ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、八〇丁（巻第一序／目録之次第・四丁、巻第一・二五

丁、（巻第二）目録之次第・三丁、巻第二・二六丁、巻第三／目

録之次第・一丁、巻第三・二二丁）、第二冊、一一四丁（巻第四

／目録之次第・三丁、巻第四・二八丁、巻第五／目録之次第・

一丁、巻第五・二九丁、巻第六／目録之次第・一丁、巻第六・

二五丁、巻第七／目録之次第・二丁、巻第七・二四丁、刊記・

一丁）。巻第五と巻第六の間に白丁二丁挟む。

〔刊記〕「右一部七冊之書者当家累代之重宝武家之眼目／也一子相伝之後

不可遺置窓前恐者無比之全書／而已／奥書条々代々之系図雖在

之写本借与之／仁不可乘之由堅物故略畢／（二行空）／洛陽上

柳町／寛永六年九月上旬 開板 住友勝兵衛尉貞政」。

〔印記〕「東京圖／書館蔵／書之印」（朱方印）。

〔備考〕無書入。馬に関する百科全書。川瀬・四八三・八七四頁。図録

篇・三二五図に国会本の図版を収む。

113 義経記 八巻

〔請求番号〕WA七―二六六

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕藍色金泥下絵入表紙。二七・四×一九・五種。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「義経記巻第一（一八）目録」、「義経記巻第一（一八）」。

〔尾題〕「義経記巻第一（一八）」。

〔本文〕每半葉二行×二三字。漢字平仮名交、丹緑（丹・緑・茶・黄）

挿絵本、六六図。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・〇種。

〔版心〕ノドに巻数と丁附（目録と本文で通し丁附）を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、二五丁（巻第一、目録・一丁、本文・二四丁）、第二冊、

四六丁（巻第二、目録・一丁、本文・四五丁）、第三冊、四二丁

（巻第三、目録・一丁、本文・四〇丁）、第四冊、六〇丁（巻第

四、目録・一丁、本文・五九丁）、第五冊、五九丁（巻第五、目

録・一丁、本文・五八丁）、第六冊、六八丁（巻第六、目録・一

丁、本文・六七丁）、第七冊、七二丁（巻第七、目録・一丁、本

文・七二丁）、第八冊、三三丁（巻第八、目録・一丁、本文・

三三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕受入印、「（平成）19・11・29」の他、国立国会図書館の印。

〔備考〕無書入。川瀬五四八・九〇一頁、第二種本、元和寛永中刊（挿

画）本（イ）種。桐箱（□長活字板／義経記全八冊）と墨書のある紙片を右肩に貼付）入。一誠堂書店扱。

114 公事根源 一条兼良著

〔請求番号〕WA七―一五九

〔体裁〕中本、一冊（三卷合冊）。

〔表紙〕後補栗皮渋引き表紙。二〇・三×一四・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一八字。漢字平仮名交、小型活字。片仮名による附訓を別行に植版。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一七・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕一二六丁（正月／四方拜朔日）外記政治・四〇丁、吉書奏（カシナリ）

雷鳴陣・四六丁、七月／廣瀬立田祭四日（フニヤライ）追儺卅日・四〇丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江戸市野光／彦蔵書記」（朱長方印）、「昭和」49・3・11。

〔備考〕室町時代の宮中を中心とする年中行事とその起源を解説した有職故実書。朱引、朱句読点、墨筆による書入有。前表紙の見返しに「古活字本（市野迷庵旧蔵）サチスス／公事根源 全一冊／昭和二二・二・五 於弘文荘」と墨書のある紙片を貼付。

卷末に識語、「延宝元年癸丑十二月二十日読之／中山日意」、「一書は中山日意上人の御所持故あつて不佞か蔵書となる」、「その後に「笙／哥／亭」の印（朱方印）。後表紙見返しに識語、「狂□

（軒）／残風蔵」、その上に「迷／庵」、「市野／光彦」の印（朱

方印）。川瀬四七九・八七二頁、元和中刊。伝本、他に成實堂文

庫蔵本・富山市立図書館蔵（阿波国文庫・不忍文庫旧蔵）本。

115 ※九千句（城西聯句）二卷 策彦周良編

〔請求番号〕WA七―四一

〔体裁〕横本、二冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押卍繋ぎ唐花唐草文様表紙。一二・九×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「九千句 乾（坤）」と打付書。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一三行×一二字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・八糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「九千句上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九〇丁（下向き花口魚尾、東靈泉和尚點）；第二冊、九〇丁（下向き花口魚尾、先如是和尚點）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「宮内省／圖書印」（朱方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕第一冊の三二丁目まで墨筆による異本注記と朱筆による批点が施されている。川瀬三九六頁には、（一）元和四年（二兵衛）刊、（二）寛永元年（意濟）刊、（三）寛永五年（已濟）刊の三種を

著録するが、いずれとも異版（寛永五年刊本に近似）。

116 口伝書

〔請求番号〕WA七―二七七

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補薄茶色雲母刷文様（松林、嵯峨本の謄本と同文様）表紙（前後の見返しに具引きを施す）。二五・四×一八・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「〔低四格〕口伝書」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一一行×一八字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・六糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕三九丁（口伝書・三〇丁、備前鍛冶系図・鎌倉系図・山城鍛冶系図・栗田口物・二丁、後鳥羽院之比鍛冶結番・一丁、諸国同銘、六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「2010・6・8」受入印。

〔備考〕六丁目までにごくわずかに墨筆で振仮名が施されているのみ。

前表紙の見返しに識語、「名劔口伝書／藤野治」、後遊紙に識語、「慶長十二年 松田道以／霜月吉日 久元（花押）／大窪忠二郎殿」（表丁、花押は移写したもの、識語自体後代のものか）、

「改嘉永四亥歳／七月吉日／江州愛智郡千枝邑／藤野治郎右衛門什物」（裏丁）、後表紙見返しに識語、「枝邑／藤野治」。川瀬四〇六・四二六頁、松田道以刊口伝書。「本朝古今銘尽（小字本）と全く版式を等しくし、且つ管見に入つた伝本（三本）共皆松田道以の墨識語を存するから、前記銘尽（小字本）と共時の印行に係る事は明確である」（四〇六頁）。図録篇二七五図、安田文庫蔵本（慶長拾二年十二月吉日 松田道以久元（花押） 加藤次大夫殿まいる）と同版。

117 源氏物語 五四卷 紫式部著

〔請求番号〕WA七―二六三

〔体裁〕大本、五四冊。

〔表紙〕縹色表紙（押八双有）。二五・四×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に薄茶色の書題簽（一五・三×三・二糎）、「桐つほ」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一九字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・〇糎（桐つほ）。

〔版心〕無。第六冊の巻末ノドに「スエノ卅七」と刻す。

〔丁数〕第一冊、三〇丁（桐つほ、以下の巻名は外題による）、第二冊、五五丁（は、き木）、第三冊、一三丁（うつせみ）、第四冊、五五丁（夕かほ、全丁補写、一〇行×一九字）、第五冊、五七丁

(わかむらさき)、第六冊、三七丁(すゑつむ花)、第七冊、三三丁(もみちの賀)、第八冊、一三丁(花のえむ)、第九冊、五六丁(あふひ)、第一〇冊、五九丁(さか木)、第一一冊、五丁(はなちる里)、第一二冊、五二丁(すま)、第一三冊、四八丁(あかし)、第一四冊、四〇丁(みをつくし)、第一五冊、二八丁(よもきふ)、第一六冊、六丁(せき屋)、第一七冊、二三丁(ゑあはせ)、第一八冊、二五丁(まつかせ)、第一九冊、三七丁(うす雲)、第二〇冊、二五丁(朝かほ)、第二一冊、六〇丁(をとめ)、第二二冊、五〇丁(玉かつら)、第二三冊、一八丁(はつね)、第二四冊、二六丁(こてふ)、第二五冊、二二丁(ほたる、一〇九丁、二〇・二二丁補写)、第二六冊、二六丁(とこ夏)、第二七冊、四丁(か、りひ)、第二八冊、二二丁(野わき、二〇丁補写)、第二九冊、三三丁(みゆき)、第三〇冊、一七丁(藤はかま)、第三一冊、四六丁(まきはしら)、第三二冊、二三丁(むめかえ)、第三三冊、二八丁(ふちのうら葉)、第三四冊、一二三丁(わかな上)、第三五冊、一二二丁(わかな下)、第三六冊、四九丁(かしはき、一五〇四九丁補写)、第三七冊、二二丁(よこ笛、一四丁補写)、第三八冊、一七丁(す、むし)、第三九冊、八二丁(ゆふきり)、第四〇冊、二三丁(みのり)、第四一冊、二六丁(まほろし)、第四二冊、一七丁(にほふ宮)、第四三冊、一五丁(紅梅)、第四四冊、四八丁(たけ河)、第四五冊、四四丁(はし姫)、第四六冊、四四丁(しゐかもと)、

第四七冊、一〇四丁(あけまき)、第四八冊、二二丁(さわらひ)、第四九冊、一〇八丁(やとりき)、第五〇冊、七六丁(あつまや)、第五一冊、八二丁(うき船)、第五二冊、六七丁(かけるふ)、第五三冊、七九丁(てならひ)、第五四冊、二〇丁(夢のうき橋)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「国立国会図書館」(朱長方印)、「書」(平成) 17. 3. 14/国会図」の受人印(朱印)のみ。

〔備考〕伝嵯峨本に先行する古活字版で、「源氏物語」の最古版。活字は稚拙、特徴的なもので、同種活字を用いるものに『徒然草』がある。第一・二冊のみ、朱筆で濁点、句読点、その他、朱墨による書人が施されている。伝本は龍門文庫蔵本と実践女子大学図書館蔵本。国会本は、『誠堂書店創業九十周年記念／古典籍善本展示即売会目録』(平成五年十一月) 五二・五三頁に掲載の本(五十四冊、四五、〇〇〇、〇〇〇円、卜部吉田家旧蔵、古い塗箱入)。現在は帙に入れて保管、古い塗箱は別置保存。川瀬八八六頁、「源氏物語には伝嵯峨本よりも早く、慶長初年、少くとも慶長前半に印行されたと見るべき青表紙系の一本を発見したことは、日本書誌学之研究に報じた(最古の源氏物語刊本の発見)が、その後、筒井久太郎氏の許で黒川家旧蔵の物語草子類を一見した中に同版本を見出で、龍門文庫蔵本に補写になつてゐる巻の幾分を補ふことができた。本書の活字の様式は他の

印本には見られないけれども、唯一つ徒然草の最初の印本と目

すべき雲母摺本（嵯峨本以外のもの、安田文庫蔵）の活字と同種であつて、最古の平仮名活字の一に属するものと思はれる。

〔龍門文庫善本／書目一四二頁〕なほこの活字の様式は、上述の最古の謄版本で、しかも最古の平仮名活字にも算へられる鳥養道晰印行の金春流謄本の活字とも相似してゐる。新しく知られた一本は、毎半葉十行平仮名交り約十九字。字面の高さ約六寸五分半。活字の書風が古雅な趣きに富む。本文は青表紙系統本で、龍門文庫蔵本は原の青表紙を存する（奈良興福／院旧蔵）五十四冊の中、蓬生・椎本二巻を欠く五十二冊。またその中で「若紫・明石・滯標・柏木・宿木・東屋」の六巻は補写であるが、その巻々の料紙も同質で、表紙も同じものを用ひてをり、筆蹟も慶長頃と認められるから、早くから補配せられてゐたものであることが判る。黒川家旧蔵書の中にあつた同種の一本は、一旦筒井久太郎氏の蔵に歸し、後実践女子大学図書館に移つた。初め筒井氏の手に歸してゐた分は四十九冊で元來「蓬生」巻を欠いてゐたが、他の四冊は黒川家に残留してゐたのを、その後黒川家の蔵書の残部が一誠堂書店酒井氏に引取られた際、それを筒井氏旧蔵の分に併せる様運ばれ、現に五十三冊纏つてゐる。

〔体裁〕 大本、五四冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。二七・一×一九・七糎。四針袋綴。第一冊の表紙右下に「古活14」のラベル（安田文庫のもの）を貼付。

〔題簽〕 中央やや上に後補の薄茶色書題簽（二五・〇×三・三糎）、「は、き木」（第一冊は題簽剥落）。右肩には「壹（―五十四）」と墨書のある紙片を貼付。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・六糎。

〔版心〕 無。ノドに巻と丁附を刻す。

〔丁数〕 第一冊、二五丁（桐壺、題簽剥落）、第二冊、四六丁（は、き木、以下の巻名は外題による）、第三冊、一一丁（うつせみ）、第四冊、四六丁（ゆふかほ）、第五冊、四五丁（わかむらさき）、第六冊、三〇丁（すゑつむ花）、第七冊、二七丁（もみちの賀）、第八冊、一〇丁（花のえん）、第九冊、四五丁（あふひ）、第一〇冊、四七丁（さかき）、第一一冊、四丁（花ちるさと）、第一二冊、四一丁（須磨、題簽剥落）、第一三冊、三九丁（あかし）、第一四冊、三〇丁（みほつくし）、第一五冊、二三丁（よもきふ）、第一六冊、五丁（せきや）、第一七冊、一八丁（ゑあはせ）、第一八冊、二〇丁（松風）、第一九冊、三〇丁（うす雲）、

第二〇冊、二〇丁（あさかほ）、第二一冊、四九丁（をとめ）、第二二冊、四〇丁（玉かつら）、第二三冊、一四丁（はつね）、第二四冊、二二丁（こてふ）、第二五冊、一九丁（ほたる）、第二六冊、二二丁（とこなつ）、第二七冊、四丁（か、り火）、第二八冊、一八丁（野分）、第二九冊、二七丁（みゆき）、第三〇冊、一四丁（ふちはかま）、第三一冊、三七丁（真木柱、題簽剥落）、第三二冊、一八丁（梅かえ）、第三三冊、二三丁（藤のうら葉）、第三四冊、一〇〇丁（わかな上）、第三五冊、一〇〇丁（わかな下）、第三六冊、三九丁（かしは木）、第三七冊、一八丁（よこふえ）、第三八冊、一四丁（す、むし）、第三九冊、六八丁（夕きり）、第四〇冊、一九丁（御法）、第四一冊、二二丁（まほろし）、第四二冊、一四丁（にほふ宮）、第四三冊、一三丁（こうはい）、第四四冊、三九丁（竹河）、第四五冊、三七丁（はしひめ）、第四六冊、三五丁（椎かもと）、第四七冊、八六丁（あけまき）、第四八冊、一八丁（さわらひ）、第四九冊、九〇丁（やとりき）、第五〇冊、六三丁（あつまや）、第五一冊、六七丁（浮舟、三三丁補写）、第五二冊、五五丁（かけろふ）、第五三冊、六四丁（手ならひ）、第五四冊、一七丁（夢浮橋、題簽剥落）。

〔刊記〕「〔低九格〕洛陽二条通鶴屋町／〔低二格〕元和九年孟夏上旬（二格空）富杜哥鑑（一格空）開板」。

〔印記〕「国立国会図書館」（朱長方印）、「書」（平成）20. 11. 26／国会図」の受入印（朱印）のみ。

〔備考〕各冊とも前表紙見返しに墨書識語、「共五十四卷 渡利邑 松浦

氏。第四九冊の前表紙見返しに、「抄見て朱点済せ六日に／玄賀本小事六月十五日二見合」と墨書のある薄紅色紙片、第五二冊の前表紙見返しに、「玄賀本小事皆見合候／廿卷抄引合朱点皆仕候」と墨書のある黄土色紙片を貼付。朱墨により濁点、句読点、書入多数。丁寧に読み込んだ様子がうかがえる。

川瀬五一三頁、二、元和九年刊本。安田文庫蔵と著録する本が本書。図録篇三五三図に図版を収む。

119 源氏物語 五四卷 紫式部著

〔請求番号〕WA七―二七九

〔体裁〕大本、五四冊。

〔表紙〕原装水色表紙。二八・四×二〇・六糎。四針袋綴。第一冊の表紙裏に「安田家」のラベルを貼付。

〔題簽〕中央やや上に薄茶色雲母刷文様刷題簽、「きり壺」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・二糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、二五丁（きり壺、以下の卷名は外題による）、第二冊、四六丁（箒木）、第三冊、一一丁（うつ蟬）、第四冊、四六丁

(ゆふ顔)、第五冊、四六丁(若紫)、第六冊、三二丁(末つむ花)、第七冊、二七丁(紅葉賀)、第八冊、一〇丁(花宴)、第九冊、四五丁(あふひ)、第一〇冊、四八丁(龍眼木)、第一一冊、四丁(花散里)、第一二冊、四二丁(す磨)、第一三冊、三九丁(赤石)、第一四冊、三三丁(水衝石)、第一五冊、二二丁(蓬生)、第一六冊、五丁(閑屋)、第一七冊、一八丁(絵あはせ)、第一八冊、二〇丁(まつ風)、第一九冊、三〇丁(薄雲)、第二〇冊、二〇丁(朝かほ)、第二一冊、四七丁(乙女)、第二二冊、三九丁(玉かつら)、第二三冊、一四丁(初音)、第二四冊、二〇丁(胡てふ)、第二五冊、一八丁(ほたる)、第二六冊、二二丁(床夏)、第二七冊、四丁(篝火)、第二八冊、一七丁(野分)、第二九冊、二七丁(行幸)、第三〇冊、一四丁(藤袴)、第三一冊、三六丁(真木柱)、第三二冊、一八丁(梅か枝)、第三三冊、二三丁(藤裏葉)、第三四冊、九七丁(若菜上)、第三五冊、九八丁(若菜下)、第三六冊、三八丁(柏木)、第三七冊、一八丁(よこ笛)、第三八冊、一四丁(鈴むし)、第三九冊、六八丁(夕きり)、第四〇冊、一九丁(御法)、第四一冊、二〇丁(まほろし)、第四二冊、一三丁(匂宮)、第四三冊、一二丁(紅梅)、第四四冊、三九丁(竹川)、第四五冊、三六丁(橋姫)、第四六冊、三五丁(椎本)、第四七冊、八四丁(総角)、第四八冊、一八丁(早蕨)、第四九冊、九二丁(寄生)、第五〇冊、六二丁(東屋)、第五一冊、六七丁(浮舟)、第五二冊、五四丁

(蜻蛉)、第五三冊、六三丁(手習)、第五四冊、一七丁(夢浮橋)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「酒／汀」(朱横長印)、「国立国会図書館」(朱長方印)、「書／2011. 8. 24/国会図」の受入印(朱印)。

〔備考〕第一冊と第二冊にのみ若干の墨書入あり。第五四冊の巻末に「岩義／全五十四」と墨書、その隣に「斎藤／琳琅閣／之章」(朱長方印)。川瀬五二二頁、一、伝嵯峨本。慶長中刊とする。

他、「本件の当文庫蔵品の／一、嵯峨本源氏物語(安田文庫旧蔵本)の解説／二、嵯峨本源氏物語(安田文庫旧蔵本)の貴観性／流転「源氏物語」の記事とその後日談／栗山万葉莊山人誌(朱方印)栗山／文庫」と万年筆書された封筒に、伝嵯峨本源氏物語の調書ならびに関係資料を封入した附属資料あり。旧蔵者の「栗山万葉莊山人」、「栗山文庫」主については未詳。

120 源氏小鏡

〔請求番号〕WA七七一六一

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二八・二×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕 每半葉一二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・〇糎。

〔版心〕 無。ノドに卷・丁附（通し丁附）を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、三六丁（源氏目録、一きりつほく十あかし・一丁、本文・三五丁）、第二冊、五〇丁（源氏目録、十一みをつくし并せきや よもきふく十九ふちのうら葉・一丁、本文・四九丁）、第三冊、二五丁（宇治十帖、一はしひめく十夢のうきはし・一丁、本文・二四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「山田氏／蔵書」（朱方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、昭和二二・九・二〇購入印。

〔備考〕 無書入。川瀬五一三・八八八頁、元和中刊十二行本異植字版。図録篇九二二図に国会本の図版を収む。この他、川瀬は元和中刊の十二行本としてイ・ロ・ハの三種を著録するが、住吉大社御文庫にはさらに別版がある。

121 源平盛衰記 四八卷

〔請求番号〕 WA七―二五八

〔体裁〕 大本、二五冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二八・〇×二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 目録冊中央に「源平盛衰記惣目録」と墨書のある紙片（二六・三×三・二糎）、その左にも「源平盛衰記目録共／合本式拾五冊」

と墨書のある紙片（一五・七×四・二糎）を貼付。以下の冊には「第老ノ式（一四七八）」と墨書のある紙片を貼付。

〔内題〕 「源平盛衰記卷第一（一四十八）目録」、「源平盛衰記以卷第一（一巻第四十八）」。

〔尾題〕 「源平盛衰記惣目録（巻第一―四十八）終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二三字内外。漢字片仮名交、附訓有。

〔匡郭〕 四周双辺（巻第二、二二・九×一六・四糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「盛衰記目録（巻一―四十八）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二二丁（目録）、第二冊、四四丁（巻第一目録・一丁、以巻第一・二〇丁、巻第二目録・一丁、呂巻第二・二二丁）、第三冊、六三丁（巻第三目録・一丁、波巻第三・三一丁、巻第四目録・一丁、爾巻第四・三〇丁）、第四冊、五五丁（巻第五目録・一丁、保巻第五・二七丁／巻第六目録・一丁、辺巻第六・二六丁）、第五冊、四八丁（巻第七目録・一丁、登巻第七・二三丁、巻第八目録・一丁、智巻第八・二三丁）、第六冊、五五丁（巻第九目録・一丁、理巻第九・二六丁／巻第十目録・一丁、巻第十・二七丁）、第七冊、五八丁（巻第十一目録・一丁、留巻第十一・三二丁、巻第十二目録・一丁、遠巻第十二・二四丁）、第八冊、四七丁（巻第十三目録・一丁、和巻第十三・二三丁、巻第十四目録・一丁、佳巻第十四・二二丁）、第九冊、五三丁（巻第十五目録・一丁、世巻第十五・二六丁、一七丁補写（新写）、巻第十六目録・一

丁、陀卷第十六・二五丁）、第一〇冊、六二丁（卷第十七目録・一丁、礼卷第十七・三二丁、卷第十八目録・一丁・曾卷第十八・二八丁）、第一一冊、四九丁（卷第十九目録・一丁、津卷第十九・二二丁、卷第二十目録一丁、祢卷第二十・二五丁）、第二二冊、四〇丁（目録欠、那卷第二十一・一九丁、卷第二十二目録・一丁、羅卷第二十二・二〇丁）、第一三冊、五〇丁（卷第二十三目録・一丁、牟卷第二十三・二三丁、卷第二十四目録・一丁・宇卷第二十四・二五丁）、第一四冊、五四丁（卷第二十五目録・一丁、井卷第二十五・二三丁、卷第二十六目録・一丁、濃卷第二十六・二九丁）、第一五冊、五三丁（卷第二十七目録・一丁、於卷第二十七・二三丁、俱卷第二十八目録一丁、俱卷第二十八・二八丁）、第一六冊、四七丁（卷第二十九目録・一丁、屋卷第二十九・三二丁、卷第三十目録・一丁、摩卷第三十・二三丁）、第一七冊、五二丁（卷第三十一目録・一丁、希卷第三十一・二三丁、卷第三十二目録・一丁・賦卷第三十二・二七丁）、第一八冊、六四丁（卷第三十三目録・一丁、古卷第三十三・三一丁、卷第三十四目録・一丁、榎卷第三十四・三三丁）、第一九冊、六二丁（卷第三十五目録・一丁、伝卷第三十五・三三丁、卷第三十六目録・一丁・阿卷第三十六・二七丁）、第二〇冊、五六丁（卷第三十七目録・一丁、佐卷第三十七・二八丁、卷第三十八目録・一丁、幾卷第三十八・二六丁）、第二二冊、五八丁（卷第

三十九目録・一丁、遊卷第三十九・二九丁、卷第四十目録・一丁、目卷第四十・二七丁）、第二二冊、五〇丁（卷第四十一目録・一丁、弥卷第四十一・二三丁、卷第四十二目録^下・一丁、卷第四十二・二五丁）、第二三冊、五〇丁（卷第四十三目録・一丁・衛卷第四十三・二四丁、卷第四十四目録・一丁、緋卷第四十四・二四丁）、第二四冊、五四丁（卷第四十五目録・一丁、裳卷第四十五・二六丁、卷第四十六目録・一丁、勢卷第四十六・二六丁）、第二五冊、五一丁（卷第四十七目録・一丁、須卷第四十七・二三丁、一一丁補写（新写）、卷第四十八目録・一丁、卷第四十八・二七丁、二〇・二二丁乱丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「松琴／堂」（朱方印）、「書／（平成）15・9・8／国会図」（朱印）。

〔備考〕乱版。高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』（勉誠出版、二〇二〇年）、第一部第六章「古活字版『源平盛衰記』の諸版について」、高木浩明「古活字版から整版へ、整版から古活字版へ」（藤本幸夫編『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』、勉誠出版、二〇二一年）参照。古活字版と整版の取り合わせは以下の通りである。一覧表は現存本を基に作成したが、※安田甲本・安田乙本・堀田氏蔵本（以上三本、現在所在不明）は、川瀬一馬『増補古活字版之研究』（ABAJ、一九六七年）の一覧表を参考にして記載した。太字は古活字版の丁を示す。

目録 一―六丁 整版、七丁 古活字版、八―二二丁 整版。

卷一 古活字版。

卷二 古活字版。

卷三 目録・一―一九丁 古活字版、二〇―二五丁 整版、

二六―三二丁 古活字版

※天理【二一〇・三一イ一六三】本は、六丁整版。

卷四 目録・一―五丁 古活字版、六―九丁 整版、一〇―

一二丁 古活字版、一三丁 整版、一四―二六丁 古活

字版、二七丁 整版、二八丁 古活字版、二九丁 整版、

三〇丁 古活字版。

卷五 目録・一―三丁 整版、四丁 古活字版、五―一六丁

整版、一七丁 古活字版、一八―二七丁 整版。

卷六 目録・一―一〇丁 整版、一一丁 古活字版、一二―

二六丁 整版。

卷七 整版。

卷八 目録・一・二丁 整版、三―四丁 古活字版、五・六丁

整版、七丁 古活字版、八―一七丁 整版、一八丁 古

活字版、一九―三三丁 整版。

卷九 整版。

卷十 目録・一―一四丁 整版、一五丁 古活字版、一六―

二七丁 整版。

※国会【WA七―二七四】本・天理【二一〇・三一イ

一六三】本、二〇・二三丁、古活字版。

卷十一 目録・一―一二丁 整版、一三丁 古活字版、一四―

二三 整版、二四丁 古活字版、二五―三二 整版。

※天理【二一〇・三一イ一六三】本、二〇丁 古活字

版。

卷十二 整版。

卷十三 目録・一・二丁 古活字版、三丁 整版、四丁 古活

字版、五―六丁 整版、七丁 古活字版、八・九丁

整版、一〇丁 古活字版、一一丁 整版、一二―二三

丁 古活字版。

卷十四 目録・一―一五丁 整版、一六丁 古活字版、一七―

二二丁 整版。※安田甲本、一六丁 整版。

卷十五 目録・一―一二丁 整版、一三丁 古活字版、一四―

一六丁 整版、一七丁 古活字版、一八―二六丁 整

版。※安田甲本、一七丁 整版。

卷十六 整版。

卷十七 目録・一―二〇丁 古活字版、二二・二三丁 整版、

二三―三三丁 古活字版。※堀田本・安田乙本、二三

丁 古活字版。

卷十八 目録・一―七丁 古活字版、八丁 整版、九―二八丁

古活字版。

卷十九 整版。

卷二十 整版。

卷二十一 整版。

卷二十二 目録・一―三丁 整版、四―七丁 古活字版、八・

九丁 整版、一〇丁 古活字版、一一―二〇丁 整版。

卷二十三 目録・一―四丁 整版、五―九丁 古活字版、一〇

―一四丁 整版、一五・一六丁 古活字版、一七丁 整版、一八―二二丁 古活字版、二三・二三丁、整版。

卷二十四 目録・一―六丁 整版、七丁 古活字版、八―二二

丁 整版、二三丁 古活字版、二四・二五丁 整版。

卷二十五 整版。

卷二十六 整版。

卷二十七 目録 整版、一―三丁 古活字版、四―二三丁 整版。

卷二十八 整版。※鶴舞本、二〇丁 古活字版。

卷二十九 整版。

卷三十 目録 整版、一丁 古活字版、二―二三丁 整版。

※安田甲本・安田乙本・堀田本、一丁 整版。

卷三十一 目録 整版、一丁 古活字版、二―二三丁 整版。

卷三十二 整版。

卷三十三 目録・一―一丁 古活字版、一二丁 整版、

一三・一四丁 古活字版、一五丁 整版、一六―

三一 古活字版。※天理【二一〇・三一イ一六五】

本、鶴舞本・堀田本・安田乙本、三二丁 整版。

卷三十四 目録・一丁 古活字版、二丁 整版、三一―八丁

古活字版、一九―二〇丁 整版、二一―三三丁 古活字版

※天理【二一〇・三一イ一六三】本、鶴舞本・堀田

本・安田乙本、目録 整版、

※国会【WA七―二五八】【WA七―二七二】、三三

丁 整版。

卷三十五 目録 古活字版、一丁 整版、二―一五丁 古活字

版、一六丁 整版、一七―三三丁 古活字版。

※天理【二一〇・三一イ一六五】本、鶴舞本・堀田

本、三三丁 整版。

卷三十六 目録・一―一丁 古活字版、一二丁 整版、一三

―二七丁 古活字版。

※安田甲本、一二丁 古活字版、一七丁 整版。

※成算堂本、二七丁 整版。

卷三十七 古活字版。※鶴舞本・堀田本・安田乙本、二八丁整

版。

卷三十八 目録・一―七丁 古活字版、八・九丁 整版、一〇

―一七丁 古活字版、一八丁 整版、一九―二二

丁 古活字版、二三丁 整版、二四丁 古活字版、
二五・二六丁 整版。

卷三十九 古活字版。

卷四十 目錄 古活字版、一丁 整版、二―二七丁 古活字
版。

卷四十一 古活字版。

卷四十二 古活字版 ※鶴舞本・堀田本・安田乙本、目錄 整
版。

卷四十三 目錄・一一一九丁 古活字版、二〇―二二丁 整版、
二三・二四丁 古活字版。

卷四十四 目錄・一一一五丁 古活字版、一六・一七丁 整版、
一八―二四丁 古活字版。

※堀田本、一六・一七丁 古活字版。
※国会【WA七―二七四】本・堀田本、二四丁 整
版。

卷四十五 目錄・一一一〇丁 古活字版、一一丁 整版、一二
―一五丁 古活字版、一六丁 整版、一七―二六丁
古活字版

※国会【WA七―二七四】本、二六丁 整版。

卷四十六 目錄・一一一〇丁 古活字版、一一丁 整版、一二
―一八丁 古活字版、一九丁 整版、二〇―二六丁
古活字版。

卷四十七 古活字版。

※天理【二一〇・三一イ一六三】本、鶴舞本・堀田
本・安田乙本、目錄 整版。

卷四十八 古活字版。※天理【二一〇・三一イ一六三】本、目
録 整版。

122 源平盛衰記 存卷第十三―四八

〔請求番号〕WA七―二七二

〔体裁〕大本、一八冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮表紙。二八・九×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枳原刷題簽（一八・三×四・二糎）、「源平盛衰記
十三之四（―四十七之八）」。

〔内題〕「源平盛衰記卷第十三（―四十八）目錄」、「源平盛衰記和卷第
十三（―卷第四十八）」。

〔尾題〕「源平盛衰記卷第十三（―四十八）終」。

〔本文〕每半葉二行×二二字内外。漢字片仮名交、附訓有。

〔匡郭〕四周双辺（卷第十三、二二・七×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「盛衰記卷十三（―四十八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四七丁（卷第十三目錄・一丁、和卷第十三・二三丁、
卷第十四目錄・一丁、佳卷第十四・二二丁）、第二冊、五二丁
（卷第十五目錄・一丁・世卷第十五・二五丁、一七丁欠、卷第
十六目錄・一丁、陀卷第十六・二五丁）、第三冊、六二丁（卷第

十七目録・一丁、礼卷第十七・三三丁、卷第十八目録・一丁・曾卷第十八・二八丁）、第四冊、四九丁（卷第十九目録・一丁、津卷第十九・二三丁、卷第二十目録一丁、祢卷第二十・二五丁）、第五冊、四〇丁（卷第二十一目録・一丁、那卷第二十一・一九丁、卷第二十二目録・一丁、羅卷第二十二・二〇丁）、第六冊、五〇丁（卷第二十三目録・一丁、牟卷第二十三・二三丁、卷第二十四目録・一丁、宇卷第二十四・二五丁）、第七冊、五四丁（卷第二十五目録・一丁、井卷第二十五・二三丁、卷第二十六目録・一丁、濃卷第二十六・二九丁）、第八冊、五三丁（卷第二十七目録・一丁、於卷第二十七・二三丁、俱卷第二十八目録一丁、俱卷第二十八・二八丁）、第九冊、四七丁（卷第二十九目録・一丁、屋卷第二十九・三二丁、卷第三十目録・一丁、摩卷第三十・三三丁）、第一〇冊、五二丁（卷第三十一目録・一丁、希卷第三十一・二三丁、卷第三十二目録・一丁、賦卷第三十二・二七丁）、第一一冊、六四丁（卷第三十三目録・一丁、古卷第三十三・三一丁、卷第三十四目録・一丁、榎卷第三十四・三三丁）、第一二冊、六二丁（卷第三十五目録・一丁、伝卷第三十五・三三丁、卷第三十六目録・一丁、阿卷第三十六・二七丁）、第一三冊、五六丁（卷第三十七目録・一丁、佐卷第三十七・二八丁、卷第三十八目録・一丁、幾卷第三十八・二六丁）、第一四冊、五八丁（卷第三十九目録・一丁、遊卷第三十九・二九丁、卷第四十目録・一

丁、目卷第四十・二七丁）、第一五冊、五〇丁（卷第四十一目録・一丁、弥卷第四十一・二三丁、卷第四十二目録_マ・一丁、卷第四十二・二五丁）、第一六冊、五〇丁（卷第四十三目録・一丁・衛卷第四十三・二四丁、卷第四十四目録・一丁、緋卷第四十四・二四丁）、第一七冊、五四丁（卷第四十五目録・一丁、裳卷第四十五・二六丁、卷第四十六目録・一丁、勢卷第四十六・二六丁）、第一八冊、五一丁（卷第四十七目録・一丁、須卷第四十七・二二丁、卷第四十八目録・一丁、卷第四十八・二七丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「書／（平成）19・2・28／国会図」（朱印）。

〔備考〕乱版。

123 源平盛衰記 存卷第九・十、十三・十四、二十三―二十八、三十一

―四十八

〔請求番号〕WA七―二七四

〔体裁〕大本、一四冊。

〔表紙〕茶色表紙（原表紙、裏打改装）。二八・三×二〇・六糎。四針袋

綴。

〔題簽〕左肩に双边枠原刷題簽（一八・三×四・一糎）、「源平盛衰記

十三之四（廿七之八・卅一之二・卅三之四・卅五之六・卅七之八・卅九之四・四十三之四・四十七之八）」。

〔内題〕「源平盛衰記卷第九（一四十八）目録」、「源平盛衰記理卷第九（一四十八）終」。

〔尾題〕「源平盛衰記卷第九（一四十八）終」。

〔本文〕每半葉二行×二三字内外。漢字片仮名交、附訓有。

〔匡郭〕四周双边（卷第九、二一・六×一六・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「盛衰記卷九（一四十八）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五五丁（卷第九目録・一丁、理卷第九・二六丁／卷第十目録・一丁・卷第十・二七丁）、第二冊、四七丁（卷第十三目録・一丁、和卷第十三・二三丁、卷第十四目録・一丁、佳卷第十四・二二丁）、第三冊、五〇丁（卷第二十三目録・一丁、牟卷第二十三・二三丁、卷第二十四目録・一丁・字卷第二十四・二五丁）、第四冊、五四丁（卷第二十五目録・一丁、井卷第二十五・二三丁、卷第二十六目録・一丁、濃卷第二十六・二九丁）、第五冊、五三丁（卷第二十七目録・一丁、於卷第二十七・二三丁、俱卷第二十八目録一丁、俱卷第二十八・二八丁）、第六冊、五二丁（卷第三十一目録・一丁、希卷第三十一・二三丁、卷第三十二目録・一丁・賦卷第三十二・二七丁）、第七冊、六四丁（卷第三十三目録・一丁、古卷第三十三・三一丁、卷第三十四目録・一丁、榎卷第三十四・三三丁）、第八冊、六二丁（卷第三十五目録・一丁、伝卷第三十五・三三丁、卷第三十六目録・一丁・阿卷第三十六・二七丁）、第九冊、五六丁（卷第三十七目録・一

丁、佐卷第三十七・二八丁、卷第三十八目録・一丁、幾卷第三十八・二六丁）、第一〇冊、五八丁（卷第三十九目録・一丁、遊卷第三十九・二九丁、卷第四十目録・一丁、目卷第四十・二七丁）、第一一冊、五〇丁（卷第四十一目録・一丁、弥卷第四十一・二三丁、卷第四十二目録・一丁、卷第四十二・二五丁）、第一二冊、五〇丁（卷第四十三目録・一丁・衛卷第四十三・二四丁、卷第四十四目録・一丁、緋卷第四十四・二四丁）、第一三冊、五四丁（卷第四十五目録・一丁、裳卷第四十五・二六丁、卷第四十六目録・一丁、勢卷第四十六・二六丁）、第一四冊、五一丁（卷第四十七目録・一丁、須卷第四十七・二二丁、卷第四十八目録・一丁、卷第四十八・二七丁）。

〔刊記〕「藤本久兵衛開版（墨長方印〓重／家）」。

〔印記〕「北越天神／高橋庫中／圖書之記」（朱長方印）、「書／（平成）

20・4・28／国会図」（朱印）。

〔備考〕乱版。乱版で唯一刊記を有するが、藤本久兵衛は伝未詳。

124 碁経 本因坊算砂著

〔請求番号〕WA七―二八九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二六・二×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補双边刷棹書題簽（二〇・三×四・五糎）、「角書」算

／砂／本因坊定石作物」(題簽右下に朱方印「博」)。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 無。

〔匡郭〕 上下双辺(二一・三糎)。半葉ごとに碁盤圖(整版)に白黒の石形を丸印で捺印。「白先勝」、「白先劫」、「黒先生」の文字のみ活字。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「碁経 丁附」。

〔丁数〕 三〇丁。

〔刊記〕 「右一冊定石并作物二百／五十余科雖有浅深／厚薄非口伝者難識／量歟所詮不可不習伝之者乎／慶長十二丁未十二月五日／本因坊算砂(墨方印)」。

〔印記〕 卷末に「月明荘」(朱長方印・小)、「国立国会図書館」(朱長方印)、「書／2017. 3. 8／国会図」の受入印(朱印)。

〔備考〕 川瀬四八六頁、慶長十二年刊碁経。伝本他に、宮城県図書館蔵本。弘文荘仕立ての帙入、さらに桐箱に収める(帙・桐箱にはいずれも本の表紙の題簽と同一のものを貼付する)。

125 ※古曆

〔請求番号〕 WA七一一八二

〔体裁〕 横小本、一冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。一二・五×二〇・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一三行、一段組。半葉に一年分の曆を組む。

〔匡郭〕 四周単辺(九・〇×一六・六糎)、有界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「古曆 丁附」。

〔丁数〕 四三丁。天文三(甲／午)年、元和四(戊／午)年。各年の月

の大小、閏月、朔の干支等を記し、下段にその年の易の卦を示す。卷末に元和五年の干支と易の象のみ植字し、その他は墨書で補記。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「大黒山藏書」(山形市宝幢寺(明治三年廢寺)、朱長方印)、「月明荘」(反町茂雄、朱小印)、「昭和」50・12・18受入印。

〔備考〕 川瀬未載。川瀬(七〇二頁、図録篇六二四図)は、国立公文書館内閣文庫蔵の『古曆』を著録する。内閣文庫蔵本は、天文元年から元和三年(その裏は単に「(戊／午)年」「(己／未)年」のみを組む)まで、半葉に二年分ずつ上下二段に組む。国会本と同種活字で内容形式も同じくするが別版。川瀬はこれを元和二年刊の要法寺版と見る。帙題簽、森銚三筆、「古曆(元和四年刊／古活字版 孤本)」。

126 狭衣 四卷

〔請求番号〕WA七―一六四

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕藍（縹）色表紙（押八双はあるが後補か）。二八・二×一九・八

糹。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一八・四×四・〇糹）、「狭衣卷第一

上（一四下）」。

〔内題〕「狭衣卷第一之上（一四之下）」。

〔尾題〕「狭衣卷第一之上（一四之下）終」（卷第三之上は「三上終」）。

〔本文〕每半葉一二行×二三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・一糹。

〔版心〕無。ノドに「一（一八）丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、四三丁（卷第一之上）、第二冊、三六丁（卷第一之下）、

第三冊、四〇丁（卷第二之上）、第四冊、五〇丁（卷第二之下）、

第五冊、五八丁（卷第三之上）、第六冊、六三丁（卷第三之下）、

第七冊、七八丁（卷第四之上）、第八冊、四九丁（卷第四之下）。

他、各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕（昭和）45・3・20の受人印、「國立國／會圖書／館藏書」（朱方

印）。

〔備考〕無書入。卷四上の題簽下に横向きに「南村氏主／南村氏」の墨

書あり。川瀬、（二）元和中刊無刊記本（口）種。

127 狭衣 四卷

〔請求番号〕WA七―二三九

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕原装（押八双有）丹空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・五

×二〇・六糹。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に無辺の原刷題簽（一七・三×三・四糹）、「狭衣卷第一

上（一四下）」。

〔内題〕「狭衣卷第一之上（一四之下）」。

〔尾題〕「狭衣卷第一之上（一四之下）終」（卷第三之上は「三上終」）。

〔本文〕每半葉一二行×二三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・四糹。

〔版心〕無。ノドに「一（一八）丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、四三丁（卷第一之上）、第二冊、三六丁（卷第一之下）、

第三冊、四〇丁（卷第二之上）、第四冊、五〇丁（卷第二之下）、

第五冊、五八丁（卷第三之上）、第六冊、六三丁（卷第三之下）、

第七冊、七八丁（卷第四之上）、第八冊、四九丁（卷第四之下）。

他、各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕〔低三格〕元和九年五月中旬（六格空）心也開板。

〔印記〕（平成）14・10・28の受人印。

〔備考〕無書入。第八冊の後表紙見返しに、『狭衣』卷第二之下の三三丁

裏の刷り反古が用いられている。川瀬五一五頁、（一）元和九年

刊本、（二）元和中刊無刊記本（イ）種・（ロ）種（一）と同種

活字異植版、無刊記本が後出)、寛永中刊十三行本(寛永十六年刊大和物語等同種活字)が存在する。

蔵本と僚卷か。新城新蔵(一八七三)一九三八、天文学者・中国学者)旧蔵。昭和一八年三月二五日購求。

128 三国相伝陰陽輜轄篋篋内伝金烏玉兔集 存卷一・二 安倍清明撰

〔請求番号〕WA七―一四二

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕新補茶色表紙。二七・六×一八・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の双辺刷杵書題簽(一九・五×三・八糶)、「篋篋卷一・二 古活字版」。

〔内題〕「三国相伝陰陽輜轄篋篋内伝金烏玉兔集卷／(低二格)第一(二

／(低一格)天文安部博士(一格空)吉備清明朝臣撰」。

〔尾題〕「三国相伝宣明曆經註卷上(卷第二終)」。

〔本文〕每半葉九行×一八字。

〔匡郭〕四周双辺(一九・九×一四・六糶)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「篋篋一(二) 丁附」。

〔丁数〕二六丁(卷第一・一一丁、卷第二・一五丁)、前後に遊紙各二丁(新補)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬三八七・八七九頁、(三) 寛永五年刊本。川瀬は、安田文庫蔵本(存卷三)六、図録篇二二五図)のみを著録。本書は、安田文庫

129 三千句 梅谷元保編

〔請求番号〕WA七―一二三

〔体裁〕横本、一冊。

〔表紙〕薄茶色(押八双有)疋繫ぎ小花文様表紙。「帝／國／圖／書／館

／蔵」と型押のある薄茶色覆表紙(二二・九×一九・五糶)附。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「三千句 全」と打付書。覆表紙には左肩に、双辺

刷杵書題簽(九・七×二・五糶)、「三千句 全」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一三行、各行上下五字ずつ二段配字、巻首第一行にのみ句の下に「梅／谷」「策／彦」の二行小字あり。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・〇糶。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「三千句 丁附」。

〔丁数〕六一丁(本文・六〇丁、跋・一丁)。

〔刊記〕余壯年与江心社友聯句数／年之間而畢九千句邇來世／路多艱風騷之会棄如土於／是乎(二格空)梅阜梅谷老禪膠／断絃以鼓余懶墮而比辭聯／韻累年累月々々或一百句／或二三百句漸積而為三千／句老禪迅筆淨書成一冊棄／以見而余跋于其尾可謂好／事

也矣然而事達／禁中以経（一格空） 觀觀豈非華袞／之榮乎昔丁
唐朝有兩韓翊／韓翊有警句（一格空） 德宗内批英」（61才）／
飛茂騰絲茲思之老禪其猶／春城無処不飛花之韓翊耶／吁／（低
一格） 天正六禩端月吉辰謙齋／（低一格） 七十八禿翁周良印／
（二行空） ／（低一格） 于時元和七曆九月吉辰／（一行空） ／
（低八格） 二兵衛

〔印記〕「宮内省／圖書印」（朱方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕一五丁表まで朱傍点と朱丸傍点が施されるのみ。二兵衛は、駿
河版の刊行に「うえて」（植字工）として従事し、その後京都で
元和から寛永にかけて多くの古活字版を刊行している（高木浩
明「二兵衛とその出版活動をめぐる覚書」、『中近世移行期の文
化と古活字版』、勉誠出版、二〇二〇年）。

130 四河入海 二五卷 笑雲清三編

〔請求番号〕WA七一九三

〔体裁〕 大本、一〇〇冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。「帝／國／圖／書／館／蔵」と型押のある薄茶
色縦刷毛目文様覆表紙（二七・七×二〇・二糎、第一冊欠）附。
四針袋綴。

〔題簽〕 無。覆表紙の左肩に双辺枠の刷題簽（一七・七×三・五糎）、「四
河入海 二（―百止）」。

〔内題〕「四河入海卷第一之一（一格空） 前建長笑雲清三述／増刊校正百

家註東坡先生詩序／（低六格） 狀元王公（一格空） 十册（一格
空） 龜齡譯、「増刊校正王狀元集註分類東坡先生詩註氏／（低
四格） 狀元王公（一格空） 十册（一格空） 龜齡（一格空） 纂集」
「王狀元集百家註分類東坡先生詩卷之二」（『四河入海卷第廿
五之四（一格空） 前建長笑雲清三述』）。

〔尾題〕「四河入海卷第一之一」（『（低二格） 四河入海卷第二十五之四
（一格空） 終』）。

〔本文〕 序、每半葉九行×一八字、大型活字使用。注釈本文、每半葉
一七行×一八字、詩本文は大型活字、注釈本文は小型活字を使
用。

〔匡郭〕 四周单边（二二・二×一六・五糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「四河入海一之一（―廿五之四） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六五丁（序・卷一之一）、第二冊、七七丁（卷一之二）、
第三冊、七六丁（卷一之三）、第四冊、八二丁（卷一之四）、第
五冊、五二丁（卷二之一）、第六冊、六四丁（卷二之二）、第七
冊、三九丁（卷二之三）、第八冊、四二丁（卷二之四）、第九冊、
六七丁（卷三之一）、第一〇冊、七九丁（卷三之二）、第一一冊、
五三丁（卷三之三）、第一二冊、四九丁（卷三之四）、第一三冊、
六三丁（卷四之一）、第一四冊、六九丁（卷四之二）、第一五冊、
六二丁（卷四之三）、第一六冊、六一丁（卷四之四）、第一七冊、
五七丁（卷五之一）、第一八冊、五六丁（卷五之二）、第一九冊、
七七丁（卷五之三）、第二〇冊、四八丁（卷五之四）、第二一冊、

五八丁（卷六之一）、第二三冊、五八丁（卷六之二）、第二三冊、四五丁（卷六之三）、第二四冊、四六丁（卷六之四、六·七丁乱丁）、第二五冊、七〇丁（卷七之一）、第二六冊、七一丁（卷七之二）、第二七冊、五五丁（卷七之三）、第二八冊、六三丁（卷七之四）、第二九冊、六四丁（卷八之一）、第三〇冊、七四丁（卷八之二）、第三一冊、五三丁（卷八之三）、第三二冊、五〇丁（卷八之四）、第三三冊、四九丁（卷九之一）、第三四冊、六〇丁（卷九之二）、第三五冊、五〇丁（卷九之三）、第三六冊、五一丁（卷九之四）、第三七冊、五一丁（卷十之一）、第三八冊、五〇丁（卷十之二）、第三九冊、四八丁（卷十之三）、第四〇冊、四五丁（卷十之四）、第四一冊、六二丁（卷十一之一）、第四二冊、五八丁（卷十一之二）、第四三冊、五八丁（卷十一之三）、第四四冊、五八丁（卷十一之四）、第四五冊、五二丁（卷十二之一）、第四六冊、五五丁（卷十二之二）、第四七冊、四九丁（卷十二之三）、第四八冊、四七丁（卷十二之四）、第四九冊、六五丁（卷十三之一）、第五〇冊、六一丁（卷十三之二）、第五一冊、四六丁（卷十三之三）、第五二冊、四九丁（卷十三之四）、第五三冊、四五丁（卷十四之一）、第五四冊、五一丁（卷十四之二）、第五五冊、五〇丁（卷一四之三）、第五六冊、五四丁（卷十四之四）、第五七冊、四四丁（卷十五之一）、第五八冊、三六丁（卷十五之二）、第五九冊、四七丁（卷十五之三）、第六〇冊、四四丁（卷十五之四）、六一冊、六四丁（卷十六之一）、第六二冊、

六一丁（卷十六之二）、第六三冊、五三丁（卷十六之三）、第六四冊、五九丁（卷十六之四）、第六五冊、六一丁（卷十七之一）、第六六冊、五四丁（卷十七之二）、第六七冊、五六丁（卷十七之三）、第六八冊、五四丁（卷十七之四）、第六九冊、六七丁（卷十八之一）、第七〇冊、六七丁（卷十八之二）、第七一冊、六一丁（卷十八之三）、第七二冊、五九丁（卷十八之四）、第七三冊、一〇〇丁（卷一九之一）、第七四冊、一〇五丁（卷十九之二、四九丁重複）、第七五冊、八七丁（卷十九之三、五〇·五一丁乱丁）、第七六冊、八五丁（卷十九之四）、第七七冊、四九丁（卷廿之一）、第七八冊、五二丁（卷廿之二）、第七九冊、五六丁（卷二十之三）、第八〇冊、五五丁（卷二十之四）、第八一冊、六〇丁（卷廿一之一）、第八二冊、五九丁（卷廿一之二）、第八三冊、六〇丁（卷廿一之三）、第八四冊、五七丁（卷廿一之四）、第八五冊、五四丁（卷廿二之一）、第八六冊、五五丁（卷廿二之二）、第八七冊、五八丁（卷廿二之三）、第八八冊、五七丁（卷廿二之四）、第八九冊、五三丁（卷廿三之一）、第九〇冊、五六丁（卷廿三之二）、第九一冊、五九丁（卷廿三之三）、第九二冊、五七丁（卷廿三之四）、第九三冊、七四丁（卷廿四之一）、第九四冊、七五丁（卷廿四之二）、第九五冊、七四丁（卷廿四之三）、第九六冊、七三丁（卷廿四之四）、第九七冊、六三丁（卷廿五之一）、第九八冊、六三丁（卷廿五之二）、九九九冊、七六丁（卷廿五之三）、第一〇〇冊、六四丁（卷廿五之四）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「宮内省／圖書印」（朱方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕 宋の蘇東坡（一〇三六—一一〇一）の詩集に注解を加えた抄物。

書名は、大岳周崇の「翰苑遺芳」、瑞溪周鳳の「脞説」、万里集九の「天下白」、一韓智翹が桃源瑞仙の講義録を纏めた「一韓聽書」の四書に自説を合わせて編んだことに由来する。

朱引、朱句読点、朱墨で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄等に書入（刊行後程なくのものか）有。川瀬三六七・八〇九頁、慶長元和中刊。

131 卮言抄 二卷 林道春（羅山）編

〔請求番号〕 WA七―五四

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 新補薄縹色表紙。二九・〇×二〇・〇。糲。五針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「低一・五格」卮言抄卷之上（六格空）道春編、「低一・五格」卮言抄卷之下。

〔尾題〕 「卮言抄卷之上終」（小字）、「卮言抄卷之下終」。

〔本文〕 本文、大字八行、一六―一八字、注解、小字一六―一七行、一九―二三行。別行に片仮名附訓植版、返点植版。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・五×一六・一糲）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「卮言抄上（下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二七丁（卷之上）、第二冊、三九丁（卷之下）。

〔刊記〕 「或召余講論語有日矣講余每話及經史之要／語且求筆記焉因即座口授諺解于其左右且／誦且書積至百件編為兩冊余題以卮言抄蓋／卮言猶云著談之類歟以卮酒曼衍之際有言／語也故不拘其要語之次序不顧其諺解之粗」（39才）／俗為便聽取信口叨叨至此矣待可畏之君子／而訂正之耳然道不離於日用奈人之不察何／故孔子曰人莫不飲食也鮮能知味也夫口之／於味天下皆然是以修身治国家平天下其内／外雖異其揆一也亦猶如天下之口相似乎庶／乎有味于卮言焉既而索誌諸卷尾於是乎跋／（一行空）／（低一格）元和六年秋七月日（一格空）羅浮子（一格空）道春謹書（39ウ）。

〔印記〕 「高木家藏」（高木利太、朱長方印）、「國立／圖書／館藏」（朱方印）、「昭23・3・17購入」印。

〔備考〕 中国の経書、史書等の古典から名言を選び、注解を施したもの。無書入。間紙を入れて綴じ直し。天部は裏打して一糲程度紙を継ぐ。川瀬三〇九・四八九・五七九・九二〇頁、「漢字の上下左右に別に小型の附訓活字を植版する法は、元和頃の叡山版に始めて試みられた様式で、次いでこの方法は高野版にも栄えたが、本書の如く外典に行つたものは罕である」（五七九頁）。伝本の一つに著録する高木文庫蔵本が本書。

132 しやかのほんち 存上巻

〔請求番号〕WA七―一四九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕焦げ茶色空押雷文襷に小菊文様表紙（原表紙を裏打改装）。

二七・三×一八・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二一・九×二・四糎）、「しやかのほんち上」。

〔内題〕「低二格」しやかのほんち上。

〔尾題〕「低二格」しやかのほんち上終」。

〔本文〕每半葉一一行×二〇字。漢字平仮名交、「釈迦」^{しよか}「如来」^{にょらい}のみ濁点附活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕「上」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕二八丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治三三・一〇・五購求」印。

〔備考〕無書入。

133 沙石集 一〇巻 無住編

〔請求番号〕WA七―一七八

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕栗皮表紙（押八双有、原表紙裏打修補）。二七・九×二〇・〇糎。

四針袋綴。「右肩に「^{取致}帙」（朱長方印、高本文庫）。

〔題簽〕無。中央に「沙石集第一（一十終）」と朱打付書。右側に「山門東塔南谷 浄教房／惣計十冊之内」、左側に「真如蔵」と朱書。

〔内題〕「沙石集第一并序（一十下始）」。

〔尾題〕「沙石集第一上（一十下）終」。

〔本文〕每半葉十二行、二十一字〜二十三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二三・三×一七・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾もしくは双花口魚尾、中縫、「沙石一（一十）上（下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三六丁（序・一丁半、目録・半丁／一上・一四丁、目録・一丁、一下・一九丁）、第二冊、四三丁（目録・一丁、二上・二三丁、目録・一丁、二下・一八丁）、第三冊、三九丁（目録欠、三上・一九丁、目録・一丁、三下・一九丁）、第四冊、四〇丁（目録欠、四上・一八丁、目録・一丁／四下・二二丁）、第五冊、五三丁（目録・一丁、五上・二四丁、目録・一丁、五下・二〇丁、人感有歌・七丁）、第六冊、四五丁（目録・一丁、六上・一九丁、目録・一丁、六下・二四丁）、第七冊、四四丁（目録・一丁、七上・二二丁、目録・一丁、七下・二二丁）、第八冊、三六丁（目録・一丁／八上・一八丁、目録・一丁、八下・一六丁）、第九冊、四三丁（目録・一丁／九上・二〇丁、目録・一丁／九下・二〇丁）、第一〇冊、二四丁（目録欠、十上・一一丁、目録欠／十下・一三三丁）。

〔刊記〕「(低一格) 此集行于世尚矣本有広略條有前後不知孰是也／(低一格) 項幸得無住師之直筆正本今也不堪蘊藏於焉遂／(低一格) 鏤于梓十目所視豈其撝乎勿敢疑也／(低二格) 元和四年正月吉日」。

〔印記〕「高木家藏」(高木利太、朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「昭和二二・九・一九購入」印。

〔備考〕朱引、朱句読点が若干施されているのみ。裏打修補。

134 沙石集 一〇卷 無住編

〔請求番号〕WA七―二九七

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕原裝(押八双有) 栗皮表紙。二七・九×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕後補の書題簽(第五冊、七・五×二・七糎)、「沙石五始終(一十)」、右肩に「一之卷」「二之卷・三十一」と朱書。

〔内題〕「沙石集第一并序(一十下始)」。

〔尾題〕「沙石集第一上(一十下)終」。

〔本文〕每半葉十二行、二十五字内外。漢字片仮名交。稍小型活字。

〔匡郭〕四周单边(序、二三・一×一六・八糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「沙石一上(一十下) 丁付」。

〔丁数〕第一冊、三四丁(序・一丁、目録・一丁／一上・一三丁、目録・

一丁、一上・一八丁)、第二冊、四〇丁(目録・一丁、二上・二二丁、目録・一丁、二下・一七丁)、第三冊、三六丁(目録

欠、三上・一八丁、目録・一丁、三下・一七丁)、第四冊、三七丁(目録欠、四上・一七丁、目録・一丁／四下・一九丁)、第五冊、四七丁(目録・一丁、五上・二二丁、目録・一丁、五下・一七丁、人感有歌・七丁)、第六冊、四二丁(目録・一丁、六上・一八丁、目録・一丁、六下・二二丁)、第七冊、四〇丁(目録・一丁、七上・一九丁、目録・一丁、七下・一九丁)、第八冊、三三丁(目録・一丁／八上・一六丁、目録・一丁、八下・一五丁)、第九冊、三八丁(目録・一丁／九上・一八丁、目録・一丁／九下・一八丁)、第一〇冊、二二丁(目録欠、十上・一〇丁、目録欠／十下・一二丁)。

〔刊記〕原刊記「此集行于世尚矣本有広略條有前後不知孰是也／項幸得無住師之直筆正本今也不堪蘊藏於焉遂／鏤于梓十目所視豈其撝乎勿敢疑也／慶長十(乙／巳)年仲春下浣八日 圓智校讎」のみ。

〔印記〕国立国会図書館の印と受人印(書／2020／2・14／国会図)のみ。

〔備考〕卷末に慶長十年刊本と同一の刊語があることから、慶長十年刊の要法寺版と誤認されることがある(川瀬二六二頁、宮内庁書陵部蔵本を誤認)が、本書は慶長十年刊の要法寺版を底本にして、慶長後半期(慶長一五年頃)に刊行されたものである。朱引、朱句読点、ごく僅かに墨書入有。第一冊の序末に墨書識語、「從弘安(巳／卯)寛永十三(丙／子)マテ三百五十九年後

「宇多院御宇」。前後の表紙裏には、大学・中庸（古活字版、『中庸』の刷り反古には二種の版種が認められ、一種が高橋智氏（『慶長刊大学中庸章句の研究』、『斯道文庫論集』第三十二輯、一九九七年）のいう今関正運刊本乙種（川瀬一馬のいう今関正運刊本第二種）で、一種が版種未詳のもの。『大学』の刷り反古は現存する諸版とは一致しない）・四体千字文（整版、版種未詳）等の刷り反古が用いられている（第二冊前、中庸（今関乙種）・二〇丁・二三ウ・丁不詳、第二冊後、中庸（版種未詳）・序二オ、第二冊前、中庸（今関乙種）・二三オ、第二冊後、中庸（版種未詳）・序二ウ、第三冊前、中庸（版種未詳）・序二ウ、第三冊後、墨書、第四冊前、四体千字文（版種未詳）、第四冊後、墨書、第五冊前、大学（版種未詳）・一ウ・丁不詳、第五冊後、墨書、第六冊前、大学（版種未詳）・一オ・丁不詳、第六冊後、墨書、第七冊前、中庸（版種未詳）・二オ、第七冊後、中庸（今関乙種）・三三オ、第八冊前、中庸（版種未詳）・二ウ、第八冊後、中庸（今関乙種）・三三ウ・四体千字文（版種未詳）、第九冊前、中庸（今関乙種）・四一オ・四体千字文（版種未詳）、第九冊後、大学（版種未詳）・一オ、第一〇冊前、中庸（今関乙種）・四一ウ（関東上総住今関正運刊）、第一〇冊後、大学（版種未詳）・一ウ）。なお、本書と全く同一の刷り反古が、慶長一五年刊の要法寺版と目される『太平記鈔・音義』（東北大学附属図書館漱石文庫蔵）の表紙裏（小秋元段「東北大学附属図書館漱石文庫所

蔵 古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復原的考察（藤本幸夫編『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』、勉誠出版、二〇二一年参照）にも用いられており、その関係が注意される。一誠堂書店抜。

135 拾芥抄 三卷 洞院公賢編

〔請求番号〕WA七―四六

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補水色布目地表紙。二六・二×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一九・〇×三・七糎）「拾芥抄 上ノ本

（上ノ末・中ノ本・中ノ末・下ノ本・下ノ末）」。

〔内題〕 「拾芥抄上本目録」、「略要抄上本」（WA七―一〇三本は「上

を欠く）、「拾芥抄上末」、「拾芥抄中目録（或略／要抄）」、「拾芥

中本」、「拾芥抄中末」、「拾芥抄下目録」、「拾芥下本（下末）」。

〔尾題〕 「拾芥上本終」、「拾芥中本」、「拾芥中末終」、「拾芥下本」。

〔本文〕 每半葉一行×一九字。本文漢文、間々片仮名を交える。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・五×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「拾芥上本目録（上本・上末）（拾芥中

目録・中本・中末）（拾芥下目録・上本・上末） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三七丁（上本目録・二丁、上本・三五丁）、第二冊、

三五丁（上末、巻末に「写本云 彼本者洞院相国被抄之仍果

守僧正／留写之当寺（石／山）座主相伝令深秘被納箱底（云／

云)、第三冊、四五丁(中目録・二丁、中本・四三丁)、第四冊、七四丁(中末・六二丁。以下は整版にて附載。宮城指図・五丁、八省指図・一丁、四行八門図・半丁、坊保図・三丁半、大日本国図・一丁、他二丁)、第五冊、六一丁(下目録・二丁、下本・五九丁)、第六冊、五三丁(下末)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「柰原家蔵」(墨長方印)、「故柰原芳塾納本」(朱長方印)、「東京／圖書／館蔵」(朱方印)、「帝國／圖書／館蔵」(朱方印)。

〔備考〕川瀬五七八・九一九頁、「拾芥抄は一種の百科辞典で、社会全般の事が記載されてゐるので、頗る重宝とせられ、江戸時代にも貴族の嫁入の時の必携品の一となつてゐた。慶長中に印行せられた活字印本には兩種の異植版が存する」(五七八頁)。中の末の巻に整版にて附載されている「大日本国図」は、我が国最古の古版地図。国会図書館には二点の所蔵があるが、いずれも(一)慶長中刊(双边)本。

136 拾芥抄 三卷 洞院公賢編

〔請求番号〕WA七―一〇三

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ地に蓮華唐草文様表紙(押八双有、原表紙改装)。二七・四×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「拾芥上本末(中本末・下本末)」と打付書。右肩に

は外題と同筆で「此様三本 速見家蔵 藤以文蔵」と墨書。

〔内題〕「拾芥抄上本目録」、「略要抄上」、「拾芥抄上末」、「拾芥抄中目録(或略／要抄)」、「拾芥中本」、「拾芥抄中末」、「拾芥抄下目録」、「拾芥下本(下末)」。

〔尾題〕「拾芥上本終」、「拾芥中本」、「拾芥中末終」、「拾芥下本」。

〔本文〕每半葉二行×一九字。本文漢文、間々片仮名を交える。

〔匡郭〕四周双边(二一・五×一七・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「拾芥上本目録(上本・上末)(拾芥中目録・中本・中末)(拾芥下目録・上本・上末) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁(上本目録・二丁、上・三五丁、上末・三五丁、巻末に「写本云 彼本者洞院相国被抄之仍果守僧正／留写之当寺(石／山)座主相伝令深秘被納箱底(云／云)」)、第二冊、一一九丁(中目録・二丁、中本・四三丁、中末・六二丁。以下は整版にて附載。宮城指図・五丁、八省指図・一丁、四行八門図・半丁、坊保図・三丁半、大日本国図・一丁、他二丁)、第三冊、一一四丁(下目録・二丁、下本・五九丁、下末・五三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「速水蔵／書之印」(速水房常、江戸時代中期の有職故実家、朱長方印)「讀杜／艸堂」(寺田望南、朱方印)、「明治三八・一・二〇購求」印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による振仮名等の書入の他、上欄には、「以文考」・「文考」として、江戸時代後期の吉田神社祠官山田以

文による朱墨書入有。

137 聚分韻略 存上平・下平 虎関師鍊編

〔請求番号〕WA七―一九

〔体裁〕小本、一冊。

〔表紙〕後補薄茶色布目地表紙。一六・一×一二・六種。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に「聚分韻畧」と打付書。

〔内題〕無。

〔尾題〕「聚分韻略上平（下平）終」。

〔本文〕每半葉八行。

〔匡郭〕四周双边（二四・五×一〇・五種）、有界。

〔版心〕黒口、下向きの黒魚尾二つ、中縫、「上平（下平）」「丁附（通し

丁附）」。

〔丁数〕四六丁（東第一^{上平}、刪山第十五^{上平}・二四丁、先仙第一^{下平}、巖凡

第十六^{下平}・二二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「船橋藏書」（清原氏、朱長方印）、「宮内省／圖書印」（朱方印）、

「TOKIO LIBRARY」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱墨書入有。各部の後に一、二枚の別紙を補綴（改装時の

もの、新補）、注記書入に備えているが、無書入。川瀬九一八

頁、「小型の実用的な印本で、活字も比較的小型、その様式か

ら見ると慶長頃の刊行であらう。（中略）版式から見て慶長十

年前後には出たものと考へられる」。現存唯一の伝本、図録篇
九八二・九八三図に国会本の図版を収む。

138 貞永式目抄 三卷 清原宣賢編

〔請求番号〕WA七―一七七

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押唐花唐草文様表紙。二七・〇×一九・一種。四

針袋綴。

〔題簽〕左肩に具引きを施した書題簽（一九・七×三・四種）、「貞永式

目抄 上（中・下）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一三行×二六字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二一・九×一六・七種）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「式目抄上（中・下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁（上）、第二冊、三七丁（中）、第三冊、四二丁

（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中／川／氏／藏」（中川德基、朱丸印）、「帝國／圖書／館藏」

（朱方印）、「明治三二・一〇・六購求」印。

〔備考〕鎌倉幕府の基本法『御成敗式目（貞永式目）』を清原宣賢が

注釈したもの。天地化粧裁、全丁裏打修補。朱引、朱墨で返

点、振仮名、送仮名、上下欄にも書入が施されている。川瀬
四七七・八七一頁、(四) 寛永中刊(十三行)本(口)。図録篇
二九九図に図版を収む。

139 承久記 二卷

〔請求番号〕WA七一九一

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・三×一九・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕上巻のみ左肩に後補の書題簽(一七・九×三・九糎)、「承久記
坤」。

〔内題〕「(低二格) 承久記上(下)」。

〔尾題〕「承久記^{切取}」(上之終)、「承久記下之終」。

〔本文〕每半葉二行×二四字。漢字片仮名交、小型活字。

〔匡郭〕四周单边(二二・六×一六・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「承久上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三六丁(上)、第二冊、三四丁(下)。

〔刊記〕「(低二格) 右兵乱之記行于世年尚矣故本有広略條有(低二格)
脱落今也集於多本以一校畢(一行空) / (低二格) 于時元和
四^戊年曆子孟夏中十日」。

〔印記〕「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「明治三八・六・二購求」印。

他、巻末に蔵書印が捺されているが、切り取られている。

〔備考〕全丁裏打修補。無書入。川瀬四八九・五八五・九二七頁、(一)

元和四年刊本。伝本他に、大東急記念文庫蔵本・京都大学附属
図書館谷村文庫蔵本・天理大学附属天理図書館蔵本(表紙裏に
古活字版医書『類証弁異全九集』の刷り反古を用いる)。

140 聖德太子憲法十七箇条

〔請求番号〕WA七二〇一

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補青色表紙。「帝／國／圖／書／館／藏」と型押のある薄茶色

〔題簽〕左肩に双边刷粋書題簽(一九・六×三・七糎)、「憲法十七箇条^外
四種附全」(覆表紙にも同様の書題簽)。

〔内題〕「聖德太子憲法十七箇条」、「聖德太子德失鏡」、「(低一格) 聖德
太子四節文」、「聖德太子碼础御記文」、「(低一格) 解脱上人学徒
教誡詞」。

〔尾題〕「上宮太子十七箇条憲法畢」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕四周双边(二二・五×一五・三糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「太子憲法(德失・太子四節・碼础・解脱
教誡) 丁附」。

〔丁数〕一七丁(聖德太子憲法十七箇条・五丁、聖德太子德失鏡・二丁、
聖德太子四節文・三丁、聖德太子碼础御記文・一丁、解脱上人
学徒教誡詞・六丁)。

学徒教誡詞・六丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「讀杜／艸堂」（寺田望南、朱方印）、「大橋」（朱楯円印小）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕 無書入。川瀬九二六・九二七頁、「（五八四頁）日本書紀の一部を抄録したかたちをなすものに、「聖德太子憲法十七箇條」（一冊）がある。慶長十五年刊日本書紀と殆ど相似の活字を用ひてゐるから、慶長中の刊行と認めらる。卷末には、「上宮太子十七箇條憲法畢」とあつて、章毎に改行、凡て五葉、その第五葉目裏からは、「聖德太子德失鏡（三三頁）・聖德太子四節文（四頁）・聖德太子碼御記文（二頁）等を附載してある。十七條憲法の本文は慶長十五年刊本の本文より誤植がある。伝本は書陵部蔵の一本（裏打改装）と小汀文庫蔵本（「平等心王院」印記あり）及び国会図書館蔵本で、国会図書館蔵本にはなほ「解脱上人学徒教誡詞」（六葉）がある。図録篇九九六図に、国会本の「解脱上人学徒教誡詞」の図版を収む。

141 職原抄 二卷 北畠親房著

〔請求番号〕 WA七―一八八

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（原表紙裏打改装）。二七・二×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（二七・七×三・六糎）、「職原抄 上（下）」。

〔内題〕 「職原抄上（下）」。

〔尾題〕 「職原抄上（下） 卷終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・一×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 上下に黒口及花口魚尾、中縫、「職原抄上（下）・職原補遺・職原後附」、「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四六丁（上）、第二冊、七五丁（下・四九丁、補遺・六丁、後附・二〇丁）。

〔刊記〕 「官位職員科目備令條雖載之／上古風儀輒難識量多端也而／今此鈔者外蹟除書之體内含／令式之義而摸周典之職配唐／官之名又述自中古覃當時諸／家昇進旨趣始如指掌也是以／桃華禪閣被加格言尤可謂官／位職掌之龜鑑者也爰中原職忠／欲鈔梓之余需校讎因聚考數／本從其宜而已并可便覽者七／八科附其後／于皆慶長戊申夏四月蚯蚓出日／吏部少卿清原秀賢誌（朱印）（朱印）」。

〔印記〕 「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、墨長方印）、「殘花書屋」（朱楯円印）、「賓／南」（朱方印小、陰刻）、「賓／南」（卷末、朱方印、陽刻、以上三印、戸川浜男）、「武藤／元信」（朱丸印）、「幽／□」（卷末、香炉印）、跋刊の始めに「天師明經儒」（清原家、朱長方印）、跋刊末の「清原秀賢誌」の下に角印・壺形印の二印記、刊末に「月明／莊」（反町茂雄、朱方印）、（昭和）52・2・17受入印。

〔備考〕 中世日本の有職故実書。無書入。桐箱（蓋に「職原抄（慶長十三年刊／古活字版）全三冊」、森銚三筆）入。『弘文莊古活字

版目録』二六〇頁に掲載。川瀬二〇五・四七八・六九三頁。川瀬は、同種活字の異植版を二種著録するが、国会本は図録篇48右図と同版。これらとは別に塩竈神社にもう一版の所蔵がある。

142 ※諸病食性禁好物集

〔請求番号〕WA七―二二七

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文(小) 繋ぎ菊花文様表紙(原表紙一部残存、裏打改装)。二六・一×一八・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕「諸」と一部外題の痕跡あり。

〔内題〕「(低四格) 諸病食性禁好物集目録」、「諸病食性禁好物」。

〔尾題〕「(低二格) 禁好物目録終」、「(低二格) 禁好物終」。

〔本文〕每半葉一〇行。禁物と好物を漢字片仮名で表記。

〔匡郭〕四周双辺(目録、二〇・〇×一四・二糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「禁好物 丁附」。

〔丁数〕三八丁(目録・二丁、諸病食性禁好物・三六丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。前表紙見返しに識語、「元禄元/正月出羽秋田久保田/安田玄忠(花押)」、巻首丁(目録)右下に「主安田玄忠」、後表紙見返しに、「諸病/安田玄仲/安田玄忠/安田玄六七/玄忠」。

川瀬未載。慶長頃の刊か。

143 書札礼事

〔請求番号〕WA七―二

〔体裁〕特大本、一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。三〇・〇×二二・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に「書札礼事」と打付書。

〔内題〕「(低三格) 書札礼事」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二一・四×一六・二糎)、無界。

〔版心〕上下に黒口双花口魚尾、中縫、「礼節」、「丁附」。

〔丁数〕一四丁。

〔刊記〕「(低二格) 慶長玄黙困敦夾鐘 刊之」(慶長十七年二月)。

〔印記〕「帝國/圖書/館蔵」(朱方印)、「明治三八・六・二購求」印。

〔備考〕鎌倉時代の礼法書『弘安礼節』の一部。書簡を出す相手の官位身分による用語の使い分けなどを示した「書札礼事」の他、「院中礼節」「路頭礼節」を含む。無書入。川瀬二〇六・四七九・六九三頁。「職原抄と同版式の附属的なる出版と目す可きものであるから、恐らく秀賢の關係した印行であらうと思ふ」。

144 信長記 存卷第一一八・十一一十五 大田牛一輯録・小瀬甫庵著

〔請求番号〕WA七―一九七

〔体裁〕大本、七冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙。二七・七×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に「一」「三」「四五六」「七八」と打付書。一部の冊には、

「信長記七八（十一十二・三十四・拾五）」と墨書のある小紙片（七・二×一・五糎）を貼付。

〔内題〕「信長記卷第一（一十五）目録」、「信長記卷第一（一十五）／

（低十三格）大田和泉守牛一輯録／（低十三格）小瀬甫庵道喜居士重撰」。

〔尾題〕「信長記卷第一（一十四・十五終）」。

〔本文〕每半葉一三行×二三字。漢字片仮名交、稍小型の活字。

〔匡郭〕四周单边（卷一、二二・四×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「信長記一（一十五）」。

〔丁数〕第一冊、六三丁（信長記起・二丁、卷第一目録・一丁、卷第一・

六〇丁）、第二冊、四二丁（卷第二目録・一丁、卷第二・一五丁、卷第三目録・一丁、卷第三・二五丁）、第三冊、三九丁（卷第四

目録・一丁、卷第四・九丁、卷第五目録・一丁、卷第五・五丁、卷第六目録・一丁、卷第六・二二丁）、第四冊、二四丁（卷第七

目録・一丁、卷第七・八丁、卷第八目録・一丁、卷第八・一四丁）、第五冊、三〇丁（卷第十一目録・一丁、卷第十一・一三丁、

卷第十二目録・一丁、卷第十二・一五丁）、第六冊、二二丁（卷

第十三目録・一丁、卷第十三・一三丁、卷第十四目録・一丁、

卷第十四・七丁）、第七冊、三八丁（卷第十五目録・一丁、卷第

十五・三七丁）。

〔刊記〕「于時元和八壬戌曆三月吉辰」。

〔印記〕「島田／藏書」（朱方印）、「霞亭文庫」（渡辺霞亭、朱長方印）、

「高木家藏」（高木利太、朱長方印）、「国立／圖書／館藏」（朱方印）、「昭23・3・17」購入印。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬

四八九・六〇六頁、（一）第一種本（元和八年刊本）。高木文庫蔵本が本書（図録篇五七六図）。川瀬は伝本を六種に分類する

が、そのうち（六）第六種本（元和寛永中刊）に分類した本が近年、伝本の一つに記された識語の存在から、慶長十六年もし

くは翌十七年の五月以前に刊行されたことが明らかになった（柳

沢昌紀「甫庵『信長記』初刊年再考」、「近世文藝」第八十六号、

二〇〇七年、同「甫庵『信長記』古活字版の本文改訂―片仮名

第六種本を中心に」、「軍記と語り物」四四、二〇〇八年）。

145 前関白秀吉公御檢地帳之目録 附朝鮮国御進発之人数帳・政要抄

小瀬甫庵編

〔請求番号〕WA七―一〇

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補の水色採紙文様表紙の上に、新補の茶色覆表紙。二七・五

×二〇・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に黄色の三重刷梓書題簽（一六・三×三・二糶）、「秀吉公御檢地帳 全」（覆表紙の題簽、無題）。

〔内題〕「前関白秀吉公御檢地帳之目録」、「朝鮮国御進發之人数帳」、「政要抄」（低十四格）小瀬甫庵道喜編集」。

〔尾題〕「政要抄終」。

〔本文〕每半葉七行×一五字（前関白秀吉公御檢地帳之目録・朝鮮国御進發之人数帳、大型活字）、每半葉一二行×二二字（政要抄、小型活字）。

〔匡郭〕四周单边（二二・四×一六・二糶）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「檢地帳目録（朝鮮陣・政要抄） 丁附」。

〔丁数〕二七丁（前関白秀吉公御檢地帳之目録・六丁、朝鮮国御進發之人数帳・一五丁、政要抄・六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「于水／艸堂」（朱方印、陰刻）、「苔香／山象／之印」（朱方印）、「素石／園記」（朱方印、以上二印、木村素石、一八三七―

一九〇三）、「帝國圖書館」（朱長方印）、「明治四二・二・一・購求」印、題簽に「關静堂」（朱長方小印）。他、卷首右上に判読不明の朱丸印。

〔備考〕帙の後見返しに、明治十四（一八八一）年雜乞幻象（伝未詳）の長文の識語、「慶長活板秀吉公檢地帳及政要抄則于水草堂／主人之所珍藏而甫庵小瀬氏之撰也氏所撰書／流布于世頗多前見童

蒙先習於主人藏中候有／韓人序如好其選者語之主人々々曰氏博覽多才／嘗受豊公之寵遇余曰宜矣有竜也至使其恤後／来之心能感各人意今此撰亦有所為何経数百／之星霜至今人皆以為珍乎固与彼一对有精書之譽／而直上露店者不可因視因題一言／于時明治辛巳四月一日 雜乞幻象（印）貼付。川瀬、六二二・九四四頁、「秀吉の御檢地帳と朝鮮国御進發之人数帳とは天正記の第五種本（小山氏藏本）中に所収せられてゐるが、其の方が或は本書よりも後年の印行に係るものかとも思はれる。本書にも卷末に小瀬甫庵編集の政要抄が附載せられてゐるから、この御檢地帳等も甫庵の手に拠り他に資材を求めて編纂せられたものである」かもしれない。版式上慶長末頃の印行と認む可きものである」（六二二頁）。伝本、他に安田文庫藏本（川瀬九四四頁では慶應義塾図書館蔵とあるが、図書館にも斯道文庫にも所蔵は確認できない）・幸田成友藏本（現、慶應義塾図書館蔵）・田中教忠旧藏本（現、龍門文庫蔵）。図録篇五九〇・五九一・五九二図に国会本の図版収む。

146 住吉物語 二卷

〔請求番号〕WA七―一八五

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙、裏打修補。二七・四×二〇・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕中央に薄香色原刷題簽（一三・八×三・四種）、「住よし物語下」（上巻、上下一部破損）。

〔内題〕「（低一格）住吉物語下」（上巻には内題なし）。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・二種。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四五丁（上）、第二冊、三二丁（下）

〔刊記〕無。

〔印記〕「青谿／書屋」（大島雅太郎、朱方印）、「藤」（朱方印、藤園堂書店）、「國立國／會圖書／館藏書」（朱方印）、「昭和」46・3・

6。

〔備考〕川瀬五一六・八八九頁、（二）第一種本（慶長中刊十行大字本）。

大島雅太郎蔵と著録される本が本書。「竹取物語（十行大字本）」と同種活字印本で、竹取物語と同文の識語「住吉物語依少人御所望以秘本興行也」を巻末に附刻し、慶長中の刊行と認む可きものである」（五一六頁）。

147 撰集抄 九卷

〔請求番号〕WA七―五三

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙表紙。

二七・三×一七・八種。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二四・八×三・九種）、「撰集抄 上（中・下）」。

〔内題〕「（低一格）撰集抄卷第一（一九）（十一格空）西行記」。

〔尾題〕「（低一格）撰集抄卷第三終（十一格空）西行記」、「西行記中終」。

「（低一格）撰集抄卷第九終（十格空）西行記」。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交、小型活字、附濁点活字を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇種。

〔版心〕「上（中・下）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、三六丁（巻第一―三）、第二冊、四〇丁（巻第四―六）、第三冊、三一丁（巻第七―九）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國立／圖書／館藏」（朱方印）、「昭23・3・17購入」印。

〔備考〕無書入。川瀬五一九・八九〇頁、第三種本（ロ）種。「寛永中の印行に係る無刊記本第三種には少くとも三版以上の重版が行はれてゐる。本書に用ひられてゐる活字は寛永十六年の刊記ある諸本の其れと同種のものであるが、活字の摩滅が殆ど現れてゐない點等から見て、或は、この種の活字印本としては新雕の際に初めて植版せられた部類に属するものではあるまいかと思ふ。各版の前後は未詳」（五二〇頁）。

148 仙伝抄 富阿弥伝

〔請求番号〕WA七―五九

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補青色表紙（東京圖書館／和書門／遊技類／別つと函／

一〇四架／八四一七號／一冊）の蔵書票を貼付）に、「帝／國

／圖／書／館／蔵」と型押のある薄茶色渋刷毛引文様の覆表紙

（二五・七×一八・九糎）附。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺刷枘書題簽（一九・五×三・七糎）、「仙伝抄 全

〔覆表紙にも同様の書題簽〕。

〔内題〕 「低三格」仙伝抄目録、「（低三格）仙伝抄」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字内外。漢字平仮名交、附訓活字を混す。

挿絵六図。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二一・五糎。

〔版心〕 「仙伝一（二・三）」（目録）、「仙伝」と丁附を刻するのみ（本

文）。

〔丁数〕 四三丁（目録・三丁、本文・四〇丁）。

〔刊記〕 卷末に、「此仙伝抄者三条殿御秘本頼政公依御所望文安二年三月

廿五日 富阿弥相伝」以下天文五年池房專慈に至る九代相伝の

識語を有するのみ。

〔印記〕 「梶原家蔵」、「故梶原芳塾納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館

蔵」（朱方印）、「大橋」（朱椿四印、小）。

〔備考〕 立花の書。無書入、全丁裏打修補。後表紙見返しに識語、「于時

寛永拾叁年^子六月拾九日 善哲之」。川瀬四八四・八七四頁、（三）

第三種本、元和寛永中刊（十一行本）（イ）。図録篇三二〇図に

国会本の図版を収む。

149 仙伝抄 富阿弥伝

〔請求番号〕WA七―二八四

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 原装（押八双有）栗皮表紙。二七・二×一七・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺枘原刷題簽（下部破損）、「花伝抄」。

〔内題〕 「低四格」仙伝抄目録、「（低三格）仙伝抄」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字内外。漢字平仮名交、挿絵六図。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二一・五糎。

〔版心〕 三八丁のみ「仙伝」「三十八終」、三七丁までは丁附のみ。

〔丁数〕 三八丁（目録・二丁、本文・三六丁）。

〔刊記〕 「低二格」寛永拾七（庚／辰）年孟春吉旦」。

〔印記〕 「高木家蔵」（高木利太、朱長方印）、「月明荘」（反町茂雄、朱小

印）、二〇一三・二一五、受入印。

〔備考〕 無書入。（五） 寛永十七年刊本、高木文庫・安田文庫旧蔵。図録

篇三二二図に国会本の図版を収む。弘文荘誂えの唐花唐草文様

のある帙（題簽、森銚三筆）、「仙伝抄」（寛永十七年刊古活字版／

繪入)入。

150 曾我物語 十二卷

〔請求番号〕WA七―二四三

〔体裁〕大本、一二冊。

〔表紙〕栗皮表紙(原表紙裏打改装)。二八・三×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩題簽剥落。

〔内題〕「曾我物語卷第一(―十二) 目錄」、「曾我物語卷第一(―十二)」。

〔尾題〕「曾我物語卷第一(―十二)終」。

〔本文〕每半葉二行×二八字。漢字平仮名交、稍小型の活字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・四糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四六丁(卷第一、目錄・一丁、本文・四五丁)、第二冊、二九丁(卷第二、目錄・一丁、本文・二八丁)、第三冊、二六丁(卷第三、目錄・一丁、本文・二五丁)、第四冊、三三丁(卷第四、目錄・一丁、本文・三三丁)、第五冊、四〇丁(卷第五、目錄・一丁、本文・三九丁)、第六冊、二九丁(卷第六、目錄・一丁、本文・二八丁)、第七冊、二九丁(卷第七、目錄・一丁、本文・二八丁)、第八冊、三二丁(卷第八、目錄・一丁、本文・三〇丁)、第九冊、二八丁(卷第九、目錄・一丁、本文・二七丁)、第一〇冊、二二丁(卷第十、目錄・一丁、本文・二〇丁)、

第一一冊、一八丁(卷第十一、目錄・一丁、本文・一七丁)、第一二冊、一八丁(卷第十二、目錄・一丁、本文・一七丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「清人ノ之印」(疋田清人、朱方印、陰刻)、(平成)14・11・22 受入印。

〔備考〕無書入。川瀬五四六・九〇〇頁、寛永中刊二行本(イ)種。図録篇四四二図(神宮文庫)と同版。

151 太平記 四〇卷

〔請求番号〕WA七―二四

〔体裁〕大本、二〇冊。

〔表紙〕原裝薄茶色空押米字印に花襷文様表紙。二八・五×二一・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補、朱(薄縹・白)色金泥下繪文様地の書題簽(二一・四×二・九糎)、「太平記卷第(二二)并序」(―三十七 / 八)」。第二〇冊の題簽剥落、左肩に「太平記(三十九 / 四十)」と打付書。

〔内題〕「太平記卷第一目錄^并序」、「太平記卷第二(―四十) 目錄」、「太平記卷第一(―四十) 序」、「(低二格)序」、「太平記卷第一(―四十)」。

〔尾題〕「太平記卷第一(―四十)」。

〔本文〕每半葉二行×二二字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二二・七×一七・四糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平記卷一（一十四） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五二丁（卷第一、序・半丁、目録・半丁、本文・一八丁、卷第二、目録・一丁、本文・三二丁）、第二冊、五二丁（卷第三、目録・一丁、本文・二二丁、卷第四、目録・一丁、本文・二七丁）、第三冊、四二丁（卷第五、目録・一丁、本文・一八丁、卷第六、目録・一丁、本文・二二丁）、第四冊、五六丁（卷第七、目録・一丁、本文・二四丁、卷第八、目録・一丁、本文・三〇丁）、第五冊、六九丁（卷第九、目録・一丁、本文・三三丁、卷第十、目録・一丁、本文・三五丁）、第六冊、五七丁（卷第十一、目録・一丁、本文・二二丁、卷第十二、目録・一丁、本文・三三丁）、第七冊、七三丁（卷第十三、目録・一丁、本文・二八丁、卷第十四、目録・一丁、本文・四三丁）、第八冊、七八丁（卷第十五、目録・一丁、本文・三三丁、卷第十六、目録・一丁、本文・四四丁）、第九冊、九四丁（卷第十七、目録・一丁、本文・五〇丁、卷第十八、目録・一丁、本文・四二丁）、第一〇冊、五七丁（卷第十九、目録・一丁、本文・二五丁、卷第二十、目録・一丁、本文・三〇丁）、第二一冊、五一丁（卷第二十一、目録・一丁、本文・二八丁、卷第二十二、目録・一丁、本文・二二丁）、第二二冊、五二丁（卷第二十三、目録・一丁、本文・一七丁、卷第二十四、目録・一丁、本文・三三丁）、第二三冊、六二丁（卷第二十五、目録・一丁、本文・二二丁、卷第二十六、目録・一丁、本文・三七丁）、第一四冊、五四丁（卷第二十七、

目録・一丁、本文・二七丁、卷第二十八、目録・一丁、本文・二五丁）、第一五冊、五九丁（卷第二十九、目録・一丁、本文・三二丁、卷第三十、目録・一丁、本文・二五丁）、第一六冊、六三丁（卷第三十一、目録・一丁、本文・二七丁、卷第三十二、目録・一丁、本文・三四丁）、第一七冊、六三丁（卷第三十三、目録・一丁、本文・三三丁、卷第三十四、目録・一丁、本文・二八丁）、第一八冊、六〇丁（卷第三十五、目録・一丁、本文・三三丁、卷第三十六、目録・一丁、本文・二五丁）、第一九冊、五八丁（卷第三十七、目録・一丁、本文・二六丁、卷第三十八、目録・一丁、本文・三〇丁）、第二〇冊、四九丁（卷第三十九、目録・一丁、本文・三五丁、卷第四十、目録・一丁、本文・一二丁）。

〔刊記〕「〔低三格〕慶長十二_二村年上元日」。

〔印記〕「板倉氏／圖書印」（朱長方印）、「竹州／藏」（朱方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「昭和十一・廿七・購求」（朱丸印）。

〔備考〕第九冊、後表紙見返しに墨書識語、「元禄四年（丁／未）駿州府中御城番_二付／遠藤新六郎常就伽相勤夫_レより江府迄／被為伴翌年中夏下旬帰寺其節此本給畢」。主に墨筆で句読点、返点、送仮名の他、書入有。卷七・一四丁表の一二行目、「元弘三年二月十一日 左少将」の上に、「元禄五（壬／申）三百五十九_二成」と朱書されていたり、卷十四の三丁裏、「建武二年十月日」の上に、「三百五十六年_二成／元禄五（壬／申）」と朱書されていると

ころを見ると、書人は元禄四年、五年に施されたものとわかる。

本書、慶長十二年刊本は、古活字版『太平記』唯一の有界本。本文は慶長十年刊本を底本としたもので、殆ど違いはない。揃本は国会本が唯一だが、伝本は他に、広島大学附属図書館蔵本（巻一～八欠、一六冊）、天理大学附属天理図書館蔵本（存巻七・八、一冊）等がある（小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇一八年）。

152 太平記 四〇卷

〔請求番号〕WA七―二七八

〔体裁〕大本、二二冊。

〔表紙〕原装薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。後表紙は、薄茶色の改装表紙（第二〇冊は前後とも薄茶色の改装表紙）。二六・七×一九・七糎。四針袋綴。但し、補配の第一〇冊（無刊記双辺丁種本）にも原装の同表紙が用いられており、注意を要する。附属の二冊（巻十九―二十二、安田文庫旧蔵）は、原装薄茶色表紙（空押の文様は確認できない）。二七・〇×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左下に巻数のみ墨書。附属の二冊にのみ、左肩に双辺枰原刷題簽（一七・六×三・三糎）、「太平記 十九之廿（廿一之二）」。

〔内題〕「太平記卷第一（―四十）目録」、「太平記卷第一（―四十）」。

〔尾題〕「太平記卷第一（―四十）」。補配の第二〇冊（無刊記双辺丁種本）は、「太平記卷第十九（二十）終」。

〔本文〕每半葉一二行×二一字。補配の第一〇冊（無刊記双辺丁種本）は、每半葉一二行×二二字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单辺（巻第一、二一・八×一六・六糎）、無界。補配の第一〇冊（無刊記双辺丁種本）は、四周双辺（二二・〇×一七・一糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平記卷一（―四十）丁附」。補配の第一〇冊（無刊記双辺丁種本）は、黒口双花口魚尾、中縫、「太平十九（二十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五三丁（巻第一、目録・一丁、本文・一九丁、巻第二、目録・一丁、本文・三三丁）、第二冊、五三丁（巻第三、目録・一丁、本文・二三丁、巻第四、目録・一丁、本文・二八丁）、第三冊、四四丁（巻第五、目録・一丁、本文・一九丁、巻第六、目録・一丁、本文・二三丁）、第四冊、五九丁（巻第七、目録・一丁、本文・二五丁、巻第八、目録・一丁、本文・三三丁）、第五冊、七三丁（巻第九、目録・一丁、本文・三四丁、巻第十、目録・一丁、本文・三七丁）、第六冊、六一丁（巻第十一、目録・一丁、本文・二四丁、巻第十二、目録・一丁、本文・三五丁）、第七冊、七六丁（巻第十三、目録・一丁、本文・二九丁、巻第十四、目録・一丁、本文・四五丁）、第八冊、八〇丁（巻第十五、目録・一丁、本文・三三丁、巻第十六、目録・一丁、本

文・四五丁。丁附廿七と廿八の間に「廿七次補入」と墨書のあ
 る丁が入る。以下、丁附にずれが生ず、第九冊、九八丁（巻第
 十七、目録・一丁、本文・五二丁、巻第十八、目録・一丁、本
 文・四四丁）、第二〇冊、五五丁（巻第十九、目録・一丁、本
 文・二四丁、巻第二十、目録・一丁、本文・二九丁）、第二一冊、
 五三丁（巻第二十一、目録・一丁、本文・二九丁、巻第二十二、
 目録・一丁、本文・二二丁）、第二二冊、五四丁（巻第二十三、
 目録・一丁、本文・一八丁、巻第二十四、目録・一丁、本文・
 三四丁）、第二三冊、六四丁（巻第二十五、目録・一丁、本文・
 二三丁、巻第二十六、目録・一丁、本文・三九丁。二六丁欠）、
 第一四冊、五七丁（巻第二十七、目録・一丁、本文・二九丁、
 巻第二十八、目録・一丁、本文・二六丁）、第二五冊、六二丁
 （巻第二十九、目録・一丁、本文・三四丁、巻第三十、目録・一
 丁、本文・二六丁）、第一六冊、六六丁（巻第三十一、目録・一
 丁、本文・二九丁、巻第三十二、目録・一丁、本文・三五丁）、
 第一七冊、六六丁（巻第三十三、目録・一丁、本文・三五丁、
 巻第三十四、目録・一丁、本文・二九丁）、第一八冊、六三丁
 （巻第三十五、目録・一丁、本文・三四丁、巻第三十六、目録・
 一丁、本文・二七丁）、第一九冊、六〇丁（巻第三十七、目録・
 一丁、本文・二七丁、巻第三十八、目録・一丁、本文・三一
 丁）、第二〇冊、五〇丁（巻第三十九、目録・一丁、本文・三六
 丁、巻第四十、目録・一丁、本文・二二丁）、第二二冊、五九丁

（巻第十九、目録・一丁、本文・二六丁、巻第二十、目録・一丁、
 本文・三二丁）、第二二冊、五三丁（巻第二十一、目録・一丁、
 本文・二九丁、巻第二十二、目録・二丁、本文・二二丁）。

〔刊記〕「低二格」慶長癸卯季春既望（二格空）富春堂（一格空）新刊。

〔印記〕国立国会図書館の印と受人印（書／2011／6・28／国会図）。

〔備考〕慶長八年刊本、巻十九・二十は無刊記双辺丁種本を補配。別途

補配の二冊（巻十九―二十二、安田文庫旧蔵、第二二冊の表紙
 右下に「古活40」のラベル（安田文庫のもの）を貼付）は、
 慶長八年刊本。墨筆で振仮名が片仮名で若干施されるのみ。富

春堂は本書を刊行した五十川了庵（五十川は「いかわ」と読む）
 の号とされる。五十川了庵は前年の慶長七年に『太平記』の古

活字版を刊行しているが、慶長八年刊本は、慶長七年刊本を基
 底に、西源院本系・南都本系等の異文を増補した本。（小秋元段

前掲書）。川瀬五四三頁に著録される安田文庫蔵本（別に廿一・
 二巻一冊及び慶長七年刊同巻あり」とあるのは誤記）が本書。

153 太平記 四〇巻

〔請求番号〕WA八―六

〔体裁〕大本、四〇冊。

〔表紙〕原装薄縹色表紙。二八・〇×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕中央に薄縹（香・朱・白）色金泥下絵草花文様原刷題簽

（一九・四×四・一糎）、「太平記 一（―四十）」。

〔内題〕「太平記卷第一（一四十）目録」、「太平記卷第一（一四十）」。

〔尾題〕「太平記卷第一（一四十）終」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。附訓活字使用。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・五糧。

〔版心〕無。ノドに巻と丁附を刻す。

〔丁数〕第一冊、三二丁（卷第一、目録・一丁、本文・三〇丁）、第二冊、

四九丁（卷第二、目録・一丁、本文・四八丁）、第三冊、三五丁

（卷第三、目録・一丁、本文・三四丁）、第四冊、四六丁（卷第

四、目録・一丁、本文・四五丁）、第五冊、三〇丁（卷第五、目

録・一丁、本文・二九丁）、第六冊、三五丁（卷第六、目録・一

丁、本文・三四丁）、第七冊、三八丁（卷第七、目録・一丁、本

文・三七丁）、第八冊、四七丁（卷第八、目録・一丁、本文・

四六丁）、第九冊、五〇丁（卷第九、目録・一丁、本文・四九

丁）、第一〇冊、五五丁（卷第十、目録・一丁、本文・五四丁）、

第一一冊、三六丁（卷第十一、目録・一丁、本文・三五丁）、第

一二冊、五七丁（卷第十二、目録・一丁、本文・五六丁）、第

一三冊、四五丁（卷第十三、目録・一丁、本文・四四丁）、第

一四冊、六五丁（卷第十四、目録・一丁、本文・六四丁）、第

一五冊、五〇丁（卷第十五、目録・一丁、本文・四九丁）、第

一六冊、六七丁（卷第十六、目録・一丁、本文・六六丁）、第

一七冊、七七丁（卷第十七、目録・一丁、本文・七六丁）、第

一八冊、六五丁（卷第十八、目録・一丁、本文・六四丁）、第

一九冊、三七丁（卷第十九、目録・一丁、本文・三六丁）、第

二〇冊、四七丁（卷第二十、目録・一丁、本文・四六丁）、第

二一冊、四三丁（卷第二十一、目録・一丁、本文・四二丁）、第

二二冊、三四丁（卷第二十二、目録・一丁、本文・三三丁）、第

二三冊、二八丁（卷第二十三、目録・一丁、本文・二七丁）、第

二四冊、五二丁（卷第二十四、目録・一丁、本文・五一丁）、第

二五冊、三五丁（卷第二十五、目録・一丁、本文・三四丁）、第

二六冊、五八丁（卷第二十六、目録・一丁、本文・五七丁）、第

二七冊、四二丁（卷第二十七、目録・一丁、本文・四一丁）、第

二八冊、四〇丁（卷第二十八、目録・一丁、本文・三九丁）、第

二九冊、四九丁（卷第二十九、目録・一丁、本文・四八丁）、第

三〇冊、三七丁（卷第三十、目録・一丁、本文・三六丁）、第

三一冊、四一丁（卷第三十一、目録・一丁、本文・四〇丁）、第

三二冊、五二丁（卷第三十二、目録・一丁、本文・五一丁）、第

三三冊、五〇丁（卷第三十三、目録・一丁、本文・四九丁）、第

三四冊、四一丁（卷第三十四、目録・一丁、本文・四〇丁）、第

三五冊、五〇丁（卷第三十五、目録・一丁、本文・四九丁）、第

三六冊、三八丁（卷第三十六、目録・一丁、本文・三七丁）、第

三七冊、三九丁（卷第三十七、目録・一丁、本文・三八丁）、第

三八冊、四五丁（卷第三十八、目録・一丁、本文・四四丁）、第

三九冊、五四丁（卷第三十九、目録・一丁、本文・五三丁）、第

四〇冊、一八丁（卷第四十、目録・一丁、本文・一七丁）。

〔刊記〕「〔低二格〕慶安三年庚寅五月吉日（一格空）荒木利兵衛開」。

〔印記〕国立国会図書館の印と受人印（書／（平成）16・3・19／国会図）。

〔備考〕無書入。第二・五・七・八・九・一〇・一六・一七・一八・一九冊の後表紙見返しに同版の刷り反古を用いる。『狂詩狂歌 青裳堂古書目録』掲載本。「寛永元年刊本を底本とする」（小秋元段前掲書）。本書を刊行した荒木利兵衛は慶安二年に『鴉鷺合戦物語』の古活字版も刊行している。

154 太平記抄

〔請求番号〕WA七―一七二

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・一×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一七・一×三・〇糎）、「太平記鈔 一（一八終）」。

〔内題〕「太平記鈔第一（一四十）卷」。

〔尾題〕「三十一卷終」、「三十二（三十四・三十五・卅九）終」のみ。

〔本文〕每半葉一二行×二三字。漢字片仮名交、ゴ式仮名抄。

〔匡郭〕四周单边（二三・三×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平鈔一（一四十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五五丁（第一卷・三五丁、第二卷・二〇丁）、第二冊、五四丁（第三卷・四丁、第四卷・一四丁、第五卷・一〇丁、第

六卷・六丁、第七卷・四丁、第八卷・六丁、第九卷・一〇丁）、第三冊、六〇丁（第十卷・八丁、第十一卷・一三丁、第十二卷・二七丁、第十三卷・一二丁）、第四冊、五〇丁（第十四卷・八丁、第十五卷・七丁、第十六卷・一二丁、第十七卷・一二丁、第十八卷・一二丁）、第五冊、四三丁（第十九卷・五丁、第二十二卷・八丁、第二十一卷・一六丁、第二十二卷・八丁、第二十三卷・六丁）、第六冊、五一丁（第二十四卷）、第七冊、五五丁（第二十五卷・八丁、第二十六卷・一七丁、第二十七卷・六丁、第二十八卷・一四丁、第二十九卷・四丁、第三十卷・六丁）、第八冊、六一丁（第三十一卷・二丁、第三十二卷・七丁、第三十三卷・四丁、第三十四卷・五丁、第三十五卷・八丁、第三十六卷・二丁、第三十七卷・一一丁、第三十八卷・六丁、第三十九卷・一四丁、第四十卷・二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「国立国会図書館」の印と「〔昭和〕47・11・20」の受人印のみ。

〔備考〕無書入。『太平記鈔』は、要法寺の本地院日性（世雄坊、円智）によって編纂された『太平記』の注釈書。『太平記鈔』は四十卷八冊、さらに『太平記音義』二冊をともない、十冊本で伝わるものが多い。慶長十五年刊古活字本『太平記』と其時の刊行で、同種の活字を使用している。川瀬氏の分類にはいささか混乱が見られるので、ここでは小秋元段氏（『増補太平記と古活字版の時代』、三七五頁）の分類を示しておく。版種は第一種本と第二

種本の二種。第一種本にはさらに二版の異植字版がある。本書は第一種本（イ）。

155 太平記音義 存上巻

〔請求番号〕WA七―八九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕「帝／國／圖／書／館／蔵」と型押のある薄茶色改装表紙。

二六・六×一九・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷粋書題簽（一八・〇×三・五糎）、「太平記音義完」。

〔内題〕「太平記音義第一巻^{并序}」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二行、語句・人名・地名の音義を二段に組む。

〔匡郭〕四周単辺（二三・〇×一六・七糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平音義上 丁附」。

〔丁数〕四三丁。他、前後に後補の遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「西荘文庫」（小津桂窓、朱長方印）、「故柗原芳塾納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕無書入。川瀬五四五・九〇〇頁、第一種本（慶長十五年刊本）。

第一種本にはさらに二種の異植字版（ロ・ハ）がある。国会本は（ロ）。「本版は第一種本（イ）に比べて誤植が多く、現存本

には誤植部を胡粉で塗抹し、上から墨筆で訂正を行っている箇所が共通して散見される」（小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、三八二頁）。

156 竹取物語

〔請求番号〕WA七―一九五

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二六・三×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩題簽剥落。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、二八丁（いまはむかしたけとりの翁といふもの有けり

ゝ又人の申やうおほいつかさのいひかしくやの）、第二冊、二四丁（むねにつくのあなことにつはくらめは菓をくひ侍るゝ其山をふしの山とは名つけけるそのけふりいまた雲のなかへ立のほるとそいひつたへたる）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「よこ山」、「アカキ」（以上二印、横山重）、「昭和」54・3・5

受入印。

〔備考〕第一冊と第二冊で本文が分断されていることから、改装本と知

れる。無書入。川瀬五〇七・八八五頁、第一種本（慶長中刊）。

〔横山重氏蔵〕（八八五頁）が本書。巻末には、同種活字印本の

住吉物語（大字本）の巻末にある識語（住吉物語依少人御所望

以秘本興行也）とほぼ同文の識語（竹取翁物語秘本申請興行之

者也）が附刻されていることから、川瀬（五〇七頁）は両書を

「同一関係者の伝承本」と見る。

157 長恨歌伝

〔請求番号〕WA七―一九三

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕栗皮表紙（裏打修補）。二七・〇×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一二・五×二・九糎）、「長恨歌伝」全。

〔内題〕「（低二格）長恨歌伝（四格空）前進士 陳鴻撰」、「（低一格）長

恨歌并序」、「（低一格）長恨歌（九格空）白楽天」、「（低一格）

琵琶引 并序（六格空）白楽天」、「（低一格）琵琶引」、「（低一

格）野馬台之起」、「（低一格）野馬台詩序」。

〔尾題〕「長恨歌序之終」、「長恨歌 終」、「（低一格）琵琶行終」、「（低一

格）野馬台終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（卷首丁、二一・四×一五・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「長恨歌（琵琶引・野馬台） 丁附」。

〔丁数〕二二丁（長恨歌伝、長恨歌并序・六丁半、長恨歌・四丁半、琵

琶引并序、琵琶引・四丁、野馬台之起・三丁半、野馬台詩序・

三丁半）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國立國會圖書館」（朱長方印）、「書／54・1・26／国会図」（昭

和五四年一月二六日、朱印）。

〔備考〕琵琶行以下、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川

瀬三九三・八三五頁、（六）慶長元和中刊の異植字版。八三六頁

に小汀文庫蔵本を著録し、図録篇八五二図に図版を掲載するが、

これが現在の国立国会図書館蔵本である。

158 長恨歌伝

〔請求番号〕WA七―二四七

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕茶色表紙（押八双無、後補か）。二六・四×一九・二糎。四針袋

綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低二格）長恨歌伝（四格空）前進士 陳鴻撰」、「（低一格）長

恨歌 并序」、「（低一格）長恨歌（九格空）白楽天」、「（低一格）

琵琶引 并序（六格空）白楽天」、「（低一格）琵琶引」、「（低一

格）野馬台之起」、「（低一格）野馬台詩序」。

〔尾題〕「長恨歌伝之終」、「長恨歌序之終」、「長恨歌 終」、「（低一格）

琵琶行終」、「(低一格) 野馬台終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边(卷首丁、二一・一×二五・六種)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「長恨歌 丁附」。

〔丁数〕 二二丁(長恨歌伝、長恨歌并序・六丁半、長恨歌・四丁半、琵琶引并序、琵琶引・四丁、野馬台之起・三丁半、野馬台詩序・三丁半)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「高木家蔵」(高木利太、朱長方印)、「金合／文庫」、「小林／蔵書」(朱方印、上記二印は同一の所蔵者のもので、通常セットで捺される)、「月明荘」(反町茂雄、朱長方印)、「(平成) 15・7・12」受入印。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に若干の書入有。琵琶行の卷末(一五ウ)に、「右長恨歌琵琶引者環翠軒自筆 令／謄写者也為後証加奥書而已」と墨書。後表紙見返しには、「和洲吉野川上村／宇多帝第三十三世六角氏／源孝政(花押)」の識語あり。前後の表紙裏には元和二(一六一六)年東福寺印行の古活字版『十九史略通考』の刷り反古が用いられている(前、卷三之上・三二ウ、三二オ、後、卷一之下・四二ウ)。これらことから、国立国会図書館デジタルコレクションの解題では、元和二年頃に京都東福寺で木活字印行されたものと見るが、本書の表紙は後補の可能性があり、この刷り反古の扱いには慎重を要する。

川瀬、(四) 慶長中刊。三九三頁著録の高木文庫蔵本が本書。

159 帳中香 二〇卷序三卷 万里集九編

〔請求番号〕 WA七一九二

〔体裁〕 大本、二一冊。

〔表紙〕 後補香色表紙(第一冊、左肩に「帳中香」と打付書)。「帝／國／圖／書／館／蔵」と型押のある薄茶色覆表紙。二六・八×一九・七種。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双边刷粋書題簽(一七・九×三・四種)、「帳中香 一(一二十一／止)」。

〔内題〕 「帳中香叙部之上(二格空)〈天社任淵序／鄱陽許尹叙〉」、「帳中香叙部之中」、「詩解序〈樵雲云任淵同時作庭堅無已詩注／解携来請序其首故云予章後山詩解序〉」、「帳中香叙之下」、「帳中香卷第一之上(一二十之下)」。

〔尾題〕 「帳中香叙部之上(中)」、「帳中香叙部之下(低八格) 梅花無尺蔵漆桶万里編」、「帳中香卷第一之上(一二十之下)／(低八格) 梅花無尺蔵漆桶万里編」。

〔本文〕 小字、每半葉一七行×一八字。本文は大字。

〔匡郭〕 四周单边(二一・七×一六・五種)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「帳中香叙之上(中・下、一之上一二十之下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五九丁(叙部之上・八丁、叙部之中・二〇丁、詩解

序・一丁、叙之下・三〇丁）、第二冊、一二二丁（卷第一之上・六五丁、卷第一之下・五六丁）、第三冊、七八丁（卷第二之上・三七丁、卷第二之下・四一丁）、第四冊、七二丁（卷第三之上・三五丁、卷第三之下・三六丁）、第五冊、七〇丁（卷第四之上・四〇丁、卷第四之下・三〇丁）、第六冊、七七丁（卷第五之上・四〇丁、卷第五之下・三七丁）、第七冊、一〇四丁（卷第六之上・五四丁、卷第六之下・五〇丁、三才ハウ補写）、第八冊、八九丁（卷第七之上・四五丁、卷第七之下・四四丁）、第九冊、九二丁（卷第八之上・五〇丁、卷第八之下・四二丁）、第一〇冊、一一二丁（卷第九之上・五七丁、卷第九之下・五五丁）、第一一冊、七九丁（卷第十之上・四〇丁、卷第十之下・三九丁）、第一二冊、一一四丁（卷第十一之上・六一丁、卷第十一之下・五三丁）、第一三冊、一〇六丁（卷第十二之上・五二丁、卷第十二下・五四丁）、第一四冊、八六丁（卷第十三之上・四四丁、卷第十三之下・四二丁）、第一五冊、八四丁（卷第十四之上・四五丁、卷第十四之下・三九丁）、第一六冊、七〇丁（卷第十五之上・三七丁、卷第十五之下・三三丁）、第一七冊、七〇丁（卷第十六之上・三四丁、卷第十六之下・三六丁）、第一八冊、七三丁（卷第十七之上・三六丁、卷第十七下・三七丁、卷首丁補写）、第一九冊、六四丁（卷第十八之上・三二丁、卷第十八之下・三三丁）、第二〇冊、七二丁（卷第十九之上・三六丁、卷第十九之下・三六丁）、第二一冊、九〇丁（卷第二十之上・四七丁、

卷第二十之下・四三丁、卷末に「明応八年（巳／未）夏五如意珠日／梅花無尽蔵漆桶万里編謹跋」。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「宮内省／圖書印」（朱方印）、「東京書籍館／明治五年／文部省創立」（朱丸印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕 室町時代の禅僧、万里集九（一四二八〜？）編。宋代の詩人、黄庭堅の詩を注釈したもの。無書入。川瀬、三六七・八〇九頁、慶長元和中刊。

160 ※ちんてき問答

〔請求番号〕 WA七一一五八

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補茶色表紙。二六・六×一八・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「ちんてき問答」と打付書。

〔内題〕 「ちんてき問答」。

〔尾題〕 無

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 三九丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、墨長方印）、「月明荘」（反町

茂雄、朱小印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、受入印（書／40・2・8／国会図）。

〔備考〕 本文には書き入れなし。表紙に「市わき／光貞」（外題と同筆）、後表紙見返しに、「補陀洛院叟遍」、「持主山本丹波守光貞」と墨書。元和寛永頃の刊か。川瀬六〇五・九三五頁に、第一種本（慶長元和中刊）と第五種本（寛永中刊）、慶長中刊の一本、十二行本の別種本を著録するが、いずれの本とも異版。

帙題簽、「塵滴問答〈元和寛永中刊／古活字版〉」（森銚三筆）。

161 ※つきみつのさうし

〔請求番号〕 WA七―二六七

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 栗皮裏打改装表紙。二七・四×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「〔低二格〕つきみつのさうし」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉二行×二二字。漢字平仮名交。附訓活字を交える。六オ・一三ウ・二五ウ・二九ウ、挿絵、丹緑彩色。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・八糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 三〇丁（二二丁欠）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受入印（書／平成）20・2・20／国会図）。

〔備考〕 若干の墨書入有。川瀬未載。寛永頃の刊か。月明荘の印はないが、帙からすると反町弘文荘が一度扱った本かもしれない。一誠堂書店のラベルを貼付。

162 ※〔つきしま〕

〔請求番号〕 WA七―二五三

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 新補丹空押雷文襷に小菊文様表紙。二六・六×一九・二糎。四針袋綴（糸切れ、取扱注意）。本書とは関係のない本の表紙を掛け替えたものか。

〔題簽〕 左肩に双辺枠刷題簽、一部残存。題簽も本書とは関係のないものか。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉二行×二〇字。漢字平仮名交。第一冊、三オ・六オ・七ウ・一オ・二ウ・一七オ、第二冊、二ウ・四ウ・六ウ・一四ウ、第三冊、三ウ・八オ・一〇ウ・一二オ、挿絵、丹緑彩色。

〔版心〕 無。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕 無。ノドに一部丁附を刻する箇所あり。

〔丁数〕 第一冊、一八丁（中むかしの事かよそのころへいけの大将を

はあきのかみきよもりとこそ申たてまつるゝめのともどもに引くしてたんはの、せへそかへりける）、第二冊、一四丁（あらいたはしや二人の人々はふるさとしのふはなか／＼てうせきひまなくをもへともひやうこひろしと申せともけにやつきせぬちきりにや女はうのやとにたつねあひうれしといふもなか／＼に申はかりはなかりけり）、第三冊、一五丁（扱父の御ことほと、へは／＼ちさうさつたのけしんしくうせいくわんの御ちかいありかたしともなか／＼申はかりはなかりけり）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受入印（書／＼（平成）15・3・17／国会図）。

〔備考〕 無書入。川瀬未載。「つきみつのさうし」より活字が若干大きい。元和寛永頃の刊か。月明荘の印はないが、帙からすると反町弘文荘が一度扱った本かもしれない。

163 ※徒然草 二巻 兼好著

〔請求番号〕 WA七―二二九

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（前表紙の擦れが甚だしい）。二七・五×二一・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一七字内外。漢字平仮名交。行間を広くとり、大ぶり、流麗な活字を用いる。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・九糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、九四丁（上巻）、第二冊、七七丁（下巻）。他、新補の後遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「亀□」（墨丸印）、「拝土藏書」（ドナルド・ハイド、朱長方印）、「月明荘」（反町茂雄、朱長方印、小）。

〔備考〕 川瀬未載。朱筆で句読点等ごくわずかに施されているのみ（上巻一四丁表、下巻一一丁裏まで）。嵯峨本第一種本の活字を襲用しているようにも見受けられ、また第一種本の誤植訂正箇所（第一種本には伝本共通の墨書、切貼訂正がある）がすべて訂正されている点などが注目される。帙（題簽、森銃三筆、「嵯峨本／＼つれ／＼草（慶長中刊／古活字版）二冊」）入り。一誠堂書店扱い。高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』（勉誠出版、二〇二〇年）第二部第一章「嵯峨本」再見―現存伝本調査報告―参照。

164 徒然草 二卷 兼好著

〔請求番号〕WA七―二九六

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）市松文様表紙。二八・九×二〇・七糎。五針

袋綴。

〔題簽〕中央に薄茶色の題簽（一八・四×三・五糎）。題簽の中央部分、多く破損。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一五字。漢字平仮名交、濁点附特徴のある活字、句読点植版。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・七糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、九八丁（上巻）、第二冊、七七丁（下巻）。

〔刊記〕「這兩帖吉田兼好法師燕居之日徒然向／暮染筆写情者也頃泉南亡羊処士／箕踞洛之草庵而談李老之虚無／説莊生之自然且以暇日对二三子戯講／焉加之後将書以命於工鍤於梓而付／夫二三子矣越句読清濁以下俾_子糾_之之_子坐好其志忘其醜卒加校訂而已／復恐有其遺逸也／慶長癸丑仲秋日（三格空）黄門光広（花押、墨書）」。

〔印記〕「欣魚洞／珍藏」（朱方印、陰刻）、「春／鉢堂」（若林正治、古書肆、一九一二）一九八四、朱方印）、国立国会図書館の印と受入

印（書／2019／12・20／国会図）。

〔備考〕無書入。烏丸本、烏丸光広の自著花押有。帙に加え、新しく読えた桐箱入（「烏丸本／つれづれ草 二冊／慶長十八年刊光広花押」と箱書）。

165 徒然草寿命院抄 二卷 秦宗巴編

〔請求番号〕WA七―一〇七

〔体裁〕大本、二冊（四冊を二冊に合冊）。

〔表紙〕「東京図書館蔵」と型押しした新補の薄茶色表紙に、「帝國図書館蔵」と型押しした薄茶色覆表紙附。二七・〇×一九・八糎。五針

袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷梓書題簽（一九・五×三・七糎、覆表紙）、「徒然

草抄 一、二（三、四止）」、双辺刷梓書題簽（二六・五×二・九糎）、「徒然草抄 一（二・三・四）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉十二行、字数不等。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（二二・七×一七・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「徒抄上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁（総論・一丁、卜部系図・二丁、上巻、「ツレ／ナルマ、ニ」）三十八段「名利ニツカハレテシツカナルイト

マナクテ」の注文の途中）、第二冊、五四丁（三十八段の注文の

途中〕百三十七段)、第三冊、二八丁(下卷、「花ハサカリニ」
〔六十四段「呉竹ハ葉ホソク河竹ハ」の注文の途中。二四丁目
〔二六丁目欠)、第四冊、二二丁(六十四段の注文の途中〕百五
段)。

〔刊記〕 卷末に原刊記、「此抄者寿命院立安法印凌医家救療之暇広／見遠
聞而漸終篇予披覽最奇之余揮短毫聊／録事状耳／慶長第六辛丑
孟冬九日 也足叟素然」。

〔印記〕 「萬潢精舎」(朱長方印)、「梶原家蔵」(朱長方印)、「故梶原芳塾
納本」(朱長方印)、「東京／圖書／館蔵」(朱方印)。

〔備考〕 明治一六年三月一四日榊原芳野寄贈。川瀬五二六頁、(五) 無刊
記本(第四種)、元和中刊。川瀬は、第二種本に拠って刊行した
ものとする。『徒然草寿命院抄』については、高木浩明『中近世
移行期の文化と古活字版』(勉誠出版、二〇二〇年)、第三部第
二章と第三章に詳しい。

166 帝鑑図説 二卷 (明) 張居正・(明) 呂調陽撰

〔請求番号〕 WA七一九

〔体裁〕 大本、六冊。

〔表紙〕 後補小豆色空押菱文に唐草文様表紙。二六・五×一八・三糎。
四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(一九・一×四・一糎)、「帝鑑図説 一(一
六)」。

〔内題〕 「帝鑑図説叙」(万曆癸酉仲春吉日礼部尚書兼翰林院学士／華亭
陸樹声撰)、「帝鑑図説後序」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。挿絵一一七図。

〔匡郭〕 四周双边(叙、二一・七×一四・一糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「前序(前・聖・前目錄・中狂・後目
録・後) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁(叙・三丁、進図疏・二丁、帝鑑図説上呈・二
丁、聖・哲・芳・規・二丁、目錄・五丁、任賢図治／止賛受
言・四四丁)、第二冊、五三丁(納諫賜金／留納戒奢)、第三冊、
六〇丁(弘文開館／遣使賑恤)、第四冊、五七丁(延英忘倦／燭
送詞臣)、第五冊、五七丁(狂・愚・覆・轍・二丁、目錄・三丁、
遊畋失位／笑祖儉德・五二丁)、第六冊、四九丁(金蓮布地／任
用六賊・四六丁、後序・三丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「足利學校」(朱長方印)、「TOKIO LIBRARY／東京書
籍館／明治五年／文部省創立」(朱丸印)、「明治八年文部省交付」
(朱長方印)。

〔備考〕 本書は、慶長一一年(一六〇六)、豊臣秀頼が出版したもので、
いわゆる秀頼版と称されるものだが、本書を果たして秀頼版と
称してよいものかどうか最近疑問が呈されている(高木浩
明「古活字版『帝鑑図説』再考―『帝鑑図説』は本当に(秀頼

版)か、井上泰至編『資料論がひらく軍記・合戦図の世界 理

文融合型資料論と史学・文学の交差』、勉誠出版・アジア遊学
262、二〇二二年)。巻末に西笑承兌の跋文を有する「有跋本」
と、これを欠く「無跋本」、さらに異植字版がある。前二者は同

版であるが、有跋本と無跋本と称することで二版であるかの誤
解が生じる可能性があり、注意を要する。さらに異植字版につ
いても、これは前二者と同種活字を用いていることからこう言
われるが、実際は別の活字を用いたものであり、異版(別版)
と称すべきもの。本書は上記の呼称に従うならば、無跋本。各
冊とも巻末には、慶長一八年(一六二三)、足利学校第十代座主
寒松による識語、「下野州足利郡学校常住/甲州産田辺庄右衛門
尉光与寄進/慶長十八年癸丑六月三日/座主寒松老人誌焉」が
記される。

167 帝鑑図説(和本) 存卷一―四・八―十・十二

〔請求番号〕WA七―二三七

〔体裁〕大本、八冊。

〔表紙〕黒色雷文繋ぎ唐花唐草文様表紙(原表紙か)。二八・二×

二〇・二種。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽(一七・三×三・七種)、「帝鑑図説^九」^十。他冊

は剥落。題簽右下に「一(―十二終)」と朱書。

〔内題〕「(低二格)帝鑑図説和本序」、「帝鑑図説巻第一(―十二) 目録」、

「帝鑑図説巻第一(―十二)」。

〔尾題〕「帝鑑図説巻第一(―十二)終」。

〔本文〕每半葉一行(一部二行)×二三字。漢字平仮名交。附訓活
字、挿絵有。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、序、二二・六種、巻第一、二二・六種。

〔版心〕「帝鑑序(二卷―十卷・十二)」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、二七丁(序・三丁、巻第一、目録・一丁、本文・二三

丁)、第二冊、二三丁(巻第二、目録・一丁、本文・二二丁)、

第三冊、三四丁(巻第三、目録・一丁、本文・三三丁)、第四冊、

三二丁(巻第四、目録・一丁、本文・三〇丁)、第五冊、二九丁

(巻第八、目録・一丁、本文・二八丁)、第六冊、三二丁(巻第

九、目録・一丁、本文・三二丁)、第七冊、三三丁(巻第十、目

録・一丁、本文・三二丁)、第八冊、二二丁(巻第十二、目録・

一丁、本文・二〇丁)。

〔刊記〕「(低二格)于時寛永四^卯丁(低四格)十一月下旬(低三格)洛

陽三条寺町誓願寺前(低十一格)八尾助左衛門尉開板」。

〔印記〕「大正記念/長岡市立/互尊文庫/藏書之印」(朱方印、大)、「昭

和廿二年八月四日/山口誠太郎氏寄贈」(朱長方印)、「書(平

成) 12. 11. 10/国会図」(朱印)。

〔備考〕無書入。大正七(一九一六)年、実業家の野本恭八郎(互尊翁、

一八五二―一九三六)の寄附により、大正記念長岡市立互尊文

庫が開館したが、昭和二〇(一九四五)年八月の長岡空襲によ

り全焼、書籍は灰燼に帰した。戦後、新たな寄附を得て再建された。本書は昭和二二年八月四日に山口誠太郎の寄贈によるもの。山口氏は横沢村（現、長岡市小国町横沢）の庄屋で、野本互尊翁の実家。戦災で蔵書を失った互尊文庫のために山口家も協力したことが蔵書印からわかる。

168 難経捷径 二卷 寿徳菴玄由著

〔請求番号〕WA七―一三五

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕茶色裏打改装表紙。二八・三×一九・一糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。「難経捷径 乾（坤）」と打付書。

〔内題〕「難経捷径／（低八格）寿徳菴玄由九拜」。

〔尾題〕「難経捷径上（下）巻終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一五字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（序、一六・九×一四・八糶）無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「難経捷径上（下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六八丁（序・二丁、上巻・六六丁）、第二冊、七八丁（下巻）。

〔刊記〕「寛永十四野年孟秋中旬／（低五格）二条通観音町／（低九格）風月宗知刊行」。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治・三四・五・二二購求」（朱丸印）。

〔備考〕切貼訂正あり（上巻、一ウ・二ウ・三オ・四ウ・五ウ・六オ・

八オ・九オ・一一オ・一三ウ・一四オ・一六オ・一六ウ・一八ウ・二一オ・二一ウ・二三オ・二三ウ・二九ウ・三〇オ・三一ウ・四二ウ・四九オ・五〇オ・五四ウ・五五オ・六〇オ・六〇ウ・六一ウ・六三オ・六四オ、下巻、二九ウ・五五オ）。朱引、朱句読点が若干施され、下巻後表紙見返しには、江戸の書肆慶元堂松沢老泉（一七六九―一八二二）による庚辰（文政三年）年九月十一日付識語（此難経捷径者为寿徳庵玄由著述／京師書肆風月宗知为活字刊行／所也我文政元年常陽为旅行一時於水府得所也風月堂故有テ文政三年／江戸来我面談及テ数回二段及テ此書一風／月主人云家一闕典一依テ送ル之風月堂家／帰從活板印行寛永十四年丁丑至今文政三年／世経ル百八十四年／庚辰九月十一日 江戸書坊 慶元堂松沢老泉）を記した紙片が貼付されている。伝本他に、東北大学附属図書館狩野文庫蔵本。同版だが、刊記を欠き、巻末には寛永十四年の寿徳菴玄由の跋あり。川瀬三三五頁。

169 南浦文集 三卷 南浦著

〔請求番号〕WA七―一六四

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙。二七・九×一九・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽（一七・七×三・六糶）、「南浦文集 上

〔中・下〕。

〔内題〕「南浦文集目錄／（低一格）卷之上（中・下）」、「南浦文集卷之上（中・下）」。

〔尾題〕「南浦文集卷之中（下）終」、（卷之上、尾題なし）。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。一部漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（卷之上目錄、二二・三×一五・八糎、卷之上、二二・三×一五・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「南浦文集上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六一丁（卷之上、目錄・一丁、本文・六〇丁）、第二冊、

五四丁（卷之中、目錄・一丁、本文・五三丁）、第三冊、六一丁（卷之下、目錄・一丁、本文・六〇丁）。

〔刊記〕「（低六格）寛永乙丑仲秋四條寺町校正刊行」。

〔印記〕「讀易堂」（朱長方印）、「林泉文庫」（朱長方印・小）、「國立國會圖書／館藏書」（朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点がほぼ全巻に施されている他、墨筆で返点、送仮名が若干施されている。土肥鵜軒旧蔵（表紙右肩に「鵜二八七七」の蔵書票を貼付）、桐箱入。

170 南浦文集 三卷 南浦著

〔請求番号〕WA七―八一

〔体裁〕大本、一冊（合冊）。

〔表紙〕白色、「東／京／圖／書／館／蔵」の型押のある表紙。二七・三

×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷粋書題簽（二六・六×三・〇糎）、「南浦文集全」。

〔内題〕「南浦文集目錄／（低一格）卷之上（中・下）」、「南浦文集卷之上（中・下）」。

〔尾題〕「南浦文集卷之中（下）終」、（卷之上、尾題なし）。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。一部漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（卷之上目錄、二二・三×一五・七糎、卷之上、二二・三×一五・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「南浦文集上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六一丁（卷之上、目錄・一丁、本文・六〇丁）、第二冊、五四丁（卷之中、目錄・一丁、本文・五三丁）、第三冊、六一丁（卷之下、目錄・一丁、本文・六〇丁）。

〔刊記〕「（低六格）寛永乙丑仲秋四條寺町校正刊行」。

〔印記〕「峯思／堂／圖書」（朱方印）、「讀杜／艸堂」（朱方印）、「天下／無雙」（朱方印）、「東京溜池壺／南街第六號／讀杜艸堂人／寺田盛業印記」（朱方印、以上三印、寺田望南、一八四九）

一九二九、明治の書物収集家）。

〔備考〕卷上、一オ・ウ、五オ・一〇オなど墨筆で返点、送仮名が若干施されている。前記「WA七―六四」と同版。

171 日本書紀 三〇卷 舍人親王編

〔請求番号〕WA七―一二〇

〔体裁〕 大本、一五冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（押八双有、原表紙を裏打改装）。二七・七×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「日本書紀卷之一（一―卷三十）」と朱筆で打付書。

〔内題〕 「日本書紀卷第一（二）／（低一格）神代上（下）」（補写）、「日本書紀卷第三（一―三十）」。

〔尾題〕 「日本書紀卷第一（二）」（補写）、「日本書紀卷第三（一―三十）」。

〔本文〕 每半葉八行×一八字。

〔匡郭〕 四周双辺（卷第三、二・五×一五・六糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「日本紀三（一―三十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四二丁（卷第一、補写）、第二冊、三九丁（卷第二、補写）、第三冊、四五丁（卷第三・二〇丁、卷第四・一二丁、卷

第五・一三丁）、第四冊、四三丁（卷第六・一七丁、卷第七・

二六丁）、第五冊、四二丁（卷第八・六丁、卷第九・二二丁、

卷第十・一四丁）、第六冊、四九丁（卷第十一・二四丁、卷

第十二・九丁、卷第十三・一六丁）、第七冊、五〇丁（卷第

十四・三〇丁、卷第十五・二〇丁）、第八冊、三五丁（卷第

十六・六丁、卷第十七・二〇丁、卷第十八・九丁）、第九冊、

四四丁（卷第十九）、第一〇冊、二六丁（卷第二十・一四丁、卷

第二十一・一二丁）、第一一冊、四二丁（卷第二十二・二九丁、

卷第二十三・一三丁）、第一二冊、五八丁（卷第二十四・二〇丁、

卷第二十五・三八丁）、第一三冊、五四丁（卷第二十六・一六丁、

卷第二十七・二〇丁、卷第二十八・一八丁）、第一四冊、五二丁（卷第二十九）、第一五冊、三四丁（卷第三十）。

〔刊記〕 「此写本者（破損）安貞二年兼頼校讎諸本／正応之中神祇権大副

卜部兼方筆之収／于石室以来永仁正四位下行神祇権大／副兼山城守卜部仲季嘉元甲辰沙弥蓮／惠康永壬午神祇権大副兼員転書之云／云至永正之頃内大臣実隆公以件本親／謄書訂朱墨点今拠内相公本鏤梓広伝／于世恐活板之徒多誤刀陶陰矣庶幾／莫貽誚於余焉／慶長十五庚戌仲夏念八／洛泅野子三白誌」。

〔印記〕 「未禽」（朱長方印）、「高木家蔵」（朱長方印、高木利太。表紙の

右肩に「取扱／注意／映入」、朱長方印・小が捺されているが、これも高木の旧蔵書によく捺されているもの）、国立国会図書館、昭23、3、17購入印。

〔備考〕 朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄に墨書

入有。書入の中に「清本……」もま見られる。卷一、二の神代卷のみ写本を補配。第二冊卷末に慶長勅版の刊語を写し、端に小字で「延宝四仲秋下旬」と墨書。補写の年次か。第三冊、卷三の卷末に永正一一（一五一四）年、天文八（一五三九）年と九年の書写奥書を移写する（本云／永正十一年五月六日書写了／天文八壬六六書写了／以累家之書写之畢于時明応八年四月廿五日／從四位下行神祇権大副兼左兵衛佐卜部朝臣兼致／以件奥書之本加校合事御判／天文九正廿一以一条殿之御本加校合之処朱点等有落字書加之事／同九十廿一申出 禁裏之御本加一校合了

件御本逍遙院真筆也)。川瀬五八〇・九二三頁、慶長十五年刊本には、(一) 混交なきもの、(二) 神代巻のみ別版(版式の全く異なるもの)を補配せるもの、(三) 神代巻のみ同種活字を以て再版補配せるもの、の三種あり。(一) に著録する高木文庫(巻一・二補鈔、巻九・十の一冊整版補配)が国会本に該当するが、「巻九・十の一冊整版補配」とあるのは、何かの勘違いか。

172 日本書紀(神代巻) 二巻

〔請求番号〕WA七―二五一

〔体裁〕特大本、一冊。

〔表紙〕白色具引き空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙(押八双はあるが、後補か)。表紙の見返しには、金箔地に青海波と水草文様が空押される。三〇・〇×二〇・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕表紙中央題簽剥落。剥落した題簽(黄土色雲母刷文様地の書題簽、一九・五×三・六糎、「新/刊」日本書紀(神代/上下))は、「外題後陽成院御宸筆」と墨書された紙に包んで別添。

〔内題〕「日本書紀巻第一(二) / (低二格) 神代上(下)」。

〔尾題〕「日本書紀巻第一(二)」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。堂々とした明朝体の大型活字を用いる。

〔匡郭〕四周单边(二四・八×一六・三糎)、無界。

〔版心〕上下に黒口(上、六・八糎、下、六・九糎)、下向きの黒魚尾一つに、上向きの黒魚尾二つ。中縫、「日本紀」「丁附」。

〔丁数〕八九丁半(巻第一・四七丁、巻第二・四二丁半)。他、後遊紙(本来は後表紙見返しか)一丁。巻首三丁は匡郭に沿って切り取られ、裏打修補。

〔刊記〕巻首裏丁(本来は見返しに貼付される)に木記、「日本書紀/慶

長己亥/季春新刊」(慶長己亥季、慶長四年、双辺、一四・八×一三・八糎)、巻末に清原(船橋)国賢(一五四四―一六一四)の跋文、「日本書紀歴代之古史也 元正天皇養/老年中一品舍人親王太朝臣安麻呂奉/勅撰之(中略)/慶長己亥姑洗吉辰 正四位下行少納言兼侍從臣清原朝臣国賢敬識」。

〔印記〕国立国会図書館の印と受入印(書/平成) 16・3・19/国会

図。

〔備考〕慶長勅版。無書入。二重の桐箱(重要美術品(朱書)/後陽成院外題/日本書紀(墨書))と箱書)入。箱の中には、センチュリーミュージアムのポストカードの裏に金銀箔を散りばめ、「39日本書紀 神代巻/二巻 慶長四年(二五九九)刊/後陽成天皇勅版 重要美術品/一冊 三千五百万円」と印刷)。

173 日本書紀抄 二巻 清原宣賢講

〔請求番号〕WA七―二七三

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装(押八双有)茶色表紙。二九・〇×二一・〇糎。四針袋綴。右下に「天游舎」と墨書。

〔題簽〕 無。左肩に「日本書紀神代鈔乾(坤)」と打付書。

〔内題〕 「日本書紀抄卷第一(二二)(大字)。

〔尾題〕 「日本書紀之抄一(二二)終」(小字)。

〔本文〕 每半葉一六行×一九字。小字漢字片仮名交、ソ式仮名抄。卷第二の二〇丁オ、山上憶良の歌、「あまさかるひなに五年すまゐりて都のてふり忘れそする」のみ漢字平仮名交。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・四×一七・一糶)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「日本抄上(下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、九二丁(卷第一)、第二冊、五五丁(卷第二)。

〔刊記〕 「(低七格) 於洛陽本能寺前町開板」。

〔印記〕 「平惠ノ之印」(朱方印)、「字日ノ元卿」(朱方印、陰)。卷首右上の朱長方印は印文未詳。国会図書館受入印(20. 2. 25)。

〔備考〕 無書入。一誠堂書店扱。

174 年代紀略 小瀬甫庵考

〔請求番号〕 WA七―二〇一

〔体裁〕 横本、一冊。

〔表紙〕 栗皮表紙。一三・五×一七・三糶。四針袋綴。後表紙に「重寶記」と墨書されているところを見ると、元は「重寶記」に用いていた表紙を仕立て直したもののか。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(九・七×二・四糶、破損)、「年代紀畧」。

〔内題〕 「年代紀畧(二格空) 甫庵道喜考」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一一行。

〔匡郭〕 四周单辺(一一・五×一四・六糶)、無界。

〔版心〕 上下に下向き上向きの花口魚尾、中縫、「年代紀畧」。

〔丁数〕 三六丁(第一神武)(慶長)十六年(丁ノ亥)ノ△百ノ九今上皇帝即位聖寿萬ノ歳々々歳々歳。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 未勘の朱方印、二印の他、卷末に「月明荘」の朱小印。他、「國立國會圖書館」(朱長方印)と「55. 1. 22」(昭和五五年一月二二日)の受入印。

〔備考〕 無書入。三丁ウ・一丁オ・一丁ウ・一丁オ・一丁ウノ天皇御誕生時八幡自天ノ降政日八幡(切貼訂正)、一二丁ウ・三丁ウノ始撰貞観格十二卷。

第一代神武天皇にはじまり、第一〇九代後水尾天皇即位の記事で終わる。各天皇には、慶長一七年(一六一二)から起算した経過年数が記されているので、慶長一七年の刊行と考えられよう。後水尾天皇は現在では一〇八代とされるが、ここで一〇九代と数えるのは、当時、南北朝時代の天皇については北朝を正統として代数を数えていたためである(国会図書館デジタルコレクション解題、入口敦志)。川瀬、一五六頁。

175 百官略

〔請求番号〕 WA七―二〇二

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補香色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二七・三×二〇・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕 題簽剥落。左肩に「百官略」と打付書。

〔内題〕 「(低二格) 百官略」、「(低二格) 書札礼事」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉八行。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・二×一六・二糎)、無界。

〔版心〕 上下に黒口双花口魚尾、中縫、「百官(礼節)」、「丁附」。

〔丁数〕 二二丁(百官略・八丁、書札礼事・一三丁、刊記・一丁)。

〔刊記〕 「(低二格) 慶長玄黙困敦夾鐘(一格空) 刊之」。

〔印記〕 「新日/吉蔵」(朱方印)、「寶玲文庫」(朱長方印、小)、「柳澤真

次郎蔵書」(朱長方印)、卷末に「月明荘」(朱小印)。他に、「國

立國會圖書館」(朱長方印)と「56. 1. 22」(昭和五六年一月

二二日)の受入印。

〔備考〕 無書入。帙題簽、森銚三筆(百官略(慶長十七年刊/古活字

176 ※武家諸礼集 小笠原長時・小笠原貞慶編

〔請求番号〕 WA七―一五一

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有)茶色表紙。布目地に栗の葉が刷られ、「帝/

國/圖/書/館/蔵」と型押された茶系覆表紙(二八・〇×
二〇・〇糎)附。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「諸礼集/酌之次第」、「諸礼集/万躰之次第」、

「書札之次第」と打付書。覆表紙には左肩に双辺刷梓書題簽

(一八・〇×三・六糎)、「諸礼集 一(二止)」、「書札の次第
全」。

〔内題〕 「(低三格) 酌の次第」、「(低四格) 万躰之次第」、「(低三格) 書

札之次第」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一三行×二二字内外。漢字平仮名交。小型活字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・二糎(酌の次第)。

〔版心〕 無。ノドに卷数と丁附を刻す。

〔丁数〕 第一冊、二二丁(酌の次第)、第二冊、二二丁(万躰之次第)、

第三冊、一八丁(書札之次第)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「帝國/圖書/館蔵」(朱方印)、「明治三八・三・三〇購求」印
(第一・二冊)、「明治三三・一〇・五購求」印(第三冊)。

〔備考〕 無書入。川瀬四八〇・八七二頁、(三)寛永中刊十三行本の異植

字版か。川瀬は寛永中刊十三行本の他、異植字版を二種著録す
るが、本書はいずれとも別版。図録篇三〇六図に近似。

177 ※武家諸礼集 小笠原長時・小笠原貞慶編

〔請求番号〕WA七―一六六

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮渋引き表紙。二八・六×二〇・三糎。四

針袋綴。

〔題簽〕左肩に単辺柾原刷題簽（一六・七×三・九糎）、「諸礼集」。

〔内題〕「（低二格）酌しやくの次第」、「（低二格）元服之次第」、「（低二格）万請取渡次第」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二二行×二〇〃二一字。漢字平仮名交、附濁点・附訓活字を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・九糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、二六丁（酌の次第）、第二冊、一二丁（元服之次第）、第三冊、二七丁（万請取渡次第）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「小汀氏藏書」（朱長方印）、「を／ば／ま」（朱印、以上二印、小汀利得）、「昏魚庵藏書」（佐藤峻吉 朱長方印）、「國立國會圖書館」朱長方印、（昭和）47・5・31。

〔備考〕無書入。桐箱（三二・〇×二六・一糎、蓋裏に「おけ屋／□氏」と墨書、一誠堂書店のラベル貼付）入。新補書題簽（二二・〇×五・〇糎）、「武家諸礼集三冊（酌之次第／元服之次第／万請取

渡次第）」を貼付。川瀬四八〇・八七二頁。（二）元和寛永中刊十二行本。川瀬はイ・ロの二版を著録するが、そのいずれとも異なる。

178 平家物語 一二卷

〔請求番号〕WA七―三三三

〔体裁〕大本、一二冊。

〔表紙〕紺地金泥下絵表紙（見返し、金銀箔散らし）に、「帝／國／圖／書／館」の型押しのある覆表紙附。二七・〇×二〇・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に卍繋ぎ空押金箔地書題簽（一七・三×三・七糎、紺地金泥下絵表紙）、「平家物語 三（五・七―十二）」（一・二・四・

六は破損もしくは剥落）、左肩に双辺刷柾書題簽（一九・七×四・六糎、覆表紙）、「平家物語 一（―十二終）」。

〔内題〕「平家物語第一（―十二）目録」、「平家物語第一（―十二）」。

〔尾題〕「平家物語第一（―十二）終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。字画が細いが大ぶりの漢字平仮名交。〔句読点活字〕あり。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・九糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、九六丁（第一、目録・一丁、本文・九五丁、「太政大臣たいらのあそんきよもりこうと／申し人のあり」の丁、目録

丁の前に錯入)、第二冊、八三丁(第二、目録・一丁、本文・

八二丁)、第三冊、一一〇丁(第三、目録・一丁、本文・一一九

丁)、第四冊、九二丁(第四、目録・一丁、補写、本文・九〇丁、

一一丁補写)、第五冊、八〇丁(第五、目録・一丁、本文・七九

丁)、第六冊、六二丁(第六、目録・一丁、本文・六〇丁)、第

七冊、八二丁(第七、目録・一丁、補写、本文・八一丁、巻首

一一丁補写、「うちいて候」の丁から活字)、第八冊、六二丁(第

八、目録・一丁、本文・六二丁)、第九冊、一一六丁(第九、目

録・一丁、本文・一一五丁)、第一〇冊、八五丁(第十、目録・

一丁、本文・八四丁)、第一一冊、九七丁(第十一、目録・一丁、

本文・九六丁)、第一二冊、八九丁(第十二、目録・一丁、本

文・八八丁)。

〔刊記〕「右此平家物語者中院前中納言以諸家正本校合之給者也」(校・

之、墨書)。

〔印記〕「寧樂文庫」(朱長方印)、「TOKIO LIBRARY」(東京書

籍館/明治五年/文部省創立/FOUNDED BY MOMB

USHO 1872」(朱丸印)、「明治八年文部省交付」(朱長方

印)。

〔備考〕無書入。各丁に間紙を入れて綴じ直す。川瀬五三六頁、中院本

(イ)校語附載本。「原表紙存す」とあるが、疑問。

179 平家物語 一二巻

〔請求番号〕WA七―二五五

〔体裁〕大本、一二冊。

〔表紙〕後補標色表紙。二八・一×二一・一種。四針袋綴。第一冊前表

紙の表皮、剥落。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(二三・九×三・〇糎)、「平家物語 一(

十二)」(第一冊の題簽は封筒に入れて保管)。

〔内題〕「平家物語卷第一(―十二) 目録」、「平家物語卷第一(―灌頂

卷)」。

〔尾題〕「平家物語卷第一(―灌頂卷畢)」。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、七八丁(巻第一、目録・一丁、本文・七七丁)、第二冊、

九二丁(巻第二、目録・一丁、本文・九〇丁。八五丁重複)、第

三冊、八〇丁(巻第三、目録・一丁、本文・七九丁)、第四冊、

七七丁(巻第四、目録・一丁、本文・七六丁)、第五冊、六七丁

(巻第五、目録・一丁、本文・六六丁)、第六冊、五六丁(巻第

六、目録・一丁、本文・五五丁)、第七冊、七〇丁(巻第七、目

録・一丁、本文・六九丁)、第八冊、五八丁(巻第八、目録・

一丁、本文・五七丁。三三・六〇・六一丁欠)、第九冊、九一

丁(巻第九、目録・一丁、本文・九〇丁。九二・九三丁欠)、第

一〇冊、七六丁（巻第十、目録・一丁、本文・七五丁。五〇）
六〇乱丁、五〇・五六―五九・五一―五五・六〇）、第一一冊、
七八丁（巻第十一、目録・一丁、本文・七七丁）、第一二冊、
七八丁（巻第十二、目録・一丁、巻第十二・五一丁、灌頂巻・
二六丁。六四丁（阿波内侍と…）と七四丁（二位尼…）乱丁）。
各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕「下村時房刊之」。

〔印記〕 国立国会図書館の印と、「(平成) 16. 3. 22」受人印のみ。

〔備考〕 料紙は厚手の料紙を用いる。巻第二・四・九に伝本共通の切貼
墨書訂正が施されている。川瀬、五三三頁、(二) 下村本。伝本
は四十余点を数え、古活字版の中でも伝来の数は群を抜いてい
る。川瀬は「十行平仮名本を粉本とし、新たに章段題名を補つ
て印行したものと解し得る」とするが、本文を詳細に検討する
と、十行平仮名本には下村本を底本に考えないと説明できない
本文の誤脱があり、先後関係はむしろ逆、下村本↓十行平仮名
本と考えるべきである。さらに巻第八の巻頭「山門御幸」の章
段名の有無で、二版に分類される傾向があったが、これは誤認。
本文校訂をした異植字版に一部差し替えることで全ては説明で
き、下村本の版は一版のみ。詳細は、高木浩明『中近世移行期
に文化と古活字版』（勉強出版、二〇二〇年）、第一部第一章〈
第三章参照。

180 ※平家物語 一二巻

〔請求番号〕 WA七―二六二

〔体裁〕 大本、一二冊。

〔表紙〕 後補茶色渋引表紙。二七・五×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一七・七×三・四糎）、「平家物語 一（
十二終）」。

〔内題〕 「(低二格) 平家物語巻第一目録」、「(低三格) 平家物語巻第二目
録」、「平家物語巻第三（十二）目録」、「平家物語巻第一（二・
五―九・十一―灌頂巻）」、「平家巻第三（四）」、「平家物語巻第
十目録」。

〔尾題〕 「平家物語巻第一（―灌頂巻畢）」、「平家物語巻第三終」。

〔本文〕 每半葉二二行×二一字。漢字片仮名交。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕 四周单边（巻二目録、二二・五×一六・二糎、巻一、二三・〇×
一六・一糎）、無界。一部双边の箇所あり。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「平家巻一（―十二） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四二丁（巻第一、目録・一丁、本文・四二丁）、第二冊、
四八丁（巻第二、目録・一丁、本文・四七丁）、第三冊、四四丁
（巻第三、目録・一丁、本文・四三丁）、第四冊、四三丁（巻第
四、目録・一丁、本文・四二丁）、第五冊、三八丁（巻第五、目
録・一丁、本文・三七丁）、第六冊、三三丁（巻第六、目録・一
丁、本文・三二丁）、第七冊、四二丁（巻第七、目録・一丁、本
文・四〇丁）、第八冊、三四丁（巻第八、目録・一丁、本文・

三三丁)、第九冊、五四丁(卷第九、目録・一丁、本文・五三丁)、第一〇冊、四三丁(卷第十、目録・一丁、本文・四二丁)、第一一冊、四五丁(卷第十一、目録・一丁、本文・四四丁)、第一二冊、四四丁(卷第十二、目録・一丁、卷第十二・二八丁半、灌頂卷・一四丁半)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と、「(平成) 18. 1. 30」受入印のみ。

〔備考〕 卷第一と二に朱筆で濁点、振仮名、送仮名、返点が若干施されるのみ。川瀬未載。

〔本文〕 単辺片仮名古活字十二行乙種本。本文は下村本。単辺片仮名古活字十二行甲種本(川瀬、(六) 単辺十二行片仮名本、慶長中刊。本文を流布本系統とするが、下村本の誤り)を底本として、卷九の「小宰相」と卷十二(灌頂卷)の「大原御幸」に見られる長文の誤脱を流布本の本文で補訂。伝本、東京大学文学部国文学研究室蔵本、國學院大学図書館蔵本、明治大学図書館蔵本(存卷第十)、愛知県立大学図書館蔵本(存卷第三)、財団法人正宗文庫蔵本(存卷第三)。詳細は、高木浩明『中近世移行期に文化と古活字版』(勉誠出版、二〇二〇年)、第一部第三章参照。

181 平家物語 一二卷

〔請求番号〕 WA七―二六九

〔体裁〕 大本、一二冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有) 栗皮表紙。二八・二×二〇・七糎。四針袋綴。
〔題簽〕 左肩に双辺枠原刷題簽(二五・二×三・六糎)、「平家物語第一(一十二)」。

〔内題〕 「(低二格) 平家物語卷第一目録」、「(低三格) 平家物語卷第二目録」、「平家物語卷第三(一十二) 目録」、「平家物語卷第一(一十二・灌頂卷)」。

〔尾題〕 「平家物語卷第一(―灌頂卷畢)」、「平家卷四」、「平家卷第十二」。

〔本文〕 每半葉一二行×二一字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 四周双辺(卷第一目録、二一・八×一六・七糎、卷第一、二一・九×一六・八糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「平家卷一(一十二) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四四丁(卷第一、目録・一丁、本文・四三丁)、第二冊、五〇丁(卷第二、目録・一丁、本文・四九丁)、第三冊、四六丁(卷第三、目録・一丁、本文・四五丁)、第四冊、四四丁(卷第四、目録・一丁、本文・四三丁)、第五冊、三九丁(卷第五、目録・一丁、本文・三八丁)、第六冊、三三丁(卷第六、目録・一丁、本文・三二丁)、第七冊、四二丁(卷第七、目録・一丁、本文・四二丁)、第八冊、三五丁(卷第八、目録・一丁、本文・三四丁)、第九冊、五五丁(卷第九、目録・一丁、本文・五四丁)、第一〇冊、四四丁(卷第十、目録・一丁、本文・四三丁)、第一一冊、四七丁(卷第十一、目録・一丁、本文・四六丁)、第

一二冊、四五丁（卷第十二、目録・二丁、卷第十二・二九丁半、灌頂卷・一四丁半）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と、「平成」19. 11. 5 受人印のみ。

〔備考〕 無書入。下村時房刊本を底本とする双辺片仮名古活字十二行本（川瀬、（七）十二行片仮名本、元和中刊）。卷九「越中前司最後」の冒頭近くに部分的に覚一本の本文を以て校訂を施した本文を持つ他、卷九の「小宰相」と卷十二（灌頂卷）の「大原御幸」にそれぞれ下村本の一丁分の本文の誤脱を有する。伝本、京都府立京都学・歴史館他、七本。詳細は、高木浩明『中近世移行期に文化と古活字版』（勉誠出版、二〇二〇年）、第一部第三章参照。

182 ※平家物語 一二巻

〔請求番号〕 WA七―二七―一

〔体裁〕 大本、一二冊。卷第六・十二は正保三年刊の整版を補配。

〔表紙〕 後補茶色空押し繋ぎに草花二重丸文散らし文様表紙。二六・四 × 一八・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に薄茶横刷毛目布目地、銀箔散らしの書題簽（一六・七 × 二・九糎）、「平家物語 一（二・四・五・七・八・十・十一）」、「平家物かたり 三（六・九・十二終）」。

〔内題〕 「平家物語卷第一（一五・七―十一）目録」、「平家物語卷第一

（一五・七―十一）」。

〔尾題〕 「平家物語卷第二（一五・七―十一）終」。

〔本文〕 每半葉二二行 × 二三字。漢字平仮名交（平仮名が主）、濁点附活字を交える。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・九糎。

〔版心〕 「平家卷一（一五・七―十一）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六八丁（卷第一、目録・一丁、本文・六六丁、寛永三年跋、整版・一丁）、第二冊、八〇丁（卷第二、目録・一丁、本文・七九丁。六丁欠）、第三冊、七二丁（卷第三、目録・一丁、本文・七一丁）、第四冊、六九丁（卷第四、目録・一丁、本文・六八丁）、第五冊、五九丁（卷第五、目録・一丁、本文・五八丁）、第六冊、三九丁（卷第六、目録・一丁、本文・三八丁、正保三年刊の整版を補配）、第七冊、六二丁（卷第七、目録・一丁、本文・六一丁）、第八冊、五二丁（卷第八、目録・一丁、本文・五〇丁）、第九冊、八九丁（卷第九、目録・一丁、本文・八八丁。二三・三四 × 四三・二四 × 三三・四四丁、乱丁）、第一〇冊、六七丁（卷第十、目録・一丁、本文・六六丁）、第一一冊、七一丁（卷第十一、目録・一丁、本文・七〇丁）、第一二冊、六二丁（卷第十二、目録・一丁、卷第十二・四一丁、灌頂卷・二〇丁、刊記・一丁、正保三年刊の整版を補配）。

〔刊記〕 無。本書は卷第十二を欠くため刊記も欠くが、本来は卷第十二の卷末に、〔備考〕に記す卷一の卷末と同文の跋があり、その後

に「于時寛永五（戊辰）曆／九月上旬／洛陽三條寺町／中村甚兵衛尉開之」の刊記を有す。

〔印記〕「木街狩埜／氏之文庫」（朱長方印）、「吉田／蔵書」（朱方印）。他、国立国会図書館の印と、「（平成）20. 10. 30」の受入印。

〔備考〕卷第一の卷末に跋文あり（整版）、「寛永三年の春の比藤田檢校／城慶加賀國にて筑紫方檢校城一／用ゆ雲井の本と奥書侍る平家／物語を求侍き此本則其雲井の／本を写畢筑紫方檢校城一本と奥／書侍る故に藤田檢校／城慶此本を／用て八坂方の平家と号す」。藤田檢校城慶とは、近世初期に活躍した八坂流大山派の琵琶法師で、『三代関』や三浦浄心の『慶長見聞集』にその名が見える。筑紫方檢校城一とは、『当道要集』によれば、琵琶法師の始祖性仏の孫弟子に当たる琵琶法師のこと。「城一用ゆ雲井の本」というのは全くの仮託の本とされる。卷第四・五・七・十一に切貼訂正あり。書き入れは第一冊の一三丁ウまで墨筆で振仮名を施す程度で無書入に等しい。川瀬未載。城一本。國學院大學図書館に完本を蔵する他、東京芸術大学に卷十二の零本一冊を蔵す。詳細は、千明守『平家物語屋代本とその周辺』（おうふう、二〇一三年）、第三篇第三章「『平家物語』城一本の本文」を参照。

183 平治物語 三卷

〔請求番号〕WA七―二二五

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・二×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「平 上（中・下）」と朱筆で打付書。

〔内題〕「（低二格）平治物語卷上（中・下）」。

〔尾題〕「平治物語卷上（中）」、「平治物語卷下終」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・八糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四九丁（卷上）、第二冊、五二丁（卷中）、第三冊、

五二丁（卷下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷末に「月明莊」の朱小印。他、国立国会図書館の印と、「（平

成）5. 11. 15」の受入印。

〔備考〕『保元物語』（請求記号、WA七―二二四）と同じ版式で、同時の刊行とされ、同じ帙に収められている。固有名詞に朱引、墨筆で平仮名もしくは片仮名で振仮名が施されている。他、朱訂正、朱筆で仮名に漢字をあてる。卷末に「天保甲午三月廿二日 読畢 蟬翁（蟬翁、狩谷椽斎）の朱書識語があることからわかるように、考証学者狩谷椽斎（一七七五―一八三五）の手沢本。なお、各冊巻頭、卷末に蔵書印を消した痕跡があるが、『増補古活字版之研究』掲載の図版（九三八図の保元物語）によれば、ここには小汀利得の蔵書印、「小汀氏蔵書」が捺されていたこと

がわかる。川瀬五三九・八九七頁、(四)慶長中刊十一行本(第四種)。八九七頁に著録する小汀文庫蔵本(狩谷楳斎手沢本)が本書。図録篇九三九図に巻下巻末の図版を収む。伝本他に東洋文庫蔵本。

184 遍照発揮性霊集 十卷 大遍照金剛和尚文

〔請求番号〕WA七―五七

〔体裁〕大本、五冊(二巻、それぞれ一冊ごと)に表紙が掛けられたものを合冊。

〔表紙〕黄土色表紙(右下に「天海蔵」の墨長方印、その左に「下野」と墨書)に、「帝/國/圖/書/館/蔵」の型押のある薄茶色刷毛目布目地覆表紙附。二七・二×一八・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕黄土色表紙、左肩に書題簽(一六・八×三・九糎)、「性霊集第二(十一)」(第一冊剥落、筆跡は「下野」の筆と同筆)、覆表紙、左肩に双辺刷梓書題簽(一六・七×三・五糎)、「性霊集 一、二(一九、十止)」。

〔内題〕「遍照発揮性霊集序」(低四格) 西山禅念沙門真濟撰集、「遍照発揮性霊集卷第一」(低六格) 大遍照金剛和尚文、「遍照発揮性霊集卷第二(十七)」、「続遍照発揮性霊集補闕抄卷第八(十)」。

〔尾題〕「遍照発揮性霊集卷第一(十七)」、「続遍照発揮性霊集補闕抄卷第八(十)」。

〔本文〕每半葉七行×一四字。

〔匡郭〕四周双辺(序、二〇・五×一三・七糎)、有界。

〔版心〕上下に大黒魚尾、中縫、「性霊集序(一一十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁(序・五丁、巻第一・一六丁、巻第二・二二丁)、第二冊、四一丁(巻第三・一三丁、巻第四・二八丁)、第三冊、三三丁(巻第五・一六丁、巻第六・一七丁)、第四冊、六三丁(巻第七・二三丁、巻第八・四一丁)、第五冊、六二丁(巻第九・二六丁、巻第十・三六丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「天海蔵」(慈眼大師天海、一五三六?―一六四三、墨長方印)、「松本氏/圖書印」、「勝鹿文庫」(以上三印、朱長方印、札差・蔵書家松本幸彦、号月痴。生没年未詳、「勝鹿文庫」の印は第一冊巻首と第五冊巻末のみ)、「俳諧書二酉/精舎第一主/萩原乙彦記」、「避險危/斎蔵書」(以上二印、朱長方印、俳人・戯作者萩原乙彦、一八二六〜八六)、「梶原家蔵」、「故梶原芳埜納本」(梶原芳埜、朱長方印)、「東京/圖書/館蔵」(朱方印)。

〔備考〕巻四の一〇才まで、朱墨で返点、振仮名、送仮名、ヲコト点等が施されている(巻三・四は墨書)。川瀬三三九・七三三・七七〇頁。三三九頁に、「慶長元和中刊双辺有界七行十四字本」として、帝国図書館(現、国立国会図書館)本を著録する。『性霊集』の古活字版には川瀬未載のものも複数存在し、改めて分類整理が必要である。

185 保元物語 三卷

〔請求番号〕WA七―一六五

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二六・七×一九・八糎。四針袋綴。右肩に

「益」と墨書。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽、「保元物語〈全／上中下〉」。第二・第三冊、題簽剥落。

〔内題〕「保元卷第一目録」、「保元物語卷第二(三)目録」、「保元物語卷第一(二・三)」。

〔尾題〕「保元卷第一終」、「保元卷第二」、「保元物語卷第三」。

〔本文〕每半葉一行×二一字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边(卷一目録、二一・七×一六・五糎、卷一、二一・八×一六・七糎)、無界。

〔版心〕黒口及花口魚尾、中縫、「保元卷一(二・三) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二五丁(卷第一、目録・一丁、本文・二四丁。二一、二三丁欠)、第二冊、三四丁(卷第二、目録・一丁、本文・三三丁。三・三二丁欠)、第三冊、三〇丁(卷第三、目録・一丁、本文・二九丁。二四丁欠)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國司／家藏」(朱方印、上から「萬倉」の墨印捺印)、「苔香／山房／之印」(朱方印)、「素石／園印」(朱方印)、「于水／艸堂／之印」(朱方印陰刻、以上三印、木村素石。俳人・実業家、

一八四三(一九〇三)、「寶玲文庫」(墨長方印、フランク・ホーレー)、「國立國／會圖書／館藏書」(朱方印)、46. 2. 17(紫、昭和四六年二月一七日)。

〔備考〕無書入。川瀬、(一一)元和四年刊(片仮名本)。紺色映入り、

映題簽は森銚三筆(保元物語〈元和四年刊／古活字版〉三冊)。月明莊の印はないが、反町弘文莊扱いの本とわかる。

186 保元物語 三卷

〔請求番号〕WA七―二二四

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・二×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「保 上(中・下)」と朱筆で打付書。

〔内題〕「(低二格) 保元物語卷上(中・下)」。

〔尾題〕「保元物語卷上(中)」、「保元物語卷下終」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・八糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三七丁(卷上)、第二冊、五四丁(卷中)、第三冊、四七丁(卷下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷末に「月明莊」の朱小印。他、国立国会図書館の印と、「平成」5. 11. 15の受入印。

〔備考〕『平治物語』（請求記号、WA七―二二五）と同じ版式で、同時

の刊行とされ、同じ帙に収められている（帙題簽、森銑三筆、

「保元平治物語（慶長中刊古活字版／狩谷椽斎旧藏孤本）」。固

有名詞に朱引、墨筆で平仮名もしくは片仮名で振仮名が施され

ている。他、朱訂正、朱筆で仮名に漢字をあてる。狩谷椽斎の

手沢本。なお、各冊巻頭、巻末に蔵書印を消した痕跡があるが、

『増補古活字版之研究』掲載の図版（九三八図）によれば、ここ

には小汀利得の蔵書印、「小汀氏蔵書」が捺されていたことがわ

かる。川瀬五三九・八九七頁、（四）慶長中刊十一行本（第四

種）。八九七頁に著録する小汀文庫蔵本（狩谷椽斎手沢本）が本

書。図録篇九三八図に国会本の図版を収む。伝本他になし。

187 宝物集 存上・下 平康頼著

〔請求番号〕WA七―八五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕丹空押雷文襷に雨竜文様表紙。表皮は剥落しているが、前表紙の一部、前後の表紙裏の折り曲げ部分から、もとは丹表紙であったことがわかる。二六・九×一八・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に書題簽がわずかに残存（佛集）。

〔内題〕「（低二格）ほうぶつしう上（下）」。

〔尾題〕「（低二格）ほうぶつしう上終」。

〔本文〕每半葉二行×二一字。漢字平仮名交。濁点附活字を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕「上（下）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕六八丁（上・三三丁。二〇・二二丁欠、下・三五丁。巻末二丁欠。

〔刊記〕無。

〔印記〕「阿波國文庫」（徳島藩主蜂須賀家、朱長方印）、「不忍文庫」（屋

代弘賢、朱長方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）、「明治

二八・三・二六・購求」（朱丸印）。

〔備考〕無書入。川瀬五一八・八八九頁。八八九頁で（三）寛永中刊第

二種本の分類を、（三）寛永十六年刊本、（四）寛永中刊無刊記

本（イ）種と（ロ）種の三種に改める。国会本は、（四）寛永中

刊無刊記本（イ）種。後表紙見返しに「文淵甲（乙）」の朱印が

捺されていることから、一時、浅倉屋書店で扱われた本とわか

る。

188 宝物集 三卷 平康頼著

〔請求番号〕WA七―一五六

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補縹色（藍色）空押市松文様表紙。二八・四×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩、題簽剥落。

〔内題〕「（低二格）宝物集卷之上」、「（低二格）宝物集卷中」、「（低二格）

「宝物集下巻」。

〔尾題〕「(低二格) 宝物集巻上(中巻)」「(物) 切貼訂正」、「宝物集巻之下」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 四周双边(二二・六×一五・八糎)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「宝物巻上(中・下)」。

〔丁数〕 第一冊、四七丁(巻之上)、第二冊、三七丁(巻中)、第三冊、四八丁(下巻)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「専/念」(墨丸印)、「寶玲文庫」(朱長方印小、フランク・ホーレー)、「野中氏圖書」(野中完一、朱長方印)、「青谿/書屋」(大島雅太郎、朱方印)、「月明荘」(反町茂雄、朱小印)。他、国立国会図書館の印と、「49. 2. 8」(昭和四九年二月八日)の受入印。

〔備考〕 墨筆でごくわずかに片仮名による振仮名等が施されているが、無書入に等しい。巻末に墨書識語、「寛永拾二八月十日」(上・中)、「寛永拾二八月十日常住物」(下)、さらに後表紙見返しにも「松前之専念寺」(巻末の墨書識語と同筆)。川瀬五一七・八四九・八八九頁、(一) 片仮名交り活字印本、慶長十四年以前刊。五一八頁に著録される大島雅太郎氏蔵本(雲母摺原表紙と記載されるが、川瀬氏の誤認か)が本書。

桐箱(箱書、森銚三筆、「宝物集」(慶長十四年以前刊/片仮名古

活字版)三冊)入。桐箱の蓋裏に日めくりカレンダーの裏に青色のボールペンで記したメモ(反町茂雄氏によるものか)を貼付(宝物集(三冊貴/四五〇、〇〇〇)〈平康頼著/慶長十四年(1609)以前刊古活字版〉/宝に因んだ仏教説話集。/慶長十四年以前の判定は大屋徳城/蔵本の墨書識語による。この作品の刊/本として最も古いもの。所蔵写本、刊年不明/本、寛文、元禄版本)を貼付。ちなみにここに記される大屋徳城蔵本は、現在、中京大学図書館に蔵される。

189 保曆間記 二巻 小瀬道甫編

〔請求番号〕 WA七―二四八

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二七・七×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の書題簽(二八・九×二・九糎)、「保曆間記」。

〔内題〕 「保曆間記上(下)(十一格空) 小瀬道甫刊」。

〔尾題〕 「保曆間記上(下)終」。

〔本文〕 每半葉二行×二字。注小字双行、上欄に標題植字。

〔匡郭〕 四周双边(二二・三×一六・五糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「保曆間記上(下) 丁附」。

〔丁数〕 八〇丁(上・三九丁、下・四二丁)。他、前後に新補の遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「尚／古／齋」(鈴型朱印、佐藤硯湖、一八三一～九〇)、「■雨

珍藏」(琵琶型朱印)、「忠孝吾家之宝／關場氏所藏／經史吾家之田」(陰陽朱方印)、「子孫／保之」(朱長方印)、「東西書屋／關場氏／所藏之印」(陰陽朱方印、以上四印、関場忠武、一八三八～一九二二)、「金合／文庫」(朱方印)、「小林／藏書」(朱方印、以上二印は同一人物のもの)、「月明莊」(反町茂雄、朱長方印)、「書／(平成) 15. 11. 21／国会図」(朱印)。

〔備考〕無書入。下巻卷末に梅屋塾史(歴史家、関場忠武)の朱書識語、「大日本史料所引保暦間記、与此本如有異同、異本歟、猶可考／明治三十四年十一月一日 梅屋塾史(朱方印、名忠武／字士舉／号棟屋)(朱方印陰刻、家在鴨／邨暗香／蹊景中)(朱方印陰陽刻、忠孝吾家之宝／關場氏所藏／經史吾家之田)」。後表紙見返しに関川平四郎(松前在住、伝未詳)の墨書識語、「享保拾七〈壬／子〉歳五月十一日 関川平四郎」(享保拾七、一七三二年)。川瀬五八四・九二七頁。川瀬は、(一)慶長中刊本と(二)慶長元和中刊本(イ・ロ)を著録するが、いわゆる『保暦間記』は(一)のみ。(二)は(一)をもとに小瀬甫庵によって改作されたもの。(二)慶長元和中刊本(イ)。佐伯真一・高木浩明『校本保暦間記』(和泉書院、一九九九年)参照。

190 簞篋抄 五卷

〔請求番号〕WA七―一四三

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二九・三×一九・六糎。五針袋綴。
〔題簽〕左肩に新補の双辺粹書題簽、「簞篋抄 一(一三)」。

〔内題〕「簞篋内伝註卷第二」、「簞篋註下卷第三」、「玉兔集造屋篇卷第四」、「簞篋卷第五」。

〔尾題〕「簞篋内伝抄卷第一終」、「簞篋抄中(二格空)終」、「簞篋抄卷第四之終」、「簞篋抄第五之終」。

〔本文〕每半葉二行×二〇字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边(第一冊・一ウ、二三・三×一六・一糎)、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「簞篋抄上(上序・上本・中・下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁(卷第一、第一冊前半は破損甚だしく第二丁表は欠)、第二冊、五〇丁(卷第二・一九丁、卷第三・三二丁)、第三冊、二〇丁半(卷第四・八丁、卷第五・一二丁半。二十一丁裏以下欠)。他、前後に新補の遊紙各二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「新城文庫」(天文学者、新城新藏、一八七三～一九三八、朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「帝國／昭和一八 三一五 購入」(朱丸印)。

〔備考〕『三国相伝陰陽翰轄簞篋内伝金烏玉兔集』の注釈書。

全丁裏打修補。朱墨(主に墨)で返点、振仮名、送仮名、その他若干の書き入れあり。川瀬八八〇頁に(一)寛永六年刊本と

(二) 無刊記十二行本を著録。本書は第一冊の巻首表丁を欠くので、図版との照合ができないが、川瀬のいう(二)か。伝本、阿波国文庫蔵本(戦災焼失)を挙げるのみ。「この無刊記本の方が先行かと思はれる。活字は日本書紀抄(三卷本)などと同種である。元和寛永中の印行であらう」。

191 発句帳 四卷

〔請求番号〕WA七―一七九

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕藍色裏打改装表紙。「帝／國／圖／書／館／蔵」の型押のある薄茶色刷毛目布目地の覆表紙附。二七・三×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽(一八・九×四・三糎)、「発句帳 春(秋・冬)」、第二冊(夏)のみ左肩に後補の双辺刷枰書題簽、「発句帳 夏」。覆表紙には左肩に、双辺刷枰書題簽、「発句帳 春(夏・秋・冬)」。

〔内題〕「発句帳 春(夏・秋・冬)部」。

〔尾題〕無。

〔本文〕類題目次は大型活字二段組み毎半葉七行、本文、毎半葉二一行。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一九・〇糎。

〔版心〕無。夏の五二丁のノドに「夏 五十三」と刻す。

〔丁数〕第一冊、一三四丁(春部、目録・二丁、本文・一三三丁)、第二

冊、九五丁(夏部、目録・二丁、本文・九三丁)、第三冊、九六

丁(秋部、目録・二丁、本文・九四丁)。「秋落葉」の項に二丁欠

。「秋時雨」の項に二丁重複があり、「雑秋」にも二丁分欠がある)、

第四冊、八〇丁(冬部、目録・二丁、本文・七九丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館印」(朱方印)、「圖／明治三八・五・五・購求」

(朱丸印)。

〔備考〕無書入。川瀬五六一・九〇六頁、第二種本(イ)慶長中刊。図

録篇九六七図、陽明文庫蔵本と同版。

192 ※〔本朝古今銘尽〕

〔請求番号〕WA七―二八二

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕栗皮裏打改装表紙。二六・〇×一八・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕毎半葉八行×一八字。漢字平仮名交。刀剣図入。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・八糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕三三三丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国会図書館の受入印（2013. 2. 19）のみ。

〔備考〕 全丁裏打修補。朱引、朱句読点、刀剣図の刃文の文様を薄墨で補筆。川瀬四〇四・八四九頁に二種の『本朝古今銘尽』を著録するが、そのいずれとも異なる。川瀬未載本。

唐花唐草文の帙入、月明荘の印はないが、帙からすると、反町弘文荘の手を経た本かと思われる。

193 本朝文粹 存目録・卷第一・三十四〔藤原〕明衡撰

〔請求番号〕 WA七一一三三

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補薄茶色横刷毛目布目文様表紙。二八・二×一九・六糎。五針袋綴。右肩に「取扱／注意／帙入」（朱長方印、高木文庫の蔵書に捺されている印）。

〔題簽〕 無。左肩に「本朝文粹」と打付書。

〔内題〕 「新刊本朝文粹序」、「本朝文粹目録」、「本朝文粹卷第一（四・七・八）」、「本朝文粹卷之九（一十四）」。

〔尾題〕 「新刊本朝文粹目録畢」、「本朝文粹卷第一（三十二）終」、「新刊本朝文粹卷之十四（大／尾）」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。

〔匡郭〕 序、四周双辺（二二・三×一六・七糎）、無界、目録以下、四周双辺（卷第一、二二・三×一六・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「本朝文粹序（目録・卷一十四）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四〇丁（序、寛永己巳仲冬下旬（二格空）羅山子道春・二丁、序、寛永己巳冬十一月日／（低六格）尾陽医官法眼杏菴正意書・二丁、目録・三六丁）、第二冊、六三丁（卷第一・二九丁、卷第三・二二丁。一丁オ／一二丁ウ、整版補綴、丁附十一／卅二、古活字版）、第三冊、六八丁（卷第四・二八丁。一四丁欠、一六・一七丁の間に整版二丁（十六・十七）補綴、卷第五・三八丁。卷首に整版二六丁分（一一二十六）補綴、二三三丁／卅四、古活字版）、第四冊、四二丁（卷第六、卷首に整版三三丁分（一一三）補綴、三丁／四十一、古活字版）、第五冊、七二丁（卷第七・三三丁、卷第八・三九丁）、第六冊、七六丁（卷之九・三七丁、卷之十・三九丁）、第七冊、六四丁（卷之十一・二九丁、卷之十二・三五丁）、第八冊、六七丁（卷之十三・三五丁。一／三十四、古活字版、卷末に一丁（丁附四十一）整版補綴、卷之十四・三〇丁、跋（整版）、寛永己巳夏六月平安後学那波／道円書于武江之僑居・二丁）。

〔刊記〕 「（低二格）于時寛永六（己／巳）曆卯月吉且／（低四格）玉屋町（一格空）田中長左衛門刊之（正／基）」（卷第一卷末）、「（低三格）玉屋町（一格空）田中長左衛門開板（正／基）」（卷第十四卷末）。

〔印記〕 「可軒／池田氏／蔵書記」（池田長発、朱方印）、「高木家蔵」（高

木利太、朱長方印)、「國立／圖書／館藏」(朱方印)、「國立圖書館／昭23・3・17和／購入」(紫楮円印)。

〔備考〕 卷第一にのみ墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。第六冊前表紙見返しに、「帝譽秘書池田長發著／帝譽秘書監池田長發」、第七冊卷末に「長發一瞥」の墨書がある。池田長發(一八三七〜七九)は幕末の旗本。筑後守。号は可軒。文久三(一八六三)年外国奉行となり、幕府使節としてフランスに渡った。

194 〔枕草子〕 五卷 清少納言著

〔請求番号〕 WA七―八四

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ唐花文様表紙。二七・九×一八・七糶。

五針袋綴(第一冊)、後補縹色表紙。二七・三×一八・〇糶。五針袋綴(第二冊、中央に「第一缺本」と墨書、題簽右に「屋代本」と朱書)。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(一八・二×三・八糶)、「清少納言記 一」

(第一冊)、「枕冊子／清少納言二(一五終)」(一六・二×三・八糶)。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 「(低二格)清少納言卷一終」、「清少納言卷二(一四)終」。

〔本文〕 每半葉二三行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。第一冊、字高、二二・〇糶、第二(一五)冊、字高、二一・九糶。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、五一丁(はるはあけほの)、第二冊、五三丁(集はる)、第三冊、五三丁(あはれなるもの)、第四冊、三七丁(陀羅尼はる)、第五冊、二四丁(下かさねはる)、卷末に九丁分の補写あり、屋代弘賢筆。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 第一冊、「□□□／藏圖書」(朱長方印)、「閻魔庵／圖書部」(朱

長方印)、「岡本藏書」(朱長方印)、「洒竹文庫」(大野洒竹、朱長方印)、後表紙見返しに閻魔像の墨印。第二〜五冊、「阿波國文庫」(朱長方印)、「不忍文庫」(朱長方印)、「たか春の花の／しをりにしの／はれんわかわけ／くらすけふの山／ふみ中郵秋香」(中村秋香、朱長方印)、「洒竹文庫」(朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「大正4. 2. 27購求」印。

〔備考〕 第一冊、第三種本(ハ)種、第二〜五冊、第三種本(ロ)種、

伝来の異なる本を補配したもの。第二冊以下は、屋代弘賢の書き入れ本、朱書、貼紙多数。第五冊卷末に文化元(一八〇四)年に記された屋代弘賢の朱識語、「右清少納言枕冊子以隅東先生藏本校正之／其本奥書等如上□分冊為三自開卷至下／卷半先生在世之日与横田茂語詣其家比较／焉一年先生遠行余勉劇務而中廢有年／于此矣加之余本卷初一為人所奪今茲借／先生遺書於其

嗣使人補写且終校訂之功／以納不忍文庫焉文化元年七月二日源弘賢。これに拠ると、第二冊以下に記された朱書は、屋代弘賢が横田茂語（袋翁、一七四九～一八三五）と共に奈佐勝阜（隅東、一七四五～九九）を訪ね、その所蔵本（三卷本系統本）と校合したものとなる。すでにこの時には第一冊を欠いていた。屋代弘賢の識語の後には中村秋香の墨書識語、「此屋代自筆の校合本四冊は明治廿五年三月一日浅倉書舖にて／購入せしなり跋文によれば第一の歛本は補写せしよししる／せれと今またふた、ひ失へるこそいとくちをしけれ／中邨秋香」。

195 「枕草子」 五卷 清少納言著

〔請求番号〕WA七―一四一

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二七・六×一九・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「清少納言 一（一五）全五」と朱打付書。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 「清少納言卷一（一五）終」。

〔本文〕 每半葉二三行×二三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一一・二糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、五一丁（はるはあけほの）、第二冊、五三丁（集は

ゝ）、第三冊、五三丁（あはれなるもの）、第四冊、三七丁（陀羅尼は）、第五冊、二四丁（下かさねは）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「柀原家蔵」（朱長方印）、「故柀原芳埜納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）。他、卷首右下に判読不明の朱長方印、抹消。

〔備考〕 無書入。川瀬五二二・八九一頁、第三種本（寛永中刊十三行本）

（イ）種。「活字の書体は先行二本に比して、稍拙にして小型なり。本書と同種活字印本狭衣十三行本を初め頗る多し。各版種の前後未詳なるも（イ）（ロ）は密接なる関係にある可く、（二）種最も後印と推定せらる」。図録篇三八一図に国会本の図版を収む。

196 ますか、み 一九卷

〔請求番号〕WA七―三〇〇

〔体裁〕 大本、六冊。

〔表紙〕 原装（押八双有） 焦げ茶色（黒色か）空押雷文襷に雨竜文様表紙。二八・四×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺柀原刷題簽（一八・五×三・七糎）、「ますか、み

一（一六）」。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、六四丁（序・三丁半、第一おとろのした・一九丁半、第二新嶋もり・二〇丁、第三ふち衣・二三丁、第四三神山・八丁）、第二冊、四七丁（第五うちの、雪・二五丁半、第六おりる雲・九丁半、第五けふりのすゑ／＼・二二丁）、第三冊、四三丁（第八・一〇丁半、第九小野の雪・二二丁、第十あすか川・二〇丁半）、第四冊、四〇丁（第十一草まくら・一三丁、第十二老のなみ・二七丁）、第五冊、六九丁（第十一・三二丁、第十二うら千鳥・七丁、第十三秋のみ山・一八丁、第十四春の別・一三丁）、第六冊、五九丁（第十五むら時雨・二三丁、第十六くめのさら山・二五丁、第十七月草の花・二二丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「野宮／書印」（朱方印）、「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、墨長方印）、「青谿／書屋」（大島雅太郎、朱方印）、「月明荘」（反町茂雄、朱長方印・小）、「巖松堂古典部／波多埜扱斯書」（朱長方印）、国立国会図書館の印と受入印（書／2021、1、22／国会図）。

〔備考〕 朱墨で異本との校合、第一冊、第二新嶋もりの巻末に、「以後崇光宸筆校考」（朱書）、「以為明卿所書校了」（墨書）。第六冊の巻末には、「以後崇光院宸翰之本遂校合畢」と墨書。藍色牡丹唐草

文様の映入（題簽、「増鏡（慶長元和中刊古活字版／後崇光院宸筆本校合）六冊」、森銚三筆）。WA七―二九九の水鏡と同一の帙。川瀬五三一・八九四頁、大鏡・増鏡・水鏡と同種活字で、慶長元和中共時に刊行されたものと認定。五三一頁に著録される「大島雅太郎氏（原題簽存す。後崇／光院宸翰本校合）」が本書。『弘文荘古活字版目録』二一六―二二七頁に掲載。

197 万葉集 存卷第三―二十

〔請求番号〕 WA七―四七

〔体裁〕 大本、九冊。

〔表紙〕 後補薄茶色横刷毛目文様表紙。二七・二×一九・一糎。四針袋綴。右肩に「癸」と墨書。

〔題簽〕 左肩に後補の双辺刷梓書題簽（一八・一×三・八糎）、「活字万葉集（三／四）（一―十九／廿終）」。

〔内題〕 「万葉集卷第三（―二十）」。

〔尾題〕 「万葉集卷第三（―十九・二十終）」。

〔本文〕 每半葉八行×一八字。無訓。

〔匡郭〕 四周双辺（卷第三、二二・五×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「万葉卷三（―二十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一〇四丁（卷第三、目録・一一丁、本文・四九丁、大伴旅人年譜・三丁、卷第四、目録・一二丁、本文・三〇丁）、第二冊、八七丁（卷第五、目録・三丁、本文・三七丁、卷第六、

目録・九丁、本文・三八丁）、第三冊、一〇一丁（卷第七、目録・二丁、本文・四〇丁、卷第八、目録・一三丁、本文・四六

丁）、第四冊、九九丁（卷第九、目録・六丁、本文・三〇丁、卷第十、目録・四丁、本文・五九丁）、第五冊、九〇丁（卷第

十一、目録・一丁、本文・四七丁、卷第十二、目録・一丁、本文・四二丁）、第六冊、七二丁（卷第十三、目録・一丁、本文・

三四丁、卷第十四、目録・二丁、本文・三四丁）、第七冊、七一丁（卷第十五、目録・四丁、本文・三六丁、卷第十六、目録・

五丁、本文・二六丁）、第八冊、八七丁（卷第十七、目録・六丁、本文・四五丁。丁附飛び丁あり、一―四十・五十一―六十、卷第

十八、目録・五丁、本文・三二丁。三一、三二丁欠）、第九冊、一一一丁（卷第十九、目録・八丁、本文・四〇丁、卷第二十、

目録・九丁、本文・五四丁）。

〔刊記〕無

〔印記〕「高木家蔵」（朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「帝國／昭和二二・九・二三購入」（朱丸印）。

〔備考〕川瀬五五〇・五五一・九〇二頁、無訓本。「版式上、慶長後半期の印行であらう」。高木文庫蔵と著録される本が本書。

198 万葉集 二〇卷
〔請求番号〕WA七―一〇九
〔体裁〕大本、二〇冊。

〔表紙〕薄黄色、「東／京／圖／書／館／蔵」の型押のある布目地表紙。二八・〇×二〇・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽（一八・〇×四・一糎）、「万葉集第一（一―二十）」。

〔内題〕「万葉集卷第一（一―二十）」。

〔尾題〕「万葉集卷第一（一―十九・二十終）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。附訓別行植版。

〔匡郭〕四周双辺（二二・四×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「万葉卷一（一―廿）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三四丁（卷第一、目録・六丁、本文・二五丁、万葉第一奥書・三丁）、第二冊、四五丁（卷第二、目録・七丁、本文・三八丁）、第三冊、六三丁（卷第三、目録・一一丁、本文・四九丁、大伴旅人年譜・三丁）、第四冊、五九丁（卷第四、目録・

一一丁、本文・四八丁）、第五冊、四〇丁（卷第五、目録・三丁、本文・三七丁）、第六冊、四七丁（卷第六、目録・九丁、本文・三八丁）、第七冊、四二丁（卷第七、目録・二丁、本文・四〇丁）、第八冊、五九丁（卷第八、目録・一三丁、本文・四六丁）、

第九冊、三六丁（卷第九、目録・六丁、本文・三〇丁）、第二〇冊、六三丁（卷第十、目録・四丁、本文・五九丁）、第二一冊、四八丁（卷第十一、目録・一丁、本文・四七丁）、第二二冊、四二丁（卷第十二、目録・一丁、本文・四二丁）、第二三冊、三五丁（卷第十三、目録・一丁、本文・三四丁）、第一四

冊、三六丁（卷第十四、目録・二丁、本文・三四丁）、第一五冊、四〇丁（卷第十五、目録・四丁、本文・三六丁）、第一六冊、三一丁（卷第十六、目録・五丁、本文・二六丁）、第一七冊、五一丁（卷第十七、目録・六丁、本文・四五丁）、第一八冊、三八丁（卷第十八、目録・五丁、本文・三三丁）、第一九冊、四八丁（卷第十九、目録・八丁、本文・四〇丁）、第二〇冊、七〇丁（卷第二十、目録・九丁、本文・五四丁、先度書本云・七丁）。

〔刊記〕 無

〔印記〕 「柰原家藏」（朱長方印）、「故柰原芳埜納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館藏」（朱方印）、他、判読不明印（杏雨書屋藏『済民記』にも同一の印捺さる）、二印。

〔備考〕 第一、二冊、朱句読点の他、朱筆で古本、イ本、元暦本、活本と校合、橘千蔭の万葉集略解の注を一部引く。第一冊の後表紙見返しには、「古本奥書／正安三年二月三日於鎌倉光明寺谷書写之／同以書本移点校合畢 治部丞頼直」と朱書。川瀬五五〇・五五一・九〇二頁、附訓本。「附訓本は無訓本を底本とし、寂印成俊本の一伝本を以て校合翻印を行ったもので刊行年時は明確にし難いが、慶長元和中の印行であらう」。

199 水鏡 三卷

〔請求番号〕 WA七―二九九

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 後補焦げ茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・三×二〇・七糎。四針袋綴。表紙裏に整版の刷り反古を用いる。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一七・三×三・四糎）、「水鏡 上（中・下）」。

〔内題〕 「水鏡卷上（中・下）」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・九糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、四三丁（卷上、目録・一丁、序・八丁、第一代神武天皇、三十一代欽明天皇・三四丁）、第二冊、三九丁（卷中、目録・一丁、三十二代敏達天皇、四十七代孝謙天皇・三八丁）、第三冊、四〇丁（卷下、目録・一丁、四十八代廢帝、五十五代仁明天皇・三九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「藤□（判読不明）」（朱長方印、双边陰刻）、「冷泉府書」（藤原惺窩、朱長方印）、「寶玲文庫」（フランク・ホーレー、朱長方印）、「月明荘」（朱長方印・大）、国立国会図書館の印と受入印（書／2021、1、22／国会図）。

〔備考〕 片仮名による振仮名等が若干施されているのみ。第一冊の前表紙見返しに、「好古日録。御厨子所預ノ家所藏ノ水鏡ハ活字本

ナリ。其文印版ノ／水鏡ト大異同アリ。水鏡ノ原本／ナラン。印版ハ後人猥ニ日本紀ニ／拠テ。取捨シタル所アリト見ユ」と墨書のある紙片を貼付。川瀬五三〇・八九四頁、大鏡・増鏡と共に刊行されたもの。

藍色牡丹唐草文様の帙入（題簽、「水鏡（慶長元和中刊古活字版／冷泉家旧蔵）三冊」、森銑三筆）。WA七―三〇〇の水鏡と同じの帙。本の伝来は異なるが、一時、反町弘文荘が扱った本であることがわかる。『弘文荘古活字版目録』二二二―二二三頁に掲載。

200 無言抄

〔請求番号〕WA七―一〇四

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 後補水色表紙。二七・三×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の双辺刷梓書題簽（一九・六×三・七糎）、〔無言抄 一（二・三止）〕。

〔内題〕 〔（低二格）無言抄〕。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一行×一八字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・三糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、七七丁（序・一丁、目録・一丁、一、式目濫觴）。

七五丁）、第二冊、六六丁（や／一、社に）、第三冊、七六丁（三、四季詞）・七二丁、跋、南山乞食沙門、慶長三年紹巴判、慶長三年空性御判、慶長四年紹巴印判・四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「朝田家蔵書」（朱長方印）、「岸本家蔵書」（朱長方印、以上二印、岸本由豆流）、「梶原家蔵」（朱長方印）、「故梶原芳埜納本」（朱長方印）、「東京／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕 無書入。川瀬五五八・九〇四頁、第一種本。「第二種本に比して稍長細めの様式を有する活字で、慶長中の刊行と認められ」る。図録篇四六七図に国会本の図版を収む。

201 明德記 三卷

〔請求番号〕WA七―一六三

〔体裁〕 大本、一冊（合冊）。

〔表紙〕 後補薄縹色表紙。二八・九×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「明德記 上中下」と打付書。

〔内題〕 〔（低二格）明德記卷第上（卷中・卷第下）〕。

〔尾題〕 〔明德記卷上（卷中）終〕、〔（低二格）明德記卷第下終〕。

〔本文〕 每半葉一行×二三（二四字内外。漢字片仮名交、小型活字）。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・〇×一六・七糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「明德記卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 八三丁（卷第上・二四丁、卷中・三三丁、卷第下・二六丁）。

〔刊記〕「今世好事者保元平治平家物語皆以費梓工矣於是承久兵乱及明德記及応仁記不幸而免如予閑人幸而得之屢為日之便時々以古本校訂之漸畢其功忽補其闕雖然不獲其全也庶幾後人就有道而而正焉而已／（三行空）／（低二格）于時慶長十九年無射望日（四格空）以時」。

〔印記〕前表紙見返しに、「書／国立国会／45. 1. 28／図書館蔵書」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点の他、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。一誠堂書店扱。

202 蒙求抄 七卷

〔請求番号〕WA七―二三三

〔体裁〕大本、七冊。

〔表紙〕茶色裏打改装表紙。二九・五×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。第一冊のみ、左肩に「蒙求抄 一」と打付書。

〔内題〕「蒙求序」、「標題徐状元補注蒙求卷一（卷二・卷之三―七）」。

〔尾題〕「標題徐状元補注蒙求卷之一（一七）」。

〔本文〕每半葉一三行×二三字。漢字片仮名交、ゾ式仮名抄。稍小型の活字を使用。

〔匡郭〕四周单边（巻首序、二二・一×一七・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「蒙抄巻序一（序二・卷一―七） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七四丁（序・一丁、蒙求序・四丁半、薦蒙求表・七丁

半、巻一・六一丁）、第二冊、七九丁（巻二）、第三冊、六五丁（巻之三）、第四冊、八四丁（巻之四）、第五冊、七八丁（巻之五）、第六冊、五七丁（巻之六）、第七冊、五五丁（巻之七）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中／寛裕堂／川」（朱丸印）、国立国会図書館の印と受入印（書／（平成）9、12、17／国会図）（朱印）。

〔備考〕無書入。寛永頃の刊か。川瀬三六六・八〇八頁、元和寛永中刊。一誠堂書店扱。

203 藻塩草 二〇巻 宗碩編

〔請求番号〕WA七―二二二

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・〇×二〇・九糎。五針袋綴。右肩に「天

象／時節」（―衣類／食物／言詞）と墨書。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二〇・七×三・九糎）、「藻塩草 一之二

（―十八之廿／終）」。

〔内題〕「藻塩草／（低二格）惣目録」、「藻塩草巻第一（一十九） 目録」、

「藻塩草巻第一（一二十） 終」。

〔尾題〕「藻塩草巻第一（一二十） 終」。

〔本文〕每半葉一〇行、注小字双行。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二四・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三八丁（卷第一、惣目録・目録・一丁、天象部・一八丁、卷第二、目録・半丁、時節部付方・一八丁半）、第二冊、六二丁（卷第三、目録・半丁、地儀部・三二丁、卷第四、目録・半丁、山類部・三〇丁）、第三冊、六五丁（卷第五、目録・半丁、水辺部・六四丁半丁）、第四冊、七七丁（卷第六、目録・半丁、居所部・二四丁半、卷第七、目録・半丁、国部付世界・八丁半、卷第八、目録・二丁、草部・四二丁）、第五冊、六〇丁（卷第九、目録・一丁、木部・三〇丁、卷第十、目録・一丁、鳥部・二八丁）、第六冊、六八丁半（卷第十一、目録・半丁、獸部・一〇丁、卷第十二、目録・半丁、虫部・八丁半、卷第十三、目録・半丁、魚部付貝・五丁半、卷第十四、目録・半丁、気形部付所作・四二丁半丁）、第七冊、二六丁（卷第十五、目録・一丁、人倫并異名部・二五丁）、第八冊、六六丁（卷第十六、目録・一丁、人事部付所作・六五丁）、第九冊、五五丁（卷第十七、目録・一丁、人事雑物并調度部・五四丁）、第一〇冊、六三丁（卷第十八、目録・半丁、衣類部・二九丁、卷第十九、目録・半丁、食物部・六丁、卷第二十、目録欠、詞部・二七丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「水森澤／家庫印」（朱長方印、陰刻）、「横山家蔵」（朱長方印）、「アカキ」（第一〇冊後表紙見返しのみ、朱長方印・小、以上二印、横山重）、「月明荘」（朱長方印・小）、「國立國會圖書館蔵書」（朱長方印）と受人印（書／〔昭和〕63、8、25／国会図）。

〔備考〕朱引、朱句読点の他、墨筆で「―イ」校合あり。第一冊見返しに識語、「此藻塩艸は宗碩の著す所也と井上氏に承る／宗碩／月村斎ト号ス／宗祇法師ノ門ニ入テ大ニ修シ連／歌を善クシテ殊ニ奥旨を究メ又西／三條逍遙院実隆卿の御門ニ入テ和歌の事ヲ問フ／古活字板」を墨書した紙片を貼付。川瀬五五九・九〇五頁、（口）種。映入（題簽）、「藻塩草」（月村斎宗碩著／寛永中刊古活字版）、「森銚三の筆にあらず」。

204 大和物語 二卷

〔請求番号〕WA七一一八九

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）丹空押雷文繋ぎ唐花唐草文様表紙。二七・六

×一八・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（一七・三×三・四糎）、「やまと物語 上（下）」。

WA七一一九六（元和中刊本十二行本）と同版の題簽。

〔内題〕「（低二格）大和物語下」。

〔尾題〕「（低一格）大和物語上終」、「大和物語下終」。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕無。ノドに巻と丁附を刻す。

〔丁数〕第一冊、五二丁（上）、第二冊、四三丁（下）。

〔刊記〕「（低一格）寛永十六年二月吉辰」。

〔印記〕「柴田／氏印」（朱方印、陰刻）、「伊賀／文庫」（朱方印）、巻末に「月明荘」（朱小印）。（昭和）52. 2. 17受入印。

〔備考〕無書入。川瀬五〇九・八八六頁、寛永十六年刊十二行本（口）。

205 ※大和物語 二巻

〔請求番号〕WA七―一九六

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装丹空押雷文繋ぎ大ぶりの牡丹唐草文様表紙。二八・〇×

一九・四種。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（一七・三×三・四種）、「やまと物語 上（下）」。

〔内題〕「（低二格）大和物語下」。

〔尾題〕「大和物語上（下）終」。

〔本文〕每半葉二二行×二〇字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・二種。

〔版心〕無。上巻の巻首丁にのみ「上 一」と刻す。

〔丁数〕第一冊、五二丁（上）、第二冊、四三丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「柗原家蔵」（朱長方印）、「故柗原芳塾納本」（朱長方印）、「東京

／圖書／館蔵」（朱方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）。

〔備考〕あえて分類すれば元和中刊十二行本だが、川瀬未載の版。第一

冊二三丁裏末行と一四丁第一行、第二冊三二丁裏末行と三二丁

第一行は行文。改丁の際に生じた衍文だが、用字に異同がある

ところからすると、底本においてすでに衍文が生じていた可能性がなくもない。

206 類字名所和歌集 七巻

〔請求番号〕WA七―五一

〔体裁〕大本、七冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押雲文唐草文様表紙。二八・三×二一・一種。五

針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「類字名所和歌集 卷（一七／大尾）」。

〔内題〕「類字名所和歌集第一（一七）（一格空）廿一代集抜書（一格空）伊行

（知行・与行・羅行・也行・安行・恵行）」。

〔尾題〕「類字名所和歌集第一（一七）終」。

〔本文〕每半葉二二行。漢字平仮名交。部立の後、歌集名、和歌、歌人

名を刻す。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二四・四種。

〔版心〕無。ノドに巻数と丁附を刻す。

〔丁数〕第一冊、七六丁（廿一代集部立次第・目録、一七丁補写、第

一・五九丁）、第二冊、七三丁（第二）、第三冊、九一丁（第

三）、第四冊、五三丁（第四）、第五冊、四四丁（第五）、第六

冊、一二二丁（第六）、第七冊、四一丁（第七・四〇丁、跂刊・

一丁）。

〔刊記〕「此一部者互見廿一代集数多／之本而抄出名所和歌者也唯／愚暗

所撰恐有舛謬猶後見之／輩勿憚改而已／元和三曆仲秋下旬（二格空）法橋昌琢判。

〔印記〕「水荃家／典籍印」（朱長方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、

「明治四二・四・二二購求」（朱丸印）。

〔備考〕全丁裏打修補。川瀬五五六・九〇四頁、第五種本。図録篇九五七図に龍門文庫藏本の巻首丁と跋刊の図版を掲載するが、跋刊は国会本とは異版。

207 歴代君臣図像 二卷

〔請求番号〕WA七―一七四

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。三二・七×二三・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低三格）歴代君臣図像序」。

〔尾題〕「上（下）終」。

〔本文〕序、每半葉一〇行×二〇字。伝、每半葉五―一三行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（序、二五・九×一九・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「君臣図像序（君臣図目録・君臣図像上

（下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁（続刊聖賢図序・一丁、題聖賢像・一丁、歴代君臣図像序・二丁、目録・二丁、伏犧／閩王・四〇丁）、第二冊、六八丁（倉頡／許魯齋）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「英王堂藏書」（チェンバレン、朱長方印）、「高木家藏」（高木

利太、朱長方印）、「國立國會圖書館」（朱長方印）、（昭和）46

11. 26。

〔備考〕無書入。桐箱入（歴代君臣図像（慶長中刊古活字版／チェンバレン旧蔵）、森銑三筆）。

208 歴代名医伝略 二卷 吉田意安撰

〔請求番号〕WA七―一五〇

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕栗皮裏打改装表紙。二七・八×二〇・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一七・六×四・三糎）、「歴代名医伝（地）」。

〔内題〕「歴代名医伝略序」、「歴代名医伝略卷之上（下）目録」、「歴代名

医伝略卷上／（低十一格）法眼（一格空）意安^尙撰」、「歴代名医伝略卷下」。

〔尾題〕「歴代名医伝略卷之上目録終」、「歴代名医伝略卷之下目録」。

〔本文〕每半葉一行×一八字。稍小型の活字。上欄に小字引用書名刻。

〔匡郭〕四周双辺（序、一七・七×一六・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「伝畧 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七三丁（序、戊戌膺月日／朝鮮国宣務郎前刑部員外郎戸部郎中菁川姜沆序・三丁、序、慶長丁酉春正月望日又亥子識・

一丁、卷之上目録・三丁、卷上・六六丁、第二冊、八三丁（卷之下目録・三丁、卷下・八〇丁）。

〔刊記〕「（低一格）寛永第三歳舍丙寅季春良日梅寿重刊」。

〔印記〕「生／濟／堂」（朱方印、陰刻）「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、

「明治三八・八・三〇・購求」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬九五三頁に、東京大学図書館蔵本（大正12年の震災で焼亡、和田萬吉『古活字本研究資料』を引くのみ。伝本、他に京都大学附属図書館蔵本）。

209 重撰倭漢皇統編年合運図 二巻 円智撰

〔請求番号〕WA七―一二

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。三三・九×二二・七糎。五針袋綴。見返し、金銀箔散らし。

〔題簽〕無。左肩に「倭漢合運 上（下）」と打付書。

〔内題〕「重撰倭漢皇統編年合運図／（低十一格）洛下墊積（四格空）円智（二格空）撰」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉二行。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（年代記上、二九・二×一六・八糎）、有界。

〔版心〕上下に黒口双花口魚尾、中縫、「帝系略（年代記上（下））」、「丁

附」。

〔丁数〕第一冊、七〇丁（大日本国帝系略図、神武天皇第一〜今上皇帝百八十万歳・一丁、大日本国帝王略記・一五丁、重撰倭漢皇統編年合運図・五四丁）、第二冊、七四丁（後漢光武皇帝）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治三九・六・二一・購求」（朱丸印）。

〔備考〕墨（下巻に一部朱引、朱句読点）書入有。慶長五年九月の関ヶ原合戦から元和三年までの記事が墨書追記されている。上下巻末に円光寺の三要元估（閑室元估）の墨書識語、「從將軍拝領之年代記二冊 閑室（花押）」、「年代記二冊之内 閑室（花押）」。川瀬二五九頁、要法寺版、慶長五年刊本、第一種本。図録篇五三図に国会本の図版を収む。

210 和玉篇 三巻

〔請求番号〕WA七―一三

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ文様表紙に、新補茶色覆表紙附。三〇・六×二一・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕覆表紙の左肩に、新補の書題簽（二二・〇×三・四糎）、「和玉篇 上（中・下／止）」があるのみ。

〔内題〕「和玉篇卷上（中・下）目録」、「和玉篇上卷（巻中・巻下）」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉六行（目録は七行ないし八行）五段組。大型真名活字に極小の片仮名活字。

〔匡郭〕 四周双辺（上目録、二四・九×一六・〇糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「和名篇上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六八丁（巻上、目録・一丁、金部第一〜魚部第三十六・六七丁）、第二冊、六七丁（巻中、目録・一丁、ン部第三十七〜女部第百五・六六丁）、第三冊、一〇〇丁（巻下、目録・二丁、鳥部第百六〜雑部第二百十七・九八丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治二六・一一・二一・購求」（朱丸印）。

〔備考〕 裏打修補、無書入。川瀬二九四・七二一頁、心蓮院の開版事業。六行五段組本は二版（図録篇、八四図・八六図）あるが、本書は「版式等の様式を若干異にする同種活字の異植版」（八六図）。慶長中期を降らぬ頃の刊行。

211 和玉篇 存巻下

〔請求番号〕 WA七―六六

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二九・八×二〇・八糎。四針袋綴。右肩に「珍」と朱書。

〔題簽〕 無。左肩に「和玉篇 下」と打付書。

〔内題〕 「和玉篇巻下目録」、「和玉篇巻下」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉六行（目録は七行ないし八行）五段組。大型真名活字に極小の片仮名活字。

〔匡郭〕 四周双辺（下目録、二四・八×一六・二糎）、有界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「和玉下 丁附」。

〔丁数〕 一〇〇丁（巻下、目録・二丁、鳥部百六〜雑部二百十七・九八丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「亀田／蔵書」（亀田次郎、朱方印）、「月明／荘」反町茂雄、朱方印）、「國立國／會圖書／館蔵書」（朱方印）、昭和25年3・31受入印。

〔備考〕 無書入。川瀬二九四・七二一頁、心蓮院の開版事業。六行五段組本は二版（図録篇、八四図・八六図）あるが、本書は八四図と同版。後表紙見返しに亀田次郎の識語（万年筆書、便箋五枚、図版）を貼付。「本書は上中下三巻本にて朝鮮版龍龕手鑑に依拠して刊行せるもの、如し完本は／最近安田文庫に購入せられ不完本は大槻家に上中両巻、中島仁之助氏に下巻所／蔵せられ他に所蔵者あるを聞かず而して刊行年代は之を知る能はずと雖も其／版式上より見て慶長中期の活字開版と認むべし現今他に古活字印本の和玉篇／無しとせば之を清原秀賢の慶長日件録九年

〔甲／辰〕五月二十五日の條下に／心蓮院へ行、倭玉篇一字板令

見物畢／とあるに擬すべきものなり従来和玉篇に活字版の存在を唱へられしが本書は／其証左となるものなり零冊なれど稀有の伝本として珍重すべきものなり／昭和九年六月朔 吟風記、

〔古活字本和玉篇（大槻本ハ一尺×六寸七分ノ大ナリ）三冊大本

（大槻家ニハ上、中、両卷、掖斎、／森立之ニ氏ノ藏印アリ／中島仁之助氏下卷ノミ／拙藏亦下卷ノミ／安田文庫ニハ完本三冊）

／各卷目錄七行／本文六行／各行五段／各行ノ間ニ罫アリ大槻本ニハ柱ニハ和玉篇上（中）下卷ノミハ（安田本ハ三卷共）和

玉下トアリ／上卷ハ目錄一丁、本文六十六丁シテ六十七丁／中卷ハ目錄一丁、本文六十六丁シテ六十七丁／下卷ハ目錄二丁、

本文九十八丁シテ百丁／刊記無シ／昭和七年五月二十七日午後細川書店主人ヨリ最近本書ノ完本村口書店ヨリ安田文／庫ニ納

入シ又零本下卷一冊大阪石川留吉書店求メタリト聞ケリコノ零本ハ中島本カ家藏本カ、〔中略、卷上目錄・卷中目錄を記載〕、

下卷ハ家藏本ヲ見テ知ルベシ省略ス。帙に「金四円／慶長板和玉篇中卷一」と墨書のある紙票（関西古書聯合會）貼付。

212 ※和朝古今鍛冶之次第

〔請求番号〕WA七―二九五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（原表紙か）に、茶色の覆

表紙附。二八・〇×一九・六種。四針袋綴。

〔題籤〕覆表紙の左肩にのみ双辺刷粹書題籤（一九・六×三・八種）、〔和朝古今鍛冶之次第〕。

〔内題〕「和朝古今鍛冶之次第同名乗事」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。特徴のある字体の活字を使用。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・九種。

〔版心〕無。

〔丁数〕五六丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「明治四二・一〇・二三・購求」（朱丸印）。

〔備考〕刀劍関係書、川瀬未載。無書入。最近になって同一書名の写本（慶長三年竹屋宗左衛門尉写）とともに見出され、古活字版と認定、二〇二〇年一二月に貴重書に指定された。富山市立図書館

蔵の古活字版『本朝古今銘尽』（慶長十六年刊、川瀬未載）と同一の活字を用いている。大沼宜規「古活字版と竹屋本―『和朝

古今鍛冶之次第同名乗事』『本朝古今銘尽』と『新刊秘伝抄』を

中心に（『刀劍美術』、令和四年八月号（第七八七号）参照。

213 倭名類聚抄 二〇卷 源順編

〔請求番号〕WA七―一〇二

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補茶色裏打改装表紙。二六・九×二〇・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に、新補双辺刷柘書題簽（一九・六×三・七糎）、「倭名類

聚抄 一（一十）。

〔内題〕「低一格」題倭名鈔、「新刻倭名類聚鈔凡例」、「倭名類聚鈔序」、

「倭名類聚鈔卷第一（一二十）（四格空）源順撰」（卷第八・卷第十三―十五、「源順撰」なし）。

〔尾題〕「序／終」、「倭名類聚鈔卷第一（一二十）」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（題倭名鈔、二三・〇×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「題和名（和名凡例・和名序・和名卷一

―二十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、四七丁（題倭名鈔、元和三年丁巳冬十一月日羅浮散人

洗筆於雲母谿清処・三丁、凡例、番陽那波道圓識・一丁、序・

三丁、卷第一・一九丁、卷第二・二二丁）、第二冊、四七丁（卷

第三・二九丁、卷第四・一八丁）、第三冊、六一丁（卷第五・

二八丁、卷第六・三三丁）、第四冊、四七丁（卷第七・二五丁、

卷第八・二二丁）、第五冊、四三丁（卷第九・二四丁、卷第十・

一九丁）、第六冊、四七丁（卷第十一・一九丁、卷第十二・二八

丁）、第七冊、三九丁（卷第十三・一八丁、卷第十四・二二丁）、

第八冊、四〇丁（卷第十五・一七丁、卷第十六・二三丁）、第九

冊、四八丁（卷第十七・二五丁、卷第十八・二三丁）、第一〇冊、

六二丁（卷第十九・二九丁、卷第二十・三三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「曼殊院藏」（朱長方印、陰刻）、「曼殊／圖書／之印」（銅鐸型朱

印）、「柘原家藏」（墨長方印）、「柘原芳塾納本」（朱長方印）、「東

京／圖書／館藏」（朱方印）。

〔備考〕無書入。林羅山の序に元和三年十一月とあることから、刊行も

ほぼこの頃と見られる。那波道圓（一五九五―一六四八）は、

翌元和四年七月に同一の活字を用いて『白氏文集』七一巻三〇

冊を刊行している。川瀬五七六・九一七頁。

〔仏書〕

214 雲門匡真禪師広録 三卷（唐）雲門文偃撰・守堅編

〔請求番号〕WA七―一一三

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・三×二〇・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「雲門匡真禪師広録 上（一）下」。

〔内題〕「雲門匡真禪師広録卷上_{并序}」（整版）、「雲門匡真禪師広録卷中／

（低八格）門人明識大師賜紫（一格空）守堅集」、「雲門匡真禪師

広録卷下／（低七格）門人明識大師賜紫（一格空）守堅（一格

〔空〕集〕(巻上は、「低八格」) 門人明識大師賜紫(一格空) 守堅集〕のみ。

〔尾題〕「雲門匡真禪師広録巻上(中) / (二行空) / (低四格) 住福州鼓山円覚(三格空) 宗演(二格空) 校勘」。下巻は、尾題「雲門匡真禪師録巻下」の後に「頌雲門三句語(并余頌/八首)」、その後、「(低四格) 住福州鼓山円覚(三格空) 宗演(二格空) 校勘」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。稍行書体を加味した肉太の活字。

〔匡郭〕 四周双辺(二三・四×一六・二種)、有界。

〔版心〕 黒口、上下に双黒魚尾、中縫、「雲上(中・下)」、「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三四丁(序・一丁、巻上・三三丁)、第二冊、五二丁(巻中)、第三冊、三五丁(巻下)。

〔刊記〕 「(低五格) 慶長癸丑歳仲春月洛陽 宗鐵重刊」。

〔印記〕 「小野/東□寺」(墨丸印、墨塗抹)、「帝國/圖書/館蔵」(朱方印)、「明治三八・三・三〇・購求」(朱丸印)。

〔備考〕 無書入。川瀬・二九七・七二二頁、妙心寺版。本文第一葉のみ異植字版(七二二頁、内閣文庫蔵本)。国会本も同様(図録篇・六五三図参照)。

215 ※王沢不渴抄 二巻 良季編

〔請求番号〕 WA七―二九一

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有) 茶色表紙。二七・〇×一八・六種。四針袋綴。右下に白墨で「主深勢」。

〔題簽〕 無。左肩に「王沢不渴抄上(下)」と打付書。

〔内題〕 「(低一格) 王沢不渴鈔上^{并序}」、「(低一格) 王沢不渴鈔下」。

〔尾題〕 「王沢不渴抄上」、「(低二格) 王沢不渴抄下」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。注小字双行。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二〇・四種。

〔版心〕 「王 上(下) ▼▲ 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三八丁(上)、第二冊、二五丁(下)。

〔刊記〕 「(低一格) 元和十年五月廿一日(一格空) 浄善^{板開}」

〔印記〕 国立国会図書館印と受入印(書/2017・3・1/国会図)のみ。

〔備考〕 各巻尾題下に「賢範良俊房」、下巻の後表紙見返しに「深勢房増椿」と墨書識語。朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬三二二頁、元和十年刊高野版。但し本書は、川瀬(三二二頁、図録篇一〇〇図)が唯一著録する成實堂文庫蔵本とは別版。最近調査の機会を得た佐藤道生氏蔵本は、本書と同版。本書を刊行した浄善は、高野山で最初に刊行された古活字版『秘密曼荼羅十住心論』(慶長一四年に宝亀院朝印を願主として、幸悦・宗安・浄善に拠って開版された)の他、『十住心広名目』(元和三年刊)・『百法問答抄』(元和九年刊)・『王沢不渴抄』(元和十年刊)・『玉印抄』(寛永三年刊)・『性

『靈集』（寛永三年刊、整版）・『開心鈔』（寛永四年刊）の刊行に
関与している。

216 王沢不渴抄 二卷 良季編

〔請求番号〕WA七―二九二

〔体裁〕大本、一冊（上下二卷合冊）。

〔表紙〕後補茶色渋引き表紙。二七・二×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「（低一格）王沢不渴鈔上^{并序}」、「（低一格）王沢不渴鈔下」。

〔尾題〕「（低二格）王沢不渴抄卷上（一格空）^{板簡}」、「（低二格）王沢不渴抄下」。

〔本文〕每半葉九行×一九字。注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・五糎。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「王 上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三八丁（上）、二八丁補写、第二冊、二五丁（下）。

〔刊記〕「（低一格）元和十年五月廿一日（一格空）浄善（一格空）^開」

〔印記〕国立国会図書館印と受人印（書／2017・3・1／国会図）のみ。

〔備考〕朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名、他、朱墨による書入有。

川瀬三一二頁、元和十年刊高野版。川瀬が著録する成實堂文庫

蔵本（三一二頁、図録篇一〇〇図）と同版。

217 開目抄 二卷 日蓮著

〔請求番号〕WA七―一三八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二五・三×一七・五糎。四針袋綴。右上に「^{取扱}

帙入」（朱長方印、高木文庫）。

〔題簽〕無。左肩に「開目抄上（下）」と打付書。

〔内題〕「開目抄上（下）」。

〔尾題〕「開目抄上（下）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。漢字片仮名交（送仮名は小字）。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一九・九糎。

〔版心〕「御書上（下） 丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、五二丁（上）、第二冊、五五丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「高木家蔵」（高木利太、朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方

印）、「明治二二・九・一九・購求」（朱丸印）。

〔備考〕上下巻とも扉に「恵宅日義」、巻末に「義天日応／存長日侍（墨印）」と墨書。ごくわずかに墨書人が施されるのみ、無書人に等しい。日蓮宗御書。『兄弟抄』（WA七―一三七）と同種活字を

用いている。川瀬三二三頁に唯一著録される高木文庫蔵本が本

書。『高木文庫古活字版目録』（二一四番）に掲載。

218 観心略要集 源信撰

〔請求番号〕WA七―二四九

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・二×二〇・二種。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「観心略要集／観心畧要集／天台沙門源信選」(扉、その裏丁に

「比叡靈峯／観心畧要集／天台沙門源信選」と墨書)、「観心略要集」(序)、「観心略要集(七格空) 天台沙門源信撰」。

〔尾題〕「観心略要集終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(二三・一×一六・一種)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「略要集 丁附」。

〔丁数〕五〇丁(序・一丁、本文・四九丁)。

〔刊記〕「(低一格) 尔時寛永丙寅曆(一格空) 林鐘吉晨(三格空) 開板」。

〔印記〕「播州斑鳩／佛餉院藏」(朱長方印)、国立国会図書館印と受入印

(書／(平成) 15・2・17／国会図)。

〔備考〕卷末に「法兄玄与律師求之 宿阿修補之／承応元年冬十月日、

後表紙見返しに「文政十三年寅七月二日より七日迄／天台沙門

義真謹誦之者也／難有／／南無阿みだ佛」と墨書識語。

朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名。川瀬三〇四頁、叡山版。

川瀬は叡山文庫蔵本を著録するが、叡山文庫には本書と同版の

寛永三年刊本(天海・内典・一〇―二三―一九六)がある他、

異版の寛永三年刊本(生源・内典・六一―二二―三八六)がある。

219 教誠新学比丘行護律儀 一卷 釈道宣述

〔請求番号〕WA七―二八五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮渋引表紙。二六・六×一八・八種。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「教誠新学比丘行護律儀／(低六格) 終南山沙門(一格空) 道宣

(一格空) 述」。

〔尾題〕「教誠新学比丘行護律儀」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双边(二二・二×一七・一種)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「教誠儀卷 丁附」。

〔丁数〕二七丁(序・二丁、本文・二三丁半、跋刊・一丁半)。

〔刊記〕「吾祖南山以大慈悲開方便門慨乎……紹興十二載壬戌中春日於思

溪瞻雲庵題／(低一格) 北京東山泉涌寺住持伝南山宗教比丘／

(低一格) 思允命工鏤板文永十年癸酉八月八日／(低一格) 謹誌

／(低七格) 料理配字知客比丘静海、(低一格) 右教誠儀簡牘

摩滅字面残殃或烏而焉／(低一格) 或焉而馬故勵志投小財命工

令活板併／(低一格) 為正法久住善願円満耳／(低二格) 慶長

九年甲辰応鐘上旬／(低五格) 城西歛喜山宝珠院沙門幸朝／(五

行空)／(低十一格) 下村生蔵刊之」。

〔印記〕「金合／文庫」（朱方印）、「小林／蔵書」（朱方印、以上二印は現代の蔵書家（姓名未詳）の印で、セツトで押される）、国立国会図書館印と受人印（書／2014・3・13／国会図）。

〔備考〕無書入。川瀬、二八九・四二八・七二〇・七二一頁、宝珠院版。

220 兄弟抄 附十法界明因果抄・祈祷抄・四條金吾許御文・四信五品抄

日蓮撰

〔請求番号〕WA七―一三七

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二五・五×一七・五糎。四針袋綴。右上に「注取
意被

映入」（朱長方印、高木文庫）。

〔題簽〕無。

〔内題〕「兄弟抄」、「十法界明因果抄（八格空）日蓮撰」、「祈祷抄（六格空）本朝沙門日蓮」、「四條金吾許御文」、「四信五品抄」。

〔尾題〕「十法界明因果抄（七格空）日蓮撰之」、「祈祷抄」、「（低一格）四條金吾許御文」日蓮女。

〔本文〕每半葉八行×一八字。漢字片仮名交（送仮名は小字）。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・一糎。

〔版心〕「御書十六目（御書十六）」と丁附（本文通し丁附）を刻するの

み。

〔丁数〕七六丁（目録・一丁、兄弟抄・二〇丁、十法界明因果抄・二一

丁、祈祷抄・一七丁半、四條金吾許御文・六丁、四信五品抄・

一〇丁半）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「高木家蔵」（高木利太、朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方

印）、「帝國／昭和二二・九・二〇・購入」（朱丸印）。

〔備考〕朱句読点、墨筆で返点、振仮名等が施されている。「開目抄」（W

A七―一三八）と同種活字を用いる。川瀬三三三頁、日蓮宗御

書。『高木文庫古活字版目録』（二一五番）に掲載。

221 虚堂和尚語録 三卷（卷上欠）後録一卷（宋）釋智愚撰

〔請求番号〕WA七―一四

〔体裁〕特大本、四冊。

〔表紙〕新補茶色表紙。三一・九×二三・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「慶元府阿育王山弘利禪寺語録／（低四格）侍者（一格空）德惟

（一格空）似涇（一格空）如阜（一格空）編」、「栢巖慧照禪寺語

録／（低九格）侍者（二格空）似藻（二格空）編」、「臨安府淨

慈報恩光孝禪寺語録／（低五格）侍者（一格空）至源（一格空）

文衡（三格空）編」、「臨安府徑山興（一格空）聖万寿禪寺語録

／（低六格）參学（一格空）惟份（二格空）文愷（二格空）編、

「双林夏前告香普説／（低八格）侍者（二格空）法雲（二格空）

編」、「靈隱立僧普説／（低八格）侍者（二格空）淨覃（二格空）

編」、「立僧納牌普説」、「臨安府淨慈報恩光孝禪寺後録／（低三

格) 参学(一格空) 道準(一格空) 禪会(一格空) 紹賢(一格空) 編、「臨安府徑山興(一格空) 聖万寿禪寺後録／(低四格) 参学(一格空) 正一(一格空) 淨喜(一格空) 尚賢(一格空) 編」、「虚堂和尚統輯／(低四格) 参学(一格空) 以文(一格空) 無補(一格空) 法光(一格空) 編」、「虚堂和尚新添」。

〔尾題〕「栢巖語録」、「淨慈後録終」、「統輯終」、「虚堂和尚新添終」(補写)。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕 四周双边(二二・六×一七・三糎)、有界。

〔版心〕 白口双黒魚尾、中縫、「虚育王(ノ新添) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八七丁(慶元府阿育王山広利禪寺語録・二二丁半、栢巖慧照禪寺語録・三三丁半、臨安府淨慈報恩光孝禪寺語録・六丁半、臨安府徑山興聖万寿禪寺語録・一二丁半、法語・九丁、序跋(贊)・三丁、双林夏前告香普説、靈隱立僧普説、立僧納牌普説・三〇丁)、第二冊、五九丁(仏祖讚・一七丁半、礼祖塔・二丁、仏事・三三丁半、偈頌・三六丁)、第三冊、九六丁(臨安府淨慈報恩光孝禪寺後録・二二丁、臨安府徑山興聖万寿禪寺後録・五七丁、虚堂和尚統輯・一八丁)、第四冊、三三丁(偈頌・四丁半、仏事・三三丁、秉炬・四丁、法語・三三丁、真贊・三三丁半、虚堂和尚新添・一四丁、一四丁補写)。他、前後に遊紙(元表紙の前後の見返し)、各二丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「龍珠／講中」(墨丸印)、「龍岩」(朱、壺形)、「瑞□」(朱)、「西高洋／龍珠寺」(墨丸印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「圖／明治三五・六・一二・購求」(朱丸印)。

〔備考〕 各冊とも巻首に「浪花龍珠寺(墨丸印、龍珠／講中)」と墨書。朱引、朱句読点、他、朱墨による夥しい書入有。切貼訂正有。全丁裏打修補。川瀬三四八・七八九頁、慶長元和中刊、双边無界、八行一七字本の他、「慶長年間に印行されたと認められる大型活字(如庵宗乾所用の分と伝嵯峨本史記のそれとを併せ襲用するか／活字に摩滅の跡多く現はる、故、慶長後半頃の印行ならん。)を用ひた大本(八冊)がある」(七八九頁)。図録篇七八七図に小汀文庫蔵本(現、駒澤大学図書館蔵)の図版を収む。国会本は後者。伝本、他に国立公文書館内閣文庫にもあり。

222 金七十論 三卷 (陳) 積真諦訳

〔請求番号〕 WA七―三二二

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 後補香色表紙(右下に「无礙菴」の印)に、「帝／國／圖／書／館／藏」の型押のある覆表紙附。二八・六×二一・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕 香色表紙の左肩に、双边刷棹書題簽(一九・一×三・九糎)、「金七十論 上(下)」、覆表紙の左肩に、双边刷棹書題簽(一九・八×三・八糎)、「金七十論 上(下)」。

〔内題〕「金七十論卷上（此是外道迦毘羅仙人所造明二十五諦非是仏法）」

尽七／（低八格）陳天竺三藏真諦訳、「金七十論卷中」外道迦毘羅仙人造

尽八／（低八格）陳天竺三藏真諦訳、「金七十論卷下」外道迦毘羅仙人造

尽九／（低七格）陳天竺三藏真諦訳。

〔尾題〕「金七十論卷上（八格空）尽七」、「金七十論卷中（一格空）（外

道迦毘羅／仙人所造）（二格空）尽八」、「金七十論卷下（八格空）

尽九」。

〔本文〕每半葉二行×一七字。

〔匡郭〕上下单边（二一・八糎）、無界。

〔版心〕「尽 金七十論卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二三丁（卷上）、第二冊、四二丁（卷中・二二丁、卷

下・二〇丁、刊記・一二丁）。

〔刊記〕「（低二格）奉再興（一格空）仏説一切経蔵／（低一格）今上皇

帝（三格空）玉体安穩／（低一格）東照権現（三格空）倍増威

光／（低二格）征夷大將軍左大臣源家光公武運長久／（低一格）

四海泰平（三格空）国家豊饒／（低一格）仏法紹隆（三格空）

利益無窮／（低一格）日本武州江戸東叡山／（低二格）山門三

院執行探題前毘沙門堂門跡／（低十一格）大僧正天海願主／（低

二格）寛永十四丁丑曆十二月十七日／（低十格）林氏幸宿花溪

居士菓行」。

〔印記〕「縁山學寮／□□樓□／□堂蔵印」（朱長方印、擦り消し）、「古

經／堂蔵」（鵜飼徹定、一八一四～一八九一、知恩院七五世、朱

方印）、「无礙菴」（今泉雄作、一八五〇～一九三一、美術家、朱

長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱長方印）、「帝國／昭和七・

七・九・購求」（朱丸印）。他、「□□蔵」（墨長方印、擦り消し）。

〔備考〕朱筆で返点、送仮名がごくわずかに施されるのみ。天海版一切

経。

223 顕戒論 三卷 最澄撰

〔請求番号〕WA七―二三三

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・四×一九・七糎。四針袋綴（糸切れ、取

扱注意）。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「顕戒論卷上／（低三格）前人唐受法沙門伝燈法師最澄撰」、「顕

戒論卷中／（低二格）前人唐受法沙門伝燈法師位最澄撰」、「顕

戒論卷下／（低一格）前人唐受法沙門伝燈法師位最澄撰」。

〔尾題〕「顕戒論卷中（下）」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕单边、下辺のみ双辺（二一・四×一七・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「顕戒論上（顕論上上・上下・中上・中

下・下上・下下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六〇丁（上上・四三丁、上下・一七丁）、第二冊、五五

丁（中上・二九丁、中下・二六丁）、第三冊、四七丁（下上・

二三丁、下下・二四丁)。

〔刊記〕「(低二格) 惟崑元和三(丁)巳」曆八月中旬於西京／(低二格) 北野経堂常明寺宗存令摺刊之畢」。

〔印記〕「光／貫」(墨丸印)、「寶玲文庫」(フランク・ホーレー、墨長方印)、国立国会図書館の印と受入印「書／(平成) 6. 12. 1 / 国会図」(朱印、平成六年二月一日)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他若干の書入有。川瀬二八五頁、宗存版。「月明荘」の印はないが、帙(藍色、題簽「北野経堂版／顕戒論(元和三年常明寺宗存刊／古活字版 少し水シミ) 三冊」、森銃三筆)からすると、反町茂雄の弘文荘が扱った本であることがわかる。

224 元亨釈書 三〇卷 虎関師鍊撰

〔請求番号〕WA七―一八七

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二七・七×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。第一冊と第一〇冊のみ、左肩に白墨で「元亨釈書」と打付書。

〔内題〕「元亨釈書目録／(低七格) 濟北沙門(二格空) 師鍊(二格空) 撰」、師鍊「元亨釈書卷第一(一三十)／(低七格) 濟北沙門(二格空) 撰」(一格空) 撰」。

〔尾題〕「元亨釈書目録終」、「元亨釈書卷第一(一三十)」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。端正な活字。

〔匡郭〕四周双辺(巻第一、二一・五×一七・三糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「尺一卷(尺表・尺一卷―三十巻) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八二丁(目録・一九丁、上元亨釈書表・三三丁、巻第一・二九丁、巻第二・三〇丁)、第二冊、八七丁(巻第三・三二丁、巻第四・二八丁、巻第五・二八丁)、第三冊、七〇丁(巻第六・二二丁、巻第七・二五丁、巻第八・二四丁)、第四冊、九三丁(巻第九・三二丁、巻第十・三一丁、巻第十一・二九丁、二二丁欠)、第五冊、九五丁(巻第十二・二七丁、巻第十三・二〇丁、巻第十四・二〇丁、巻第十五・二八丁、七・八丁乱丁)、第六冊、九一丁(巻第十六・二〇丁、巻第十七・三六丁、巻第十八・三五丁)、第七冊、八〇丁(巻第十九・二三丁、巻第二十・二九丁、巻第二十一・二八丁)、第八冊、八七丁(巻第二十二・二九丁、巻第二十三・三三丁、巻第二十四・二五丁)、第九冊、八七丁(巻第二十五・三二丁、巻第二十六・二八丁、巻第二十七・二七丁)、第一〇冊、七五丁(巻第二十八・二七丁、巻第二十九・二五丁、巻第三十・二二丁、東福海蔵禪院重刊／元亨釈書化疏^{有叙}、至徳元年甲子六月日疏)・一丁半、刊記・半丁)。

〔刊記〕「(低一格) 慶長乙巳歲仲夏日／(一行空)／(低十格) 下村生藏刊之」。

〔印記〕「皎亭改藏」(内野皎亭、朱長方印)、「寶玲文庫」(フランク・

ホーレー、墨長方印)、「書」(昭和) 51・12・11/国会図」。

〔備考〕無書入。切貼訂正有。慳貪箱(蓋、慶長版/元亨釈書)入。川瀬、二九〇・三三七・四二八頁。

225 金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌經 存卷一

〔請求番号〕WA七―一四四

〔体裁〕折本、一帖。

〔表紙〕薄茶色表紙。二八・八×九・八糎。

〔題簽〕無。

〔内題〕「金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌經卷第一(十四格空)冠/西天訳経三藏朝散大夫試鴻卿/伝法大師臣(一格空)法賢奉(一格空)詔訳」。

〔尾題〕「金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌經卷第一(十四格空)冠」。

〔本文〕一面六行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕上下单边(二二・一糎)、無界。

〔版心〕折り目に「冠」一(一十三)。

〔丁数〕一四紙。

〔刊記〕無。

〔印記〕「亀田文庫」(亀田候吉、朱長方印)、「帝國/圖書/館蔵」(朱方印)、「帝國/昭和十八・三・一五・購入」(朱丸印)。

〔備考〕無書入。天海版。本書は昭和一四年五月、実業家亀田候吉氏から国庫債券一〇七、五九〇円の寄贈を受け、それを基金として帝

国図書館が随意に購入した資料の一つである。この基金の寄贈の経緯については、村上清子「もう一つの亀田文庫」(『参考書誌研究』第三一号、一九八六年三月)に詳しい。

226 五家正宗賛 四卷 (宋) 釈紹曇撰

〔請求番号〕WA七―二六

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕後補黄色表紙。二八・六×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(二二・五×三・六糎)、「正宗賛 一(四/終)」。

〔内題〕「五家正宗賛_{并序}」、「希叟和尚正宗賛目錄」。

〔尾題〕「正宗讚終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双边(二二・三×一五・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「正宗序(正宗目・正宗・正宗臨(洞・

雲・為・法) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁(序・一丁、目錄・三丁、初祖菩提達磨大師)

雪峯真覚禪師・三八丁)、第二冊、六七丁(臨濟宗、慧照禪師)

密菴傑禪師)、第三冊、三五丁(曹洞宗、洞山悟本禪師/自得暉

禪師)、第四冊、五七丁(雲門宗、雲門匡真禪師/月堂昌禪師・

三四丁半、馮仰宗、馮山大円禪師/芭蕉徹禪師・一二丁、法眼

宗、清涼法眼禪師/永明智覚禪師・一〇丁半)。

〔刊記〕「(低一格)慶長十三戊申秋吉辰／(低一格)西京花園一枝軒板行之」。

〔印記〕卷末に「雲樹」(墨丸印)、「國立／圖書／館藏」(朱方印)、「國立圖書館／昭23: 3. 17／購入」(紫楮円印)。

〔備考〕切貼訂正有。朱墨による書入おびただし、貼紙有。川瀬三三八・六九四・七六六頁、第二版。図録篇一三二図(成篋堂文庫藏)と同版。

227 五燈会元 二〇卷 (宋) 釈普濟撰

〔請求番号〕WA七―五五

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕後補薄縹色(水色)表紙。二八・七×二〇・三釐。五針袋綴。一部の冊新補。

〔題簽〕題簽剥落。第九冊(卷第十二)のみ、左肩に後補の双边刷粋書

題簽(二〇・〇×四・三釐)、「五燈会元 十一」。

〔内題〕「五燈会元卷第一(二十)」。

〔尾題〕「五燈会元卷第一(二十)」。

〔本文〕每半葉二三行×二四字。稍小型の整った活字を用いる。

〔匡郭〕四周双边(卷第一、二三・六×一五・六釐)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「五灯序(五灯目一仏祖・五灯一仏祖一五灯二十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五〇丁(普濟序(整版)・一丁、序、峇宝祐改元清明

日通庵王慵謹序・一丁、卷第一・四八丁)、第二冊、五三丁(卷第二)、第三冊、四五丁(卷第三、一二丁「又十一」、以下、丁

附にずれ)、第四冊、四九丁(卷第四)、第五冊、八三丁(卷第五・三九丁、卷第六・四四丁)、第六冊、五三丁(卷第七)、第

七冊、五七丁(卷第八)、第八冊、九〇丁(卷第九・三〇丁、卷第十・六〇丁、丁附に誤植あり)、第九冊、四三丁(卷第十一)、

第一〇冊、五六丁(卷第十二)、第一一冊、一〇七丁(卷第十三・五五丁、卷第十四・五二丁)、第一二冊、一二七丁(卷第

十五・六四丁、卷第十六・六三丁)、第一三冊、九二丁(卷第十七・四四丁、卷第十八・四八丁)、第一四冊、六六丁(卷第

十九)、第一五冊、七〇丁(卷第二十・七〇丁、卷末に、円月の跋文の他、貞治五(一二三六六)年の跋刊、「貞治馬兒年正月望

書／此録禅徒至宝也禅行我朝莫盛如今／未刊行焉誠為缺典広化衆縁終成美／事戊申重陽日泉南小比丘彦貞謹識／版留建仁靈洞

法印宗応刊行」、本書の刊記、「(低六格低)寛永(乙亥)重陽日(二格空)洛陽富小路通讚州寺町／(低十八格)中村宗遵重

刊」(寛永乙亥、寛永二年)を「東京教育博物館」の原稿用紙に補写)。

〔刊記〕欠。

〔印記〕「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「圖／明治三九・七・七・購求」(朱丸印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆による書入が若干施されている

のみ。川瀬、三三九・七六八頁。

228 山菴雜録 二卷 (明) 釈無愠述

〔請求番号〕WA七―一二九

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補朱色空押小菊文様表紙。二七・九×一九・二糎。四針袋綴。

右上に「誤映入」(朱長方印、高木文庫)の捺された紙片を貼付。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「山菴雜録序」、「山菴襍録上」、「山菴襍録下」(低六格) 天台沙

門釈(一格空) 無愠述。

〔尾題〕「山菴襍録上」、「山菴襍録下」(低八格) 四明朱(一格空) 敬中

刊。

〔本文〕每半葉八行×一五字。

〔匡郭〕四周双辺(序、一八・〇×二二・八糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「雜録序(上・下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六七丁(序、洪武己巳夏六月) (低三格) 僧録司左善

世(二格空) 弘道序・二丁、自序、(低一格) 洪武八年臘月望

日(低四格) 天台山人釈(二格空) 無愠序・三丁、序、洪武

二十五年冬十月二十四日(低二格) 無聞居士(一格空) 眉山

(一格空) 蘇伯衡叙・三丁、上・五九丁、第二冊、六二丁(下・

五九丁半(六〇オ・4まで)、五一丁補写、後序、洪武庚午春二

月既望/天禧住山(一格空) 守仁(一格空) 題・半丁(六〇オ

六〇ウ)、後序、皆洪武庚午(一格空) 靈谷住山清澄拜題・
二丁(六一オ六二オ)。各冊とも前後に新補の遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「慶壽峰」(朱印)、「古/蘊」(墨方印)、「高木家藏」(高木利

太、朱長方印)、「帝國/圖書/館藏」(朱方印)、「帝國/昭和

二二・九・二二・購入」(朱丸印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名の他、上下欄、

行間等に朱墨による書人が多数施されている。書入紙片も貼付。

川瀬三四八・七九〇頁、慶長元和中刊。同種活字異植字版あり。

大東急記念文庫蔵本(図録篇七九二図)と同じ(イ)版。『高木

文庫古活字版目録』二二九番掲載。縹色の帙は高木文庫のもの。

229 三國仏法伝通縁起 三卷 凝然述

〔請求番号〕WA七―一二八

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・五×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「三國仏法伝通縁起卷上(下)」(低十格) 東大寺沙門(一格

空) 凝然(一格空) 述。

〔尾題〕「三國仏法伝通縁起卷上(下)」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・八糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「伝起上（下） 丁附」。

〔丁数〕 五六丁（卷上・二〇丁、卷中・一九丁、卷下・一七丁）。

〔刊記〕 卷末に、応永六（二三九九）年の原刊語のみ。

〔印記〕 「淳／風／堂／章」（朱、貨幣形印）、「松」（朱方印）、「高木家蔵」

（高木利太、朱長方印、表紙に捺された「取扱／注意／映入」の朱長方印も高木文庫のもの）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／昭和二三・九・購入」（朱丸印）。

〔備考〕 無書入。川瀬・三四七・七八二頁、（三）元和中刊、無辺無界、

一〇行二〇字。高木文庫蔵と著録される本が本書。仏教大学図書館にも同版本があるが、巻首丁のみ異版。『高木文庫古活字版目録』二〇五番に掲載。

230 ※三界義 源信著

〔請求番号〕 WA七―二二五

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 「帝／國／圖／書／館／蔵」の型押のある薄茶色表紙。二七・一

×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補、双辺刷粋書題簽（一九・七×三・七糎）、「三界義元」。

〔内題〕 「〔低二格〕 三界義」。

〔尾題〕 「〔低二格〕 三界義一卷訖」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。注小字双行。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・七糎。

〔版心〕 「三界」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 六三丁。他、新補の前遊紙一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「大寧院」（南禅寺の塔頭、廢絶、朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治三九・七・七・購入」（朱丸印）。

〔備考〕 明治三九年、帝國図書館が一括購入した京都の円光寺旧蔵書の一つ。川瀬未載、寛永頃の刊か。

231 雑問答 空海撰

〔請求番号〕 WA七―二八一

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 栗皮裏打改装表紙。二九・九×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に「雑問答」の題簽をコピーした紙片（一七・三×四・三糎）を貼付。

〔内題〕 「雑問答目録（三格空） 高野山（一格空） 弘法大師（一格空）撰」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・五×一五・七糎）、無界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「雑問答目（雑問答） 丁附」。

〔丁数〕 四五丁（目録・一丁、本文・四四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「大田氏藏書」(大田南畝、一七四九—一八二三、朱印) 「静岡／縣／遠江／國／濱名／郡／芳川／村／青林山／頭弥寺」(花文朱印)、「三河國烟岳山鳳來寺醫王密院／後來眺覽之主速還菴寺經庫」(墨印)、「横山／藏書」(朱方印)、国立国会図書館の印と受入印「書／2010.12.15／国会図」(朱印)。

〔備考〕 卷末に「改名昭阿(花押)／大法師祐盛、後表紙の見返しに「為元尽法界同令証三々平等功德求之者也／醫王院大僧都(梵字)」、「昭和十一年三月／横山沙門(印、横山／藏書)」と墨書識語。川瀬三四八頁。川瀬は(一)慶長中刊、双边有界、九行一七字本(成實堂文庫藏)と(二)寛永中刊、双边無界、一〇行二〇字本(高木文庫藏)の二種を著録するが、他に、单边無界、一〇行二〇字本(愛知学院大学図書館蔵本・高野山宝寿院蔵本)がある。版式からすると、国会本は、(一)寛永中刊、双边無界、一〇行二〇字本だが、それを確認する図版なく、保留。

232 止観義例 一卷 (唐) 湛然述

〔請求番号〕 WA七—二二八

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 新補香色表紙。二七・六×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「止観義例(七格空) 天台沙門(一格空) 湛然(一格空) 述」。

〔尾題〕 「止観義例」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边(二二・四×一六・一糎)、無界。

〔版心〕 「義例」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 四五丁。

〔刊記〕 「止観義例者似手至和間有板予行後因極毀久／闕本矣但聞而不能得者実斯文也近有四明茲／本經書防葉苟謹募僧俗同力成就命工刻梓以／広流布庶使或見或聞了知妙教普及有情俱登／彼岸皆歲己丑乾道五年八月中秋日謹誌／(一行空)／(低三格) 右此本者以旧本校檢之而印写之焉／(低三格) 于時元和六年^庚五月上旬／(一行空)／(低十三) 武州江戸(一格空) 開板」。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受入印「書／(平成) 7. 3. 7／国会図」(朱印)。巻首右下に墨長方印が捺されているが、破損、判読不可。

〔備考〕 卷末に「堯達日寛」の墨書があるが、墨塗抹。朱句読点、傍点。朱墨で返点、振仮名、送仮名が施されている他、若干の朱書入有。全丁裏打修補。川瀬七四〇頁。伝本他に、叡山文庫蔵本・日光天海蔵本。

233 止観義例随釈 六卷 (宋) 処元述

〔請求番号〕 WA七—二九〇

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 後補薄縹色表紙。二八・二×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「止観義例随积^{并序}」(一卷第六) (五格空) 永嘉沙門処元述。

〔尾題〕 「止観義例随积卷第一(二)終」、 「止観義例随积卷第三(四・

五)」、 「止観義例随积卷第六^全」。

〔本文〕 每半葉八行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边(二三・六×一五・六糎)、有界。

〔版心〕 黒口及花口魚尾、中縫、「随积一(一六) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六九丁(序、大宋崇寧二年甲申夏五月初八日東谿草堂

序、卷第一・三三三丁、卷第二・三六丁)、第二冊、六五丁(卷第

三・三六丁、卷第四・二九丁、一二丁欠)、第三冊、六七丁(卷

第五・三三丁、卷第六・三五丁)。

〔刊記〕 「(低一格) 于時元和二^兩曆仲秋上句^下」(低十格) 於山門西塔南谷

摺刊之^一(卷第一、卷末)、「(低二格) 于時元和二^丙辰^辰曆

孟冬下旬^一」(低十一格) 於山門西塔南谷摺之^一(卷第六、卷末)。

〔印記〕 「山門大林^一藏本」(墨長方印、墨塗抹)、「山門長壽院」(朱長方

印、卷第二以外は墨塗抹)、国立国会図書館の印と受入印「書^一

2016. 11. 8 / 国会図」(朱印)。

〔備考〕 第一冊の見返しに、「新本之点并以三丁付^上」と墨書。墨

筆(一部朱筆)で返点、振仮名、送仮名、新本との校合が若干

施されている。川瀬三〇二頁、叡山版。安田文庫蔵本を著録す

るのみ。

234 十不二門指要鈔 二卷 (宋) 积知礼撰

〔請求番号〕 WA七―一二七

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二六・八×一九・三糎。四針袋綴。右肩の「^取綴

帙入」(朱長方印、高木文庫)。

〔題簽〕 無。左肩に「指要鈔 全」と打付書。

〔内題〕 「指要鈔序(五格空) 東山沙門(二格空) 遵式(二格空) 述」、

「十不二門指要鈔卷上(下) / (低八格) 四明沙門(三格空) 知

礼(二格空) 述」。

〔尾題〕 「十不二門指要鈔卷上(下)」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。稍小型の活字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕 「指要鈔上(下)」と丁附が刻されるのみ。

〔丁数〕 五五丁(序、二丁、卷上・二七丁。一〇・一三丁欠、白丁を補

綴。卷下・二六丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「酒竹文庫」(大野酒竹、朱長方印)、「帝國 / 昭和二二・九・

二〇・購入」(朱丸印)。

〔備考〕 無書入。やや厚手、つるつるした手触りの料紙。虫損、破損箇

所、一部裏打修補。川瀬三四八頁、元和寛永中刊。高木文庫蔵

本(現、国立国会図書館蔵)のみ著録。「高木家蔵」の印は捺さ

れていないが、縹色の帙、表紙に捺された「^取綴帙入」の朱長方

印から、高木文庫旧蔵本とわかる。『高木文庫古活字版目録』
二二三番掲載。

235 四分律行事鈔資持記 (宋) 釈元照撰

〔請求番号〕WA八一九

〔体裁〕 大本、一六冊。

〔表紙〕 薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙(裏打改装)。二七・七×
一九・三糎。五針袋綴。第一・六・一三冊の表紙右肩に、「行
資／共三十一」、第一冊と第二冊の表紙右下に、「国分寺／(宝
／庫)」、第四冊から第一六冊の表紙右下に、「瑞詮」と墨書。

〔題簽〕 無。左肩に「資持記上一上(一四)」と打付書。

〔内題〕 「四分律行事鈔資持記上一上并序(中一上・下二)／(低八格) 大
宋余杭沙門釈元照(一格空)撰」、「四分律行事鈔資持
記上一下(一上四・中一下—中四下・下二—下四)」。

〔尾題〕 「四分律行事鈔資持記上一上(一四)」。

〔本文〕 每半葉二行×二二字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二四・一糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「資持上一上(一四) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六一丁(上一上并序)、第二冊、六七丁(上一下)、第三
冊、三九丁(上一二)、第四冊、四四丁(上一三)、第五冊、六〇丁
(上一四)、第六冊、四〇丁(中一上)、第七冊、五四丁(中一下)、
第八冊、五四丁(中二)、第九冊、三三丁(中三上、二八ウ・

10、「誰」を「請」に、11「請」を「僧」に切貼活字紙片を
上から貼付して訂正)、第一〇冊、四三丁(中三下、六ウ・6
「牛」を「箸」に切貼活字紙片を上から貼付して訂正)、第一一
冊、四七丁(中四上)、第二二冊、二八丁(中四下)、第二三冊、
五〇丁(下一)、第一四冊、三六丁(下二)、第一五冊、五七丁
(下三)、第一六冊、四九丁(下四)。

〔刊記〕 「(低二格) 正保三成兩曆／(低七格) 三條通菱屋町婦屋」／(低
十四格) 林甚右衛門」。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受人印「書／(平成) 20. 1. 25／国会
図」(朱印)。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施されている。第一冊の巻末
に、「于時弘化三年五月吉辰求之 大坂 奥徳寺主瑞詮」と墨書。
川瀬七七四頁。伝本他に、研医会図書館蔵。

236 ※四分律刪補隨機羯磨疏 四卷 (唐) 釈道宣撰

〔請求番号〕WA八一一

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙(裏打改装)。二七・三
×一八・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。各冊とも表紙の左下に「三(墨)、「一(朱)とあるのみ。

〔内題〕 「四分律刪補隨機羯磨疏序／(低四格) 大唐沙門釈(一格空) 道
宣(一格空) 於終南山豊徳寺撰」、「四分律刪補隨機羯磨疏卷第

一〔始從集法／訖縁成篇〕（一）〔四分律刪補隨機羯磨疏卷第四下〕。

〔尾題〕「四分律刪補隨機羯磨疏卷第一（一四下）。

〔本文〕 每半葉一〇行×二二字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・九糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「業疏一（一四下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三八丁（序、卷第一）、第二冊、四三丁（卷第一下）、

第三冊、四三丁（卷第二上）、第四冊、三〇丁（卷第二下）、第

五冊、四〇丁（卷第三上）、第六冊、四四丁（卷第三下）、第七

冊、三〇丁（卷第四上）、第八冊、四九丁（卷第四下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「太平」（緑丸印）、国立国会図書館の印と受入印「書／（平成

18. 12. 13／国会図」（朱印）。

〔備考〕 一文ごとに頭に朱丸句点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施さ

れている他、若干の書人有。川瀬未載。

237 四分律刪補隨機羯磨疏濟縁記 四卷（宋）积元照撰

〔請求番号〕 WA八―一三

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繫ぎ蓮華唐草文様表紙（裏打改装）。二七・四

×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。各冊とも表紙の左下に「三」（墨）、「一」（朱）とあるのみ。

〔内題〕 「四分律刪補隨機羯磨疏濟縁起一上^{并序}／（低八格）大宋余杭沙門

积（二格空）^{元照}（二格空）述」（四分律刪補隨機羯磨疏濟縁起

四下）。

〔尾題〕 「四分律刪補隨機羯磨疏濟縁起一上／（低五格）南京招提寺清衆

施淨財二万開疏記両卷／（低五格）庶使律教不墮仏種無窮／（低

十三格）幹縁比丘宗弁誌之」（四分律刪補隨機羯磨疏濟縁起四

下）。

〔本文〕 每半葉二行×二二字。注小字双行。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二四・〇糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「濟縁一上（一四下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四一丁（序、一上）、第二冊、三五丁（二下）、第三冊、

三七丁（二上）、第四冊、三七丁（二下）、第五冊、三九丁（三

上）、第六冊、六二丁（三下）、第七冊、二四丁（四上）、第八冊、

三八丁（四下）。

〔刊記〕 「慶安五^{辰壬}歳吉旦／三條通菱屋町婦屋／林甚右衛門尉板行」（单辺

枠、整版）。

〔印記〕 「太平」（緑丸印）、国立国会図書館の印と受入印「書／（平成

17. 3. 3／国会図」（朱印）。

〔備考〕 一文ごとに頭に朱丸句点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施さ

れている。川瀬七七五頁。伝本、研医会図書館蔵本他。

238 四分律含注戒本疏 四卷 (唐) 釈道宣撰

〔請求番号〕 WA八―一四

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙(裏打改装)。二七・三

×一八・九糶。五針袋綴。

〔題簽〕 無。各冊とも表紙の左下に「三」(墨)、「二」(朱)とあるのみ。

〔内題〕 「四分律含注戒本疏序」(低六格) 終南太一山沙門釈(一格空) 道宣(一格空) 撰、「四分律含注戒本疏卷第一」(一四下)。

〔尾題〕 「四分律含注戒本疏卷第一上」(一四下)。

〔本文〕 每半葉一〇行×一九字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二〇・五糶。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「戒疏一上」(一四下) 丁附。

〔丁数〕 第一冊、四五丁(序、一上)、第二冊、四六丁(一下)、第三冊、五九丁(二上)、第四冊、五二丁(二下)、第五冊、六〇丁(三上)、第六冊、六一丁(三下)、第七冊、五二丁(四上)、第八冊、五〇丁(四下・四八丁、跋・二丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「太平」(緑丸印)、国立国会図書館の印と受人印「書」(平成)

18 12 13 / 国会図 (朱印)。

〔備考〕 一文ごとに頭に朱丸句点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されてい
る他、若干の朱墨による書入有。川瀬七七五頁。

239 四分律含注戒本疏行宗記 四卷 (宋) 釈元照撰

〔請求番号〕 WA八―一六

〔体裁〕 大本、八冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙(裏打改装)。二七・三

×一八・九糶。五針袋綴。

〔題簽〕 無。各冊とも表紙の左下に「三」(墨)、「二」(朱)とあるのみ。

〔内題〕 「四分律含注戒本疏行宗記一上」^{并序}(低八格) 大宋余杭郡沙門(一格空) 元照(一格空) 述(四分律含注戒本疏行宗記四下)。

〔尾題〕 「四分律含注戒本疏行宗記一上」(一四下)。

〔本文〕 每半葉一二行×二二字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・九糶。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「行宗一上」(一四下) 丁附。

〔丁数〕 第一冊、六一丁(序、一上)、第二冊、四二丁(一下)、第三冊、五五丁(二上)、第四冊、四八丁(二下)、第五冊、四七丁(三上)、第六冊、五二丁(三下)、第七冊、五〇丁(四上)、第八冊、四九丁(四下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「太平」(緑丸印)、国立国会図書館の印と受人印「書」(平成)

18 12 13 / 国会図 (朱印)。

〔備考〕 一文ごとに頭に朱丸句点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されてい
る他、若干の朱墨による書入有。第八冊、三一ウ・四
三二ウ・一、三四オ・一、三四ウ・三、三七ウ・二、一、二、本文

を切取、以下丁附にも訂正が施されている。川瀬七七五頁。伝本他に、研医会図書館蔵本。

240 舍衛国王夢見十事經・仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經・仏説文殊師利五字瑜伽根本秘密大智神咒大陀羅尼經・仏説如意虚空藏菩薩羅尼經

〔請求番号〕WA七―二二一

〔体裁〕折本、一帖。

〔表紙〕新補焦げ茶色表紙。二五・一×九・五糎。折本。

〔題簽〕後補香色金箔散らし書題簽（二六・九×二・二糎）、〔舍衛国王夢見十事經〕。

〔内題〕〔舍衛国王夢見十事經（六格空）若〕、「仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經」、「仏説文殊師利五字瑜伽根本秘密大智神咒大陀羅尼經」、

「仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經」。

〔尾題〕〔舍衛国王夢見十事經〕、「金剛寿命陀羅尼經」、「仏説文殊師利五字瑜伽根本秘密大智神咒大陀羅尼經」、「仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經」。

羅尼經〕。

〔本文〕每半葉五行×一七字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・三糎。

〔版心〕無。

〔丁數〕六紙一二折（舍衛国王夢見十事經）、三紙五折（仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經）、二紙五折（仏説文殊師利五字瑜伽根本秘密大

智神咒大陀羅尼經）、六紙一四折（仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經）。

〔刊記〕〔舍衛国王夢見十事經（六格空）若〕、「仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經」、「仏説文殊師利五字瑜伽根本秘密大智神咒大陀羅尼經」、

「仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經」「舍衛国王夢見十事經」の卷末に、「乙卯歳大日本国大藏都監奉／勅彫造」（乙卯歳、元和元年）。

〔印記〕「江州金森善立寺」（朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、

「大正／9・5／14／購求」（紫槽円印）。

〔備考〕前表紙の見返しに、「夢見十事經／金剛寿命經／五字瑜伽神咒經／虚空藏菩薩」と墨書。全丁裏打修補。「舍衛国王夢見十事經」、

「仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經」の一部、「仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經」の料紙は黄色の料紙を用いている。「仏説如意虚空藏菩薩陀羅尼經」にのみ墨筆で返点、送仮名が若干施されるのみ。宗存版の大藏經典四種を合わせて折本一帖に装幀したもの。川瀬二八四頁。

241 积四分律含注戒本疏科 二卷（宋）积元照撰

〔請求番号〕WA八―一五

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補標色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（裏打改装）。二七・三

×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。各冊とも表紙の左下に「三」（墨）、「一」（朱）とあるのみ。

〔内題〕「釈四分律含注戒本疏科分二（一格空）大宋余杭沙門（二格空）元照（二格空）録」、「釈四分律舍注戒本疏第三卷分二（一格空）大宋余杭沙門元照録」。

〔尾題〕無。

〔本文〕ほぼ四段に植版、每半葉二二行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・七糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「戒疏科上（下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁（上）、第二冊、三六丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「太平」（緑丸印）、国立国会図書館の印と受人印「書」（平成）

17. 3. 1 / 国会図（朱印）。

〔備考〕無書入。帙に臨川書店のラベル貼付。川瀬七七五頁。

242 釈四分律刪補隨機羯磨疏科 二卷（宋）釈元照撰

〔請求番号〕WA八—一二

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（裏打改装）。二七・五

×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。各冊とも表紙の左下に「三」（墨）、「二」（朱）とあるのみ。

〔内題〕「釈四分律刪補隨機羯磨疏科分三（一格空）余杭郡沙門釈（一格空）元照（一格空）録」、「釈四分律刪補隨機羯磨疏第三卷分二（一格空）余杭郡沙門釈（一格空）元照」。

〔尾題〕無。

〔本文〕ほぼ四段に植版、每半葉二二行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・九糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「業疏科上（下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁（上）、第二冊、二六丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「太平」（緑丸印）、国立国会図書館の印と受人印「書」（平成）

18. 12. 13 / 国会図（朱印）。

〔備考〕無書入。帙に臨川書店のラベル貼付。川瀬七七五頁。伝本他に、研医会図書館蔵本。

243 釈氏要覽 三卷（宋）釈道誠撰

〔請求番号〕寄別九—三—一一

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕後補薄灰色表紙。二八・〇×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二六・七×三・六糎）、「釈氏要覽 上（中・下）」。

〔内題〕「釈氏要覽序（五格空）功德主仙林住山壇主愚極（低二格）宣徳郎守尚書屯田員外郎上輕車都尉崔（一格空）育材（一格空）撰」、「釈氏要覽卷上（一格空）建康天禧講下聚公講主助緑

／（低二格）錢塘月輪山居講經論賜紫沙門釈（半格空）道誠（半格空）集」、「釈氏要覽卷中（低一格）錢塘月輪山居講經論賜

紫沙門積（一格空）道誠（一格空）集、「釈氏要覽卷下」（低一格）錢塘月輪山居講經論賜紫沙門積（二格空）道誠（一格空）述」。

〔尾題〕「釈氏要覽卷上（中・下）。

〔本文〕每半葉五行×双行二〇字。

〔匡郭〕四周単辺（序、二二・四×一四・一糧、卷上、二二・五×一四・二糧）、有界。

〔版心〕白口及花口魚尾、中縫、「要覽序（上・中・下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁（序・一丁、卷上・七〇丁）、第二冊、六一丁

（卷中）、第三冊、五八丁（卷下・五七丁、後序・一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「亀田文庫」（亀田候吉、朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「帝國／昭和十八・三・一五・購入」（朱丸印）。

〔備考〕切貼訂正有。第一冊、前表紙見返しに「極性寺」、第二冊、前表紙見返しに「無極」、第三冊、前表紙見返しに「知恩寺久岸和尚形見／無極」と墨書識語。川瀬は、『釈氏要覽』の古活字版の伝本として、岩瀬文庫蔵本、内藤虎次郎博士蔵本（現、杏雨書屋蔵）、神田喜一郎氏蔵本（現、大谷大学図書館蔵、以上、川瀬・三四七頁）、内閣文庫蔵本、天理図書館蔵本を著録する（川瀬・七八三頁。これ以外に、名古屋大学附属図書館、叡山文庫蔵本、佛敎大学図書館にもある）が、版種についての言及はない。反町茂雄は、『弘文荘古活字版目録』（一九七二年）で、（一）慶長

一五年の識語を有する本（現所在不明）と、（二）慶長元和中刊と認定する古活字版（現、佛敎大学図書館蔵）を著録しているが、この目録に掲載されている図版を参考に伝本を見てみると、『釈氏要覽』の古活字版には版種が少なくとも「三版」あることがわかった。三つ目の版は、西尾市岩瀬文庫に所蔵されているが、岩瀬文庫のデータベースでは、「寛永頃整版（四周単辺枠は古活字版の枠を用いる）」として、これを古活字版とは認めていない。しかし、岩瀬文庫本をよく見てみると、古活字版特有の切貼訂正が巻中の四四丁裏の三行目（恩孝）と、五五丁裏の五行目（志學）に見られる他、巻下の巻首丁の四行目、空白部分を埋めるために用いた「込めもの」の跡が見られることから、古活字版と判断することができる。

ところで、川瀬は、七八三頁に「釈氏要覽の異版」として、国立国会図書館蔵本を著録し、「釈氏要覽には寛永初年刊無刊記整版本にて、四周単辺の野のみ活版のそれにて困めるものあり」という見解を述べるが、この見解は不審である。本書には、古活字版の特色である切貼訂正が施されている他、複数の同一の欠損活字（例、「四」、上、一〇ウ・一、二一オ・三、二六オ・一、二九オ・五、中、二二オ・二、三七オ・三、下、一六ウ・四、二四ウ・二、二八ウ・一、「家」、上、二四ウ・五、二六ウ・四、二七オ・三、「人」、上、八ウ・三、一四ウ・四、三四ウ・三、四三ウ・一、下、二一ウ・二、二七オ・一、三八ウ・五、四〇ウ・三）

が繰り返し用いられていることから、本書は古活字版であることがわかる。前掲の『弘文荘古活字版目録』（七四―七五頁）には、本書（伝本、他に国立公文書館内閣文庫にもあり）と同版が掲載されるが、各冊の後表紙見返しには、「慶長拾五曆（庚／戌）陸月三日買得之／三井北院喜見房／探題法印舜雄（花押）」の墨書識語（買得記）が記されていることから、川瀬が言う「寛永初年刊」ではなく、慶長一五年以前に刊行された古活字版とするのが正しい。ちなみに国立国会図書館のデジタルコレクションの書誌情報にも、「江戸刊」とあるだけで、古活字版の記載はない。

244 釈門自鏡録（唐）釈懷信撰

〔請求番号〕WA七―一二四

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 新補紺色改装表紙。二七・四×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕 新補の双辺刷枠の題簽（一九・六×三・七糎）を左肩に貼付するが、無題。

〔内題〕 一（下向き花口魚尾）釈門自鏡録序／（低十格）藍谷沙門（二格空）懷信（一格空）述。

〔尾題〕 「釈門自鏡録卷下」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周単辺（序、二二・三×一五・〇糎、上、二二・二×

一五・一糎）、無界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「自鏡序（上・下） 丁附」。

〔丁数〕 七五丁（序・三丁、上、業繫長遠録一、勃逆闡提録二、輕毀教法録三、妬賢嫉化録四、忿恚貧鄙録五・俗学無裨録六、懈慢不動録七・三九丁、下、害物傷慈録八、飲取非法録九、慳損僧物録十、三三三丁）。他、前後に新補の遊紙、各一丁。

〔刊記〕 「（低三格）于時元和七年辛酉三月日（一格空）於江戸梓刊」。

〔印記〕 「台山延曆寺／吉祥院藏本」（朱長方印、陰刻）、「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「明治三八・三・一〇・購求」（朱丸印）。

〔備考〕 無書入。川瀬三二五・三二六頁、「江戸」と称した刻本の最も古いものは、元和年間刊行の天台学に関する古活字印本で、元和六・七年に刊行されているとして、『法華肝要略注秀句集』（二卷一冊、元和六年五月刊）、『山家義苑』（二卷一冊、元和六年七月刊）、『助顕唱導文集』（五卷五冊、元和六年十二月刊）、『釈門自鏡集』（二卷一冊、元和七年三月刊）、『払惑袖中策』（二卷一冊）の五種の古活字版を著録する。「其の尽く天台学書なる点より恐くは、未だ寛永寺の造営を見なかつた當時に於いて、川越の喜多院に棲住してゐた天台僧正を中心とする天台僧侶の江戸に於ける活動の現れではあるまいかと思はれる。然らば、叡山に於ける当時の盛なる活字開版事業の影響に基くものであつて、後年（寛永末期より）天台僧正が、一切経の活字印行を發願する若干の準備となつたものであらうと思はれる」。なお、上記五

種の古活字版とは別に、「右此本者以旧本校検之而印写之焉／于時元和六^{甲庚}五月上旬／武州江戸 開板」の刊記を有する『止観義例』（一冊）がある（川瀬七四〇頁、国会図書館にも所蔵あり。WA七―二二八）。

245 正因果集 三卷 存海著

〔請求番号〕WA七―七四

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補灰色表紙。二七・二×二〇・二種。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低二格）正因果集上（下）」、「（低三格）正因果集中」。

〔尾題〕「正因果集上畢（二格空）三業不相応存海記之」、「正因果集中終

（二格空）三業不相応存海記之」、下巻は巻末に「大永二年十月十五日三業不相応沙門／存海記之」とあるのみ。

〔本文〕每半葉九行×一七字。太い字画の大型活字。

〔匡郭〕上辺、左右辺とも単辺、下辺のみ双辺（二一・七×一七・一種）、

無界。

〔版心〕様々な文様を刻した黒口に双花口魚尾（五種類）に、上下大黒

魚尾（二種類）、中縫、「正因上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕七九丁（上・二二丁、中・三六丁、下・二二丁）。

〔刊記〕「惟宣元和四^戊午曆正月下旬」（上、巻末）。

〔印記〕「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治三三・一〇・二六・

購求」（朱丸印）。

〔備考〕無書入。宗存版。

246 上新請来経等目錄（御請来経等目錄） 空海編

〔請求番号〕WA七―六

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二五・四×一八・七種。四針袋綴。右下に「亮

融」と墨書（外題と同筆）。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一九・三×三・七種）、「上新請来経等目

録表 全」。

〔内題〕「（低一格）上新請来経等目錄表」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一九字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・五種。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫には丁附を刻するのみ。

〔丁数〕二五丁。

〔刊記〕巻末に原刊記、「（低一格）建治三年（一格空）七月廿八日於金

剛岸寺信（一格空）書」。

〔印記〕「東京／圖書／館蔵」（朱方印）、「圖／明治二八・三・九・購求」

（朱丸印）。

〔備考〕無書入。川瀬三四七頁に、慶長元和中刊として京都帝大図書館

（現、京都大学附属図書館）蔵本と帝国図書館（現、国立国会図

書館) 蔵本を著録するが、京大本は七行一七字本で国会本とは別版。七七九頁に、「高野版の活字印行かと思はれる龍門文庫蔵本」(図録篇六七六図)を著録するが、国会本はこれと同版である。

247 諸經要集 二十卷 (唐) 釈道世撰

〔請求番号〕 WA七—八三

〔体裁〕 大本、二〇冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二八・七×二〇・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「諸經要集序 (九格空) 帳一 / (低四格) 大唐西明寺沙門道世玄
撰撰」、「諸經要集卷第一」、「諸經要集卷第二 (七格空) 帳二 /

(低四格) 西明寺沙門道世玄撰撰」(—諸經要集卷第二十 (六格
空) 楹七 / (低四格) 大唐西明寺沙門道世玄撰撰)。

〔尾題〕 「諸經要集卷第一 (七格空) 帳一」(—諸經要集卷第二十 (六格
空) 楹七)。

〔本文〕 每半葉二行×一七字 (六行×一七字、六行×一七字)。
〔匡郭〕 上下单边 (二一・七糎)、無界。

〔版心〕 「帳 諸經要集卷一 (—七) 丁附」、「対 諸經要集卷八 (—
十三) 丁附」、「楹 諸經要集卷十四 (—二十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二九丁 (序、卷第一)、第二冊、四〇丁 (卷第二)、第
三冊、三二丁 (卷第三)、第四冊、四一丁 (卷第四)、第五冊、

三二丁 (卷第五)、第六冊、四〇丁 (卷第六)、第七冊、三五丁
(卷第七)、第八冊、四二丁 (卷第八)、第九冊、三三丁 (卷
九)、第一〇冊、五二丁 (卷第十、四〇丁欠)、第一一冊、二〇丁
(卷第十二)、第二二冊、三九丁 (卷第十二)、第一三冊、三三丁
(卷第十三)、第一四冊、三八丁 (卷第十四)、第一五冊、三三丁
(卷第十五)、第一六冊、二七丁 (卷第十六)、第一七冊、三七丁
(卷第十七)、第一八冊、一六丁 (卷第十八、一一丁・一八—二六
丁・二八—三〇丁・三二—三四丁)、第一九冊、三三丁 (卷第
十九)、第二〇冊、三六丁 (卷第二十)。

〔刊記〕 「(低二格) 奉再興 (二格空) 仏説一切経蔵 / 今上皇帝 (三格空)
玉体安穩 / 東照権現 (三格空) 倍増威光 / (低一格) 征夷大将
軍左大臣源家光公武運長久 / 四海泰平 (三格空) 国家豊饒 / 仏
法紹隆 (三格空) 利益無窮 / 日本武州江戸東叡山 / (低一格)
山門三院執行探題前毘沙門堂門跡 / (低十格) 大僧正天海願主
 / (低二格) 寛永十五戊寅曆三月十日 / (低十一格) 林氏幸宿
花溪居士 / (低十七格) 葉行」。

〔印記〕 「帝國 / 圖書 / 館蔵」(朱方印)、「圖 / 明治四一・三・二六・購
求」(朱丸印)。

〔備考〕 前表紙見返し (第一冊をのぞく) に「浄教房真如蔵」、卷末、も
しくは後表紙見返しに、「禅林院常住」(第一・三・五・六・七
冊)、「台峯禅林教院常住」(第四冊)、「天台山南溪禅林院常住」
(第八冊)、「台嶺禅林教院常住」(第九冊)、「天台南谷禅林院常

住〕(第一〇冊)、「銀地嶺禪林常住」(第一一冊)、「赤城禪林常住」(第一二冊)、「華頂禪林常住」(第一三冊)、「四明山下禪林常住」(第一四冊)、「台岳禪林常住」(第一五冊)、「佛隴禪林常住」(第一六冊)、「祝融峯下禪林常住」(第一七冊)、「金地嶺禪林常住」(第一八冊)、「北嶺禪林常住」(第一九冊)と墨書識語。書き入れは若干の朱丸と句読点のみ。料紙は厚手の料紙を用いる。天海版一切経。

248 授決集 二卷 円珍著

〔請求番号〕WA七―一二一

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕「帝／国／図／書／館／蔵」を型押した薄茶色表紙。二八・六×

二〇・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷粋書題簽(二八・四×三・六糎)、「授決集 完」。

〔内題〕「授決集叙」、「授決集卷上(下)」。

〔尾題〕「授決集卷上(下)」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周単辺(叙、二二・九×一六・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「授決集序(上・下) 丁附」。

〔丁数〕一〇六丁(序、日本元慶八年甲辰二月二十三日甲寅前入唐尋教沙門円珍故叙・一丁、目錄・三丁、卷上・五二丁、卷下・五〇丁)。

〔刊記〕「(低二格) 于時元和四年^{戊午}八月上旬／(低十一格) 於山門宝幢院摺刊施」。

〔印記〕「青蓮／王府」(青蓮院、朱方印)、「帝國／圖書／館蔵」(朱方印)、「圖／明治三二・一一・七・購求」(朱丸印)。

〔備考〕無書入。川瀬、三〇二頁、叡山版。

249 浄土略名目図見聞 二卷 了譽撰

〔請求番号〕WA七―一一八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙。二八・二×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「名目図見聞上(下)」と朱打付書。

〔内題〕「浄土略名目図見聞上(下)」。

〔尾題〕「浄土略名目図見聞上(下) 終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「略見上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(上)、第二冊、五〇丁(下)。

〔刊記〕「慶長十八^{甲申}曆六條西寺内開之(墨方印、耕／林)」(甲丑は癸丑の誤り)。

〔印記〕「高木家蔵」(高木利太、朱長方印、表紙右上の^{「取致」}「^{注意}映入」も高木文庫の印)、「国立／圖書／館蔵」(朱方印)、「国立圖書館／昭 23・3・19和／購入」(紫椿印)。

〔備考〕朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他書入有。各冊巻末

に「沙門□□（花押）」、下巻の尾題の後に、「天正十八年十二月中旬寄進（墨塗抹）／（墨塗抹）寺」と墨書識語。『高木文庫古活

字版目録』二二〇番掲載。川瀬二八七・七九三頁に高木文庫蔵本（現、国立国会図書館蔵）を著録、「慶長十八年六條西寺内開版の由、刊記を妄補偽造した一本」（二八七頁）、「寛永四年刊活字印本（日光天海蔵にも一本蔵）の無刊記異植字版であるのに「慶長十八（甲／丑）曆六條西寺内開之印」の刊記を妄補したものである」（七九三頁）とする。三四三頁に、寛永四年刊本（杉浦三郎兵衛氏蔵、現所在不明）を著録し、さらに高木文庫蔵本について、「同種活字異植版なる無刊記古活字印本あり」と言及する。図録篇七九八図に国会本の巻首と、妄補した刊記部分の図版を収む。

250 禅林類聚 二十卷（元）善俊・智境・道泰等編

〔請求番号〕WA七―二八七

〔体裁〕大本、四冊。

〔表紙〕後補焦げ茶色表紙。二八・一×二一・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「禅林類聚一（一四）之目録」、「禅林類聚卷第一（一二十）」。

〔尾題〕「禅林類聚卷第二」、「禅林類聚卷第一終」、「禅林類聚卷第二」、

「禅林類聚卷第十一終」、「禅林類聚卷第十五」、「禅林類聚卷第

十六」、「禅林類聚卷第二十」。

〔本文〕每半葉二行×二二字。附訓植版（行間に片仮名を小字で附植している）。

〔匡郭〕四周单边（巻第二、二三・〇×一八・八糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「禅林一（一四）丁附」。

〔丁数〕第一冊、九一丁（一之目録・一丁、巻第一・一オ〜一四オ、巻

第二・一四ウ〜四二オ、巻第三・四二オ〜五八ウ、巻第四・五八ウ〜七二ウ、巻第五・七三オ〜九一ウ、丁附七十目欠）、

第二冊、八六丁（二之目録・一丁、巻第六・一オ〜一八ウ、巻

第七・一九オ〜三三ウ、巻第八・三四オ〜五〇ウ、巻第九・

五〇ウ〜七〇オ、巻第十・七〇オ〜八五ウ）、第三冊、八一

丁（三之目録・一丁、巻第十一（巻第三）・一オ〜一九ウ、巻

第十二・二〇オ〜三七ウ、巻第十三・三七ウ〜四七オ、巻第

十四・四七ウ〜六八オ、巻第十五・六八ウ〜八〇ウ）、第四冊、

八六丁（四之目録・一丁、巻第十六（巻第四）・一オ〜一六オ、

巻第十七・一六ウ〜二八ウ、巻第十八・二九オ〜四七ウ、巻第

十九・四八オ〜六六ウ、巻第二十・六七オ〜八五ウ）。

〔刊記〕〔低一格〕於越前国靈泉寺二代目雷沢和尚之仮名点細被付／（低

一格）置候不残一点校合悉致精誠畢／于時（一格空）元和六^庚甲

極月吉辰／（低十格）二條通二王門町／（低十五格）長嶋世兵

衛開梓」。

〔印記〕「陽／廣／寺」（墨丸印）、国立国会図書館の印と受入印「書／

2013. 9. 25/国会図〔朱印〕。

〔備考〕各冊とも前表紙見返しに「四卷之内 松野山陽広寺（墨丸印）」、後表紙見返しに「陽広四世江岩国代調之／六代修此破表」、卷末に「主（墨塗抹）」と墨書識語。墨書入多数。川瀬三四一・七三二頁。

251 禅林類聚 存卷第一一五・卷第十六―二十（元）善俊・智境・道

泰等編

〔請求番号〕WA七―二八八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕栗皮表紙（原表紙か）。二八・〇×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽（一八・〇×三・七糎）、「禅林拔類聚

〔□一／□五〕（破損有）。

〔内題〕「禅林類聚一之目錄」、「禅林類聚卷第一（一五）」、「禅林類聚四

之目錄」、「禅林類聚卷第四（一五）」、「禅林類聚卷第四」（卷

十六）が正しい、「禅林類聚卷第十七（一二十）」。

〔尾題〕「禅林類聚卷第一」、「禅林類聚卷第一終」、「禅林類聚卷第十六」、

「禅林類聚卷第二十」。

〔本文〕每半葉二二行×二三字。

〔匡郭〕四周単辺（卷第一、二・三・八×一六・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「一（四）目錄」、「禅林一（四）丁附」。

〔丁数〕第一冊、九二丁（二之目錄・一丁、卷第一・一オ―一四ウ、卷

第二・一四ウ―四二オ、卷第三・四二オ―五八ウ、卷第四・

五八ウ―七二ウ、卷第五・七三オ―九一ウ）、第二冊、八六丁（四之目錄・一丁、卷第十六・一オ―一六オ、卷第十七・一六ウ―二八ウ、卷第十八・二九オ―四七ウ、卷第十九・四八オ―六六ウ、卷第二十・六七オ―八五ウ）。

〔刊記〕〔低一格〕於洛陽高台寺。

〔印記〕国立国会図書館の印と受入印「書／2013. 8. 23/国会図」（朱印）。

〔備考〕第一冊の卷末に「信州（墨塗抹）／信州（瑞松寺之僧梵洌、墨

塗抹）」、後表紙見返しに「従大雲山遺贈 不重代」、第二冊の卷

末に「金剛山明音寺什物」と墨書（一部朱書）識語。朱引、朱

句読点、朱墨書入有。川瀬二九六・七二二頁、高台寺版。高台

寺版『禅林類聚』の刊記には、「於洛陽高台寺／参来之徒板出之

誤多々／于時慶長十八癸丑菊月吉辰」とあるが、本書には「於

洛陽高台寺」とあるのみである。「これは慶長十八年刊本とは活

字の種類を異にする様で、恐らく元和寛永中の後刻であらう。

但し組版型などは全く同一である（七二二頁）。川瀬は、天理

図書館蔵本（六四九図、異版（イ）種）と小汀文庫蔵本（六五〇

図、異版（ロ）種）の二本を著録するが、互いに異植字版であ

る。図版で確認すると、国会本は天理図書館蔵本（六四九図、

異版（イ）種）と同版である。伝本他に、宮内庁書陵部蔵本。

252 叢林公論 一卷 (宋) 釈惠彬撰

〔請求番号〕WA七一九六

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・七×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補の双辺刷粋書題簽(一七・八×三・五糎)「叢林公

論 完」。

〔内題〕「叢林公論叙」、「叢林公論／(低七格)者庵(二格空)惠彬(一格空)述」。

〔尾題〕「叢林公論卷終」。

〔本文〕每半葉八行×一五字。

〔匡郭〕四周双辺(叙、一七・八×一三・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「公論序(公論) 丁附」。

〔丁数〕五〇丁(叙、淳熙己酉季春芋魁巖主宗惠叙・二丁、本文・四八丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「鹿王藏書」(朱長方印)、「鹿王／禪室」(朱方印、陰刻、以上二印、天竜寺鹿王院)、「芥／室」(朱方印、陰刻)、「東京／圖書／館藏」(朱方印)、「圖／明治二八・三・九・購求」(朱丸印)。

〔備考〕卷首五丁まで、朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、異本との校合がごくわずかに施されている。川瀬、三四八・七九〇頁、慶長元和中刊。「山庵雜録と同種の活字を以て印行したもの」。

253 禪儀外文集 二卷 虎関師錬編

〔請求番号〕WA七一一三一

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕「帝／国／図／書／館／藏」を型押しした薄茶色(香色)表紙。二八・九×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補の双辺刷粋書題簽(一九・五×三・七糎)「禪儀外

文集 一(二止)」。

〔内題〕「禪儀外文集序」、「禪儀外文綱目」、「禪儀外文集」。

〔尾題〕「禪儀外文集卷上(下)終」。

〔本文〕每半葉六行×一五字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(序、二〇・一×一五・七糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「禪義外文(禪義外文上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇一丁(序、康永元年秋季虎関某序・三丁、綱目・二丁、卷上・九六丁。五二丁欠)、第二冊、四〇丁(卷下)。

〔刊記〕「寛永三年^{寛内}曆卯月上旬於四條寺町校正刊行」。

〔印記〕「長得院」(朱長方印、陰刻)、「長／得」(朱方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「圖／明治三七・四・一五・購求」(朱丸印)。
他、卷首右下に朱方印一印(墨塗抹)。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点の他、ごくわずかに墨書人が施されている。川瀬、三四〇・七七二頁。

254 東草集 存卷第一・二 頼豪編

〔請求番号〕WA七―一〇五

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙、右下に「塙氏之書／蔵東廿五／六」の紙片を貼

付。さらに右肩貼付の紙片には「東二六」の朱印を捺す。「帝／

国／図／書／館／蔵」を型押しした薄茶色縦横刷毛目文様覆表紙

附。二八・二×一八・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「東草集」と打付書（栗皮表紙）。覆表紙の左肩には、

後補の双边刷粋書題簽（一九・七×三・九糎）、「東草集 全」。

〔内題〕「東草集卷第一（二）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双边（二一・三×一五・三糎）、無界。

〔版心〕「東草集一（二）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕三五丁（卷第一・一九丁、卷第二・一六丁）。

〔刊記〕卷第二の卷末に「（低二格）元和八年二月吉日（四格空）起之」。

〔印記〕「嶋田」（朱長方印・小、「嶋」、小鳥形の下に「山」）、「帝國／圖

書／館蔵」（朱方印）、「明治／43・6・30／購求」（紫楕円印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他書入有。川瀬九一六頁。

『東草集』の古活字版には、元和八年刊本の他、「寛永四（丁／

卯）年十一月日／富之小路通讚州寺町 中村長兵衛尉」の刊

記を有する寛永四年刊本（日光山天海蔵、川瀬未載）がある。

元和八年刊本については、他に大英図書館に国会本と同じく卷

一・二の零本が所蔵されるものの、完本については、長谷寺豊

山文庫蔵本が知られるのみ。「刊記／卷二末「元和八年二月吉日

起之」、卷四の末「元和八年 二月吉日 興之」、卷六の末「元

和八年 二月吉日 起之」、卷第一・三・五の卷末には刊記なし。

茶色表紙に外題を墨書、表紙右下に「来善房俊堂之」、表紙見返

しに「宝幢寺什物三卷之内」を墨書し、巻首に「大黒山蔵書」

の朱長方印を捺す（『豊山文庫善本聚録 古活字本之部』、長谷

寺、一九六九年）。

255 祖庭事苑 八卷（宋）釈善卿編

〔請求番号〕WA七―二一〇

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕薄縹色布改装表紙。二八・〇×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「祖庭事苑序」、「祖庭事苑目錄」、「祖庭事苑卷第一（一八）／

（低六格）陸庵（二格空）善卿（二格空）編正」。

〔尾題〕「祖庭事苑目錄終」、「卷終」（卷一・七）、「祖庭事苑卷二（五）」

「祖庭事苑卷第三（四）、「祖庭事苑八終」。

〔本文〕每半葉八行×一四字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（序、二三・三×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「祖序（祖目錄・祖一（一八）・祖・祖

序) 丁附)。

〔丁数〕 第一冊、四八丁(序、四明苾芻法英書・三丁、目録・三丁、卷第一・一九丁、卷第二・二二三丁)、第二冊、五一丁(卷第三・二六丁、卷第四・二五丁)、第三冊、五一丁(卷第五・二〇丁、卷第六・三一丁)、第四冊、四二丁(卷第七・二三丁、卷第八・一六丁、刊記・二丁、跋・一丁、後序・一丁)。

〔刊記〕 原刊記(陰刻整版)、「睦庵卿上人作祖庭事苑」大觀二年八月二十七日建武軍節/度使同玄大宗子学事上柱国謹題/ (印) / 紹興甲戌季夏重別刊行」の後二行空けて刊記(陰刻整版)、「洛陽富小路通讚州寺町^{中村}長兵衛刊」。

〔印記〕 「岡田眞/之藏書」(朱長方印)。受人印「62 9. 10」(昭和六二年九月一〇日)。

〔備考〕 前表紙見返しに「切 取宝」、巻末に「切 取滄洲求之」と墨書識語。朱引、朱句読点(巻第一、七ウまで、巻第三、一七ウ・二六オ)。川瀬、三三八・七六七頁、寛永中刊。「月明荘」の印はないが、帙(藍色、題簽「祖庭事苑」元和(ミセケチ)寛永中刊/古活字版) 四冊)、森銚三筆)からすると、反町茂雄の弘文荘が扱った本であることがわかる。『玉英堂稀覯本書目』第一七六号・古典籍版本百品(一九八七年五月、一五頁、四五〇、〇〇〇円)。

256 大経直談要註記 二四卷 聖聡著

〔請求番号〕 WA七―一九九

〔体裁〕 大本、二四冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二八・九×一九・九糎。四針袋綴。右上に、

〔^{注釈}帙映入〕(朱長方印、高木文庫)。

〔題簽〕 無。左肩に「無量寿経直談要註記 一(一四・六)」、「大経直談

要註記 七(八・十三・十八・二十一・二十四)」と打付書。他、無題、左下に巻数のみ墨書。

〔内題〕 「無量寿経直談要註記^{并序}」、「大経直談要註記卷第一(一二十四

〔^尽巻)〕。

〔尾題〕 「大経直談要註記卷第二(一二十四)」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・六糎。

〔版心〕 白口双黒魚尾(花紋ではない模様入)、中縫、「要記序(一廿四) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四八丁(無量寿経直談要註記并序・三丁、巻第一・四五丁)、第二冊、一四丁(巻第二)、第三冊、二二丁(巻第三)、第四冊、三〇丁(巻第四)、第五冊、三五丁(巻第五)、第六冊、三〇丁(巻第六、一二丁欠)、第七冊、二五丁(巻第七)、第八冊、二五丁(巻第八)、第九冊、二三丁(巻第九)、第一〇冊、二二丁(巻第十)、第一一冊、二二丁(巻第十一)、第一二冊、二四丁(巻第十二)、第一三冊、三二丁(十三)、第一四冊、一九丁

(卷第十四)、第一五冊、二三丁(卷第十五)、第一六冊、一八丁(卷第十六)、第一七冊、一九丁(卷第十七)、第一八冊、二三丁(卷第十八)、第一九冊、二六丁(卷第十九)、第二〇冊、二三丁(卷第二十)、一九丁「十八」、以下丁附にずれ)、第二一冊、二二丁(卷第二十一)、八丁「七」、以下丁附にずれ)、第二三冊、三二丁(卷第二十二)、第二三冊、二八丁(卷第二十三)、一〇丁「九」、以下丁附にずれ)、第二四冊、二六丁(卷第二十四)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「新潟縣南魚沼郡・鹽澤町長恩寺／佛教圖書館／門外不出」(朱丸印)、「越後／長恩寺／鹽澤」(墨長方印)、「高木家藏」(高木利太、朱長方印)、「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「帝國／昭和二・九・二二・購入」(朱丸印)。

〔備考〕 浄土宗の根本聖典である浄土三部經(無量壽經・觀無量壽經・阿彌陀經)のうち、無量壽經の注釈書。浄土宗第八祖・聖聰の著。第二四冊の後表紙見返しに「越後国塩沢宿／長恩寺什物」と墨書識語。墨筆で返点、送仮名、その他書人が施されている。川瀬三四九頁、高木文庫蔵本(現、国立国会図書館蔵)のみを著録する。『高木文庫古活字版目録』二〇八番掲載。元和寛永頃の刊か。

257 大乘入楞伽經 七卷 (唐) 釈実又難陀訳

〔請求番号〕 WA七―六二

〔体裁〕 大本、七冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・九×二〇・二釵。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「大乘入楞伽經」と大きく打付書(第一冊のみ無題)。

〔内題〕 「大乘入楞伽經卷第二(一七)(六格空) 四(低七格) 大唐三藏実又難陀訳」

〔尾題〕 「大乘入楞伽經卷第一(一七)(六格空) 四」。

〔本文〕 每半葉一二行×一七字。

〔匡郭〕 上下单边(二二・〇釵)、無界。

〔版心〕 白口、版心に「四 大乘入楞伽經卷一(一七) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二三丁(卷第一、卷首三丁破損、一部残存。全丁裏打修補、存四―廿三、二〇丁)、第二冊、二二丁(卷第二)、第三冊、二三丁(卷第三)、第四冊、二三丁(卷第四)、第五冊、二五丁(卷第五)、第六冊、二四丁(卷第六)、第七冊、二五丁(卷第七・二四丁、刊記・一丁)。

〔刊記〕 「(低二格) 奉再興(二・五格空) 仏説一切経藏(低一格) 今上皇帝(三・五格空) 玉体安穩(低一格) 東照権現(三・五格空) 倍增威光(低二格) 征夷大將軍左大臣源家光公武運長久(低一格) 四海泰平(三・五格空) 国家豊饒(低一格) 仏法紹隆(三・五格空) 利益無窮(低一格) 日本武州江戸東叡山(低二格) 山門三院執行探題前毘沙門堂門跡(低十格) 大僧正天海願主(低一格) 寛永十七庚辰曆十月十四日(低十一格) 林氏幸宿花溪居士(低十一格) 使工人彫鏤之」。

〔印記〕「僧／彦□」（第七冊卷末、卷首右下、朱方印）、「高木家藏」（高木利太、朱長方印）、「國立／圖書／館藏」（朱方印）、「國立圖書館／昭23・3・17和／購入」（紫楮印）。

〔備考〕卷首内題下に「浄教房真如藏」と墨書識語。無書入。天海版。
『高木文庫古活字版目録』二〇七番掲載。

258 大智度論 一〇〇卷（後秦）釋鳩摩羅什訳

〔請求番号〕WA七一一〇八

〔体裁〕大本四九冊（巻第五・六欠）。

〔表紙〕後補黄土色表紙。二九・一×二一・一・糰。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の双辺刷柘書題簽（一九・六×三・八糰）、「智度論 一（一四十九）」。

〔内題〕「大智度論序（十格空） 聖／（低七格） 釈僧叡述」、「大智度論卷 第一／龍樹菩薩造（半角空） 姚秦三藏法師鳩摩羅什訳」（一）大智度論卷第一百（七格空） 空／龍樹菩薩造（半角空） 姚秦三藏法師鳩摩羅什訳）。

〔尾題〕「大智度論卷第一（八格空） 聖」（一）大智度論積卷第一百（六格空） 空。

〔本文〕每半葉二行×一七字。

〔匡郭〕上下单边（二二・〇糰）、無界。

〔版心〕白口、「聖（徳・建・名・立・形・端・表・正・空） 大智度論 序（巻一一二） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五七丁（序、巻第一・二八丁、巻第二・二九丁）、第

二冊、五九丁（巻第三・二八丁、巻第四・三一丁）、第三冊、

四五丁（巻第七・二二丁、巻第八・二三丁）、第四冊、五〇

丁（巻第九・二二丁、巻第十・二九丁）、第五冊、六一丁（巻

第十一・三二丁、巻第十二・二九丁）、第六冊、五一丁（巻第

十三・二九丁、巻第十四・二二丁）、第七冊、四二丁（巻第

十五・二〇丁、巻第十六・二二丁）、第八冊、五七丁（巻第

十七・三二丁、巻第十八・二五丁）、第九冊、五七丁（巻第

十九・三〇丁、巻第二十・二七丁）、第一〇冊、四九丁（巻第

二十一・二三丁、巻第二十二・二六丁）、第一一冊、四四丁（巻

第二十三・二二丁、巻第二十四・二二丁）、第一二冊、五三丁

（巻第二十五・二二丁、巻第二十六・三三丁）、第一三冊、四九

丁（巻第二十七・二七丁、巻第二十八・二二丁）、第一四冊、

五二丁（巻第二十九・二二丁、巻第三十・三〇丁）、第一五冊、

六〇丁（巻第三十一・三八丁、巻第三十二・二二丁）、第一六冊、

四一丁（巻第三十三・二〇丁、巻第三十四・二二丁）、第一七冊、

五二丁（巻第三十五・二八丁、巻第三十六・二四丁）、第一八冊、

四六丁（巻第三十七・二三丁、巻第三十八・二三丁）、第一九冊、

四七丁（巻第三十九・二〇丁、巻第四十・二七丁）、第二〇冊、

四四丁（巻第四十一・二四丁、巻第四十二・二〇丁）、第二一冊、

四五丁（巻第四十三・二二丁、巻第四十四・二四丁）、第二二冊、

五〇丁（巻第四十五・二四丁、巻第四十六・二六丁）、第二三冊、

四七丁 (卷第四十七・二二丁、卷第四十八・二五丁)、第二四冊
 四四丁 (卷第四十九・二三丁、卷第五十・二二丁)、第二五冊
 四八丁 (卷第五十一・二六丁、卷第五十二・二三丁)、第二六冊
 四五丁 (卷第五十三・二三丁、卷第五十四・二二丁)、第二七冊
 五二丁 (卷第五十五・二九丁、卷第五十六・二三丁)、第二八冊
 四一丁 (卷第五十七・一六丁、卷第五十八・二五丁)、第二九冊
 四九丁 (卷第五十九・二二丁、卷第六十・一七丁)、第三〇冊
 五八丁 (卷第六十一・三三丁、卷第六十二・二五丁)、第三一冊
 四二丁 (卷第六十三・二二丁、卷第六十四・二二丁)、第三二冊
 四四丁 (卷第六十五・二五丁、卷第六十六・一九丁)、第三三冊
 三九丁 (卷第六十七・二〇丁、卷第六十八・一九丁)、第三四冊
 四九丁 (卷第六十九・二三丁、卷第七十・二六丁)、第三五冊
 六一丁 (卷第七十一・三四丁、卷第七十二・二七丁)、第三六冊
 五二丁 (卷第七十三・二五丁、卷第七十四・二七丁)、第三七冊
 五〇丁 (卷第七十五・二六丁、卷第七十六・二四丁)、第三八冊
 五二丁 (卷第七十七・三二丁、卷第七十八・二〇丁)、第三九冊
 四二丁 (卷第七十九・二五丁、卷第八十・一七丁)、第四〇冊
 四八丁 (卷第八十一・二三丁、卷第八十二・二五丁)、第四一冊
 四二丁 (卷第八十三・二〇丁、卷第八十四・二二丁)、第四二冊
 五二丁 (卷第八十五・二五丁、卷第八十六・二七丁)、第四三冊
 六五丁 (卷第八十七・三二丁、卷第八十八・三三丁)、第四四冊
 五四丁 (卷第八十九・三〇丁、卷第九十・二四丁)、第四五冊、

三五丁 (卷第九十一・二二丁、卷第九十二・一四丁)、第四六冊
 四三丁 (卷第九十三・二〇丁、卷第九十四・二三丁)、第四七冊
 四三丁 (卷第九十五・二四丁、卷第九十六・一九丁)、第四八冊
 三九丁 (卷第九十七・一四丁、卷第九十八・二五丁)、第四九冊
 四三丁 (卷第九十九・二〇丁、卷第一百・二二丁、寛永十七年
 願文、刊記・一丁)。

〔刊記〕「(低二格) 奉再興 (一格空) 仏説一切経藏 / (低一格) 今上皇
 帝 (三格空) 玉体安穩 / (低一格) 東照権現 (三格空) 倍增威
 光 / (低二格) 征夷大將軍左大臣源家光武運長久 / (低一格)
 四海泰平 (三格空) 國家豊饒 / (低一格) 仏法紹隆 (三格空)
 利益無窮 / (低一格) 日本武州江戸東叡山 / (低二格) 山門三
 院執行探題前毘沙門堂門跡 / (低十一格) 大僧正天海願主 / (低
 一格) 寛永十七庚辰曆九月二十二日 / (低十一格) 林氏幸宿花
 溪居士 / (低十一格) 使工人彫鏤之」。

〔印記〕「樂亭文庫」(松平定信、朱長方印)、「立教館 / 圖書印」(桑名藩
 校、朱長方印)、「桑名」(桑名藩松平家、朱丸印)、「故柗原芳塾
 納本」(朱長方印)、「東京 / 圖書 / 館藏」(朱方印)。他、魁星印、
 判読不明に墨丸印一印。

〔備考〕墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、異本校合も若干施され
 ている。第一〇冊以降、書入ごくわずか。天海版一切経。

259 大唐西域記 十二卷 (唐) 釈玄奘奉詔訳・釈弁機撰

〔請求番号〕WA七―二二六

〔体裁〕大本、六冊。

〔表紙〕原装(押八双有)茶色渋引表紙。二七・八×一九・〇糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「大唐西域記序(十格空) 転 / (低八格) 尚書左僕射燕国公製」、

「大唐西域記卷第一 / (低五格) 三藏法師(三格空) 玄奘奉詔訳

/ (低五格) 大惣持寺沙門(四格空) 弁機(三格空) 撰」(一

「大唐西域記卷第十二 / (低一格) 三藏法師玄奘奉(一格空) 詔

訳(一格空) 大惣持寺沙門弁機撰。

〔尾題〕「大唐西域記卷第一(十格空) 転」(一「大唐西域記卷第十二」)。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕「西域記序(一一十・西域十一(十二))」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、五二丁(序・二丁、卷第一・二五丁、卷第二・二五丁)、

第二冊、四二丁(卷第三・二二丁、卷第四・二〇丁)、第三冊、

四二丁(卷第五・一九丁、卷第六・二三丁)、第四冊、四九丁

(卷第七・一九丁、卷第八・三〇丁)、第五冊、五〇丁(卷第九・

二六丁、卷第十・二四丁)、第六冊、五七丁(卷第十一・二五丁、

卷第十二・三三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕国立国会図書館の印と受人印「書 / (平成) 7. 8. 4 / 国会
図」(朱印)。

〔備考〕卷二・八の巻首に崇寧二年の東禅寺僧の刻藏題記(福州等覚禅

院住持伝法沙門普明牧印経板頭錢 / 恭為(一格空) 今上皇帝祝

延(一格空) 聖寿闔郡官僚同資禄位 / 雕造(一格空) 大藏経印

板計五百余函(一格空) 時崇寧二年 / 十月日謹題、卷第二)が

刻されている。各冊とも前表紙見返しに「六冊全 / 寄附 豪慶」

と墨書識語。無書入。川瀬三四七頁、東洋文庫蔵本のみ著録。

元和寛永頃の刊か。

260 鎮州臨濟惠照禪師語録 一卷 (唐) 釈義玄撰・(宋) 釈慧然集

〔請求番号〕WA七―一七〇

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補代赭色絹地改装表紙。二七・二×一九・八糎。四針袋綴。

背も同色の絹布で包み、「臨濟録 一 木活大字」と墨書。

〔題簽〕無。

〔内題〕「鎮州臨濟惠照禪師語録序 / (低二格) 延康殿学士金紫光禄大夫

真定府路安 / (低二格) 撫使兼馬歩軍都総管兼知成德軍府事 /

(低十一格) 馬(一格空) 防(二格空) 撰」、「鎮州臨濟惠照禪師

語録 / (低五格) 住三聖嗣法小師(二格空) 惠然(一格空) 集」。

〔尾題〕「鎮州臨濟惠照禪師語録終 / (二行空) / (二行空) / (低一格)

住大名府興化嗣法小師(一格空) 存獎(二格空) 校勘」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。慶長十八年宗鐵刊、妙心寺版『雲門匡真禪師広録』(三卷三冊)と同版式、同種の活字(行書体肉太の活字)を用いている。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・一×一六・〇糎)、有界。

〔版心〕 上中下黒口、上下双黒魚尾、中縫、「臨濟」、「丁附」。

〔丁数〕 四四丁(序、宣和庚子中秋日謹序・一丁、本文・四三丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「江州金森善立寺」(朱長方印)、「白楊文庫」(朱長方印・小)、「國立國會圖書／館藏書」(朱方印)、「昭和」44、8、5(紫印)。

〔備考〕 序と巻首三丁に朱引、朱句読点、朱墨による書入有。全丁に間紙を入れて綴じ直し。川瀬二九七・七二二頁。川瀬は二九七頁(妙心寺に於ける開版事業)で、唯一成實堂文庫蔵本を著録するが、巻末一丁を欠き、刊記の有無は不明である。国会本は、刊記を欠くが、川瀬が七二二頁、補訂篇に著録する小汀文庫蔵本(図録篇六五一図)には、「慶長癸丑歲仲春月洛陽 宗鐵重刊」の刊記があり、本書が、同版式、同種の活字を用いた『雲門匡真禪師広録』同様、慶長十八年に宗鐵によって刊行された妙心寺版であることがわかる。小汀文庫蔵本の図版は、巻末にある刊記のみだが、刊記の前にある尾題「鎮州臨濟惠照禪師語録終／(一行空)／(低一格)住大名府興化嗣法小師(一格空)存獎(二格空)校勘」の部分は国会本と全く同一。小汀文庫蔵本

の現所在が分からない今、両書を比較することができないので、同版で刊記の一行のみを異にする程度のものか、全巻活字を組み替えているかは不明である。ただ古活字版の性格からすれば、版を解く前に刊記一行を入れることも、逆に刊記一行を抜くことも可能であるので、尾題が同じ両書は同版と考えて良いだろう。

261 ※天台円宗四教五時西谷名目 二卷

〔請求番号〕 WA七―二一四

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補栗皮渋引表紙。二七・七×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に題簽があるが、大きく破損。但し、残存箇所に「和」の字が見えることから、この表紙は別の本の表紙を流用したものとわかる。

〔内題〕 「天台円宗四教五時西谷名目卷上(下)」。

〔尾題〕 「西谷名目卷上」、「西谷名目卷下畢」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「名目上(下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁(卷上)、第二冊、三六丁(卷下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「覺」(卷上巻末、墨方印)、「居」(巻下内題下、墨方印)、「國立

國／會圖書／館藏書（朱方印）、〔昭和〕62、8、25（紫印）。

〔備考〕第一冊の前表紙見返しに「東來堂堂清軒是信齋都融」と墨書、卷上の内題下に「明慶寺」墨書、卷上末に「能美寫妙覺寺本」と朱書、その下に「覺」（卷上卷末、墨方印）。第二冊、卷下の尾題下に「明和乙卯十月九日／六十一歳／上下八十一紙（墨塗抹）」と朱書、その下に「釈惠暁」と墨書。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に朱墨による書人が施されている。川瀬七八八頁に、久原文庫蔵本（現、大東急記念文庫蔵、寛永中刊）を唯一著録するが、別版。

262 天台四教儀集註 三卷（元）釈蒙潤集

〔請求番号〕WA七―一六八

〔体裁〕大本、三冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。

二八・八×二〇・五糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。中央やや上に「集註上（中・下終）」と打付書。表紙右肩に「山門東塔南谷 淨教房」、左肩に「真如藏^{七十七}鳥」、右下に「天台沙門」、左下に「比丘良祐之」と墨書。

〔内題〕「天台四教儀集註卷上（中・下）（大字）／（低八格）南天竺沙門（一格空）蒙潤（一格空）集（小字）」。

〔尾題〕「天台四教儀集註卷上（中・下）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・五×一五・六糶）、有界。

〔版心〕白口、下向き黒魚尾、中縫、「集註卷上（中・下）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五九丁（卷上）、第二冊、五九丁（卷中）、第三冊、六五丁（卷下、六四丁欠）。

〔刊記〕「慶長第五庚子歲臘月下澣吉辰」／（低十四格）正雲刊之。

〔印記〕「高木家藏」（高木利太、朱長方印）、「國立國／會圖書／館藏書」（朱方印）、〔昭和〕43、10、16（紫印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。各冊とも巻首丁に「山門東塔南谷 淨教房 真如藏^{七十七}鳥」、後表紙見返しには「右上中下三卷者／依宿習感得之矣／慶長十一年心鐘中句／式部卿良祐之」（第二冊、上巻）、「右上中下三卷者／依懇志感得之矣／慶長十一年曆神無月中句／式部卿良祐之」（第二冊、中巻）、「右上中下三卷者／慶長十一年十月十五日令感得之矣／式部卿良祐之」（第三冊、下巻）と墨書識語。川瀬三三七頁、ここに著録する高木文庫（真如藏旧藏、図録篇二二八図）本が本書。さらに神田喜一郎氏蔵本（上中二巻整版補配、下巻一冊）を著録するが、現、大谷大学博物館蔵。

263 天台法華宗学生式問答 八卷 最澄著

〔請求番号〕WA七―一六〇

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二九・〇×二〇・七糶。五針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「天台法華宗學生式問答卷第一（一八）」。

〔尾題〕 「法華宗式問答卷第一（一三）」、「天台法華宗學生式問答卷第四

（一八）」、卷第六、尾題なし。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边（二三・〇×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「學生式一（一八） 丁附」。

〔丁数〕 五四丁（卷第一・一オ〜八ウ、卷第二・九オ〜一四オ、卷第三・

一四ウ・二〜一九オ・五、卷第四・一九オ・七〜二三オ・六、

卷第五・一オ〜五オ・三、卷第六・五オ・五〜一六オ・七、卷

第七・一六ウ〜二四ウ、卷第八・二五オ〜三二ウ）。

〔刊記〕 「（低三格） 于時寛永^{丙寅}曆三月吉辰／（低二格） 比叡山延曆寺宝

幢院於南谷（二格空） 刊摺之訖／（低三格） 願以此功德（五格

空） 普及於一切／（低三格） 我等与衆生（五格空） 皆共成仏道」。

〔印記〕 「國立國／會圖書／館藏書」（朱方印）、「昭和」48、7、21（紫

印）。

〔備考〕 無書入。卷首丁に「僧正珍祐」と墨書識語。川瀬三〇三頁、寛

永三年刊、叡山版。「双边無界、十行、二十字」本として、唯一

成篁堂文庫蔵本を著録する。但し「双边無界」とある点や、『新

修成篁堂文庫善本書目』に記載がない点など不審。叡山文庫に

四点の所蔵あり。

264 天台名目類聚鈔 七卷 貞舜述

〔請求番号〕 WA 7―167

〔体裁〕 大本、一三冊。

〔表紙〕 後補灰色裏打改装表紙。二七・三×一九・五糎。四針袋綴。中

央に大きく「洪」と白書。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「天台名目類聚鈔第一^{諸宗下}」、「天台名目類聚鈔第一（三・四・

五・六・七^全）」、「天台教觀時名目私鈔（四格空）（応永五年戊寅

／二月六日始之）」、「天台名目類聚鈔第四^{私云七帖之内四末}」。

〔尾題〕 「天台名目類聚鈔第一本（一末・三本・三末・四本・四末・五

本・五末・六本）畢」、「天台教觀時名目和鈔第二本畢」、「天台

教觀時名目私鈔第二末畢」、「天台名目類聚鈔第六末畢^{別教下}」、「天

台名目類聚鈔^{四教五特下}第七畢」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。送仮名や返点を小字の活字で植字した

附訓植版。

〔匡郭〕 四周单边（二二・二×一五・八糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「七名一本（一七名七） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七二丁（序、皆元和昭陽敦祥貞相月於延曆寺宝幢院摺

旃（四格空） 釈快倫誌焉・一丁、第一本・七一丁）、第二冊、

五九丁（第一末）、第三冊、七三丁（第二本）、第四冊、六四丁

（第二末）、第五冊、八五丁（第三本）、第六冊、七五丁（第三

末）、第七冊、八三丁（第四本）、第八冊、七〇丁（第四末）、第

九冊、四八丁（第五本）、第二〇冊、五九丁（第五末）、第一一冊、五五丁（第六本）、第二二冊、五〇丁（第六末）、第一三冊、六〇丁（第七）。

〔刊記〕 第二冊の巻末に、「（低二格）于時寛永元年^{甲子}極月下旬／（低三格）於洛下四條寺町中野市右衛門尉刊摺之」。

〔印記〕 「高雪堂」（朱長方印）、「密善／之印」（朱方印）、国立国会図書館の印と受人印「書／49・12・5／国会図」（朱印、昭和四九年一二月五日）。

〔備考〕 無書入。双辺粹刷書題簽（新補、一六・九×四・五糎）、「七帖見聞 四ノ末」、七巻、附属資料として封筒に入れて保管。川瀬七三一・七七〇頁。「町版として出た寛永元年に四條寺町の中野市右衛門が元和四年叡山版に基いて印行した天台名目類聚鈔は附訓植版も精巧である。しかしその活字は叡山版科註妙法蓮華經鈔（寛永二年刊、附訓植版）と同種の活字を使用してゐることは明白で、両者の関係の密なることを証する。即ち、寺院版と称するものも、次第に町版（出版書肆）に委ねることが多くなつて行つた事実を示すものと言へよう」（七三一頁）。

265 伝法護国論

〔請求番号〕 WA七―一三六

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補黄土色表紙。二七・九×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「伝法護国論 全」。

〔内題〕 「伝法護国論」。

〔尾題〕 「伝法護国論」。

〔本文〕 毎半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・二糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「伝法護国 丁附」。

〔丁数〕 三三丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「織田／文庫」（朱方印）、「島田」（島文様・山、田、朱小印）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「明治／43・6・30／購求」（紫楕円印）。

〔備考〕 巻首二丁に朱句読点が施されているのみ。前表紙見返し右端に「伝法護国論ハ天台ノ僧守玄ガ師鍊ノ宗門十勝論ヲ破シタルモノナリ」のペン書がある（但し、守玄著とする根拠は未詳）。川瀬三四八頁、元和寛永中刊。唯一成實堂文庫蔵本を著録するのみ（十行、二十一字」とするが、「十行、二十字」の誤記）。

266 伝法正宗記 九卷・定祖図一卷・正宗論二卷（宋）契嵩編

〔請求番号〕 WA七―一三四

〔体裁〕 大本、六冊。

〔表紙〕 原装（押八双有）茶色表紙。二八・八×一九・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「正宗記一之二（十一之二尾）」と打付書。右下に

「全六冊」(墨書)、さらに第二冊はその左に「十五番ノ藏」(朱書)。

〔内題〕「伝法正宗記卷第一(一九)(八格空)時／(低二格)藤州東山

沙門釈(三格空)契嵩(二格空)編修」、「正宗定祖函卷第十^{并叙}

(六格空)土／(低四格)鐔津東山沙門臣僧(一格空)契嵩(二

格空)撰」、「伝法正宗論卷第十一(二格空)二篇／(低二格)

藤州東山沙門釈(三格空)契嵩(二格空)著^マ」、「伝法正宗論卷

第十二(二格空)二篇／(低二格)藤州東山沙門釈(三格空)

契嵩(二格空)著」。

〔尾題〕「伝法正宗記卷第一(四・六・八)(十一格空)時」、「伝法正宗

記卷第二(三・五・七・九)」、「伝法正宗論卷第十一(九格空)

阿」、「伝法正宗論卷第十二」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(二三・〇×一五・八糎)、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「正宗記一(一十・正宗十一・十二)丁

附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁(卷第一・八丁、卷第二・二四丁)、第二冊、

四二丁(卷第三・二二丁、卷第四・二二丁)、第三冊、三八丁

(卷第五・二三丁、卷第六・一五丁)、第四冊、五二丁(卷第七・

二九丁、卷第八・二二丁)、第五冊、五〇丁(卷第九・一八丁、

卷第十・三二丁)、第六冊、四二丁(卷第十一・一四丁、卷第

十二・二七丁)。

〔刊記〕「(低二格)福建道興化路莆田縣仁德里住人愈良甫／(低二格)

於日本嵯峨寓居憑自己財物置板流行／(低三格)歲次甲子孟夏

四月日(四格空)謹題」(愈良甫版原刊記)、(低二格)寛永七年

^庚九月吉日(三格空)板行畢」。

〔印記〕「帝國／圖書／館藏」(朱方印)、「圖／明治三六・一〇・三〇・

購求」(朱丸印)。

〔備考〕無書入。第一冊の前表紙見返しに「僧史五笈計六冊」と墨書。

川瀬三〇五・七二九頁。寛永三(一六二六)年刊の叡山版『集

解要文』と版式その他の点で類似点が見られること等から、本

書を叡山版と認定するが、長沢規矩也は、「獅子王圓信師が卷末

の所抛のテキストの目録を開版目録と誤認され、後人が之を盲

信した為に、無条件で叡山版と推定されてゐる寛永三年刊集解

要文と同一様式の活字印本が数種ある」として、寛永七年刊の

『伝法正宗記』をその一つに挙げている(『日光山「天海藏」主

要古書解題』、六七頁)。要検討。

267 唐決集

〔請求番号〕WA七―五八

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕栗皮裏打改装表紙。二八・九×二〇・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「唐決集上(下)」と打付書。

〔内題〕「唐決集／(低八格)最澄在唐問(二格空)道邃決義」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边（二三・〇×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「唐目錄（在唐決・光唐決・慧唐決・徳

唐決・円唐決・澄唐決） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四八丁（目錄・六丁、天台宗未決／（低二格）問答十

箇條（一格空） 遼座主決義（一格空） 最澄在唐日間・三丁、日

本国内供奉（八格空） 光定法師疑問・八丁、日本法師實到当

宗相違疑問二十七條・一五丁、日本国比叡山延暦寺天台法華宗

／（低五格）内供奉大徳徳円法師（一格空） 疑問壹拾條・一六

丁、第二冊、六〇丁（日本国三十問謹案科直答如後／（低十三

格）天台沙門広修撰・三三三丁、六月一日天台山僧維鐺謹献書於・

二七丁）。

〔刊記〕 「（低一格） 峇寛永三^丙年四月日（三格空） 刊摺之訖」。

〔印記〕 「山門西塔浄國院藏本」（朱長方印）、「西北尾 覺任房」（墨長方

印）、「随／縁子」（朱方印）、「帝國圖書館藏」（朱長方印）、「帝

圖／昭和二一・三・七・購入」（朱丸印）。

〔備考〕 ごくわずかに墨筆による書入があるが、無書人に等しい。川瀬

三〇三・七三二頁、叡山版。

268 天台四教儀集解 三卷（宋） 従義撰

〔請求番号〕 WA七一一八

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 「帝／國／圖／書／館／藏」の文字が型押された薄茶色刷毛目布

目地表紙（覆表紙）。二七・九×一九・七糎。四針袋綴。第二冊

と三冊には、覆表紙の内側に白色表紙あり。

〔題簽〕 左肩に新補の单边梓書題簽（一九・五×三・六糎）、「天台四教

義解 上（中・下／止）。第二冊と三冊の覆表紙の内側、白色

表紙の左肩には「天台四教儀」（墨書）、その下に「中（下）」（朱

書、右肩に「癸」（第二冊、朱書、第三冊、墨書）。

〔内題〕 「天台四教儀集解卷上」、「天台四教儀集解卷中（下）／（低八格）永

嘉沙門釈（二格空） 従義（一格空） 撰」。

〔尾題〕 「天台四教儀集解卷上（中・下）」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕 「集解上（中・下）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、六二丁（卷上）、第二冊、七〇丁（卷中）、第三冊、

七〇丁（卷下）。

〔刊記〕 各冊とも尾題の後に一行空けて、「文祿四^乙年十一月二十四日」。

〔印記〕 「帝國／圖書／館藏」（朱方印）、「圖／明治三九・七・一八・購

求」（朱丸印）。

〔備考〕 墨筆もしくは朱筆で返点、振仮名、送仮名等が施されている。全丁裏打修補。川瀬一五四頁、文祿本。

269 冥枢会要 三卷 (宋) 积祖心集

〔請求番号〕 WA 七―二四二

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 薄茶色渋引裏打改装表紙。二八・一×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「冥枢会要^上〔中、下〕三冊内」と打付書。

〔内題〕 「冥枢会要序」、「冥枢会要卷上(一―下) / (低十格) 黄龍庵主

(二格空)^{粗心} (一格空) 集」。

〔尾題〕 「冥枢会要卷上(一―下)」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「冥枢会上(一―下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六九丁(序・半丁、卷上・六八丁半)、第二冊、八一丁

(卷中、二〇丁重複)、第三冊、八一丁(卷下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 上下の巻首、巻末に「孤陋菴」と墨書、その下に「孤陋菴」(朱

長方印) を捺印。

〔備考〕 無書入。川瀬・三四八・七八九頁、寛永中刊。安田文庫(現所

在不明)・久原文庫(現、大東急記念文庫蔵)・慶應義塾大学図

書館・日光山輪王寺天海蔵の四本を著録。他、花園大学図書館

蔵。孤陋菴は安土桃山・江戸前期の臨濟宗の僧。大徳寺百七十

世(国文研・蔵書印データベースに人物情報あり)。

270 曇無徳部四分律刪補随機羯磨 二卷 (唐) 釈道宣撰

〔請求番号〕 WA 八―一〇

〔体裁〕 大本、二冊。

〔表紙〕 後補標色表紙。二七・四×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に、双辺枠刷題簽(二六・三×三・二糎、下巻のみ)、「四

部律資持記^下」。本書のものではない。

〔内題〕 「曇無徳部四分律刪補随機羯磨序 / (低八格) 京兆崇義寺沙門釈

道宣集撰」、「曇無徳部四分律刪補随機羯磨」、「曇無徳部四分律

刪補随機羯磨^下 / (低七格) 京兆崇義寺沙門釈(半角空) 道宣

(半角空) 集撰」。

〔尾題〕 「曇無徳部四分律刪補随機羯磨^上 下」。

〔本文〕 每半葉八行×二〇字。稍小型の活字、注小字双行。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「羯磨上(下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三一丁(序・一オ、二ウ・5、上・二ウ・6、三二ウ)、

第二冊、二六丁(下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「太平」(墨丸印)、国立国会図書館の印と受入印「書 / (平成)

17. 2. 25 / 国会図」(朱印)。

〔備考〕 上冊のみ朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。

帙に臨川書店のラベル貼付。川瀬七七五頁。

271 涅槃經疏 十五卷 (隋) 釈灌頂撰

〔請求番号〕WA七―一三〇

〔体裁〕 大本、一五冊。

〔表紙〕 原裝 (押八双有) 茶色洪引表紙。二八・一×一九・八糎。四針

袋綴。右肩に「地」と朱書。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「涅槃經疏卷第一 (五格空) 頂法師撰 / 序品 (九格空) 天台沙門

湛然述再治」 (―涅槃經疏卷第十五 (七格空) 頂法師撰 / (低一

格) 橋陳如品 (七格空) 天台沙門湛然述再治)。

〔尾題〕 「涅槃經文疏卷第一 (五・六・七)」、「涅槃疏卷第二」、「涅槃經

疏卷第三 (四・八・九・十四・十五終)」、「大般涅槃經疏卷第

十」、「大涅槃經疏卷第十一 (十二・十三)」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺 (二二・五×一六・五糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「涅槃疏一 (―十五) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三六丁 (卷第一)、第二冊、四〇丁 (卷第二)、第三冊、

三四丁 (卷第三)、第四冊、三九丁 (卷第四)、第五冊、五二丁

(卷第五)、第六冊、六一丁 (卷第六、四一丁補写、書入の筆と同

じ)、第七冊、五五丁 (卷第七)、第八冊、五五丁 (卷第八)、第

九冊、三五丁 (卷第九)、第一〇冊、三三丁 (卷第十)、第一一

冊、四三丁 (卷第十一)、第一二冊、三六丁 (卷第十二)、第

一三冊、三五丁 (卷第十三)、第一四冊、三九丁 (卷第十四)、

第一五冊、三八丁 (卷第十五)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「亀田文庫」(亀田侯吉、朱長方印)「帝國 / 圖書 / 館蔵」(朱長

方印)、「帝國 / 昭和十八・三・十二・購入」(朱丸印)。

〔備考〕 各冊とも前表紙見返しに「天政笈中」と墨書。朱引、朱句読点、

墨筆で返点、送仮名、全卷にわたって上欄に異本との校合、誤

植訂正が施されている。川瀬三四七頁、寛永中刊。元和三年刊

の叡山版に基づいて刊行されたもの。

272 ※破邪禪集 日捨著

〔請求番号〕WA八―一八

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二五・九×一七・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「破邪禪集并序」。

〔尾題〕 「破邪禪集全」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・二糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「破邪禪 丁附」。

〔丁数〕 一〇丁 (序、慶長戊申十月中辭 (一格空) 延山沙門 (一格空)

日捨謹序・一オウ・6まで、本文・一ウ・8 (一〇ウ)。

〔刊記〕 「(低二格) 正保三^丙戊歳五月日 / (低十格) 中村五兵衛開」。

〔印記〕「日／榮」（朱方印）、国立国会図書館の印と受入印「書／（平成）21. 8. 23／国会図」（朱印）。

〔備考〕巻末に、「寛文元年丑霜月下句遊武江牛込久成精舎点之畢友我日榮（印〓日／榮）」朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、送仮名が施されている。川瀬未載。川瀬七九七頁に、正保三年中村五兵衛刊の『金鉉論私記』を著録する。

273 ※日出台隠記 円明院日澄記

〔請求番号〕WA七―二〇〇

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二六・四×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「日出台隠記（八格空） 円明院日澄記之」。

〔尾題〕「日出台隠記」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。各項の最初に見出しとして花魚尾を置く。

〔匡郭〕四周双边（二二・五×一五・七糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「台隠記 丁附」。

〔丁数〕五九丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「玄／妙」（朱方印）、「□／運」（朱方印、陰刻）、「无礙菴」（今泉雄作、一八五〇～一九三二、朱長方印）、「帝國／圖書／館蔵」

（朱長方印）、「帝國／昭和十四・十・九・購入」（朱丸印）。

〔備考〕後表紙見返しに「泊運（花押）」と墨書識語。墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬三四八頁、寛永中刊、唯一安田文庫蔵本を著録するのみ。安田文庫蔵本は現所在不明のため、国会本と同版か否かは不明。他に大谷大学図書館に一本あるが、国会本とは別版。

274 普賢経記 二卷 円珍著

〔請求番号〕WA七―四三

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮渋引表紙。二八・四×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。左肩に「普賢聖」と打付書。

〔内題〕「普賢経記上（下）」。

〔尾題〕「（低二格）普賢経記上」、「（低一格）普賢経記下」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（二二・九×一六・六糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「普賢記上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四三丁（上）、第二冊、四九丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「月江／秘笈」（朱方印）、「帝國圖書館蔵」（朱長方印）、「帝國／昭和二一・三・七・購入」（朱丸印）。

〔備考〕第二冊、四二ウ・11、「五體^四地」(活字捺印紙片貼付)。無書入。川瀬七二九・七八八頁、寛永中刊。

275 仏祖歴代通載 二十二卷 (元) 釈念常撰

〔請求番号〕WA七―二二八

〔体裁〕大本、二〇冊。

〔表紙〕茶色裏打改装表紙。二七・六×二〇・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一八・〇×三・三糶)、「仏祖通載 一(一―廿二)」。

〔内題〕「仏祖歴代通載目録」、「仏祖歴代通載序」、「華亭梅屋常禪師本伝通載序」、「仏祖歴代通載凡例」、「仏祖歴代通載卷第一(五格空) 吳郡歩頭郷刊」(低二格) 嘉興路大中祥符禪寺住持華亭念常集「(吳郡歩頭郷刊)は整版埋め込み」(一仏祖歴代通載卷第二十二 / 嘉興路大中祥符禪寺住持華亭念常集)、「仏祖歴代通載後序」。

〔尾題〕「仏祖歴代通載目録終」、「仏祖歴代通載凡例終」、「仏祖歴代通載卷第一(一―二十二)」(卷第二十二、尾題なし)。

〔本文〕每半葉一〇行×一九字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(二一・四×一五・六糶)、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「通載目(序・凡・一卷―十卷・十一―廿二) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五九丁(目録・二五丁、序、至正元年六月十一日微笑菴道人虞集序 / 板留嘉興城東雲門印行・三丁、華亭梅屋常禪師

本伝通載序、至正四年三月松江余山昭慶住持比丘覺岸謹序・

二丁、凡例・二丁、卷第一・二七丁)、第二冊、四三丁(卷第二・一八丁、卷第三・二五丁)、第三冊、六〇丁(卷第四・二七丁、卷第五・三三丁)、第四冊、二九丁(卷第六)、第五冊、三八丁(卷第七)、第六冊、三四丁(卷第八)、第七冊、三九丁(卷第九)、第八冊、三三丁(卷第十)、第九冊、四六丁(卷第十一)、第一〇冊、四六丁(卷第十二)、第一一冊、四三丁(卷第十三)、第二二冊、五二丁(卷第十四)、第一三冊、五三丁(卷第十五)、第二四冊、五二丁(卷第十六)、第一五冊、五〇丁(卷第十七、四八丁「始四十八」、四九丁「四十八」、以下の丁附にずれ)、第一六冊、四四丁(卷第十八、二五「二十五六」、以下の丁附にずれ)、第一七冊、六一丁(卷第十九)、第一八冊、五八丁(卷第二十、四〇丁重複)、第一九冊、五三丁(卷第二十二)、第二〇冊、七四丁(卷第二十二・七二丁、後序、至正癸未秋徑山守忠 / 嘉興城東柴場湾 / 雲門菴印行 / 徒弟(一格空) 子夔(一格空) 可听(一格空) 董工・二丁)。

〔刊記〕「(低一格) 本国寺学校 玉潤日鏡補爛脱耳 / (一行空) / (低九格) 十住(一格空) 從(二格空) 実乘(一格空) 進 / (低九格) 法寿(一格空) 珠(二格空) 金林(一格空) 慧 / (低二格) 四僧集会異体同心鏤梓刊板流行天下 / (低三格) 慶長十七^壬極^子月十九日」。

〔印記〕「桂峯伊勢氏 / 所輯珍籍印」(朱長方印)、「岡田眞 / 之藏書」(朱

長方印)、「月明莊」(反町茂雄、朱長方印)、「國立國會圖書館」

(朱長方印)、「書／國立國會／(平成)2・9・14／圖書館藏書」

(朱丸印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

料紙は稍厚手の楮紙、虫損修補。川瀬・二七八・七〇九頁、本
国寺の開版事業参照。藍色の映入り、帙題簽は森銚三筆。

276 法華經伝記 (唐) 积僧詳撰

〔請求番号〕WA七―二三

〔体裁〕大本、五冊。

〔表紙〕後補赤茶色渋引表紙。二八・三×二〇・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「法華伝記卷第一」、「法華経伝記卷第二(一七)」。

〔尾題〕「法華伝卷第一(二)」、「法華経伝記卷第三(一七)」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕四周单边(二〇・七×一五・六糎)、無界。

〔版心〕白口、下向き花口魚尾、中縫、「法華伝卷一(一七) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁(卷第一・一五丁、七丁)一〇丁欠、卷第二・

一七丁)、第二冊、三九丁(卷第三・一九丁、卷第四・二〇丁)、

第三冊、四五丁(卷第五・二二丁、卷第六・二三丁)、第四冊、

四四丁(卷第七・二二丁、卷第八・二二丁)、第五冊、三六丁

(卷第九・二〇丁、一五丁欠、卷第十・一六丁、一五丁欠)。

〔刊記〕「唐僧祥公不知其氏族博聞達識之人而記／法華之応験誘愚昧之徒

殊載出伝訳等之／科目該括一化之始終実維甚奇甚妙也故／盛行

于世為談者之資矣然転写誤於豕亥／剩有差脱不可称計予嘗披僧

史伝并衆経／録等忽覚此記伝之有本拠愈考愈質輒命／工鏤梓学

者幸勿疑惑焉時／慶長庚子載季春望日(一格空)洛陽(一格空)

积円智誌」。

〔印記〕「本／興」(墨丸印)、「帝國／圖書／館藏」(朱長方印)、「圖／明

治三二・三・二〇・購求」(朱丸印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

各巻首に「尼崎本興寺常住(印)〓本／興、「常住」墨塗抹)、巻

末に「主運伝(印)」(第五冊巻末は「当主運伝(印)」、「日深

(花押)」、「苾芻／持主興精(花押)」)、第一冊の前遊紙右下には

「遠寿(花押〓木版)」と墨書識語。川瀬二五七頁、要法寺版。

277 法華玄義序 (隋) 灌頂述

〔請求番号〕WA七―二四四

〔体裁〕折本、一帖。

〔表紙〕丹表紙(原表紙か)。二六・九×八・七糎。

〔題簽〕無。中央に「法華玄義序」と打付書。

〔内題〕「法華私記縁起」(低八格)沙門(一格空)灌頂(二格空)述。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉五行×一七字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一九・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕四紙。

〔刊記〕「(低一格) 奉寄進 (二格空) 法華玄義序 (三格空) 百部 / (低一格) 文祿四^乙 曆極月二十四日 / (低一格) 大光山本国寺常住 (一格空) 願主一輪房日保」。

〔印記〕国立国会図書館の印と受入印「書 / (平成) 15. 5. 9 / 国会 図」(朱印)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬二七八頁。文祿四(一五九五)年一二月刊の刊記を持つ本書は、同年一月刊の刊記を持つ『天台四教儀集解』と並ぶ最古の古活字版である。

278 法華文句記箋難 四卷 (宋) 有嚴箋

〔請求番号〕WA七―二二七

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕栗皮裏打改装表紙。二七・六×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「法華文句記箋難序」、「法華文句記箋難卷第一(一四) / (低九格) 赤城沙門 (二格空) 有嚴 (二格空) 箋」、「法華隨經音切(凡為字平去二声慈恩別有章門今 / 於平声人多去呼者音之其聞易解 / 并去声者 / 此則存略) / (低九格) 赤城沙門 (二格空) 有嚴

(一格空) 録」。

〔尾題〕「法華文句記箋難卷第一(一四)」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕四周単辺(序、二三・〇×一七・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾(黒口双黒魚尾・上大黒魚尾、下黒口黒魚尾) 中縫、「箋難序(巻第一―四) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一三五丁(序、時皇宋元豐元年戊午歲樞菴(二格空) 有嚴(三格空) 序 / 宝慶丁亥六月戊申朔十五日上竺住持鑑堂^{墨義} / 挾勘法孫^{若補} 重刊・一丁、巻第一・六六丁、巻第二・六八丁)、

第二冊、一一八丁(巻第三・六三丁、巻第四・四九丁、法華隨經音切・六丁)。

〔刊記〕巻第四末に、「(低一格) 于峇寛永三^{寅西}曆卯月日(六格 空) 刊摺之」。

〔印記〕「蓮經寺」(墨長方印)、「慈觀」(墨長方印)、「酒竹文庫」(大野酒竹、朱長方印)、「寶玲文庫」(フランク・ホーレー、墨長方印)、国立国会図書館の印と受入印「書 / (平成) 7. 9. 27 / 国会 図」(朱印)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている(巻第一、三四ウまで、巻第三、一二ウまで)。川瀬三〇四頁、叡山版。『弘文荘古活字版目録』四〇六頁掲載。

〔請求番号〕WA 71-139

〔体裁〕大本、七冊。

〔表紙〕栗皮原表紙裏打改装表紙。二八・〇×二〇・〇糎。五針袋綴。右肩に「取致映入」(朱長方印、高本文庫)、中央に「黄」と白書。

〔題簽〕無。左肩に「名義集」と打付書。

〔内題〕「翻訳名義序」(低六格) 唯心居士荊谿周 (二格空) 敦義 (一格空) 述、「翻訳名義集一 (一七) / (低三格) 姑蘇景德寺普潤大師 (三格空) 法雲 (一格空) 編」

〔尾題〕「翻訳名義集一 (三一六)」、「翻訳名義集第二」、「翻訳名義集卷七」。

〔本文〕每半葉六行 (注小字双行) × 二〇字。

〔匡郭〕四周双边 (序、二二・九×一六・五糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「翻訳序 (一一七) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六三丁 (序・四丁、一・五九丁)、第二冊、五七丁 (第二、第三冊、五一 (三)、第四冊、五四丁 (四)、第五冊、五九丁 (五)、第六冊、六二丁 (六)、第七冊、五八丁 (七))。

〔刊記〕無。

〔印記〕「玄 / □」(朱鼎印)、「高木家藏」(高木利太、朱長方印)、「國立 / 圖書 / 館藏」(朱方印)、「國立圖書館 / 昭23・3・17和 / 購入」(紫椿田印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名、その他上欄に墨書入

有。各冊卷末に、「佐州之僧■」と墨書識語(墨塗抹)。川瀬(三四七・七七九頁)は、翻訳名義集の古活字版を、(一)慶長中刊。单边有界、五行、小字双行二〇字。東洋文庫蔵本(請求記号、三A b 一八、卷一整版補配)、成實堂文庫蔵本、龍門文庫蔵本、(二)元和頃の刊。单边有界、五行、小字双行二〇字。宮内庁書陵部蔵本、東洋文庫蔵本(請求記号、三A b 一三七)、(三)寛永七年刊伝法正宗記等と同活字にして、寛永中の叡山版と推定せらるるもの。双边有界、六行、小字双行二〇字。九州大学文学部蔵本、高本文庫蔵本(現、国立国会図書館蔵)、大東急記念文庫蔵本、天理図書館蔵本の三種に分類するが、川瀬が(一)の慶長中刊とする龍門文庫蔵本(その原表紙の裏張りに慶長十六年寿閑刊節用集・慶長中刊和漢朗詠集等の摺遣りが用ひてある)、節用集を慶長十六年寿閑刊とするのは誤り)は、「双边有界、八行、小字十八字」本で、上記の三種とは別版である。伝本は他に、関西大学図書館蔵本。翻訳名義集の古活字版は現在、四版が確認できる。国会本は(三)の寛永中刊。但し、これを川瀬は「叡山版と推定せらるるもの」とするが、存疑。現在、叡山文庫には、整版を複数所蔵する(寛永五年版・一四点、寛文九年版・二点、貞享二年版・一点)ものの、古活字版は、川瀬のいう、(二)の元和頃の刊を一点所蔵するのみである。

280 誇施受不受論記 日枕著

〔請求番号〕WA七―二五〇

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補茶色渋引表紙。二六・一×一七・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 無。巻首に「論記全」、「□□／白明之」と墨書のある一丁を補

綴（元の見返し紙か）、さらに目録（誇施受不受論記）一丁補写。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉八行×一八字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二〇・〇糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「論記 丁附」。

〔丁数〕 本文（身延山住持比丘日暹而言上）、丁附二（五十七）、五六丁。

丁附五、十六丁補写。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受人印「書／（平成）15、11、27／国会

図」（朱印）のみ。

〔備考〕 ごくわずかに墨筆による書入（一部白塗抹、墨訂正箇所あり）、

巻末に「主／慈雲院日普」の墨書識語あり。書人に寛永六年、

七年、八年の年紀あり。刊行はそれ以降か。

川瀬三三二頁、安田文庫蔵（寛永頃の印行）本のみ著録。「稚拙

な様式を有する活字印本は或は身延山版等と伝称せられてゐる

ものである」としながら、それと断定するような手掛りもなく、

「其の開版地等凡て明確ではないが、恐らく京洛ではあるまいか

と思ふ」とする。藍色の帙、題簽（「日蓮宗／誇施受不受論記

（寛永八年刊／古活字版）」は、森銑三筆。月明荘の印はないが、

この本も反町茂雄を一度は介した本だということがわかる。

281 ※妙法蓮華經 八巻

〔請求番号〕WA七―二四五

〔体裁〕 折本、八帖。

〔表紙〕 芥子色緞子織雲龍鳳唐草文様表紙。二三・九×九・〇糎。

〔題簽〕 第一帖、左肩に金泥書題簽、「妙（破損）華經（破損）」のみ存。

〔内題〕 「妙法蓮華經序品第一（―普賢菩薩勸発品第二十八）」。

〔尾題〕 「妙法蓮華經卷第一（―一八）」。

〔本文〕 每半葉五行×一七字。

〔匡郭〕 無辺、無界。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一帖、五九折（巻第一、妙法蓮華經序品第一・妙法蓮華經方

便品）、第二帖、六二折（巻第二、妙法蓮華經譬喻品第三・妙法

蓮華經信解品第四）、第三帖、六一折（巻第三、妙法蓮華經藥草

喻品第五・妙法蓮華經授記品第六・妙法蓮華經化城喻品第七）、

第四帖、五四折（巻第四、妙法蓮華經五百弟子受記品第八（一

格空）四・妙法蓮華經授学無学人記品第九・妙法蓮華經法師品

第十・妙法蓮華經見宝塔品第十一）、第五帖、五八折（巻第五、

妙法蓮華經提婆達多品第十二（一格空）五・妙法蓮華經勸持品第十三・妙法蓮華經安樂行品第十四・妙法蓮華經從地湧出品第十五、第六帖、五九折（卷第六、妙法蓮華經如來壽量品第十六（一格空）六・妙法蓮華經分別功德品第十七・妙法蓮華經隨喜功德品第十八）、第七帖、五〇折（卷第七、妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十（一格空）七・妙法蓮華經如來神力品第二十一・妙法蓮華經囑累品第二十二・妙法蓮華經葉王菩薩本事品第二十三・妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四）、第八帖、四五折（卷第八、妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五・妙法蓮華經陀羅尼品第二十六・妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 国立国会図書館の印と受入印「書／（平成）15. 5. 8／国会図」（朱印）のみ。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。他、白塗抹、墨書による訂正が施されている。巻末に「奉摺写經王全部為（一格空）妙舜尼妙忍尼／妙金尼右息女三人出入理也／慶長六龍集（辛／丑）秋八月日施主大原忠蒼□源（花押）」と墨書。

282 夢中間答集 三卷 足利直義問、夢窓疎石答

〔請求番号〕 WA七―一五五

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。二七・九×一九・六糎。四針袋綴。〔題簽〕 無。左肩に「夢中間答」と打付書。〔内題〕 「夢中間答集上（中・下）（七格空）（此集有両本／此本為正）」。〔尾題〕 「夢中間答集卷上終」、「夢中間答卷中終」、「卷下終」。〔本文〕 每半葉一二行×二三字。漢字片仮名交。〔匡郭〕 四周双辺（二一・六×一六・四糎）、無界。〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「問答上（中・下） 丁附」。〔丁数〕 第一冊、四九丁（卷上）、第二冊、五四丁（卷中）、第三冊、五一丁（卷下・四八丁、跋・三丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「中／川／氏／藏」（中川德基、朱丸印）、「水松亭／松室氏／藏書印」（松室重剛、朱長方印）、「帝國／圖書／館藏」（朱長方印）、「帝國／昭和三・廿八・購入」（朱丸印）。

〔備考〕 無書入。川瀬三四六・七七七頁、（一）大字本（元和寛永中刊。双辺、無界、十行）と、（二）小字本（双辺、無界、十二行片仮名交り）、（イ）種・（ロ）種・（ハ）種・（ニ）種に分類する。国会本は、（二）小字本（三）種。現存伝本では、他に龍門文庫蔵本がある。寛永中刊。

283 夢中間答集 三卷 足利直義問、夢窓疎石答

〔請求番号〕 WA七―一七三

〔体裁〕 大本、三冊。

〔表紙〕薄紫色雲母刷文様（竜丸に牡丹唐草文様）表紙。二六・四×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「夢中間答抄^上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「夢中間答集上（中・下）（八格空）（此集有兩本／此本為正）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（二一・三×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「夢中上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁（卷上）、第二冊、七八丁（卷中）、第三冊、七二丁（卷下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「國立國／會圖書／館藏書」（朱方印）、「45・7・15」（紫、昭和四五年七月一五日購求）。

〔備考〕無書入。切貼訂正（活字）、第一冊、五二ウ・9、「（悲）愨

シテ」、第三冊、六二ウ・6「我心二ハ此法一門ヲ」。川瀬

三四六・七七七頁、（二）大字本、元和寛永中刊。伝本、他に静

嘉堂文庫藏本・東洋文庫藏本。一誠堂書店扱。

284 隆興仏教編年通論（宋）釈祖瑋撰

〔請求番号〕WA七一九五

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕香色空押市松文様裏打改装表紙。二七・七一×二〇・六糎。五

針袋綴。右肩に「張」と墨書のある紙片を貼付し、その下に「律之笈入」と墨書で大書。

〔題簽〕無。左肩に「編年通論二三四（廿五廿六廿七廿九）」と打付書。

〔内題〕「隆興仏教編年通論目錄／（低八格）隆興府石室沙門 祖瑋撰、

隆興釈教編年通論卷第一／（低五格）隆興府石室沙門（三格空）祖瑋 撰」、「隆興仏教編年通論卷第二（一二十八）／（低六格）隆興府石室沙門（二格低）祖瑋 撰」。

〔尾題〕「隆興仏教編年通論目錄終（二格空） 編目（三格空） 十五／（低七格） 刊頭法眼宗応助雕此目錄一卷并／（低七格） 御制七紙、

隆興仏教編年通論卷第一（一二十七）」、「隆興仏教編年通論卷第二十八終」。卷第十五の尾題は「卷第十三」と誤植。

〔本文〕每半葉二一行×二二字。

〔匡郭〕四周单辺（卷第一、二三・一×一六・六糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「編目（編年卷一廿八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八一丁（目錄・一五丁、卷第一・一七丁、卷第二・

一六丁、卷第三・一六丁、卷第四・一七丁）、第二冊、六四丁

（卷第五・一五丁、一四丁欠、卷第六・一六丁、卷第七・一六丁、

卷第八・一六丁）、第三冊、六五丁（卷第九・一六丁、卷第十・

一九丁、卷第十一・一五丁、卷第十二・一五丁）、第四冊、六三

丁（卷第十三・一六丁、卷第十四・一五丁、卷第十五・一六丁、

卷第十六・一六丁）、第五冊、六四丁（卷第十七・一六丁、卷第

十八・一六丁、卷第十九・一六丁、卷第二十・一六丁）、第六

冊、六六丁（巻第二十一・一七丁、巻第二十二・一六丁、巻第二十三・一七丁、巻第二十四・一六丁）、第七冊、六七丁（巻第二十五・一五丁、巻第二十六・一六丁、巻第二十七・一七丁、巻第二十八・一九丁）。他、第七冊のみ後遊紙三丁（見返しと同一の料紙）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「蘭髓／之印」（朱方印）、「楚／淳」（朱方印、陰刻、その上に二印重ね押し）、「帝國／圖書／館蔵」（朱方印）、「大正／2・1・21／購求」（紫楮円陰）。

〔備考〕 巻第十二・十三・二十二・二十三、裏打修補。巻十七の一ウと二オは補写したものを切り接ぎ。料紙は稍薄様の打紙を使用する。無書入。川瀬・三四七・七八二頁、寛永中刊。

〔付記〕

本稿は、二〇一九年度公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋研究助成「近世初期古活字版医書の書誌学的研究」、ならびに、現在、国文学研究資料館で継続中の共同研究、「国文学研究資料館所蔵マイクロ・デジタル資料を利用した古活字版総合目録作成の試み」（研究代表者、高木浩明、研究期間、二〇二一～二〇二三年度）の一環として行った研究成果の一部である。

国立国会図書館古典籍資料室には、本研究の趣旨を理解していただき、

長期間にわたり、貴重な資料の出納や様々な情報提供など、格別なるご配慮を賜ったことをここに記して深謝申し上げます。